

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第366集

東館Ⅱ遺跡発掘調査報告書

水沢家畜保健衛生所建設事業関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

東館Ⅱ遺跡発掘調査報告書

水沢家畜保健衛生所建設事業関連遺跡発掘調査

序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されており、これら多くの先人たちの創造してきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民一人ひとりに課せられた責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。発掘により遺跡が消滅することはまことに惜しいことではありますが、その反面、それまで闇につつまれていた先人の営みに光明があたるのも事実であります。

このような埋蔵文化財の保護や保存と開発との調和も今日の課題であり、財団法人岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する処置をとって参りました。

本書は、岩手県農政部畜産課による水沢家畜保健衛生所建設事業に関して、平成11年度に発掘調査を実施した水沢市東館Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものです。遺跡は胆沢扇状地における水沢高位段丘の末端上に立地しており、今回の調査では古代の竪穴住居跡をはじめ中世城館跡に伴う堀跡や掘立柱建物跡などが検出され、またそれに伴う遺物も出土し、古代及び中世を主とする遺跡であることが明らかになりました。

本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解を一層深め、また役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にご協力とご援助を賜りました岩手県農政部畜産課や水沢市教育委員会をはじめとする多くの関係機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成12年10月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 千葉浩一

例 言

1. 本報告書は、岩手県水沢市佐倉河字東館39番地ほかには所在する東館Ⅱ遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 本調査は、水沢家畜保健衛生所の建設に伴い遺跡の一部が消滅するため、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。調査は岩手県農政部畜産課と岩手県教育委員会事務局文化課との協議を経て、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡登録台帳に記載される遺跡番号・遺跡略号はNE16-0315・HDⅡ-99である。
4. 発掘調査期間、発掘調査面積、調査担当者は次のとおりである。

発掘調査期間 平成11年4月9日～6月28日
発掘調査面積 1,340㎡
調査担当者 文化財専門調査員 朝倉雄大・吉田亮
5. 室内整理期間と整理担当者は次のとおりである。

室内整理期間 平成11年11月1日～平成12年2月15日
整理担当者 文化財専門調査員 朝倉雄大
6. 本報告書の執筆は、Ⅰ. 調査に至る経過は委託者が担当し、その他は朝倉雄大が担当した。
7. 遺物の分析・鑑定は次の方々及び機関に依頼した。(敬称略)

石質鑑定 花崗岩研究会(会長：矢内桂三 岩手大学工学部教授)
鉄関連遺物の分析 赤沼英男(岩手県立博物館主任専門学芸調査員)
8. 野外調査及び報告書作成にあたり、次の方々にご協力・ご指導いただいた。(順不同・敬称略)

水沢市教育委員会 伊藤博幸・千田幸生・佐藤良和(財団法人水沢市埋蔵文化財調査センター) 千葉周秋(金ヶ崎町中央生涯教育センター) 及川海(江刺市教育委員会) 寺島文隆・能登谷宣康(財団法人福高県文化センター) 及川源悦郎(及源鋳造株式会社) 廣瀬愼(工房ヒロ) 及川浩二(東北電力株式会社原町火力発電所建設所)
9. 野外調査では水沢市の他、胆沢町や金ヶ崎町の作業員21名、室内整理では当センターの期限付職員4名のご協力をいただいた。
10. 土層の観察には、『新版標準土色帖』(小林・竹原：1989)を使用した。
11. 遺跡内の基準点測量・基準杭の設置は、㈱アクト技術開発に委託した。
12. 野外調査終了直前に行った航空写真撮影は、㈱パスコに委託した。
13. 調査成果の一部を発表した現地公開資料や調査略報と本報告書における記載事項が異なる場合は、全て本報告書が優先する。
14. 調査で得られた出土遺物や整理に関わる諸記録等については、岩手県埋蔵文化財センターで保管・管理している。

目 次

序
例言

〔本 文〕

I. 調査に至る経過	3	6. 溝跡	68
II. 遺跡の立地と環境	3	7. 堀跡	70
1. 位置及び立地	3	8. 橋跡	74
2. 地理的環境	3	9. 塀跡	75
3. 地形・地質	5	10. 円形周溝	75
4. 基本土層	7	11. 溝状遺構	78
5. 周辺の遺跡	9	12. その他の遺構	80
III. 野外調査と室内整理の方法	22	(1) 集石遺構	80
1. 野外調査	22	(2) 柱穴	80
2. 室内整理	23	V. 遺構外出土遺物	110
IV. 検出された遺構と遺構内出土遺物	25	VI. まとめ	121
1. 堅穴住居跡	25	1. 奈良・平安時代の遺構と遺物	121
2. 堅穴状遺構	43	2. 中世の遺構と遺物	127
3. 掘立柱建物跡	44	3. おわりに	131
4. 柱穴列	54	付篇 分析鑑定	135
5. 土坑	57		

〔表〕

第1表 周辺の遺跡一覧表	10	第4表 出土遺物観察表	115
第2表 水沢市の中世城館一覧表	15	第5表 遺構別出土土器分類表	125
第3表 柱穴一覧表	82		

〔図 版〕

第1図 遺跡位置図(1)	1	第8図 絵図	17-18
第2図 遺跡位置図(2)	2	第9図 地籍図	19
第3図 地形図	4	第10図 グリッド配置図	22
第4図 胆沢扇状地における段丘区分図	6	第11図 凡例	24
第5図 基本土層	8	第12図 第1号堅穴住居跡(1)	26
第6図 周辺の遺跡	13	第13図 第1号堅穴住居跡(2)	27
第7図 水沢市の中世城館跡	16	第14図 第2号堅穴住居跡	28

第15図	第3号竪穴住居跡	29	第42図	第1号堀跡	77
第16図	第4号竪穴住居跡(1)	31	第43図	第1号円形周溝	78
第17図	第4号竪穴住居跡(2)	32	第44図	溝状遺構	79
第18図	第5号竪穴住居跡	33	第45図	集石遺構	81
第19図	第6号竪穴住居跡	35	第46図	遺構内出土遺物(1)	93
第20図	第7号竪穴住居跡	36	第47図	遺構内出土遺物(2)	94
第21図	第8号・9号竪穴住居跡(1)	39	第48図	遺構内出土遺物(3)	95
第22図	第8号・9号竪穴住居跡(2)	40	第49図	遺構内出土遺物(4)	96
第23図	第8号・9号竪穴住居跡(3)	41	第50図	遺構内出土遺物(5)	97
第24図	第10号竪穴住居跡	42	第51図	遺構内出土遺物(6)	98
第25図	第1号竪穴状遺構	43	第52図	遺構内出土遺物(7)	99
第26図	第1号掘立柱建物跡(1)	45	第53図	遺構内出土遺物(8)	100
第27図	第1号(2)・2号掘立柱建物跡	46	第54図	遺構内出土遺物(9)	101
第28図	第3号・4号掘立柱建物跡	48	第55図	遺構内出土遺物(10)	102
第29図	第5号・6号掘立柱建物跡	50	第56図	遺構内出土遺物(11)	103
第30図	第7号・8号掘立柱建物跡	51	第57図	遺構内出土遺物(12)	104
第31図	第9号・10号掘立柱建物跡	53	第58図	遺構内出土遺物(13)	105
第32図	柱穴列(1)	56	第59図	遺構内出土遺物(14)	106
第33図	柱穴列(2)	57	第60図	遺構内出土遺物(15)	107
第34図	土坑(1)	60	第61図	遺構内出土遺物(16)	108
第35図	土坑(2)	63	第62図	遺構内出土遺物(17)	109
第36図	土坑(3)	66	第63図	遺構外出土遺物(1)	112
第37図	土坑(4)	69	第64図	遺構外出土遺物(2)	113
第38図	溝跡	71	第65図	遺構外出土遺物(3)	114
第39図	第1号堀跡	73	第66図	奈良・平安時代の遺構変遷図	126
第40図	第2号堀跡	74	第67図	中世遺構分布図	130
第41図	第1号橋脚跡	76			

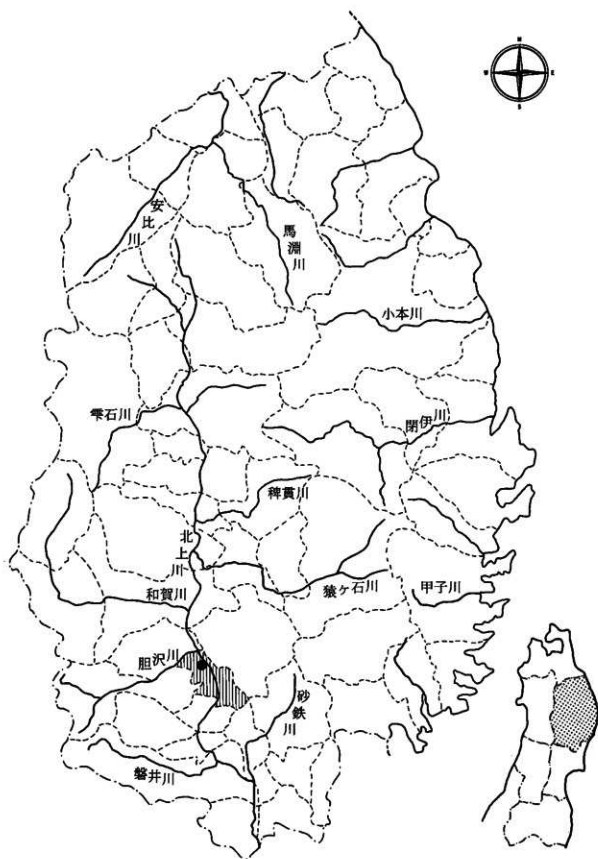
〔付 図〕

付図 遺構配置図

〔写真図版〕

写真図版1	遺跡遠景・遺跡全景①	146	写真図版6	第4号竪穴住居跡	151
写真図版2	遺跡全景②・基本土層	147	写真図版7	第5号竪穴住居跡	152
写真図版3	第1号竪穴住居跡	148	写真図版8	第6号竪穴住居跡	153
写真図版4	第2号竪穴住居跡	149	写真図版9	第8号竪穴住居跡	154
写真図版5	第3号竪穴住居跡	150	写真図版10	第9号竪穴住居跡	155

写真図版11	第1号壑穴状遺構	156	写真図版26	集石遺構	171
写真図版12	第1号掘立柱建物跡	157	写真図版27	遺構内出土遺物1)	172
写真図版13	第2号掘立柱建物跡	158	写真図版28	遺構内出土遺物2)	173
写真図版14	土坑1)	159	写真図版29	遺構内出土遺物3)	174
写真図版15	土坑2)	160	写真図版30	遺構内出土遺物4)	175
写真図版16	土坑3)	161	写真図版31	遺構内出土遺物5)	176
写真図版17	土坑4)	162	写真図版32	遺構内出土遺物6)	177
写真図版18	土坑5)	163	写真図版33	遺構内出土遺物7)	178
写真図版19	溝跡1)・溝状遺構	164	写真図版34	遺構内出土遺物8)	179
写真図版20	溝跡2)	165	写真図版35	遺構内出土遺物9)	180
写真図版21	第1号堀跡	166	写真図版36	遺構内出土遺物00)	181
写真図版22	第2号堀跡	167	写真図版37	遺構内出土遺物01)	182
写真図版23	第1号橋脚跡・ 柱穴遺物出土状況	168	写真図版38	遺構内出土遺物02)	183
写真図版24	第1号堀跡	169	写真図版39	遺構外出土遺物1)	184
写真図版25	第1号円形周溝	170	写真図版40	遺構外出土遺物2)	185



第1図 遺跡位置図(1)



第2圖 遺跡位置圖(2)

I. 調査に至る経過

水沢家畜保健衛生所は、昭和44年に国の「家畜保健衛生所整備方針」を受けて、旧江刺家畜保健衛生所と統合され、昭和45年度家畜保健衛生所施設整備事業により、現在地に新庁舎を建設し、2市3町1村を管轄区域とする家畜衛生の拠点として、長年にわたって地域の畜産振興に貢献してきた。

この間、畜産および家畜衛生を取りまく情勢は大きく変化しており、これに的確に対応するために、家畜保健衛生所機能の充実強化を図ることが必要であることから、平成10年度に家畜保健衛生所の再編が行われた。

その結果、水沢家畜保健衛生所には、旧3家畜保健衛生所が統合され、県南全域を管轄とする広域家畜保健衛生所として新たな出発をすることとなった。

一方、家畜保健衛生所の再編により、施設が著しく狭隘となり、組織的機能発揮に支障を来すことから、平成10年3月に策定された家畜保健衛生所庁舎等整備基本構想に基づいて、平成11年度に隣接地を購入し、新庁舎を建設することとなったものである。

II. 遺跡の立地と環境

1. 位置及び立地

東館Ⅱ遺跡は、岩手県南部の水沢市に所在し、東日本旅客鉄道株式会社東北本線水沢駅の北北東約3km、胆沢川が形成した胆沢扇状地における水沢高位段丘の末端上に位置する。遺跡の東約1.5kmには北上川が南流しており、遺跡と北上川の比高差は約10mである。また、遺跡の北北東約2.5kmには胆沢城跡がある。調査前の状況は水田及び畑である。

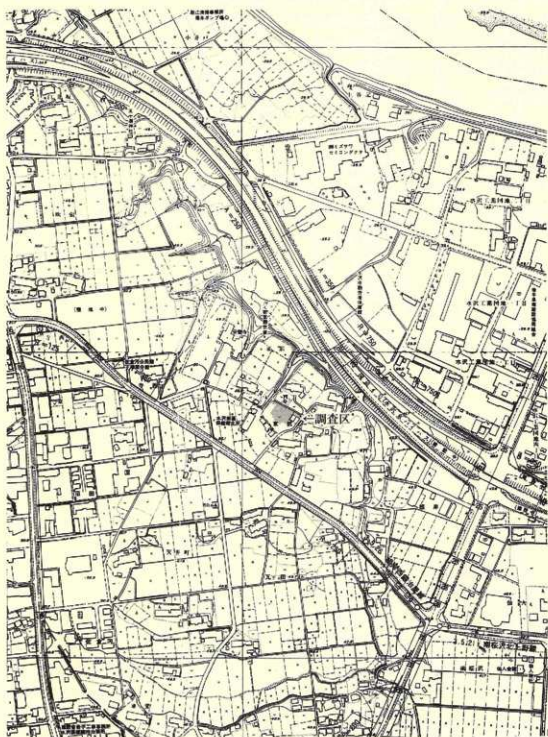
本遺跡は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図「水沢」(N J-54-14-14)及び2万5千分の1地形図「水沢」(N J-54-14-14-1)の図幅に含まれ、北緯39度9分38秒、東経141度9分7秒付近にある。遺跡の標高は49m前後である。

2. 地理的環境

水沢市は岩手県南内陸部のほぼ中央部に位置しており、県庁所在地盛岡市へ約65km、宮城県仙台市へ約128km、東京都へ約470kmの距離にある。北は金ヶ崎町、東は江刺市、南は東山町、前沢町、西は胆沢町と境を接している。市域のほぼ中央部を北上川が縦断するように南流しており、また、市域の北部、金ヶ崎町とのほぼ境界線沿いに胆沢川が東流し北上川に注いでいる。水沢市を含め、近隣の江刺市や胆沢郡金ヶ崎町、同胆沢町、同前沢町、同衣川村を一般に胆江地区と呼称するが、水沢市はその中心的役割を果たしている。

面積は96.92km²と県内13市中最小であるが、人口は60,362人(平成10年9月30日現在)と県内5番目である。人口密度は622.8人となり盛岡市をしのぎ県内で最も高い。地目別面積は、田畑36.6%、宅地12.2%、池沼0.1%、山林原野22.3%、雑種地その他28.8%となっている。

交通体系は、南北に東北新幹線と東北本線、それに東北縦貫自動車道、国道4号線が走っている。東西には、太平洋と日本海を結ぶ国土横断道として国道343号と国道397号線が走り、さらに水沢市を中心に一般県道が放射状にび交通の要衝となっている。



水沢市 地形図 (X-NE06-4・X-NE16-2)



第3図 地形図

産業構造は、小売業・飲食店・サービス業等の第三次産業が59.6%と高く、建設・製造業等の第二次産業は30.0%、農林業等の第一次産業は10.4%となっており、水沢市は商業都市的特徴をもつと言える。また、その一方で胆沢地区は県南の穀倉地帯としても有名である。

気候は東日本型に属し、平均気温（昭和53～平成9年までの過去20年間の年毎の平均気温の平均値）は、10.6℃と低いが、4月から徐々に気温も上がり10月まで温暖な天候が続き、比較的過ごしやすい。冬季間の最深積雪も近年は20～30cm台の年が多く、県内でも少ない方である。年平均降水量は（昭和53～平成9年までの過去20年間の総降水量の平均値）は、1156.5mmである。

因みに、「水沢」の地名は、既に南北朝頃の文献に見出すが、呼び名の由来は明らかではない。徳川中期の「封内風土記」には「むかしこの地無限の大淋（しゅう・水たまり）あり、而して沢水巻に満つ、故にこの地を水沢という」とあるが、定かではない。

3. 地形・地質

胆沢川・北股川・衣川間には北上川全流域を通じて最も広大な扇状地形が発達し、一般に胆沢扇状地と呼ばれている。本遺跡の立地に関しては、この胆沢扇状地の影響を強く受けていることから、ここでは胆沢扇状地について主に述べることとする。

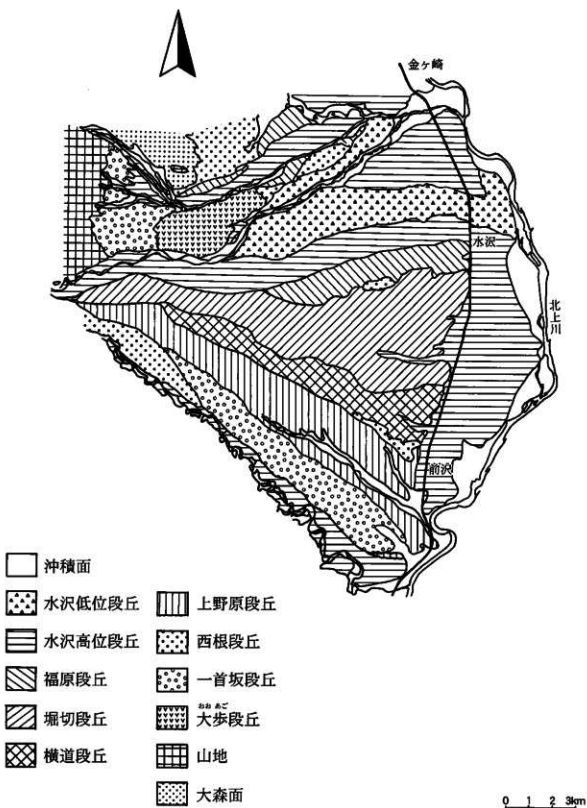
胆沢扇状地は、大別すれば高位から順に大歩段丘・一首坂段丘・胆沢段丘・西根段丘・水沢段丘が配列する。これらを細分すると約9群に分けられる。これらの段丘面群は全体として胆沢川上流市野々付近を頂点として東方に広がるが、各段丘は南から北へ順次新期のものが配列し、最も広範囲に発達するものは胆沢段丘である。以下、大別した各段丘について略記する。

〈大歩段丘〉 胆沢川北岸の金ヶ峰町永栄付近に分布する。標高は240～200mで段丘面は開析が進み、小丘陵となっている。本段丘は西方で一首坂段丘と交差しており、胆沢川右岸の水沢高位段丘とは比高差約100mある。段丘構成層は、10m内外の礫層からなり、その上位を後述の一首坂火山灰と呼ばれる浮石質火山灰が覆う。一首坂段丘とは、一首坂火山灰層の下位に永栄火山灰が入層することで区別される。

〈一首坂段丘〉 一首坂段丘は胆沢扇状地最南部の衣川・北股川北岸に沿って分布する。標高は南東方向にむかって220～150mと変化する。段丘面は開析が進み、原面を残す部分は少ないが、扇状地内では小丘陵地として連続して追跡できる。段丘構成層は、鮮新世を基盤として風化した礫層と、その上位を整合的に覆う浮石質火山灰からなる。この火山灰を胆沢郡衣川村一首坂付近を模式地として一首坂火山灰と呼ぶ。模式地付近における層厚は約3mで、とくに下半部に浮石粒が多い。本段丘は上野原段丘とは比高差40m前後あり、扇状地北西部では西根段丘と交差している。

〈胆沢段丘〉 胆沢段丘は主に扇状地内に分布し、高位のものから順に上野原（標高250～80m）、横道（標高200～80m）、堀切（標高240～70m）、福原（標高130～60m）の4つの段丘に細分される。これらの段丘は同じ順序に南から北へ配列する。段丘構成層はいずれも礫を主とし、砂・粘土を伴う。これらは一括して胆沢礫層と呼称する。胆沢礫層は各段丘とも4m前後であるが、上野原付近の上野原段丘で厚さ10m以上、最上部に粘土層をもつ。段丘面はほとんど開析されていない。比高差はそれぞれ15～5mで、上野原・横道・堀切の高位3段丘の比高差は扇状地末端部で差がなくなるか区分が不明瞭化するのに対して、低位の福原段丘では逆に末端部で比高差が大きくなっている。

上野原・横道・堀切の3段丘では、胆沢礫層の上位に厚さ数10cmないし数mの前沢火山灰が整合的にのり、さらにその上位を黒沢尻火山灰がほぼ整合的に覆う。前沢火山灰の層厚は高位の段丘ほど厚くなり、模式地



第4図 胆沢扇状地における段丘区分図

となっている胆沢郡前沢町二十人町付近では約500cmの層厚をもつ。下底部と中央部よりやや上方に黄色浮石粒集中部をもつ赤褐色粘土質火山灰である。最下段の堀切段丘では層厚100cm以下で暗茶褐色を呈したり砂質となる部分がある。

福原段丘では、胆沢礫層の上に整合的に黒沢尻火山灰がのる。福原付近で厚さ150cmあり、下半を村崎野浮石が占める。

〈西根段丘〉 胆沢扇状地の扇頂南端部(標高290~220m)や低地段丘分布地内に残丘状(標高140~110m)の他、金ヶ崎町西方の山地東麓部に丘陵性台地(標高190~180m)として分布している。やや開析が進んでいるものの段丘面は認識可能である。段丘構成層は、3~5mの礫層からなり、前沢火山灰以上の火山灰がのることで区別される。

〈水沢段丘〉 水沢段丘は、扇状地北端部である胆沢川南岸及び北上川沿いに発達している。高位(標高290~40m)と低位(標高120~38m)に区別される。両者の比高差は胆沢町出店及び水沢市街地で10~4mである。段丘面はきわめて新鮮な面を保つ。

段丘構成層は、胆沢町出店・駒籠~一関市南方油島付近を結んだ胆沢-油島拗曲線を挟んで東西で異なり、東方で層厚化している。水沢高位段丘においては拗曲線の西方で3m前後、東方では8m前後となっている。水沢付近では層厚約5mが露出し、最上部1m余は火山灰質砂、他は礫より成るが、基盤は見られない。

以上、胆沢扇状地について大別した段丘毎に分布及び段丘構成層を中心に述べた。本遺跡は、胆沢扇状地扇端部における水沢高位段丘の西端上に立地していると言える。

4. 基本土層

調査区内2カ所における土層(A-A'地点、B-B'地点)を図示した。基準となる基本土層はローマ数字とし、両地点とも対応させた。その他の土層についてはアラビア数字で表現した。地点により細かな違いはあるが、本遺跡内における基本土層は次のとおりである。

A-A' 地点

I層 7.5YR3/1黒褐色土と7.5YR5/6明褐色土の混合土 締まりあり・粘性ややあり

小石・礫・草木根含む 近世~近現代の陶磁器少量 盛土 現表土

II層 7.5YR3/1黒褐色土 締まりやや軟 粘性あり

グライ化 小石若干含む 旧水田耕作土

IV層 7.5YR2/1黒色土 締まりあり・粘性あり

水田の床土である赤褐色の酸化鉄及び水気を含む 旧水田耕作土

B-B' 地点

I層 10YR3/1黒褐色土(上位)・10YR6/6明黄褐色土(下位) 締まりあり・粘性ややあり

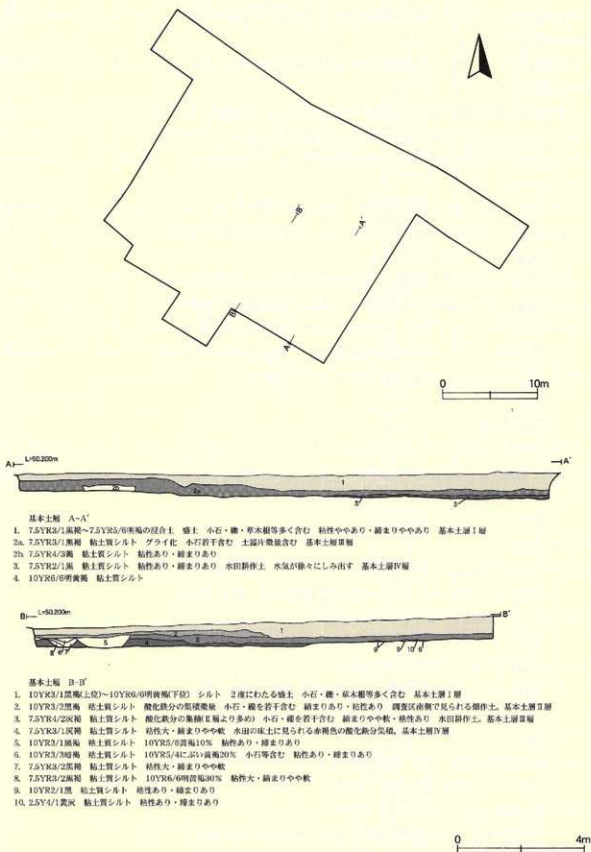
小石・礫・草木根含む 盛土 現表土

II層 10YR3/2黒褐色土 締まりあり 粘性あり

酸化鉄分集積 小石・礫若干含む 調査区南側でみられる畑作土

III層 7.5YR4/2灰褐色土 締まりやや軟 粘性あり

小石・礫若干含む 酸化鉄分集積顕著 旧水田耕作土



第5図 基本土層

IV層 7.5YR3/1黒褐色土 締まりやや軟 粘性大

水田の床土である赤褐色の酸化鉄を含む 旧水田耕作土

また、主たる遺構検出面はV層であり、次のような特徴を有する。

V層 黄褐色土 締まりあり・粘性ややあり 地山

なお、調査区全体的な各土層の層厚は次のとおりである。

I層 20～55cm II層 0～20cm III層 10～35cm IV層 0～25cm V層 70cm以上

5. 周辺の遺跡

水沢市の遺跡は、約280箇所が確認されている。本遺跡周辺の遺跡については、第6図、第1表に示した。また調査の結果、古代及び中世の遺構及び銅物関連遺物が検出・出土したことを踏まえ、(1)胆江地区における時代別遺跡分布、(2)水沢市の中世城館及び東館について、(3)水沢市における銅物関連遺跡と関係地名、として項目分けを行い記載した。

(1) 胆江地区における時代別遺跡分布

胆江地区を中心として、これまで発掘された主な遺跡を時代毎に並べてみると、次のようになる。

〈旧石器時代〉

前期（7万年前～） 水沢市柳沢館跡、金ヶ崎町柏山館跡。

後期（3万年前～） 胆沢町上萩森遺跡、金ヶ崎町柏山館遺跡、北上市和賀仙人遺跡、江刺市大名野遺跡。

〈縄文時代〉

草創期（1万3000年前～） 胆江地区ではまだ報告例がない。

早期（8500年前～） 水沢市馳上遺跡・大曾根遺跡・鶴ノ木住吉神社遺跡、胆沢町浅野遺跡・尼坂遺跡

前期（5200年前～） 水沢市鶴ノ木住吉神社遺跡・中島遺跡、胆沢町大清水上遺跡、北上市鳩岡崎遺跡

中期（4500年前～） 水沢市中島遺跡・巾下遺跡、胆沢町宮沢原遺跡、北上市樺山遺跡、前沢町田高遺跡

後期（3800年前～） 水沢市鶴ノ木遺跡、北上市八天遺跡

晩期（3000年前～） 水沢市鶴ノ木遺跡・里槍遺跡・杉の堂遺跡、前沢町川岸場遺跡

〈弥生時代〉

前期（2300年前～） 北上市兵庫館跡、金ヶ崎町長坂下遺跡、江刺市沼の上遺跡

中期（紀元前後） 一関市谷起島遺跡、水沢市橋本遺跡、胆沢町清水下遺跡

後期（3世紀） 水沢市常磐広町遺跡、江刺市兎Ⅱ遺跡

〈古墳時代〉

前期（4世紀） 水沢市高山遺跡・西大畑遺跡

中期（5世紀） 北上市猫谷地遺跡、金ヶ崎町高谷野原遺跡、水沢市面塚遺跡・中半入遺跡

後期（6世紀） 胆沢町角塚古墳（中期末～後期初頭頃）、水沢市中半入遺跡

終末期（7・8世紀） 金ヶ崎町上餅田遺跡、水沢市勝性遺跡・今泉遺跡。

〈飛鳥・奈良時代〉

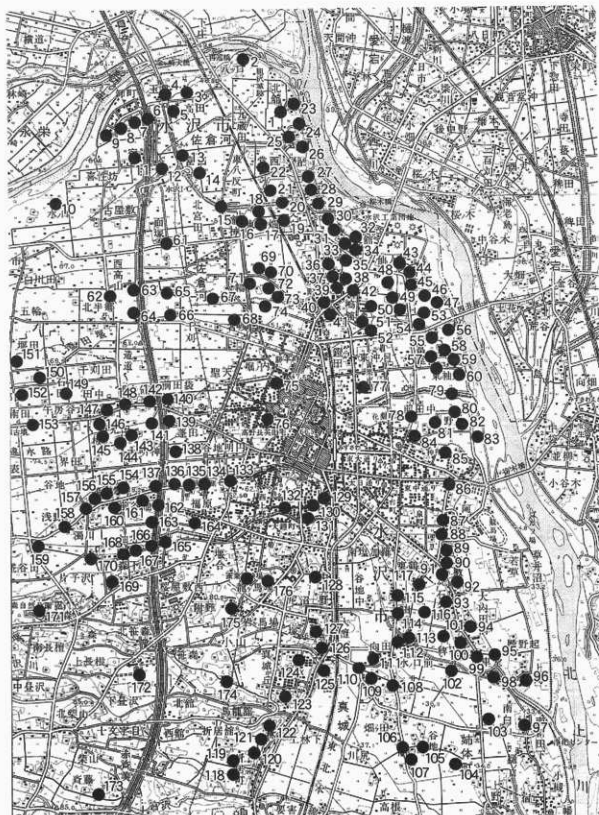
8世紀末 水沢市杉の堂遺跡・熊の堂遺跡・石田Ⅱ遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	遺構・遺物等
1	胆沢城	水沢市佐倉河字八幡	平安	城柵跡 国指定遺跡	
2	八ツ口	水沢市佐倉河八ツ口	奈良・平安	集落跡	土師器・須恵器
3	玉貫南	水沢市佐倉河字玉貫	奈良	集落跡	土師器・須恵器
4	玉貫	水沢市佐倉河字玉貫	奈良	集落跡	土師器・須恵器
5	膳性	水沢市佐倉河字膳性	古墳—平安	集落跡	土師器・須恵器等
6	今泉	水沢市佐倉河字今泉	古墳—平安	集落跡	土師器・須恵器等
7	今泉Ⅱ	水沢市佐倉河字今泉	奈良・平安	集落跡	土師器・須恵器
8	今泉Ⅲ	水沢市佐倉河字今泉	奈良・平安	集落跡	土師器・須恵器
9	喜正坊	水沢市佐倉河字喜正坊	奈良・平安	集落跡	土師器
10	崩田	水沢市佐倉河字崩田	奈良・平安	散布地	土師器・須恵器
11	宿	水沢市佐倉河字宿	奈良・平安	集落跡	土師器・須恵器
12	富田(A)	水沢市佐倉河字富田	縄文・平安	散布地	縄文土器・土師器等
13	富田(B)	水沢市佐倉河字富田	縄文	散布地	縄文土器・石器
14	獅子鼻	水沢市佐倉河字獅子鼻	平安	散布地	土師器・須恵器
15	大曾根	水沢市佐倉河字大曾根	縄文	散布地	縄文土器・石器等
16	東大畑Ⅰ	水沢市佐倉河字東大畑	縄文・平安	集落跡	土師器・須恵器
17	東大畑	水沢市佐倉河字東大畑	平安	散布地	土師器・須恵器・石器等
18	東大畑Ⅱ	水沢市佐倉河字東大畑	平安	散布地	須恵器
19	龍堂Ⅱ	水沢市佐倉河字中田	中世	集落跡	
20	龍堂	水沢市佐倉河字龍堂	平安	散布地	祠社土師器
21	杉本Ⅰ	水沢市佐倉河字杉本	縄文	散布地	縄文土器(晩期)等
22	伯済寺	水沢市佐倉河字栗師堂	平安	集落跡	土師器・須恵器
23	北館	水沢市佐倉河字北館	奈良・平安	散布地	土師器・須恵器
24	祇園	水沢市佐倉河字祇園	平安	集落跡	土師器・須恵器
25	権現堂	水沢市佐倉河字権現堂	奈良	集落跡	土師器
26	八幡巾	水沢市佐倉河字八幡巾	縄文	集落跡	縄文土器(後期)等
27	藤古	水沢市佐倉河字藤古	縄文・平安	集落跡	須恵器
28	白井坂Ⅰ	水沢市佐倉河字白井坂	中世	城館跡	空堀・複郭
29	白井坂Ⅱ	水沢市佐倉河字白井坂	中世	城館跡	空堀・複郭
30	吹張Ⅰ	水沢市佐倉河字吹張	平安	散布地	土師器
31	吹張Ⅱ	水沢市佐倉河字吹張	平安	散布地	土師器
32	下河原館	水沢市佐倉河字下河原館	平安	散布地	縄文土器(晩期)
33	東館Ⅰ	水沢市佐倉河字東館	中世	散布地	陶器
34	東館Ⅱ	水沢市佐倉河字東館	平安	散布地	土師器
35	根岸	水沢市佐倉河字根岸	縄文	散布地	縄文土器(晩期)等
36	天井ノ町	水沢市佐倉河字天井ノ町	縄文	散布地	縄文土器
37	瓦ヶ田	水沢市佐倉河字瓦ヶ田	縄文	散布地	縄文土器(晩期)
38	仙人西	水沢市佐倉河字仙人	平安	集落跡	土師器・須恵器
39	車堂	水沢市佐倉河字車堂	縄文	散布地	縄文土器
40	下河原釜石	水沢市佐倉河字釜石	平安	散布地	土師器
41	輪館西	水沢市佐倉河字輪館	縄文・平安	散布地	土師器・須恵器等
42	佐野原	水沢市佐倉河字佐野原	縄文・平安	集落跡	土師器・須恵器等
43	仙人東	水沢市佐倉河字仙人	弥生・平安	集落跡	土師器・須恵器等
44	沢田	水沢市佐倉河字沢田	縄文・平安	散布地	
45	東鍛冶屋	水沢市佐倉河字東鍛冶屋	縄文・平安	散布地	土師器・石器
46	蟹沢	水沢市佐倉河字蟹沢	平安	集落跡	須恵器
47	蟹沢Ⅱ	水沢市佐倉河字蟹沢	縄文	散布地	フレーク
48	南桜沢	水沢市佐倉河字南桜沢	平安	散布地	土師器・須恵器
49	高谷	水沢市佐倉河字高谷	縄文・平安	散布地	土師器・須恵器等
50	道下東	水沢市佐倉河字道下東	縄文	散布地	縄文土器・石器
51	鳩館東	水沢市佐倉河字鳩館	縄文	散布地	縄文土器
52	鳩館	水沢市佐倉河字鳩館	中・近世	城館跡	堀・土塁
53	矢中	水沢市佐倉河字矢中	平安	散布地	土師器・須恵器
54	矢中Ⅱ	水沢市佐倉河字矢中	縄文	散布地	フレーク
55	惣前町	水沢市佐倉河字惣前町	弥生・平安	散布地	土師器
56	杉ヶ崎	水沢市佐倉河字杉ヶ崎	縄文・平安	散布地	土師器・フレーク
57	横杖	水沢市佐倉河字横杖	縄文・平安	散布地	土師器・須恵器等
58	中前田	水沢市佐倉河字中前田	弥生・平安	集落跡	弥生土器・土師器等
59	東袖ノ目	水沢市佐倉河字東袖ノ目	平安	集落跡	土師器

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	遺構・遺物等
60	久根妻	水沢市佐倉河字久根妻	奈良	散布地	非ロクロ土師器等
61	面塚	水沢市佐倉河字面塚	古墳・奈良	散布地	土師器・須恵器
62	高山	水沢市佐倉河字高山	古墳	集落跡	堅穴住居跡・土師器
63	西大畑	水沢市佐倉河字西大畑	古墳・平安	集落跡	土師器・須恵器
64	五千刈	水沢市佐倉河字五千刈	縄文	散布地	縄文土器
65	西館	水沢市佐倉河字西館	平安	散布地	土師器
66	稲荷田	水沢市佐倉河字稲荷田	平安	散布地	土師器
67	幡下	水沢市佐倉河字幡下	縄文	散布地	縄文土器(中期)
68	里槍	水沢市佐倉河字里槍	縄文	集落跡	縄文土器(晩期)等
69	西光田Ⅰ	水沢市字西光田	平安	集落跡	土師器・須恵器
70	遺本	水沢市佐倉河字遺本	平安	散布地	土師器・須恵器
71	東幅	水沢市佐倉河字東幅	縄文	散布地	縄文土器
72	久田	水沢市佐倉河字久田	平安	散布地	土師器・須恵器
73	南久田	水沢市佐倉河字久田	平安	散布地	土師器・須恵器
74	中城	水沢市字中城	縄文	散布地	縄文土器
75	女子高校跡地	水沢市字瀧手町	平安	散布地	土師器・須恵器
76	新小路	水沢市字新小路	縄文	散布地	縄文土器(晩期)等
77	石橋	水沢市佐倉河字石橋	平安	集落跡	土師器・須恵器
78	常盤広町	水沢市佐倉河字広町	弥生・奈良・平安	散布地	弥生土器・石鏝・碧玉
79	北田Ⅰ	水沢市佐倉河字北田	平安	集落跡	須恵器
80	北田Ⅱ	水沢市佐倉河字北田	弥生・奈良・平安	散布地	土師器・鉄滓
81	野田	水沢市佐倉河字野田	縄文・平安	散布地	土師器・石鏝
82	北田Ⅱ	水沢市佐倉河字北田	弥生・平安	集落跡	弥生土器・土師器等
83	跡呂井御藏場	水沢市佐倉河字瀬ノ上	縄文	集落跡	縄文土器(後期)等
84	蛇塚	水沢市佐倉河字中蔵馬	不明	塚跡	メノウ勾玉
85	跡呂井	水沢市神明町	中世	城館跡	空堀・複郭
86	杉の堂	水沢市佐倉河字杉の堂	縄文・平安	散布地	縄文土器(後・晩期)
87	沼尻	水沢市真城字沼尻	平安	散布地	土師器
88	大学Ⅰ	水沢市真城字大学	縄文・平安	集落跡	土師器・須恵器等
89	大学Ⅱ	水沢市真城字大学	縄文・平安	散布地	土師器・フレーク
90	堀ノ内Ⅱ	水沢市真城字堀ノ内	縄文・平安	散布地	縄文土器・土師器等
91	堀ノ内Ⅰ	水沢市真城字堀ノ内	中世	散布地	陶器
92	石名坂	水沢市飾体町字石名坂	縄文	集落跡	縄文土器・石鏝
93	上飾体館	水沢市飾体町字寺田	中世	城館跡	空堀・複郭
94	大内田前	水沢市飾体町字大内田	平安	散布地	土師器・須恵器
95	飾体車堂Ⅲ	水沢市飾体町字草堂	平安	散布地	土師器・須恵器
96	北白山	水沢市飾体町字北白山	平安	散布地	土師器・須恵器
97	目細	水沢市飾体町字目細	平安	散布地	環壕・須恵器等
98	元天神前Ⅱ	水沢市飾体町字天神前	平安	散布地	土師器・須恵器
99	飾体車堂Ⅱ	水沢市飾体町字草堂	平安	散布地	土師器・須恵器
100	小水ノロ	水沢市字水ノロ	平安	散布地	土師器・須恵器
101	水の口	水沢市楠体町字水の口	平安	散布地	須恵器
102	水ノロ前東	水沢市字水ノロ	平安	散布地	土師器
103	根無	水沢市飾体町字根無	平安	散布地	土師器・須恵器
104	島田Ⅰ	水沢市真城字島田	平安	散布地	土師器・須恵器
105	寺ヶ前Ⅲ	水沢市真城字谷地田	平安	散布地	土師器
106	寺ヶ前Ⅱ	水沢市真城字谷地田	平安	散布地	土師器
107	寺ヶ前Ⅰ	水沢市真城字谷地田	平安	散布地	土師器
108	北野Ⅱ	水沢市真城字北野	平安	集落跡	土師器・須恵器等
109	北野Ⅰ	水沢市真城字北野	平安	集落跡	土師器・須恵器
110	金田Ⅰ	水沢市真城字金田	平安	集落跡	土師器・須恵器
111	日立構内	水沢市真城字北野	縄文	集落跡	縄文土器
112	向田	水沢市飾体町字向田	平安	散布地	須恵器
113	林前Ⅱ	水沢市飾体町字林前	平安	散布地	土師器・須恵器
114	林前南館	水沢市飾体町字林前	縄文・平安	城館跡	土師器・石器
115	林前Ⅰ	水沢市飾体町字林前	平安	集落跡	土師器・須恵器
116	林前館	水沢市飾体町字林前	中世	城館跡	庫郭
117	北余目	水沢市飾体町字北余目	平安	散布地	土師器
118	堤ヶ沢Ⅰ	水沢市真城字堤ヶ沢	平安	集落跡	土師器・須恵器
119	堤ヶ沢Ⅱ	水沢市真城字堤ヶ沢	平安	集落跡	土師器・須恵器

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	遺構・遺物等
120	中林Ⅲ	水沢市真城字中林	平安	散布地	土師器・須恵器
121	中林B	水沢市真城字中林	平安	集落跡	土師器・須恵器
122	中林A	水沢市真城字中林	平安	集落跡	土師器・須恵器
123	黒田助	水沢市真城字黒田助	縄文	散布地	縄文土器・石鏃
124	雷神Ⅰ	水沢市真城字雷神	平安	土師器	土師器・須恵器
125	高田	水沢市真城字高田	平安	集落跡	土師器・須恵器
126	大壇	水沢市真城字大壇	平安	集落跡	土師器・須恵器
127	上野	水沢市真城字上野	平安	散布地	土師器・須恵器
128	須江	水沢市真城字須江	平安	集落跡	土師器・須恵器
129	梨畑	水沢市東上野町	縄文・平安	散布地	縄文土器（中期）等
130	小山崎	水沢市真城字小山崎	縄文・平安	散布地	縄文土器（中期）等
131	東上野	水沢市東上野町	縄文	散布地	縄文土器（中期）等
132	駒形神社公園	水沢市東上野町	縄文	散布地	縄文土器（中期）等
133	龍上	水沢市東上野町	縄文	散布地	縄文土器（早期）
134	高屋敷	水沢市字高屋敷	平安	集落跡	土師器・須恵器
135	北田	水沢市佐倉河字北田	縄文・平安	集落跡	縄文土器・土師器
136	南矢中Ⅱ	水沢市字南矢中	平安	集落跡	土師器・須恵器
137	南矢中	水沢市字南矢中	平安	集落跡	土師器・須恵器
138	一本杉	水沢市字大明神	平安	散布地	土師器
139	後田	水沢市字後田	平安	集落跡	土師器・須恵器
140	水山	水沢市字水山	平安	散布地	土師器
141	足袋針Ⅱ	水沢市字足袋針	平安	集落跡	土師器・須恵器
142	石田	水沢市字光田	奈良・平安	散布地	土師器
143	足袋針Ⅰ	水沢市字足袋針	縄文・平安	集落跡	縄文土器・土師器等
144	大明神Ⅱ	水沢市字大明神	平安	集落跡	土師器・須恵器
145	西光田Ⅲ	水沢市字西光田	平安	散布地	土師器
146	西光田Ⅱ	水沢市字西光田	平安	集落跡	土師器・須恵器
147	西光田Ⅰ	水沢市字西光田	平安	散布地	土師器・須恵器
148	寺領	水沢市字寺領	奈良・平安	散布地	土師器・須恵器
149	石田Ⅰ・Ⅱ	胆沢町南都田字石田	平安	散布地	土師器・須恵器
150	机地	胆沢町南都田字机地	奈良・平安	散布地	土師器
151	堰田	胆沢町南都田字堰田	平安	散布地	土師器
152	沢田	胆沢町南都田字沢田	奈良・平安	散布地	土師器
153	字南田	胆沢町南都田字字南田	平安	集落跡	土師器
154	鶴田Ⅰ	胆沢町南都田字鶴田	平安	散布地	土師器
155	鶴田古窯群	胆沢町南都田字鶴田	奈良	古墳群	末期古墳
156	鶴田Ⅱ	胆沢町南都田字鶴田	縄文・平安	散布地	縄文土器・土師器等
157	浅野前	胆沢町南都田字浅野	縄文・古代	散布地	縄文土器・土師器等
158	浅野	胆沢町南都田字浅野	縄文・古代	散布地	縄文土器・土師器等
159	方子坂	胆沢町南都田字方子坂	縄文・古代	散布地	縄文土器・土師器等
160	湯川	胆沢町南都田字湯川	縄文・平安	集落跡	縄文土器・土師器等
161	西田Ⅰ	水沢市字西田	平安	集落跡	土師器・須恵器
162	西田Ⅱ	水沢市字西田	平安	集落跡	土師器・須恵器
163	前谷地	水沢市字前谷地	平安	集落跡	土師器・須恵器
164	福原	水沢市字福原	平安	集落跡	土師器・須恵器
165	袖谷地Ⅳ	水沢市字袖谷地	縄文・平安	集落跡	土師器・須恵器等
166	袖谷地Ⅰ	水沢市字袖谷地	平安	集落跡	土師器・須恵器
167	袖谷地Ⅲ	水沢市字袖谷地	平安	集落跡	土師器・須恵器
168	袖谷地Ⅱ	水沢市字袖谷地	平安	散布地	土師器・須恵器等
169	森下Ⅱ	水沢市字森下	縄文	散布地	縄文土器（前期）
170	合野	胆沢町南都田字合野	縄文	散布地	縄文土器・石鏃
171	見分森	水沢市字見分森	平安	生産跡	土師器・須恵器
172	中島	胆沢町小山字大深沢	縄文・古代	散布地	縄文土器（中期）
173	壇山	胆沢町小山字斎藤	縄文・古代	散布地	縄文土器・土師器
174	南佐森	胆沢町小山字南佐森	縄文	散布地	縄文土器・石鏃等
175	附野森	胆沢町小山字附野森	縄文・中世	散布地	縄文土器・陶磁器
176	龍ヶ馬場	水沢市字龍ヶ馬場	平安	集落跡	土師器・須恵器



1 : 50,000 北上・水沢

第6図 周辺の遺跡

〈平安時代〉

9世紀前半 水沢市胆沢城・林前遺跡・見分森窟、江刺市瀬谷子窟跡群、前沢町明後沢遺跡、金ヶ崎町妻根遺跡

9世紀中頃 江刺市宮地Ⅱ遺跡、水沢市中林遺跡

11世紀中頃 金ヶ崎町烏海橋跡、衣川村長者院寺跡、北上市国見山廃寺跡、江刺市豊田館跡・五位塚古墳群
〈鎌倉時代以降〉

13世紀後半 江刺市落合Ⅲ遺跡、水沢市跡呂井中陣場遺跡

15～16世紀 水沢市白井坂Ⅰ・Ⅱ遺跡、金ヶ崎町柏山館跡・松本館跡 他

(2) 水沢市の中世城館及び東館について

胆沢地方は早くから蝦夷と呼ばれた人々が住んだので平安朝によりしばしば討伐を受け、802(延喜21)年胆沢城が設置され、律令体制に組み込まれていった。次いで安倍氏、藤原氏統治の時代をへて奥州の開発拠点として重きをなし、中世には多くの城館が築かれた。

この時期は群雄割拠の戦国時代であり、城館の攻防や奪い合いに終始したので、城館はその局面の戦略上から要所に新設や改築されたり、あるいは取り壊されたりする等、その変動が複雑であったと思われる。中にはアイヌの人々のチャシや砦を受け継ぐものも見受けられる。近世になって一国一城の制となり城館が廃止されたため、中世城館に関する資料は乏しいと言わざるを得ず、さらに近年は道路や宅地の増設のため城館が壊滅していく状況にある。

中世の様相であるが、中世は文治5(1189)年に源頼朝が平泉の藤原氏を滅ぼした時を始まりとされる。源頼朝は平泉の戦いで最も功績のあった葛西清重を奥州総奉行、檢非違使に任命し、胆沢郡を含む5郡を与えたとされている。葛西氏は平泉の高館に入り以来17代晴信の天正18年(1590)までの400年治めた。この間、この地方では、葛内氏の麾下である柏山氏、江刺氏によって治められた。葛西七郡(約30万石)と称せられた領内には館持ち諸将の城館298城があって、胆沢15城、江刺24城(この中の田茂山山城は気仙の田茂山であるので23城)といわれた。

仙台藩の安永風土記によると水沢市内には北上川の河東に6城、北部に16城、南部に11城の計33城があったとされている。しかし、何故か潰れているものもあり、それらを含めると45城となる(胆沢城、北鶴木城、寿庵館等)。城館の調査は延宝5(1677)年の仙台古城書上と貞享元(1684)年の古城書上があるが、書上の基準が異なるためか城館名及び城館数が一致しない。

『岩手県中世城館跡分布調査報告書』(1986)によると、水沢市において古代末～中世にかけての城館跡として報告されているのは38カ所ある。これらについては第7図及び第2表として示している。東館Ⅱ遺跡のある佐倉河地区では11カ所あり、地域的に見て最も多く分布する。これは柏山氏の本城に近接し重要な役割を果たしていたことに関係するものと思われる。

東館は安永風土記に記述されている城館ではあるが、遺構については詳細不明とある。また、本文中に下河原内館(轟館)として記載されており、それを紹介する。

北上右川岸、水沢段丘の標高50m前後の段丘崖にある。一帯を東館という。いま公舎が建って付近の景観は破壊されている。一応全体の規模は東西200m、南北180m位と解されるが、遺構は西・東郭からなり、それを濠で囲ったものだが、いまは埋め立てられ、その痕跡を認め得ない。西郭が主郭で「内館」といい、東郭を「東館」という。内館は東西90～100m、南北140mの規模で、北崖部に土塁の一

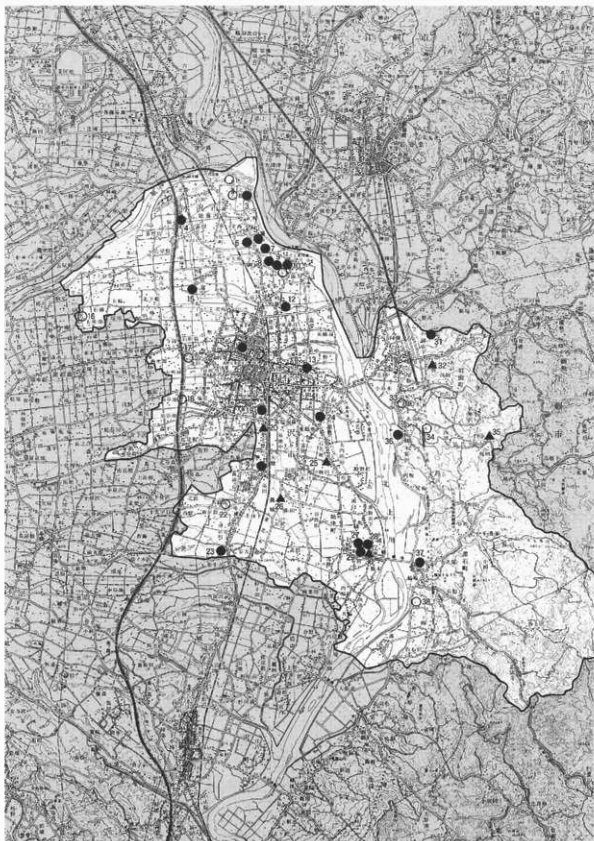
第2表 水沢市の中世城館一覧表

No.	城館名	別称	所在地	形式	分類1	分類2	分類3	城主	文献
1	上館	古館・瀧瀬館	佐倉河字八ッ口	平地遺郭式			○		
2	胆沢城	方八丁	佐倉河字浜田他	平地車郭式			○	坂上田村麻呂	
3	館	長城館・川端館	佐倉河字北館	平地居宅		●			安永風土記
4	佐野館	タテバツタケ	佐倉河字宿	平地車郭式		●			安永風土記
5	柳伊勢館		佐倉河字白井坂	平地遺郭式		●			安永風土記
6	堀ノ内館	上館	佐倉河字龜堂	平地居宅		●			安永風土記
7	尾砂門館	南館	佐倉河字天井町	平地居宅		●			安永風土記
8	下河原内館	轟館	佐倉河字東館	平地車郭式		●		下河原玄蕃	安永風土記
9	東館		佐倉河字東館	平地車郭式		●			安永風土記
10	要害館	綱山屋敷	佐倉河字東館	平地車郭式		●			安永風土記
11	赤井館		佐倉河字東館	平地車郭式			○		
12	鳩館	郡須川館・古館	佐倉河字鳩館	平地輪郭式		●		名須川玄蕃	安永風土記
13	館	藤呂井館	神明町	平地輪郭式		●		岩淵氏	安永風土記
14	水沢城	要害	表小路	平地車郭式		●		蜂谷破鏡、留守宗利	安永風土記
15	茶館	塩釜古館	茶館	平地遺郭式		●			安永風土記
16	常楽寺館		佐倉河字曾根田	平地遺郭式			○		
17	要害館	要害館	佐倉河字後田	平地車郭式			○		
18	海邊館	福原館	福原	平地車郭式			○	後藤寿庵	
19	片子沢館		真城字方子沢	平地車郭式		●			安永風土記
20	須江城	四郎館	真城字南塩加羅	平地車郭式	▲	●		須江四郎	安永風土記・古城書上
21	堤尻館	堤尻沢館	真城字大壇	段丘車郭式		●		堤尻殿	安永風土記
22	馬籠館		真城字馬籠館	段丘車郭式			○	馬籠長之助	
23	折居館		真城字要害他	段丘車郭式		●			安永風土記
24	漣台野館	漣台野古館・館	真城字寺後他	平地車郭式		●			安永風土記
25	上姉体城	館	姉体町字寺の西	平地車郭式	▲	●		千田農後	安永風土記・古城書上
26	中野城	館	真城字館	平地車郭式	▲	●		千田与右衛門	安永風土記・古城書上
27	西館		姉体町字天神林	平地車郭式		●			安永風土記
28	遠湯館		姉体町字天神林	平地車郭式		●			安永風土記
29	松川館		姉体町字天神林	平地車郭式		●			安永風土記
30	内館	下姉体城本丸	姉体町字天神林	平地遺郭式	▲	●			安永風土記・古城書上
31	羽黒堂館	蝦夷の砦	羽田町字脚山下	平地車郭式		●			安永風土記
32	羽黒堂城	古館	羽田町字八木沢	山地遺郭式	▲	●		羽黒堂村高守	安永風土記・古城書上
33	北越ノ木館	卯ノ木古館	羽田町字越ノ木	山地遺郭式			○		
34	鶯沢館		羽田町字鶯	丘陵遺郭式			○	鶯沢四郎兵衛	安永風土記
35	黒田助城	館	羽田町字門下	山地遺郭式	▲	●		菊地内膳	安永風土記・古城書上
36	鶴ノ木館	館	黒石町字鶴ノ木	丘陵車郭式		●			安永風土記
37	鶴城館	黒石古館	黒石町字鶴城	山地輪郭式		●		黒石越後守正通	安永風土記
38	下柳館	下谷木	黒石町字柳	丘陵居宅			○	千葉庵摩	

分類1 ▲: 延宝年中の古城書上にあるもの

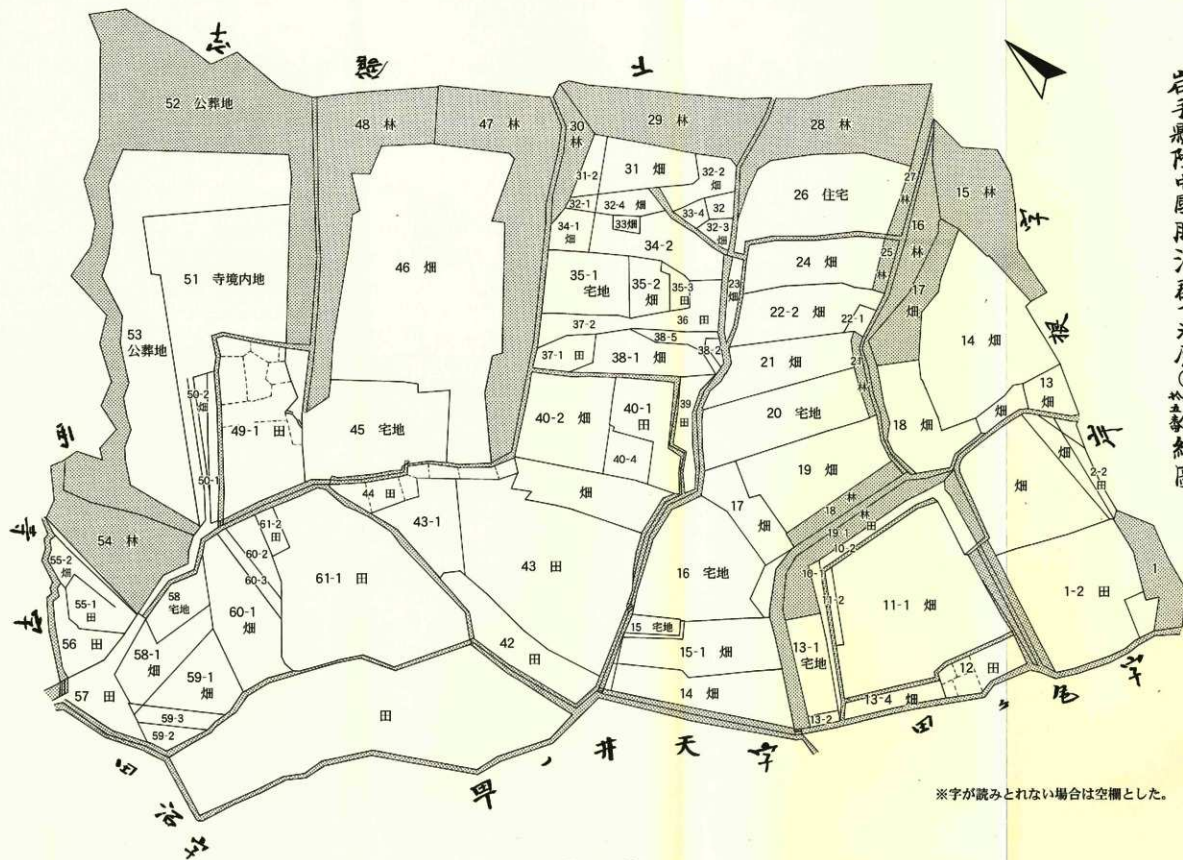
分類2 ●: 安永風土記に載せられたもの

分類3 ○: 風土記に載らないが館跡が明らかで伝承あるもの



第7図 水沢市の中世城館跡

岩手縣陸中國陸澤郡下河原○字繪圖



※字が読みとれない場合は空欄とした。

第8図 絵図



※読み取れない字は空欄もしくは
○(空き)とした。

第9図 地籍図

部が確認できる。西に接して安養寺がある。中世に下河原氏が、後、羽黒堂氏居城。

上記中の公舎というのは、今回の発掘調査原因となった水沢家畜保険衛生所のことと思われる。現在、市郭にあたる内館の現況は主に水田となっているが、付近の住民には言い伝えとして残っているようである。また、一部ではあるが堀が確認できる場所もあり、ここが中世城館であったことを偲ばせる。

なお、内館の西側に曹洞宗の光明山安養寺があり、こちらは水禄元（1558）年に開創、金ヶ崎町水徳寺の末寺とされる。

（3）水沢市の鋳物関連遺跡と関係地名

水沢市の地場産業の一つとして鋳物産業が挙げられる。本遺跡においても、確実な鋳物工房跡は検出されなかったが、鑄造炉と思われるよう窯体の炉壁、鑄型、埴場（るつぼ）等が出土しており、鋳物関連遺跡及び関係地名について若干触れたい。

水沢市における鋳物の起源は、平安時代末期豊田館主藤原清衡が近江国から鋳物職人を呼び寄せて江刺市岩谷堂寺田松の木で鑄造させたのが始まりとされている。14世紀後半には京都聖護院の鋳物師が羽田町羽黒堂の千葉氏を継ぎ、葛西氏のお抱え鋳物師となった。その後1683年には及川喜右衛門が鋳物師となり、以降水沢市羽田町田茂山が鋳物生産地の中心として栄えた。江戸時代は伊達藩の統制を受け主に鍋や釜の日常品を製作していた。現在においても鋳物産業は水沢市の地場産業として今なお盛んである。平成10年現在で工場数56、従業員数753人、売上高88億円に達している。

水沢に鋳物が盛んとなった地理的背景には、第1に原材料、第2に燃料、第3に輸送のバランスがとれていたことがある。第1の原材料についてであるが、①鋳物に必要な不可欠な砂鉄、岩鉄、銅が周辺の東山・気仙、江刺の3郡に豊富に産出されたこと。②良質の砂が北上川、胆沢川の合流地点より採取できたこと。③田茂山をとりまく丘陵地帯が良質の粘土を包蔵していたこと、等が挙げられる。第2の燃料については、鉄鉄の溶解に必要な木炭が付近の北上山系各方面より安価に得ることができた。第3の輸送については、江刺・胆江地方が仙台領の文化・経済の中核地域であり、舟運に恵まれた北上流路の要地であった。さらに、これら経済的要因に加え、中世から近世にかけて葛西氏や伊達氏の保護を受けていたという政治的要因も鋳物産業発達にとっては重要な役割を果たしたのと思われる。

遺跡としては、水沢市羽田町御山下の鹿野遺跡、江刺市岩谷堂寺田の寺田遺跡が発掘調査されている。鹿野遺跡は17世紀後半～18世紀にかけての鉄関連工房跡が発見され、ふいごの羽口や炉壁、炉体、鑄型等が出土している。寺田遺跡は16世紀末葉～17世紀初頭にかけての鋳物工房跡が発見され、コシキ片・鑄型片等が出土している。また、江刺市愛宕の二子町番匠・同金屋・同夕暮・同原土屋・同石山・水沢市羽田町の羽黒堂岩脇・同中山・同松原・田茂山変屋・同宝生等で鉄滓等が出土したり、金屋神を祀る家が、北上川の左岸沿い約5kmにわたって点在している。

〈引用・参考文献〉

- 水沢市（1982）：『水沢市史 2 中世』
水沢市（1982）：『水沢市史 3 近世〈下〉』
水沢市・水沢市観光協会（1981）：『観光水沢』
水沢市・（財）水沢観光協会（1999）：『一歴史と観光一 みずさわ浪漫』
水沢市（1998）：『水沢市統計要覧 平成9年版』

- 水沢市（1999）：『平成11年度 水沢市市勢要覧 資料編』
- 財団法人水沢市埋蔵文化財調査センター（1998）：『鹿野遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第11集
- 相原康二他（1998）：『大いなる夢の史跡』胆江日日新聞社
- 大上和良・吉田充（1984）：「北上川中流域、胆沢扇状地における火山灰層序」『岩手大学工学部研究報告 vol.37 1984』
- 中川久夫・岩井淳一・大池昭三・小野寺信吾・森由紀子・木下尚・竹内貞子・石田琢二（1963）：「北上川中流沿岸の第四系および地形」『地質雑誌 vol.69』p219-227
- 阿部恵彦（1983）：「水沢及びその周辺の地形・地質と土壤」『水沢の自然と文化Ⅱ』水沢市文化財調査研究年報1983
- 瀬川司男（1983）：「水沢市の原始と古代—遺跡を中心として—」『水沢の自然と文化Ⅱ』水沢市文化財調査研究年報1983
- 岩手県教育委員会（1986）：『岩手県中世城館跡分布報告書』岩手県文化財調査報告書第82集
- 高橋信雄・昆野靖（1996）：『日本の古代東北 51 岩手』保育社
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1996）：『龍ヶ馬場遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第243集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1997）：『白井坂Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第248集

Ⅲ. 野外調査と室内整理の方法

1. 野外調査

(1) グリッドの設定

用地内に基準点2点を設定し、第X系公共座標軸を利用してグリッドを設定した。基準点1・2の成果値、及び杭高は以下の通りである。なお、基準点設置については、㈱アクト技術開発に業務委託をした。

基準点1 X=-93,120.000m Y=27,550.000m H=49.843m

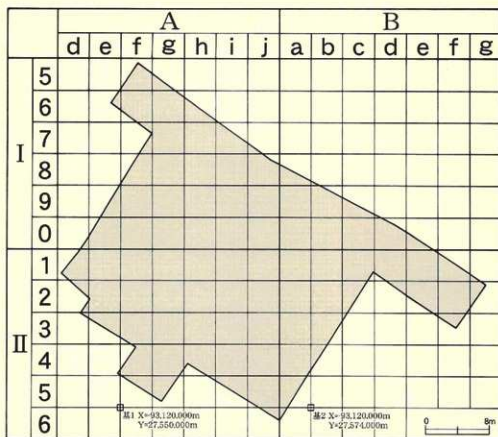
基準点2 X=-93,120.000m Y=25,574.000m H=49.735m

また、上記基準点の他、補点として3カ所を調査区及び用地内に設置した。

グリッドは、起点を北東に置き一辺40×40mの大グリッドと、さらに大グリッドを4×4m単位で10等分した小グリッドに細分した。大グリッドは起点から北から南へI～II、西から東へA～Bを、小グリッドは北から南へ1～0、西から東へa～jを付した。調査区の名称は、大グリッドと小グリッドを組み合わせによって呼称した（例えばIA1a、IIB5g等）。

(2) 粗掘・遺構検出

調査を開始するにあたり、IIA5hグリッド北東隅付近を起点に約N-32°-Eの方向を境界とし、東側調査区と西側調査区に分割した。これは、調査区に通じる道路の幅員が狭かったため排土置き場の確保が難しく、分割して調査を行う必要があったためである。



第10図 グリッド配置図

調査は最初に東側調査区について行うこととし、文化課が実施した試掘結果の確認のため2箇所のトレンチのクリーニングを行った。その後、遺構検出面までの深さや層序を確認し、重機及び人力によって徐々に表土除去を行った。遺構の検出が進むにつれ、遺構密度が文化課の試掘結果以上であったため、西側調査区についても早急に遺構検出を行い、遺跡全体の遺構数を確認する必要がでてきた。そのため、急遽用地外に排土置き場を設け、排土を行うこととし、西側調査区についても遺構検出を進めた。

遺構の検出は、Ⅲ層（主に黒褐色土）上面およびⅤ層（主に黄褐色土）上面で行った。Ⅲ層で検出されたものはわずかであり、ほとんどがⅤ層上面である。

(3) 遺構名の付け方

検出された遺構については、以下のように略号を付し、通し番号を付けた。

S I…竪穴住居跡、竪穴状遺構 S B…掘立柱建物跡 S K…土坑 S D…溝跡・堀跡
S A…塀跡 P…柱穴

なお本報告書では、第1号竪穴住居跡、第2号土坑等と遺構名を付け替えているが、本文中では旧遺構名も記している。

(4) 精査・実測

原則として竪穴住居跡、カマド燃焼部は4分法で、その他の遺構は2分法で精査を行った。実測は簡易遺り方測量で行い、遺構の平・断面図は縮尺20分の1を基本としたが、時間の都合上部分的に平板測量により小縮尺を用いた箇所もある。出土した遺物については、必要と思われるものについては写真撮影、平面実測後取り上げを行った。その他の遺物についても、適宜層位を確認しながら取り上げるよう努めた。竪穴住居跡・竪穴状遺構における遺物の取り上げ方については、堀土を4分削し時計回りにQ1（カマドがある一辺を上に見て左上側の1/4ブロック）～Q4（同左下側の1/4ブロック）と名付け、取り上げた。

(5) 写真撮影

写真撮影は、6×7cm判1台（モノクローム）と35mm判4台（モノクローム・カラーリバーサル各2台）を使用した。また、メモ的にポラロイドカメラを使用した。調査終了前には、セスナ機による空中写真撮影を行った。

2. 室内整理

(1) 遺物の処理

遺物は、野外調査と並行して雨天時等を利用し水洗までを行い、その後室内整理期間に注記・接合・復原の順に進めた。遺物は土器類、陶磁器類、石器・石製品類、土製品類、金属製品類に大別し、それぞれ報告書掲載用のものを選別後、登録作業・実測・拓本・写真撮影・トレースを行い、遺物図版を作成した。石器類は器種毎に登録し、土器類と同様に進めた。

(2) 遺構図面

野外調査で得られた図面類は、標高等の確認・平断面図の点検をし、必要に応じて合成した。その後トレーヌ・遺構図版作成の順に進めた。

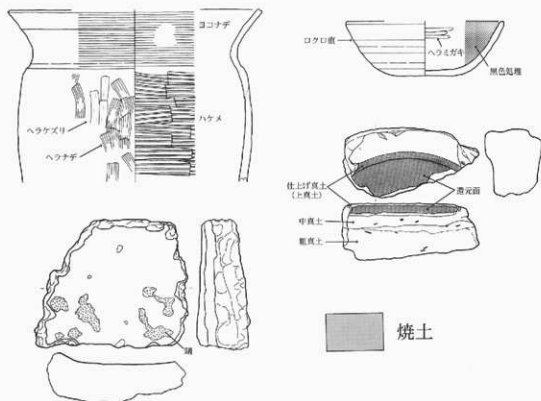
(3) 図版について

遺物図版は遺構種別毎にIV章に、遺構外出土のものはV章にまとめて作成・掲載した。縮尺は土器実測図が原則1/3（土師器・須恵器・縄文土器・弥生土器・陶磁器）、拓影図は1/3、石器・石製品及び土製品・鉄製品は2/3-1/3である。なお、各図版内にはそれぞれスケールを付している。また、須恵器の断面は黒く塗りつぶし、土師器のそれとと区別した。須恵器の拓影図は、右側に表面、左側に裏面のものを貼付しているが、破片実測は左右がこの逆になっている。土師器の実測図の表現は、第11図に示したとおりである。

遺構図版は遺構の種類毎に掲載した。縮尺は各遺構とも1/50ないし1/60を基本としているが、掘立柱建物跡は1/100としている。また、竪穴住居跡のカマド付近については1/30である。遺構の図版に使用したスクリーン・トーンについては、第11図に凡例として示した。

(4) 遺物写真図版について

遺物写真図版の縮尺は、土器・陶磁器類が1/2-1/4、石器・石製品は1/1-1/3、土製品（鋳物関連遺物を含む）は1/2-1/3を原則とした。



第11図 凡例

IV. 検出された遺構と遺構内出土遺物

本遺跡の調査の結果、検出された遺構は、竪穴住居跡10棟、竪穴状遺構1棟、土坑25基、溝跡4条、溝状遺構2条、堀跡2条、塀跡1条、掘立柱建物跡10棟、柱穴列6条、円形周溝1条、橋脚跡1棟、集石遺構2基、柱穴約800基である。出土遺物は、竪穴式住居内から土師器（霞火焙焼成されたもの。所謂赤焼き土器を含む）や須恵器（還元焙焼成されたもの）を中心に、中世～近世の陶磁器、炉壁や鋳型等の鋳物関連製品、石鏝や砥石等の石器・石製品、土鏝等の土製品等が出土している。

1. 竪穴住居跡

・第1号竪穴住居跡（S I 1）

遺構（第12～13図、写真図版3）

〈位置・検出状況〉 BII b 1 - b 3、BII c 1 - c 2区に位置する。V層（地山面）で検出した。

〈重複〉 第5号、6号掘立柱建物跡、第1号柱穴列と重複し、本遺構が古い。

〈平面形〉 南東隅の一部が調査区外に伸びているが、隅丸方形を呈すると考えられる。

〈規模〉 東西方向棟で5.60m、南北方向棟で5.20mを測る。主軸方向はN-20°-Wである。検出分の床面積は29.08㎡である。

〈埋土〉 4層に区分された。黒褐色粘土質シルトが主体で、カマド付近の埋土には焼土が斑点状に混入する。

〈壁〉 地山の褐色粘土を掘り込んで構築されている。床面から緩く外傾して立ち上がる。壁高は2.5～11cmである。

〈床面〉 中央部より東側が周溝に向かってわずかに傾斜している。締まっている。

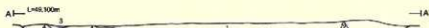
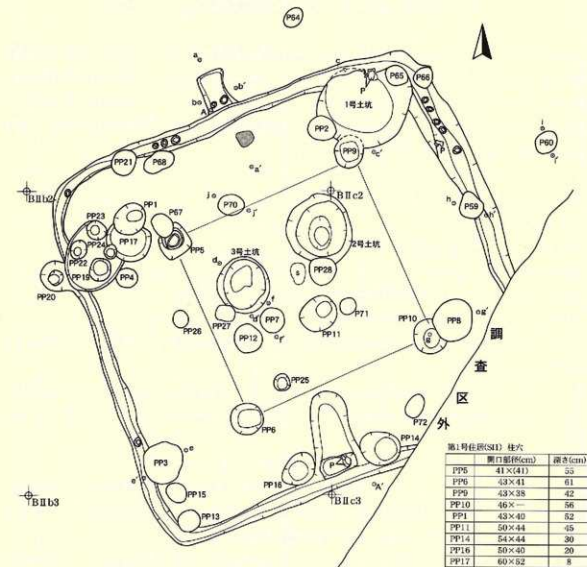
〈柱穴〉 35基検出された。このうち4基（PP5・PP6・PP9・PP10）は配置・規模等から主柱穴と考えられる。PP1、PP11は南西辺に傾斜し、特にPP11は主柱穴PP6を支えるような配置である。また、21基（白抜き）は検出面・配置・規模等からより新しい時代のもと思われる。

〈周溝〉 壁直下を全周する。幅は15cm～45cm、深さは2cm～14cmで、東側の周溝が深い。一部で壁柱穴と思われる小柱穴を10基検出した。

〈カマド〉 住居北西辺中央部に設けられている。埋土上部が削平されているため、煙道部と燃焼部の一部しか残っていない。燃焼部は20cm×20cmの台形状の広がりを持ち、焼土の層厚は最大2cmである。燃焼部から（土師器？）が出土している。

〈付属施設〉 北隅に1基、中央部に2基の土坑（1号土坑、2号土坑、3号土坑）を、南東辺中央部で入り口状遺構を検出した。1号土坑は周溝を避けて袋状に構築されていたが、調査時に幾分崩壊してしまった。主柱穴PP9、新しい時代に構築されたPP2、P65、P66に切られている。楕円形状を呈し、規模は120cm×115cm、深さは43cmである。貯蔵穴とみられる。2号土坑は円形を呈し、90cm×90cm、深さは24cmである。3号土坑は2号土坑の西側に位置している。円形を呈し、70cm×70cm、深さは19cmである。入り口状遺構は長さ110cm、最大幅50cm、深さ4cmで周囲より僅かに窪み、床は固く締まっている。周溝手前で方形状に一段窪んでいる。両脇に楕円形状の柱穴が1基ずつ検出された（PP14、PP16）。PP14は55cm×45cm、深さ30cmで、PP16は50cm×40cm、深さ20cmである。1号土坑、3号土坑、出入口状遺構から遺物が出土している。

〈その他〉 床面中央部で径30cmの扁平な礫を検出した。表面が部分的に焼け焦げている。柱を掘えたとき



- 第1号壁穴住居跡(S1) ヘルト
- 7.5YR2/2黑褐色 粘土質シルト 炭化物含む 乾燥時縮まる
 - 7.5YR3/4暗褐色 粘土 炭化物含む 乾燥時縮まる
 - 5YR3/2暗赤褐色 粘土質シルト
 - 5YR3/2暗赤褐色 粘土質シルト 子穴に陥入 骨含む



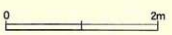
- 第1号壁穴住居跡(S1) カマド
- 5YR3/2暗赤褐色 粘土質シルト
 - 5YR3/3暗赤褐色 粘土質シルト 陥入 珪末状の骨含む
 - 5YR2/4暗暗赤褐色 粘土質シルト(焼上)
 - 7.5YR3/4暗褐色 粘土

第1号住居(S1) 土坑

	開口部径(cm)	深さ(cm)
1号土坑	120×115×70	45
2号土坑	90×60	24
3号土坑	70×70	19



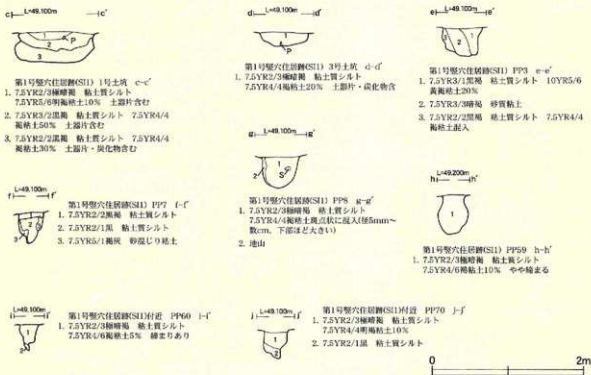
- 第1号壁穴住居跡(S1) 焼通
- 5YR2/2黑褐色 粘土質シルト
 - 7.5YR3/4暗褐色 粘土



第1号住居(S1) 柱穴

	開口部径(cm)	深さ(cm)
PP5	41×(41)	55
PP6	43×41	61
PP9	43×38	42
PP10	46×—	56
PP1	43×40	52
PP11	50×44	45
PP14	54×44	30
PP16	50×40	20
PP17	60×52	8
PP19	50×30	15
PP20	38×—	20
PP22	26×22	18
PP23	27×26	32
PP24	20×16	4
PP2	38×33	37
PP3	54×52	37
PP4	30×24	36
PP7	32×32	45
PP8	37×51	42
PP12	38×38	34
PP13	29×27	27
PP15	28×24	39
PP18	欠部	
PP21	33×21	28
PP25	22×22	18
PP26	24×20	12
PP27	26×22	21
PP28	38×36	25
P59	柱穴一層表参照	
P65	柱穴一層表参照	
P66	柱穴一層表参照	
P67	柱穴一層表参照	
P68	柱穴一層表参照	
P70	柱穴一層表参照	
P71	柱穴一層表参照	
P72	柱穴一層表参照	

第12図 第1号壁穴住居跡(1)



第13図 第1号竪穴住居跡(2)

の礎石的なものとも考えることもできる。

遺物 (第46~47図、写真図版27)

埋土及び床面、土坑、柱穴等から土師器、須恵器が大コンテナ1箱分出土し、土師器坏2点、甕13点、須恵器坏1点、甕1点を掲載した。

1~2は土師器の坏で、体部に段を持ち内面には黒色処理が施されている。1は丸底、2は平底である。3は須恵器の坏である。4~16は土師器の甕である。主に胴部外面はヘラナデ、胴部内面はヘラナデ及びバケメによる調整が施される。17は須恵器甕の胴部破片である。外面はタタキによる調整がなされている。

時期 第I期

・第2号竪穴住居跡(SI2)

遺構 (第14図、写真図版4)

〈位置・検出状況〉 BⅡb3~b4グリッドに位置する。V層(地山面)上面で検出した。

〈重複・新旧関係〉 P133と重複し、本遺構が古い。

〈平面形〉 遺構が調査区外に延びるため全体形は不明であるが、隅丸方形状を呈するものと思われる。

〈規模〉 北東壁方向棟で320cmを測り、主軸方向N-46°-Wである。検出分の面積は約5.1㎡である。

〈埋土〉 黒~黒褐色粘土質シルトの2層に分かれる。黄~黄褐色土が2、3%~30%含まれる。

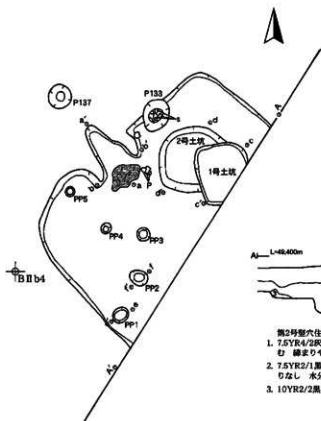
〈壁〉 地山を掘り込んで構築されており、床面から外傾して立ち上がる。壁高は2~7cm程度である。

〈床面〉 平坦で、固く締まっている。

〈柱穴〉 本遺構に係わると思われる5基が検出された。開口部径12~25cm、深さ6~13cmである。主柱穴

FB II b3

FB II c3



第2号住居(SI2) 柱穴

	開口部径(cm)	長さ(cm)
PP1	22×19	8
PP2	24×20	8
PP3	18×18	7
PP4	14×14	6
PP5	12×12	13

第2号住居(SI2) 土坑

	開口部径(cm)	長さ(cm)
1号土坑	80×70	16
2号土坑	—×—	21

FB II b4



第2号竪穴住居跡(SI2) A-A' 埋土断面

- 7.5YR4/2灰褐色 粘土質シルト 炭化成分の黒炭 小石・糠を若干含む
跡まりやや軟・粘性あり 水田耕作土 草層
- 7.5YR2/1黒 粘土質シルト 10YR5/6明黄褐色2.3% 粘性あり・跡ま
りなし 水分に富む
- 10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 10YR5/6明黄褐色30%

c'-c' L=48.900m



第2号竪穴住居跡(SI2) 1号土坑 c'-c'

- 7.5YR2/1黒 粘土質シルト 10YR5/6明黄
褐色2.3% 粘性あり・跡まりなし 水分に富む

e'-e' L=48.900m



第2号竪穴住居跡(SI2) PP1 e'-e'

- 10YR2/1黒 粘土質シルト 粘性なし・跡ま
りやや軟

d'-d' L=48.900m



第2号竪穴住居跡(SI2) 2号土坑 d'-d'

- 5YR2/1黒褐色 粘土質シルト 10YR6/6明黄
褐色30% 炭土灰褐色

f'-f' L=48.900m



第2号竪穴住居跡(SI2) PP2 f'-f'

- 10YR5/6黄褐色 粘土質シルト 粘性あり・跡
まりやや軟
- 10YR2/1黒 粘土質シルト 粘性なし・跡ま
りやや軟

0 2m

a'-a' L=48.900m



第2号竪穴住居跡(SI2) カマド a'-a' b'-b'

- 5YR2/1黒褐色 粘土質シルト 10YR5/6明黄褐色20% 炭化物・焼土粒
少量 粘性なし・跡まりあり
- 10YR3/4暗赤褐色 焼土 天舟部の崩落土
- 10YR3/3暗褐色 粘土質シルト
- 10YR4/6赤 焼土 粘性なし・跡まりあり

b'-b' L=48.900m



0 1m

第14図 第2号竪穴住居跡

と思われる柱穴は検出されなかった。

〈土坑〉 重複関係にある2基（1号土坑、2号土坑）が検出され、1号土坑が新しい。1号土坑は方形状を呈し、開口部径80×70cm、深さ16cmを測る。2号土坑は円ないし楕円形状を呈すると思われ、深さは21cmを測る。

〈カマド〉 北西壁に構築されている。燃焼部と煙道の一部が検出された。煙出部については、位置的にはP137が該当すると思われるが、煙道部の削平状況に対し相対的に深いことから煙出に該当しない可能性もある。P137は開口部径32×32cm、深さ46cmである。燃焼部の焼土は47×28cmの不整形を呈し、層厚は最大5cmである。袖部は裁ち断りから地山を利用し構築されたものと思われる。

遺物（第47～48図、写真図版5）

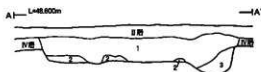
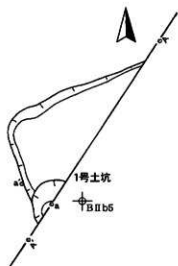
埋土及びカマド袖部周辺、土坑等から土師器、須恵器が小コンテナ1箱分出土し、土師器の坏3点、甕4点を掲載した。18～20は土師器の坏である。いずれも丸底を呈し、18、20は体部有段、19は無段である。また、20は内面黒色処理がされている。胴部外面調整はヨコナデヤケズリ、胴部内面調整はヨコナデ、ミガキが施される。21～24は土師器の甕である。非ロクロ成形によるもので、胴部外面調整はヘラナデヤケズリ、胴部内面調整はヘラナデ、ハケメである。

時期 第I期

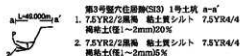
・第3号竪穴住居跡（SⅢ3）

遺構（第15図、写真図版5）

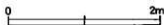
〈位置・検出状況〉 BⅡa4～a5、BⅡb4グリッドに位置する。V層上面で検出した。



- 第3号竪穴住居跡(SⅢ3) 埋土 A-A'
1. 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR5/6明黄粘土10% 炭化物・土層片含む
 2. 7.5YR4/6褐 粘土 餅まりなし
 3. 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR4/4褐粘土(径1～2mm)20%



- 第3号竪穴住居跡(SⅢ3) 1号土坑 a-a'
1. 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR4/4褐粘土(径1～2mm)20%
 2. 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR4/4褐粘土(径1～2mm)5%



第15図 第3号竪穴住居跡

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈平面形〉 遺構が調査区外に延びるため全体形は不明であるが、隅丸方形が予想される。

〈規模〉 棟方向の長さは不明である。軸方向は、北西壁方向で $N-20^{\circ}-W$ である。面積は検出分で約 $1.4m^2$ である。

〈埋土〉 褐色ないし黒褐色の粘土質シルト主体の3層からなる。1層には炭化物・土器片が含まれる。

〈壁〉 V層よりやや上面の層より掘り込まれており、外傾して立ち上がる。壁高は32cmである。

〈床面〉 検出範囲内においては平坦で、締まっている。

〈柱穴〉 検出されていない。

〈土坑〉 南東壁隅で1基検出された。遺構外にかかるため、規模は不明である。

〈カマド〉 検出されていない。

遺物 (第48図、写真図版28)

埋土中から須恵器が少量出土し、壺2点を掲載した。25-26は胴部破片で、ロクロ成形後のケズリ等の調整は見られない。

時期 共伴遺物が少なく、時期不明である。

・第4号竪穴住居跡 (S I 4)

遺構 (第16-17図、写真図版6)

〈位置・検出状況〉 A II i 3-i 4、A II j 3-j 4グリッドに位置する。V層(地山面)上面で検出した。

〈重複・新旧関係〉 円形周溝と重複し、本遺構が新しい。

〈平面形〉 隅丸方形を呈する。西側に約 $260 \times 200cm$ 範囲の重機による方形の攪乱により一部壊されている。

〈規模〉 東壁486cm、南壁456cm、西壁510cm、北壁515cmを測る。主軸方向は $N-77^{\circ}-E$ である。面積は $23.5m^2$ である。

〈埋土〉 9層に細分される。主体は明黄褐色粘土質シルト及び黒褐色粘土質シルト主体の埋土である。

〈壁〉 地山面を掘り込んで構築されており、緩く外傾して立ち上がる。東壁の一部と南壁は、ある程度明瞭な立ち上がりを確認することが可能であったが、他は不明瞭であった。壁高は東壁-南壁で2-7cmである。

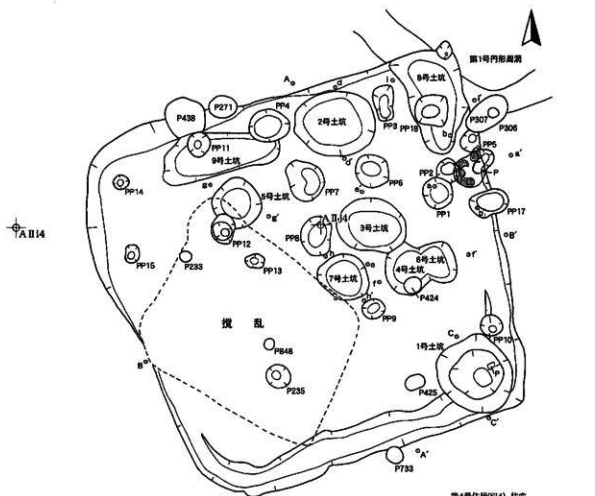
〈床面〉 概ね平坦であり、固く締まっている。

〈柱穴〉 検出段階で本遺構より新しいと確認された6基の他、全部で18基検出された。主柱穴については定かでないが、PP10、PP11、PP16 (P235と同一柱穴)、PP18の4基がその可能性がある。その他14基中、攪乱部分から検出されたPP12、PP13については、本遺構に伴うものかは不明である。規模等の詳細は第16図に示した。

〈土坑〉 9基検出した。規模等の詳細は第16図に示した。

〈カマド〉 燃焼部と僅かに煙道部が検出された。煮炊きに使われたと思われる甕が出土している

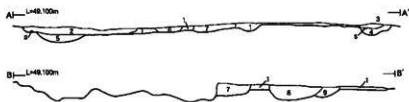
〈その他〉 周溝状の掘り込みが南壁際に検出された。上端幅42cm、深さ14cmを測る。本来の周溝としての役割を果たしていたものか、単に水はけを良くするために掘られたものなのか不明である。また、本遺構は柱穴及び土坑が数多く検出されており、建て替えの可能性も考えられる。削平により東壁付近でのみ明瞭な立ち上がりが見られず、重機による攪乱も受けており、ベルト断面からその痕跡を確認することは困難であった。



TA II 14

TA II 15

TA II 15



第4号型穴住居跡(S34) ベルト A-A'・B-B'

- 10YR6/6明黄褐 粘土質シルト 粘性あり・締まりあり
- 5Y2/1黒褐 粘土質シルト 焼土粒微量 粘性あり・締まり中〜軟
- 5YR2/1黒褐 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐30%
- 10YR6/6明黄褐 粘土質シルト 黒褐中〜風じる
- 10YR3/2濃褐 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐7%炭状 炭化物5%・粘土5% 炭化成分微量 粘性あり・締まりあり
- 10YR3/2濃褐 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐10% 炭化物微量 炭化成分微量 土屑部・須臾細片含む 粘性あり・締まりあり
- 10YR2/2濃褐 粘土質シルト 10YR5/4にふり黄褐15% 炭化物少量 炭化成分含む 粘性あり・締まりあり
- 10YR3/2濃褐 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐5% 炭化物1% 粘性あり・締まりあり
- 10YR2/2濃褐 粘土質シルト 10YR4/4暗緑2〜3% 粘性あり・締まりあり

第4号住居跡(S34) 土坑

土坑	開口形状(cm)	深さ(cm)
1号土坑	106×92	23
2号土坑	106×84	33
3号土坑	91×68	17
4号土坑	—×69	20
5号土坑	64×61	19
6号土坑	86×—	14
7号土坑	63×58	9
8号土坑	138×66	14
9号土坑	158×61	12

第4号住居跡(SI4) 柱穴

柱穴	開口形状(cm)	深さ(cm)
PP1	42×40	12
PP2	34×32	7
PP3	46×28	11
PP4	52×42	9
PP5	28×26	32
PP6	44×44	22
PP7	57×48	17
PP8	51×40	26
PP9	30×26	12
PP10	29×28	13
PP11	33×30	11
PP12	40×32	24
PP13	26×19	11
PP14	20×19	6
PP15	24×17	21
PP16	31×28	24
PP17	46×31	10
PP18	42×39	11

P233	柱穴一覽表参照
P271	柱穴一覽表参照
P306	柱穴一覽表参照
P424	柱穴一覽表参照
P425	柱穴一覽表参照
P438	柱穴一覽表参照
P448	柱穴一覽表参照
P449	柱穴一覽表参照
P450	柱穴一覽表参照
P451	柱穴一覽表参照
P452	柱穴一覽表参照
P453	柱穴一覽表参照
P454	柱穴一覽表参照
P455	柱穴一覽表参照
P456	柱穴一覽表参照
P457	柱穴一覽表参照
P458	柱穴一覽表参照
P459	柱穴一覽表参照
P460	柱穴一覽表参照
P461	柱穴一覽表参照
P462	柱穴一覽表参照
P463	柱穴一覽表参照
P464	柱穴一覽表参照
P465	柱穴一覽表参照
P466	柱穴一覽表参照
P467	柱穴一覽表参照
P468	柱穴一覽表参照
P469	柱穴一覽表参照
P470	柱穴一覽表参照
P471	柱穴一覽表参照
P472	柱穴一覽表参照
P473	柱穴一覽表参照
P474	柱穴一覽表参照
P475	柱穴一覽表参照
P476	柱穴一覽表参照
P477	柱穴一覽表参照
P478	柱穴一覽表参照
P479	柱穴一覽表参照
P480	柱穴一覽表参照
P481	柱穴一覽表参照
P482	柱穴一覽表参照
P483	柱穴一覽表参照
P484	柱穴一覽表参照
P485	柱穴一覽表参照
P486	柱穴一覽表参照
P487	柱穴一覽表参照
P488	柱穴一覽表参照
P489	柱穴一覽表参照
P490	柱穴一覽表参照
P491	柱穴一覽表参照
P492	柱穴一覽表参照
P493	柱穴一覽表参照
P494	柱穴一覽表参照
P495	柱穴一覽表参照
P496	柱穴一覽表参照
P497	柱穴一覽表参照
P498	柱穴一覽表参照
P499	柱穴一覽表参照
P500	柱穴一覽表参照



第16図 第4号型穴住居跡(1)



a-a' b-b'



第4号竪穴住居跡(S4) カマド a-a'・b-b'

1. 10YR4/6赤褐色 粘性なし・締まりあり
2. 10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐色粘土質シルト10% 炭化物微量・堆土少量 粘性あり・締まりあり
3. 10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 明黄褐色小砂 炭化物 堆土を2~3%含む 粘性あり・締まりあり
4. 10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 明黄褐色小砂1~2% 炭化物1~2% 粘性あり・締まりあり
5. 2.5YR6/3に赤い斑 パズルのような細かいサラサラした土 締まりあり・粘性なし
6. 10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 明黄褐色5% 粘性あり・締まりあり



第4号竪穴住居跡(S4) 1号土坑 c-c'

1. 6YR2/2黒褐色 粘土質シルト 7.5YR7/8黄褐色10% 炭化物少量 粘性なし・締まりあり



第4号竪穴住居跡(S4) 2号土坑 d-d'

1. 10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐色7%黄砂 炭化物6%・焼土5% 酸化鉄分微量 粘性あり・締まりあり



第4号竪穴住居跡(S4) 3号土坑 e-e'

1. 10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐色10% 炭化物微量 酸化鉄分微量 土師器・煎魚跡片含む 粘性あり・締まりあり



第4号竪穴住居跡(S4) 4号土坑・6号土坑 f-f'

1. 10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 10YR4/4黄褐色2~3% 炭化物1%・焼土10~15% 粘性あり・締まりあり
2. 10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 炭化物1%・焼土2% 粘性あり・締まりあり



第4号竪穴住居跡(S4) 5号土坑 g-g'

1. 10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐色5% 炭化物1% 粘性あり・締まりあり



第4号竪穴住居跡(S4) 7号土坑 h-h'

1. 10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 10YR5/4に赤い斑あり15% 炭化物少量 酸化鉄分含む 粘性あり・締まりあり



第4号竪穴住居跡(S4) 8号土坑 i-i'

1. 10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐色2~3% 炭化物1~2%・堆土微量 粘性あり・締まりあり
2. 10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐色10% 炭化物1~2% 粘性あり・締まりあり



第17図 第4号竪穴住居跡(2)

遺物 (第48-51図、写真図版28-30)

埋土及びカマド、土坑、柱穴等から土師器、須恵器、石器・石製品が大コンテナ1箱分出土し、土師器の坏10点、甕15点、須恵器の坏4点、甕5点、長頸壺1点、石製品1点を掲載した。

27-36はロクロ成形による土師器の坏である。27は回転糸切りによる底部切り離し後、底部及び胴部下半にヘラケズリによる再調整がされている。34は底部がヘラケズリによる再調整が施されており、底部の切り離し技法は不明である。28-29、33、35-36はヘラケズリあるいはヘラナデによる再調整が施されているものと思われるが、摩滅により不明瞭である。30は内面黒色処理されず、ロクロ成形以外の調整が見られないことから所謂赤焼き土器とされる土器である。37-40は須恵器の坏である。40は切り離し後、底部にヘラケズリ調整がされている。41-54は土師器の甕である。すべてロクロ成形によるものである。54はロクロ成形後、胴部外面にヘラケズリ、胴部内面にヘラナデ調整が施される。52-53は底部に回転糸切り痕が残る。55は須恵器の長頸壺の口縁-頸部である。口径は9.4cmである。56-60は須恵器の甕である。57-58は外面にタタキ、内面にアテテ痕が、59は外面のみタタキ、60はロクロ成形後、外面にヘラケズリが施される。61は石製紡錘車である。外径6.6×7.0cm、中央部孔径1.1cm、厚さ1.2cm、重さ66.02gである。

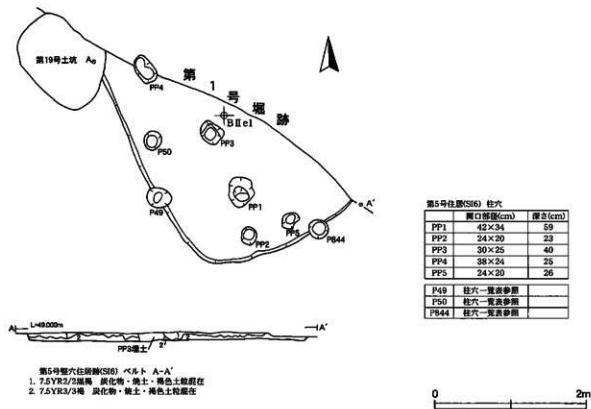
時期 第Ⅲ期

・第5号竪穴住居跡 (SⅠ6)

遺構 (第18図、写真図版7)

〈位置・検出状況〉 BⅡd0-d1、BⅡe1グリッドに位置する。V層(地山面)で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第1号堀跡、第19号土坑と重複する。本遺構は第1号堀跡より新しく、第19号土坑よ



第18図 第5号竪穴住居跡

り古い。

〈平面形〉 遺構が第1号堀跡に切られているため全体形は不明であるが、隅丸方形を呈するものと予想される。

〈規模〉 棟方向の長さは不明である。主軸方向はN-24°-Wである。面積は検出分で約4.2m²である。

〈埋土〉 黒褐〜褐色土の2層からなる。ともに炭化物・焼土が混入する。

〈壁〉 地山を掘り込んで構築されており、外傾して立ち上がる。壁高は5〜10cmである。

〈床面〉 平坦であり、固く締まっている。

〈柱穴〉 本遺構より新しい柱穴3基を除き5基検出した。主柱穴は不明である。

〈土坑〉 検出されていない。

〈カマド〉 検出されていない。

遺物 (第51図、写真図版30)

埋土及び柱穴から土師器が小コンテナ1箱弱出土し、坏、甕、鉢それぞれ1点ずつ計3点掲載した。

62は非ロクロ成形の坏である。体部有段であるが、破片のため丸底か平底か不明である。63は甕、64は鉢である。64は推定底径5.2cmである。

時期 第I期

・第6号住居跡 (S I 7)

遺構 (第19図、写真図版8)

〈位置・検出状況〉 BII a 1〜b 1、BI a 0〜b 0区に位置する。V層 (地山面) で検出した。

〈重複〉 なし。

〈平面形・規模〉 かなり削平を受けており、北東角付近が残存するのみである。平面形は方形を基調とすると思われるものの、規模は不明であり、残存する部分で一辺2m程である。

〈埋土〉 埋土上部が削平されているため検出できた埋土は薄く、4層に区分された。黒褐色粘土質シルトが主体である。

〈壁〉 地山の褐色粘土を掘り込んで構築されている。床面から緩く外傾して立ち上がる。壁高は残りの良いところで4cm程である。

〈床面〉 概ね平坦で、締まっている。

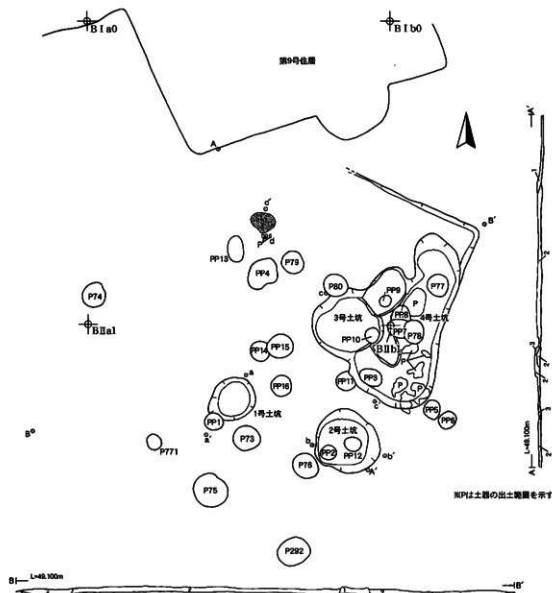
〈柱穴〉 本遺構より明らかに新しいものを除き16基検出されたが、住居跡より新しい時期の柱穴が多く検出されているので、埋土や配置等からは本住居に伴うものを断定できなかった。

〈炉〉 残存する床面南西端で焼け面が確認された。不整楕円形で32cm×26cmの範囲が焼けている。表面は橙色を呈し堅くしまり、厚さは最大3.5cmである。焼土内には粉末状の骨や土器片が含まれていた。

〈土坑〉 4基 (1号〜4号土坑) 検出した。1号土坑は南端に位置し、楕円形状で規模は65cm×55cm、深さは約6cmである。2号土坑は南東隅に位置し、円形状で規模は90cm×80cm、深さは約7cmである。3号土坑は4号土坑を切って構築されている。円形状を呈し、規模は90cm×90cm、深さは23cmである。4号土坑は不整な隅丸三角形を呈し、規模は190cm×220cm、深さは最大11cmである。埋土上部から比較的多量の土器片が出土した。

遺物 (第51〜52図、写真図版30)

埋土及び土坑等から、土師器、須恵器、石器が中コンテナ1箱分出土し、土師器の高坏1点、甕8点、須



※Pは土器の出土範囲を示す

- 第6号竪穴住居跡(SI7) ベルト A-A'・B-B'
1. 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 5YR3/6暗赤褐シルトが底点状に混入 乾燥時締まる
 2. 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR4/4褐シルト質粘土40% 乾燥時締まる 石英含む
 3. 7.5YR3/1黒褐 粘土質シルト 乾燥時強い 石英含む
 4. 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR4/6褐粘土塊点状に混入(径1mm大) 石英含む



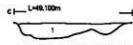
第6号竪穴住居跡(SI7) 1号土坑 a-a'

1. 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR4/4 褐粘土10% 炭化物・土器片含む



第6号竪穴住居跡(SI7) 2号土坑 b-b'

1. 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR5/6 褐粘土10%塊点状に混入(径5mm) 燧石入(径10mm)
2. 7.5YR4/4褐 粘土



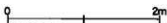
第6号竪穴住居跡(SI7) 3号土坑 c-c'

1. 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR5/6 明褐粘土塊点状に混入 土器片・炭化物



第6号竪穴住居跡(SI7) 2号土坑 d-d'

1. 10YR3/1灰褐 粘土質シルト 2.5YR6/6暗 褐土40% 粉末状の骨・土器片含む



第6号住居跡(SI7) 柱穴

	開口断径(cm)	深さ(cm)
PP1	24×22	39
PP2	21×19	10
PP3	30×22	9
PP4	45×36	40
PP5	25×22	17
PP6	24×21	不明
PP7	—×23	不明
PP8	—×—	不明
PP9	17×15	4
PP10	20×19	8
PP11	—×25	11
PP12	23×18	8
PP13	34×21	8
PP14	25×26	検出のみ
PP15	34×30	検出のみ
PP16	27×26	検出のみ

第19図 第6号竪穴住居跡

恵器の坏2点、石製品1点を掲載した。

65は土師器の高坏の底部と思われる。内外面にヘラナダ調整が施される。66-67は須恵器の坏である。67は焼成不良である。68-75は非ロクロ整形の甕である。胴部調整は外面がヘラナダ、ヘラケズリ、ハケメ、内面がヘラナダによるものである。76は石棒状の石製品である。欠損のため本来の器種は不明である。遺存長9.5cm、幅2.7cm、厚さ1.5cmを測る。重さは42.43gあり、石質は粘板岩である。

時期 第I期

・第7号竪穴住居跡(SI8)

遺構(第20図)

〈位置・検出状況〉 B1b9-b0、B1c9-c0グリッドに位置する。V層(地山面)上面に位置する。

〈重複・新旧関係〉 第1号堀跡と重複し、本遺構が古い。

〈平面形〉 隅丸方形を呈する。

〈規模〉 南棟方向で310cmを測るが、西壁の立ち上がり不明瞭のため更に広がる可能性がある。

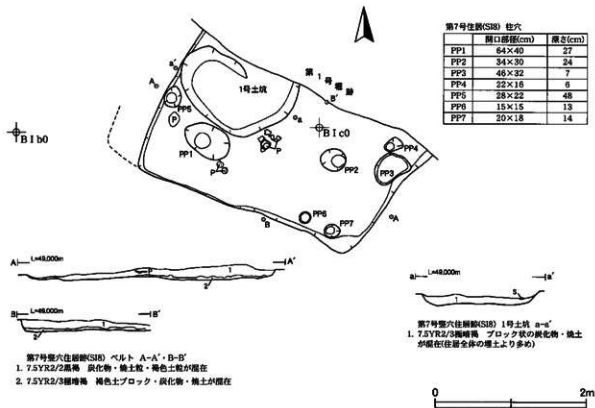
〈埋土〉 黒褐~極暗褐色土の2層に大別される。ともに炭化物・焼土が混在する。

〈壁〉 地山面を掘り込んで構築されており、床面から外傾して立ち上がる。壁高は東壁で12cm測るが、東に向かうにつれ浅くなる。

〈床面〉 ほぼ平坦であり、固く締まっている。

〈柱穴〉 7基検出されている。主柱穴は不明である。詳細は第20図に示した。

〈土坑〉 1基検出した。第1号堀跡に切られているため平面形は不明である。深さは12cmある。



第20図 第7号竪穴住居跡

〈カマド〉 検出されていない。

遺物 (第52図、写真図版30-31)

埋土及び床面から、土師器、縄文土器、石器が中コンテナ1箱分出土し、土師器の坏2点、壺6点、縄文土器の深鉢破片2点、石器2点掲載した。

77-85は土師器である。77-78はロクロ成形の坏で、78は回転系切り後にヘラケズリによる再調整が施される。79は高坏の底部である。外面にヘラナデ調整が施される。80-85は非ロクロ整形の壺である。80、85は底部外面に木葉痕が残る。86-87は縄文土器の深鉢、胴部破片である。86はLR縄文、87は撚糸文が施される。88-89は煎石である。ともに石質は安山岩で、88は長さ9.2cm、幅6.8cm、厚さ5.7cm、重さ436.57gで、90は長さ8.3cm、幅5.7cm、厚さ5.1cm、重さ425.44gである。

時期 第Ⅱ期

・第8号竪穴住居跡 (S19)

遺構 (第21-23図、写真図版9)

〈位置・検出状況〉 AIj0-BIa0区に位置する。V層(地山面)で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第9号竪穴住居跡、第1号堀跡と重複しており、第9号竪穴住居跡よりも新しく、第1号堀跡よりも古い。

〈平面形〉 方形を呈すると思われる。

〈規模〉 遺構の重複等で明確ではない部分があるが、壁や床の残存部分から東西方向棟で4.30m、南北方向棟で3.70mと推定される。主軸方向はN-10°-Wである。検出時の床面積は15.20㎡である。

〈埋土〉 2層に区分された。黒褐色粘土質シルトが主体で、暗赤褐色の焼土粒(径10-20mm)が混入する。埋土中部で炭化物が集中する層がある。平面的には中央部東寄りに炭化物が広がる。

〈壁〉 地山の褐色粘土を掘り込んで構築されている。床面から緩く外傾して立ち上がる。壁高は6.0-9.5cmである。

〈床面〉 概ね平坦で、締まっている。

〈柱穴〉 13基検出された。このうち4基(PP2、PP6、PP13、PP14)は配置・規模等から主柱穴と考えられる。また、PP8は第9号竪穴住居跡の主柱穴と思われる。その他8基(PP1、PP3、PP4、PP5、PP7、PP10、PP11、PP12)は配置・規模等からより新しい時代のもと思われる。

〈周溝〉 検出されていない。

〈カマド〉 住居北辺中央部より東寄りに設けられており、燃焼部と煙道、煙出しピットを確認した。燃焼部の天井部は潰れた状態で検出され、燃焼部内の規模は幅50cm、奥行きは残存側壁から55cm以上とみられる。側壁は黄褐色の地山を貼りつけて構築されている。奥壁は緩やかな角度で約12cm立ち上がり、煙道に移行する。煙道底面は約36°の勾配で煙出しに向かって下がっている。煙道部の長さは約1.1mあり、一部はトンネル状になって残存している。底面幅は約20cmある。煙出しは円形で規模30cm×25cmで、煙道底面との比高は約9cmである。

〈付属施設〉 土坑および土坑状の遺構7基と出入口状施設と思われる遺構を検出した。6号土坑は南壁付近に位置し、底面は裸層が露出する。楕円形状を呈し、規模は120cm×95cm、深さ約20cmである。7号土坑は北東隅にあり貯蔵穴とみられる。楕円形状を呈し、規模は85cm×80cm、深さ22cmである。出入口状遺構は東辺中央部付近に位置する。半楕円形状を呈し、長径は100cmで、住居床面に向かって緩く傾斜している。

北寄りの部分に柱穴状の窪みがある。

遺物 (第53～54図、写真図版31～32)

埋土・カマド・土坑・柱穴から土師器、須恵器、石製品、土製品が中コンテナ1箱分出土し、土師器の坏1点、甕9点、須恵器の坏3点、甕2点、長頸壺1点、石製品は砥石3点、土製品は鋤型1点掲載した。

90はロクロ成形の土師器の坏である。回転糸切り無調整で、内面に放射状のヘラミガキが施される。91～93は須恵器の坏である。94～102は土師器の甕である。ロクロ成形が主体となるが、98、100、101は非ロクロ成形である。いずれもカマド周辺から出土したものである。103～107は須恵器で103は長頸壺、104～107は甕である。103～105はロクロ成形、106～107は胴部外面にタタキ、内面にアテグによる調整が施される。108～110は石製品で器種はいずれも砥石である。どれも小型で、108は長さ5.1cm、幅2.4cm、厚さ1.1cm、重さ21.46gで、109は長さ3.8cm、幅3.5cm、厚さ1.2cm、重さ15.40gで、110は長さ5.1cm、幅3.5cm、厚さ2.1cm、重さ34.33gである。111の土製品は鋤型である。本遺構に伴うものではなく、切り合う第1号堀跡からの流入と思われる。

なお、本遺構は第10号竪穴住居跡と重複していることから、Q1及びQ4埋土から出土した遺物については第10号竪穴住居跡との関わりを考慮する必要がある。

時期 第二期

・第9号竪穴住居跡 (S110)

遺構 (第21～23図、写真図版10)

〈位置・検出状況〉 AIj0、AIIi1～j1グリッドに位置する。V層(地山面)で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第8号竪穴住居跡、第1号堀跡と重複しており、そのいずれよりも古い。

〈平面形〉 隅丸方形を呈すると思われる。

〈規模〉 遺構の重複等で明確ではない部分があるが、壁や床の残存部分から東西方向棟で5.30m、南北方向棟で5.0m以上と推定される。主軸方向はN-10°-Wである。検出分の床面積は17.50m²である。

〈埋土〉 埋土上部が削平されているため検出できた埋土は薄く、2層に区分された。黒褐色粘土質シルトが主体で、褐色粘土が斑点状に混入する。

〈壁〉 地山の褐色粘土を掘り込んで構築されている。床面から緩く外傾して立ち上がる。壁高は0.4cm～2.7cmである。

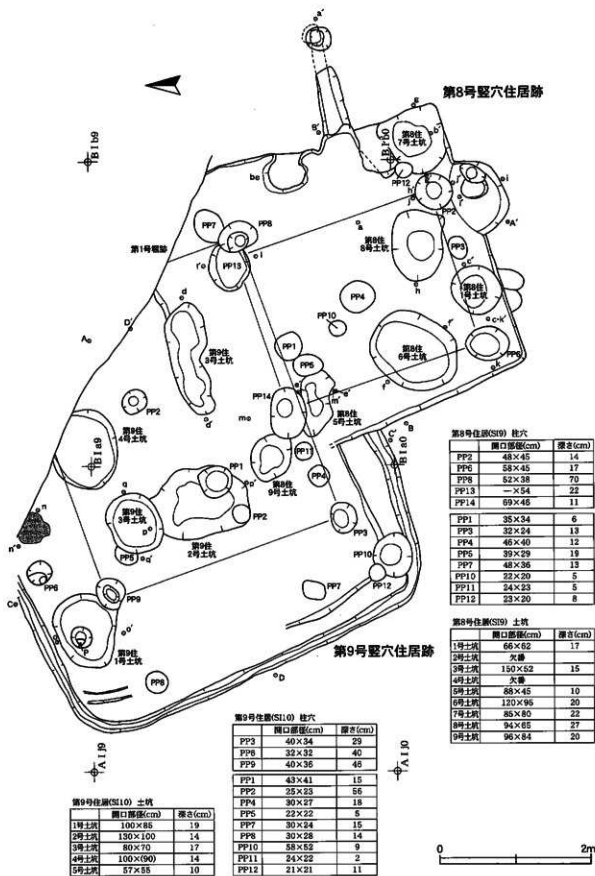
〈床面〉 概ね平坦で、締まっている。

〈柱穴〉 12基検出された。このうち3基(PP3、PP6、PP9)は配置・規模等から住居に伴うものと考えられ、PP3とPP9は主柱穴と考えられる。また、第8号竪穴住居跡のPP88は本遺構の主柱穴と思われる。その他は配置・規模等からより新しい時代のものと思われる。

〈間溝〉 壁直下を全周するとみられる。幅は11cm～20cm、深さは4cm～5cmである。

〈カマド〉 第1号堀跡に切られているため、検出できなかった。しかしながら、西壁中央付近床面で焼土を確認し、燃焼部の可能性もある。楕円形状を呈し、規模は40cm以上×40cm、厚さは6cmである。

〈付属施設〉 土坑を5基(1～5号土坑)検出した。5号土坑は南西隅にあり、円形状で、規模は57cm×55cm、深さ約10cmである。残り4基は中央部から西側に位置する。1号土坑は円形状を呈し、規模は100cm×85cm・深さ19cm、2号土坑は楕円形状を呈し、規模は130cm×100cm・深さ14cm、3号土坑は円形状を呈し、規模は80cm×70cm・深さ17cm、4号土坑は一部第1号堀跡に切られているが、円形状を呈し、規模は100cm×90cmと推



第21图 第8号・9号竖穴住居跡(1)



第8号竪穴住居跡(SI9) ベルト A-A'

1. 7.5YR2/3暗褐色粘土質シルトに7.5YR4/4褐粘土10%・5YR4/8赤褐粘土質シルトが斑点状に混入 炭化物・石炭含む
2. 7.5YR2/3暗褐色 5YR4/8暗褐色粘土質シルト(粘土斑点状に混入)
3. 7.5YR2/2黒褐色 粘土質シルト 10YR5/6黄褐粘土50%
4. 10YR5/6黄褐粘土 線まりあり 地山
5. 5YR4/6赤褐 粘土質シルト(粘土投り捨て)



第8号竪穴住居跡(SI9) ベルト B-B'

1. 7.5YR2/2黒褐色 粘土質シルト 5YR3/6暗赤褐粘土斑点に混入(径1~2mm) 多量の炭化物片(最大5~10cm)大混入 土層片・石炭含む
2. 7.5YR2/2黒褐色 粘土質シルト 7.5YR5/6明褐粘土50% 5YR5/8明赤褐粘土斑点状に混入(5~50mm大) 炭化物(最大2~5cm大)3割上方に集中



第9号竪穴住居跡(SI10) ベルト C-C'・D-D'

1. 7.5YR2/2黒褐色 粘土質シルト 7.5YR4/4褐粘土斑点状に混入(径2~3mm) 石炭含む 線まりややあり
2. 7.5YR4/6黄褐 粘土 線まりあり



第8号竪穴住居跡(SI9) カマド a-a'

1. 7.5YR2/3暗褐色粘 5YR4/6赤褐粘土斑点状に混入20% 炭化物含む
2. 7.5YR2/3暗褐色 5YR4/6赤褐粘土・5YR5/6明褐粘土が斑点状に混入 炭化物20%含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐 粘土質シルト



第9号竪穴住居跡(SI9) カマド b-b'

1. 7.5YR2/3暗褐色 粘土質シルト 5YR4/6赤褐粘土20%・7.5YR6/8黄シルト少量が斑点状に混入
2. 7.5YR3/2黒褐色 粘土質シルト 5YR4/6赤褐粘土30%・7.5YR5/4にぶい黄シルト10%が斑点状に混入 土層片含む
3. 7.5YR6/4にぶい黄 粘土質シルト
4. 7.5YR3/2黒褐色 粘土質シルト 5YR4/6赤褐粘土10%斑点状に混入 上方に7.5YR2/1黒炭化物の蓄積部分あり 土層片含む
5. 7.5YR2/2黒褐色 粘土質シルト 7.5YR5/4にぶい黄粘土20% 土層片含む
6. 7.5YR3/2黒褐色 粘土質シルト
7. 7.5YR2/2黒褐色 粘土質シルト 7.5YR4/4褐粘土20% 炭化物・土層片含む
8. 7.5YR2/2黒褐色 粘土質シルト 7.5YR5/6黄褐粘土50%



第22図 第8号・9号竪穴住居跡(2)



- 第8号竪穴住居跡(SI9) 1号土坑 c-c'
- 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR4/4褐 粘土10% 炭化物・土器片含む



- 第8号竪穴住居跡(SI9) 3号土坑 d-d'
- 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 7.5YR5/6明褐粘土20% 土器片含む



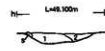
- 第8号竪穴住居跡(SI9) 5号土坑 e-e'
- 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐粘土10% 5YR4/6赤黄粘土10% が底点状に混入 炭化物(最大1cmX)・土器片含む



- 第8号竪穴住居跡(SI9) 6号土坑 f-f'
- 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 7.5YR4/6褐粘土20% 5YR4/8赤黄粘土 底点状に混入 炭化物・土器片含む



- 第8号竪穴住居跡(SI9) 7号土坑 g-g'
- 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 炭化物・土器片含む
 - 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 7.5YR5/6明褐粘土20% 5YR4/6赤黄粘土 底点状に混入(径10mm) 炭化物含む



- 第8号竪穴住居跡(SI9) 8号土坑 h-h'
- 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 7.5YR4/4褐 粘土底点状に混入 炭化物・土器片含む
 - 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR5/6明褐粘土混入 炭化物・土器片含む



- 第8号竪穴住居跡(SI9) 入口施設 i-i'
- 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 7.5YR4/4褐粘土40% 5YR4/8赤黄粘土 底点状に混入 炭化物含む
 - 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 10YR6/6明黄褐粘土40% 5YR4/8赤黄粘土底点状に混入 炭化物含む



- 第8号竪穴住居跡(SI9) PP2 j-j'
- 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 7.5YR4/4褐粘土10% 5YR4/8赤黄粘土 底点状に混入 炭化物含む



- 第8号竪穴住居跡(SI9) PP6 k-k'
- 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 5YR4/6赤黄粘土20% 炭化物・土器片含む



- 第8号竪穴住居跡(SI9) PP13 l-l'
- 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 5YR4/8赤黄粘土底点状に混入
 - 7.5YR2/2黒褐 粘土質シルト 5YR4/8赤黄粘土30% 底点状に混入 炭化物・土器片含む
 - 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 7.5YR5/6明褐粘土10% 炭化物含む



- 第8号竪穴住居跡(SI9) PP14 m-m'
- 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 10YR5/6明黄褐粘土10% 5YR4/6赤黄粘土10% が底点状に混入 炭化物(最大1cmX)・土器片含む



- 第9号竪穴住居跡(SI10) 礎土 n-n'
- 5YR4/8赤黄シルト質土 土器片含む



- 第9号竪穴住居跡(SI10) 1号土坑 o-o'
- 7.5YR3/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR5/6明褐粘土10% 5YR4/8赤黄粘土が底点状に混入 炭化物・土器片含む
 - 7.5YR5/6明褐 粘土 7.5YR3/4暗褐シルト質粘土・5YR4/8赤黄粘土が底点状に混入(30%)
 - 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト 7.5YR5/6明褐含む 炭化物含む



- 第9号竪穴住居跡(SI10) 2号土坑 p-p'
- 7.5YR3/2黒褐 粘土質シルト 7.5YR5/6明褐粘土10% 5YR4/8赤黄粘土が底点状に混入 炭化物・土器片含む



- 第9号竪穴住居跡(SI10) 3号土坑 q-q'
- 7.5YR2/3暗褐 粘土質シルト
 - 7.5YR5/6明褐粘土10% 5YR4/8赤黄粘土が底点状に少量混入 炭化物・土器片含む
 - 土が底点状に少量混入 炭化物・土器片含む
 - 7.5YR5/6明褐 粘土 土器片・炭化物含む



第23図 第8号・9号竪穴住居跡(3)

定され、深さは14cmである。

〈その他〉 東辺～南辺にかけての床面で、壁に沿って最大7cmの段差で掘りこみが見られたり、南西隅付近の床面に長さ50cm、幅15cm、深さ3cmの溝状の遺構を検出した。全貌は確認できなかったが、立替前の住居の輪郭を示す可能性がある。

遺物 (第54～55図、写真図版32)

埋土及び、土坑、柱穴等から、土師器、須恵器、土製品、石製品が小コンテナ1箱分出土し、土師器の坏1点、甕5点、土製品は土錘1点、石製品は硯1点掲載した。

112は非ロクロ成形の土師器の坏である。胴部内面にヘラミガキ調整が施される。内面底部からの立ち上がりが急である。113～116は非ロクロ成形の土師器甕である。胴部の調整は、外面・内面ともにヘラナアによる。117は硯である。PP5からの出土であり、本遺構より新しい柱穴と考えられることから本遺構に伴う遺物ではない。長さは8.7cm、幅5.2cm、厚さ1.7cm、重さ63.78gである。118は土錘である。長さ4.8cm、幅1.5cm、孔径0.5cmである。

時期 第I期

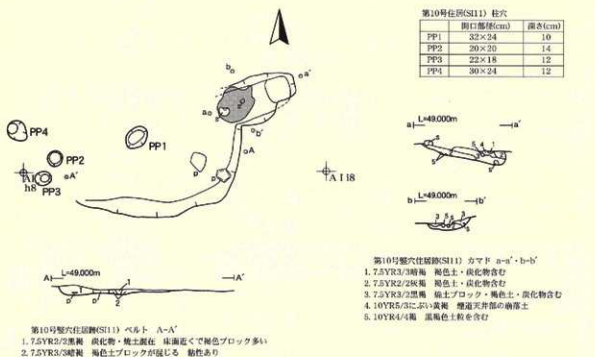
・第10号竪穴住居跡(S111)

遺構 (第24図)

〈位置・検出状況〉 A1h7～h8グリッドに位置する。V層(地山面)で検出された。

〈重複・新旧関係〉 第1号堀跡と重複し、本遺構が第1号堀跡より古い。

〈平面形〉 大部分が削平されており全体形は不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われる。



第24図 第10号竪穴住居跡

- 〈規模〉 棟方向の長さは不明である。軸線方向はN-69°-Eである。
- 〈埋土〉 黒褐～暗褐色土の2層からなる。床面近くで褐色土ブロックが多くなる。
- 〈壁〉 地山面を掘り込んで構築されており、外傾して立ち上がる。壁高は最も立ち上がりが明瞭な東壁で12cmを測る。
- 〈床面〉 削平のため不明である。
- 〈柱穴〉 4基検出されているが、本遺構に確実に伴うかどうかは不明である。
- 〈土坑〉 検出されていない。
- 〈カマド〉 燃焼部と煙道が検出された。燃焼部焼土は58×42cmの不整形な広がりを持ち、層厚は最大8cmである。煙道の検出長は82cm、煙出部に向かって緩やかに傾斜する。煙出部の深さは18cmである。

遺物 (第55図、写真図版32)

埋土床面及びカマドから土師器が小コンテナ1箱分出土し、壺2点(119、120)を掲載した。120は球胴壺である。120は胴部内面にヘラナデ及び横位のハケメ調整、外面にヘラナデ調整が施される。

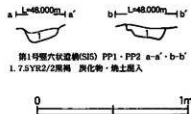
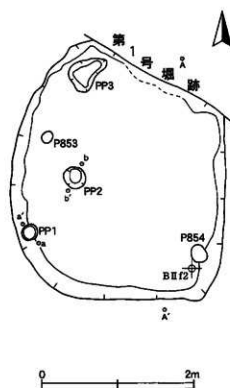
時期 第1期

2. 竪穴状遺構

・第1号竪穴状遺構 (S I 5)

遺構 (第25図、写真図版11)

〈位置・検出状況〉 B II e1～e2、B II f1～f2グリッドに位置する。V層で検出した。



第1号竪穴状遺構(SIS) ベルト A-A'

- 7.5YR2/3暗褐色 褐色土の小ブロック、炭化物僅かに混じる
- 7.5YR2/2暗褐色 褐色土の小ブロック混入(1層より多め)
- 7.5YR2/2暗褐色 褐色土の混入
- 7.5YR2/1黒 径5~20cmの内傾層跡の埋土・炭化物・焼土ブロック層

第1号竪穴状遺構(SIS) 柱穴

	開口部径(cm)	長さ(cm)
PP1	22×21	5
PP2	31×28	9
PP3	52×40	9
P853	柱穴一重表参照	
P854	柱穴一重表参照	

第25図 第1号竪穴状遺構

〈重複・新旧関係〉 第1号堀跡と重複し、本遺構が古い。

〈平面形〉 第1号堀跡に切られているため全体形は不明であるが、不整槽円状を呈するものと思われる。

〈規模〉 全体規模は不明である。東西方向で幅292cmを測る。面積は検出分で約7.2㎡である。

〈埋土〉 暗褐色～極暗褐色、黒～黒褐色土の4層に区分される。部分的に褐色土ブロックが混入する。4層からは堀跡の埋土と思われる径5～20cmの円礫が混じる。

〈壁〉 地山面を掘り込んで構築されており、外傾して立ち上がる。壁高は南壁で34cmを測る。

〈床面〉 平坦で固く締まっている。

〈柱穴〉 本遺構より新しい2基を除き、3基検出された。主柱穴は不明である。

〈土坑〉 検出されていない。

遺物 (第55図、写真図版32～33)

埋土中から土師器、須恵器、陶磁器が小コンテナ1箱分出土し、土師器の坏1点、壺1点、須恵器の坏1点、壺・甕4点、陶磁器は瀬戸・美濃産の磁器1点掲載した。

121はロクロ成形の土師器の坏である。回転糸切り後、ヘラナデによる再調整が施される。122は須恵器の坏である。123は非ロクロ成形の土師器の甕で胴部外面にヘラナデ、ケズリ調整、内面にヘラナデ調整が施される。124～127は須恵器の壺・甕類である。外面にタタキ、内面に当て具痕が見られる。128は瀬戸・美濃産の深皿である。時期は19世紀である。本遺構は第1号堀跡と切り合い部分があることから、本来堀跡埋土に含まれていたものと思われる。

時期 第Ⅱ期

3. 掘立柱建物跡

・第1号掘立柱建物跡 (SB1)

遺構 (第26～27図、写真図版12)

〈位置・検出状況〉 AⅠF0、AⅠG1～i1、AⅡg2～i2、AⅡg3～i3に位置する。V層で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第2号、8号掘立柱建物跡、第3号柱穴列と重複し、第2号掘立柱建物跡より本遺構が古い。他については不明である。

〈規模〉 桁行3間(総長760cm)、梁行5間(総長866cm)の建物である。面積は建物全体で65.8㎡(19.9坪)である。

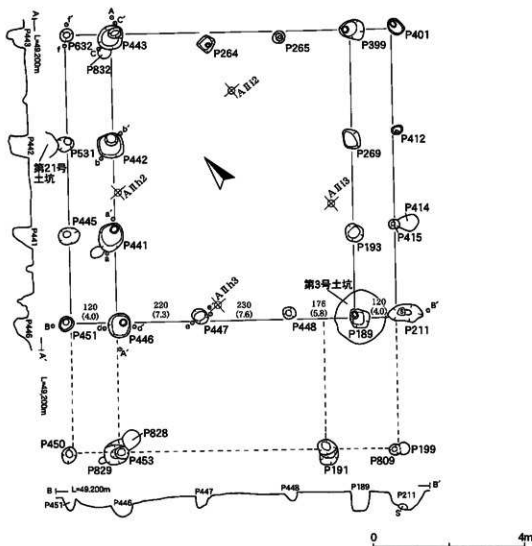
〈平面形式〉 桁行3間、梁行3間の身舎に、南北に廂がつく。

〈軸線方向〉 N-40°-Eである。

〈柱間寸法〉 桁行は北から270(8.9尺)、240cm(7.9尺)、250cm(8.3尺)、梁行は西から220(7.3尺)、230cm(7.6尺)、176cm(5.8尺)となる。廂の幅は120cm(4.0尺)である。

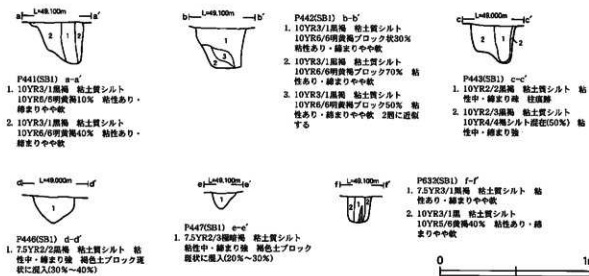
〈建物の性格〉 詳細は不明であるが、これを推定部分を含めず方三間の建物と仮定すると、建て替えの痕跡がなく、掘り方も大きいことから、御堂であった可能性もある(詳しくはまともを参照)。

〈備考〉 建物の南に梁行南棟ラインと軸線を同じくする4基の柱穴が検出されている。P191がやや桁行東棟ラインからずれ、また桁行の柱間寸法が340cm(11.2尺)と大きくなるため同一の建物と断定することはできなかった。しかしながら、この4基の柱穴に対応する建物が調査区南側に検出されていないこと、埋土は良く似ていること等から建物を構成するとの見方も可能であろう。仮にこれを含めると建物面積は95.26㎡(28.9坪)となる。

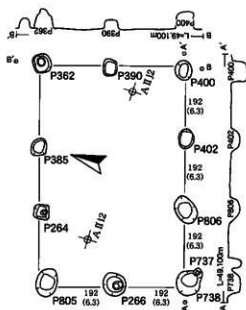


柱穴No	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴列	
			長径	短径	深さ(cm)	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考
189	A II h3	方形	52	46	67.4				○				中国産灰付磁器増反皿	1号建物(SB1)
193	A II h3-A II h3	円	48	46	16.1	○							埴	1号建物(SB1)
211	A II h3	楕円	92	46	52.0									1号建物(SB1)
254	A II i1	方形	38	38	52.5	○	○						土師鉢片、須恵器壺	1号建物・2号建物
265	A II i1	円	32	31	49.2								埴	1号建物(SB1)
269	A II i2	楕円状	64	60	72.1	○							埴子、土師鉢は壺	1号建物(SB1)
399	A II i2	楕円	65	51	53.3									1号建物(SB1)
401	A II i2	楕円	48	35	37.0			○					壺	1号建物(SB1)
412	A II i2	楕円	30	22	32.2									1号建物(SB1)
415	A II i3	方形	29	22	23.3									1号建物(SB1)
441	A II g2	円	74	66	55.9		○						埴子(モモ)	1号建物(SB1)
442	A II h1	方形	66	66	54.0	○						○	伊壁	1号建物(SB1)
443	A II h1	円	72	64	49.3	○							伊壁	1号建物(SB1)
445	A II g1-A II g2	楕円	52	44	40.2									1号建物(SB1)
446	A II g2	方形	62	58	56.4	○							埴、壺	1号建物(SB1)
447	A II g2-A II g3	円	44	38	31.9	○							伊壁	1号建物(SB1)
448	A II h3	円			0.0									1号建物(SB1)
451	A II g2	円	42	35	18.9									1号建物(SB1)
531	A II g1-A II h1	楕円	44	40	48.0							○	伊壁	1号建物(SB1)
632	A I h0-A II h1	円	35	34	79.6								埴りすず	1号建物(SB1)
191	A II g4	方形	70	50	54.0	○							伊壁	1号建物(SB1)↑
450	A II f3	円	40	36	18.0									1号建物(SB1)↑
453	A II f3	楕円	60	41.0		○			○			○	染付磁器鉢、伊壁	1号建物(SB1)↑
809	A II h4	楕円	27	33.8										1号建物(SB1)↑

第26図 第1号掘立柱建物跡(1)



第2号掘立柱建物跡



柱穴No.	グリッド	平面形	開口部長(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴例		
			長径	短径	深さ(cm)	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考	
254	A II 11	方形	35	35	62.6	○	○							土師器環、須恵器甕	1号建物・2号建物
255	A II 14	円	64	52	55.7	○	○							甕	2号建物(SB2)
352	A II 11~A II 11	方形	52	46	49.6	○	○							坪	2号建物(SB2)
353	A II 11	方形	43	40	31.3			○						土師器は坪、縄文土器	2号建物(SB2)
390	A II 11	方形	40	35	25.7	○	○							土師器は坪、縄文土器	2号建物(SB2)
400	A II 12	円	52	42	43.2	○	○		○					陶器は須恵器	2号建物(SB2)
422	A II 12	円	52	41	23.6	○	○								2号建物(SB2)
738	A II 12	円	66		33.8	○	○								2号建物(SB2)
805	A II 11	楕円	76	54	46.5	○	○								2号建物(SB2)
806	A II 12	楕円			28.0	○	○								2号建物(SB2)

第27図 第1号(2)・2号掘立柱建物跡

遺物 (第60図、写真図版37)

柱穴34基中14基から土師器、須恵器、陶磁器、土製品等が出土し、陶磁器2点、炉壁1点の計3点掲載した。203は中国産明代の磁器染付端反皿である。P189からの出土である。209は産地・時期不明の磁器皿である。P453から出土した。208は炉壁である。P442からの出土である。

時期 中世に属するものと思われる。

・第2号掘立柱建物跡 (S B 2)

遺構 (第27図、写真図版13)

〈位置・検出状況〉 AⅡh1～j1、AⅡh2～j2に位置する。V層で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第1号、第3号掘立柱建物跡と重複し、本遺構は第1号掘立柱建物跡より新しい。第3号掘立柱建物跡とは新旧不明である。

〈規模〉 桁行3間(総長576cm)、梁行3間(総長384cm)の建物である。面積は22.1㎡(6.7坪)である。

〈軸線方向〉 N-75°-Eである。

〈柱間寸法〉 桁行、梁行ともに192cm(6.3尺)を使用している。

〈建物の性格〉 不明である。

遺物 (第60図、写真図版38)

柱穴10基中7基から土師器、須恵器、縄文土器、陶磁器等が出土し、陶磁器1点掲載した。

204は12世紀後半の瀬美産の大型壺の口縁部である。P400からの出土である。

時期 中世に属するものと思われる。

・第3号掘立柱建物跡 (S B 4)

遺構 (第28図)

〈位置・検出状況〉 AⅠe9～g9、AⅠe0～g0、AⅡe1～f1グリッドに位置する。V層で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第4号掘立柱建物跡、第1号掘跡、第5・6号柱穴列と重複する。新旧関係は不明である。

〈規模〉 桁行4間(総長930cm)、梁行2間(総長484cm)である。面積は45.0㎡(13.6坪)である。

〈軸線方向〉 N-59°-Wである。

〈柱間寸法〉 桁行は220cm(7.3尺)と270cm(8.9尺)を、梁行は242cm(8.0尺)を使用する。

〈建物の性格〉 大きさから母屋的な性格が予想される。

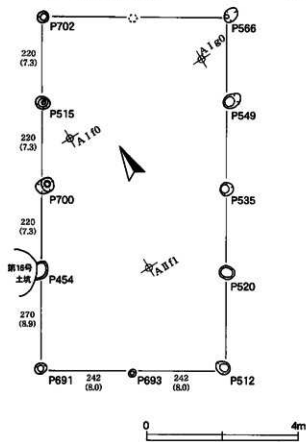
遺物 (第61図、写真図版37)

柱穴11基中4基から石製品、鉄製品、土製品等が出土し、各1点ずつの計3点掲載した。

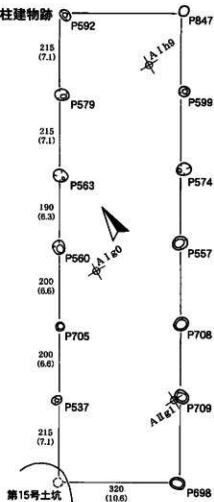
210はP454からの出土で種類は鉄塊である。鑄造に使用される銃鉄の可能性はある。浅い碗状呈し、上部径9.8cm、底部径8.1cm、最大厚2.9cm、重さは275.82gである。213～214はP515からの出土で213は埴塼、214は礫石である。埴塼は埋土中央付近、礫石はその直下から出土した。埴塼は長さ11.7cm、幅6.4cm、厚さ5.4cm、重さ231.35gである。礫石は長さ13.4cm、幅6.7cm、厚さ4.5cm、重さ605.42gである。埴塼と鉄塊の詳細については、付箋の分析・鑑定を参照していただきたい。

時期 中世に属するものと思われる。

第3号掘立柱建物跡



第4号掘立柱建物跡



第15号土坑

柱穴No	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴列	
			長径	短径	高さ(cm)	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考
454	A I e0	方形	46		52.0								鉄鏡	3号建物(SB4)
512	A II f1	楕円	40	36	59.0									3号建物(SB4)
515	A I e0-A I f0	円	37	36	52.7									3号建物(SB4)
520	A II f1	楕円	42	32	54.8								増築・礎石・炉内障	3号建物(SB4)
535	A I f0	円	35	33	53.5									3号建物(SB4)
549	A I f0-A I g0	楕円	48	36	57.6									3号建物(SB4)
566	A I g0	円	43	34	56.4									3号建物(SB4)
691	A II e1	円	30	29	59.2									3号建物(SB4)
693	A II e1	円	20	20	18.9									3号建物(SB4)
700	A I e0	円	46	40	44.9									3号建物(SB4)
702	A I f0	円	30	28	47.4									3号建物(SB4)

柱穴No	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴列	
			長径	短径	高さ(cm)	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考
537	A I f0	楕円	27	20	29.8									4号建物(SB5)
557	A I g0	円	42	35	52.0									4号建物(SB5)
560	A I f0	円	37	30	44.1									4号建物(SB5)
563	A I g0	楕円	39	34	44.8									4号建物(SB5)
574	A I g0	楕円	38	31	47.2									4号建物(SB5)
579	A I g0	円	36	30	28.2									4号建物(SB5)
591	A I g0	円	28	28	30.0									4号建物(SB5)
599	A I h0	円	30	28	23.4									4号建物(SB5)
698	A II f1	楕円	38	26	21.3									4号建物(SB5)
705	A I f0	円	23	22	47.1									4号建物(SB5)
708	A I g0	円	38	36	50.7									4号建物(SB5)
709	A I g0-A II g1	方形	36	32	32.9									4号建物(SB5)
847	A I h0	円	30	26	6.0									4号建物(SB5)

第28図 第3号・4号掘立柱建物跡

・第4号掘立柱建物跡（SB5）

遺構（第28図）

〈位置・検出状況〉 A Ig 8～h 8、f 9～h 9、f 0～g 0、A II f 1～g 1 グリッドに位置する。V層で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第3号、10号掘立柱建物跡、第1号塙跡、第5号・6号柱穴列、第15号土坑と重複し、本遺構は第15号土坑より古い。

〈規模〉 桁行6間（総長1,235cm）、梁行1間（総長320cm）の建物である。面積は39.5㎡（12.0坪）である。

〈軸線方向〉 N-30°-Eである。

〈柱間寸法〉 桁行は190cm（6.3尺）、200cm（6.6尺）、215cm（7.1尺）、梁行は320cm（10.6尺）を使用する。

〈建物の性格〉 詳細は不明であるが、馬屋的な性格も推察される。

遺物（第61図、写真図版38）

柱穴13基中4基から土師器、須恵器、土製品が出土し、鋳型1点掲載した。

土製品 218は鋳型で、P591からの出土である。鋳造した製品は不明である。

時期 中世に属するものと思われる。

・第5号掘立柱建物跡（SB6）

遺構（第29図）

〈位置・検出状況〉 B Ic 0～d 0、B II b 1～d 1 グリッドに位置する。V層で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第1号、6号掘立柱建物跡、第2号柱穴列、第10号土坑と重複し、本遺構は第1号掘立柱建物跡、第10号土坑より新しい。

〈規模〉 桁行3間（総長580cm）、梁行1間（総長384cm）の建物と思われる。面積は推定部分も含め22.3㎡（6.7坪）である。

〈軸線方向〉 N-64°-Wである。

〈柱間寸法〉 桁行は190cm（6.3尺）、梁行は（12.7尺）を使用する。

〈建物の性格〉 建物面積が狭いことから付属小屋の性格が推察される。

遺物 柱穴6基中1基から土師器坏・甕が出土したが、細片のため図面掲載していない。

時期 中世に属するものと思われる。

・第6号掘立柱建物跡（SB7）

遺構（第29図）

〈位置・検出状況〉 B Ic 0、B II c 1～d 1、d 2 グリッドに位置する。V層で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第1号、5号掘立柱建物跡、第2号柱穴列と重複し、本遺構は第1号掘立柱建物跡より新しい。

〈規模〉 桁行3間（総長660cm）、梁行1間（総長304cm）の建物と思われる。面積は推定部分も含め20.1㎡（6.1坪）である。

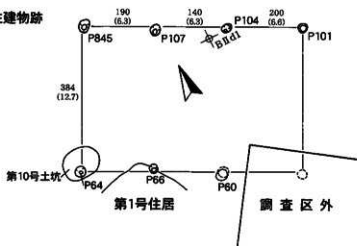
〈軸線方向〉 N-65°-Wである。

〈柱間寸法〉 桁行は220cm（7.3尺）、梁行は304cm（10.0尺）を使用している。

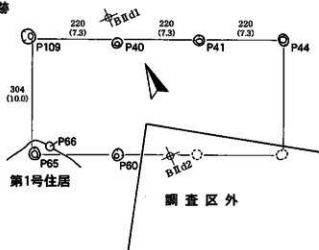
〈建物の性格〉 建物面積が狭いことから付属小屋の性格が推察される。

遺物 柱穴6基中1基から土師器が出土したが、細片のため図面掲載していない。器種も不明である。

第5号掘立柱建物跡



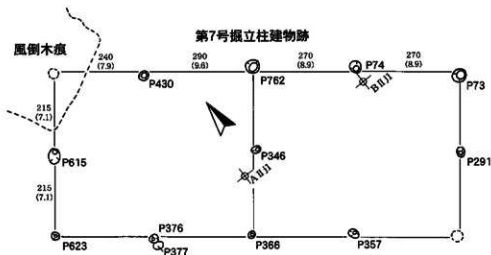
第6号掘立柱建物跡



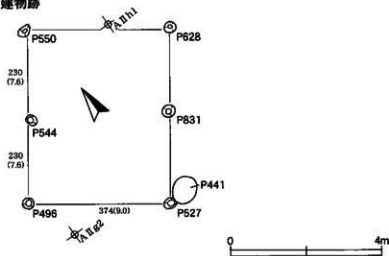
柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴列			
			長径	短径	深さ	土師器	須惠器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石器製品	鉄製品	土製品		その他・備考		
64	B II b1	楕円	30	23	32.8	○									環・釧	5号建物(SB6)
65	B II c1	円	28	24	33.9											5号建物(SB6)
101	B II d1	円	22	22	11.6											5号建物(SB6)
104	B II d0-B II d1	円	28	22	26.4											5号建物(SB6)
107	B II c0	楕円	34	26	27.3											5号建物(SB6)
845	B II c0	楕円	38	24	24.1											5号建物(SB6)

柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴列			
			長径	短径	深さ	土師器	須惠器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石器製品	鉄製品	土製品		その他・備考		
40	B II c1-B II d1	円	28	26	47.6											6号建物(SB7)
41	B II d1	円	31	28	53.1											6号建物(SB7)
44	B II d1-B II e1	円	30	28	46.4											6号建物(SB7)
60	B II c1	円	32	26	35.7											6号建物(SB7)
65	B II c1	円	30	25	47.1											6号建物(SB7)
109	B II c0	円	36	34	40.6	○									磨盤	6号建物(SB7)

第29図 第5号・6号掘立柱建物跡



第8号掘立柱建物跡



柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴列	
			長さ	幅	高さ(cm)	土師器	須恵器	陶文・生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考
73	B II a1	横門	36	32	48.5									7号建物(SB8)
74	B I J0~B II a1	横門	32	30	47.8									7号建物(SB8)
291	B II a1	円	28	20	11.1									7号建物(SB8)
346	A I J0	横門	27	21	28.1	○	○	○						土師器柱环、陶文土器
357	A II J1	横門	29	23	37.5									7号建物(SB8)
366	A II J1	円	21	16	42.8									7号建物(SB8)
376	A I I0	横門?	24	23	47.8									7号建物(SB8)
430	A I I0	円	26	24	45.3			○						陶文土器
615	A I I0	横門	30	22	34.8	○	○							7号建物(SB8)
423	A I h0	円	21	19	25.6									7号建物(SB8)
762	A I J0	円	38	36	56.5									7号建物(SB8)

柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴列	
			長さ	幅	高さ(cm)	土師器	須恵器	陶文・生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考
496	A II f1	円	30	30	40.4									8号建物(SB9)
527	A II g2	横門		36	48.0									8号建物(SB9)
544	A II g1	横門	33	28	41.5			○						陶文土器
550	A I g0	横門	38	25	42.5	○								8号建物(SB9)
628	A II h1	円	32	30	47.7									8号建物(SB9)
831	A II g1-A II h1	円	34	32	39.4									8号建物(SB9)

第30図 第7号・8号掘立柱建物跡

時期 中世に属するものと思われる。

・第7号掘立柱建物跡 (SB8)

遺構 (第30回)

〈位置・検出状況〉 AIh0～BIa0、AIIi1～BIIa1、AIIi2～j2グリッドに位置する。V層で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第2号、10号掘立柱建物跡、第1号柱穴列と重複する。

〈規模〉 桁行4間(総長1,070cm)、梁行2間(総長430cm)の建物である。面積は46.0㎡(13.9坪)である。

〈軸線方向〉 N-53°-Wである。

〈柱間寸法〉 桁行は240cm(7.9尺)、270cm(8.9尺)、290cm(9.6尺)を、梁行は215cm(7.1尺)を使用する。

〈建物の性格〉 不明である。

遺物 (第61回、写真図版37)

柱穴11基中3基から土師器、須恵器、縄文土器が出土し、縄文土器片1点掲載した。

206は縄文土器の深鉢胴部破片でP430からの出土である。地文はRL縄文である。

時期 不明である。

・第8号掘立柱建物跡 (SB9)

遺構 (第30回)

〈位置・検出状況〉 AIG0、AIIf1～h1、g2グリッドに位置する。V層で検出された。

〈重複・新旧関係〉 第1号掘立柱建物跡、第4号柱穴列と重複し、本遺構は第1号掘立柱建物跡より古い。

〈規模〉 桁行2間(総長460cm)、梁行1間(総長374cm)の建物である。面積は17.2㎡(5.2坪)である。

〈軸線方向〉 N-54°-Wである。

〈柱間寸法〉 桁行は230cm(7.6尺)、梁行は374cm(9.0尺)を使用する。

〈建物の性格〉 不明である。

遺物 柱穴6基中2基から土師器、縄文土器が出土した。細片のため図面掲載していない。

時期 不明である。

・第9号掘立柱建物跡 (SB10)

遺構 (第31回)

〈位置・検出状況〉 AIIj4～j6、BIIa4～a6グリッドに位置する。V層で検出された。

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈規模〉 遺構が調査区外に延びるため全体形は不明であるが、桁行2間以上、梁行2間(総長430cm)の建物と思われる。面積は検出分で17.2㎡(5.2坪)である。

〈軸線方向〉 N-66°-Wである。

〈柱間寸法〉 桁行は300cm(9.9尺)を、梁行は210cm(6.9尺)、220cm(7.3尺)を使用している。

〈建物の性格〉 不明である。

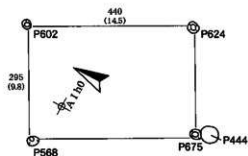
遺物 出土していない。

時期 不明である。

第9号掘立柱建物跡



第10号掘立柱建物跡



柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴列			
			長径	短径	深さ	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考		
54	A II 5	楕円	26	17	23.4											9号建物(SB1.0)
153	A II 4	円	28	28	16.9											9号建物(SB1.0)
249	A II 5	円	22	20	12.7											9号建物(SB1.0)
275	B II a5	楕円	26	22	12.4											9号建物(SB1.0)
278	B II a5	円	16	14	25.0											9号建物(SB1.0)
280	B II a5	円	16	15	16.7											9号建物(SB1.0)

柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴列			
			長径	短径	深さ	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考		
568	A I g0	円	30	28	45.4											10号建物(SB1.1)
602	A I h0	円	25	24	54.3	○										10号建物(SB1.1)
624	A I h0	円	32	28	33.4											10号建物(SB1.1)
675	A I h0	円形		26	33.7											10号建物(SB1.1)

第31図 第9号・10号掘立柱建物跡

・第10号掘立柱建物跡 (SB11)

遺構 (第31図)

〈位置・検出状況〉 A I g 9-h 9、g 0-h 0 に位置する。V層で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第5号、7号掘立柱建物跡、第4号柱穴列と重複する。新旧関係は不明である。

〈規模〉 桁行1間ないし2間(総長440cm)、梁行1間(総長295cm)の建物と思われる。面積は13.0㎡(3.9坪)である。

〈軸線方向〉 N-62°-Eである。

〈柱間寸法〉 桁行1間とすると440cm(14.5尺)、検出はされなかったが間に柱があったと仮定すると220cm(7.3尺)となる。梁行は295cm(9.8尺)である。

〈建物の性格〉 不明である。

遺物 柱穴4基中1基から土師器が出土したが、細片のため図面掲載していない。

時期 不明である。

4. 柱穴列

・第1号柱穴列

遺構 (第32図)

〈位置・検出状況〉 A I j 1-A II a 1、B II a 2-b 2 グリッドに位置する。V層で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第1号竪穴住居跡、第7号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が第1号掘立柱建物跡より新しい。

〈規模〉 柱穴5基、4間(総長1,040cm)の検出である。

〈軸線方向〉 N-56°-Wである。

〈柱間寸法〉 260cm(8.6尺)を使用する。

遺物 出土していない。

時期 第1号掘立柱建物跡より新しいが、詳細な時期は不明である。

・第2号柱穴列

遺構 (第32図)

〈位置・検出状況〉 B II c 1、d 1-d 2 グリッドに位置する。V層で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第5号、6号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明である。

〈規模〉 柱穴5基、4間(総長960cm)の検出である。

〈軸線方向〉 N-58°-Wである。

〈柱間寸法〉 西から順に260cm(8.6尺)、240cm(7.9尺)、220cm(7.3尺)、240cm(7.9尺)

遺物 (第60図、写真図版37)

柱穴5基中2基から須恵器、石製品が出土し、砥石1点掲載した。201はP38から出土した。長さ19.5cm、幅9.1cm、厚さ5.5cm、重さ1,501.10gである。石質は石英安山岩である。

時期 不明である。

・第3号柱穴列

遺構 (第32図)

- 〈位置・検出状況〉 AⅡi2-j2、AⅡj3-BⅡa3グリッドに位置する。V層で検出した。
〈重複・新旧関係〉 第1号掘立柱建物跡、第1号円形周溝と重複し、本遺構が第1号円形周溝より新しい。
〈規模〉 柱穴4基、3間(総長850cm)の検出である。
〈軸線方向〉 N-57°-Wである。
〈柱間寸法〉 西から順に280cm(9.2尺)、280cm(9.2尺)、290cm(9.6尺)である。

遺物 (第60図、写真図版37)

- 柱穴4基中2基から土師器、須恵器、土製品が出土し、須恵器1点掲載した。
205は須恵器の甕の胴部破片でP409から出土した。外面は平行のタタキ、内面はアテグによる調整が施される。
時期 第1号円形周溝より新しいが、詳細な時期は不明である。

・第4号柱穴列

遺構 (第32図)

- 〈位置・検出状況〉 AⅡf1、g0-g1グリッドに位置する。V層で検出した。
〈重複・新旧関係〉 第1号、9号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明である。
〈規模〉 柱穴6基、5間(総長1,000cm)の検出である。
〈軸線方向〉 N-37°-Eである。
〈柱間寸法〉 200cm(6.6尺)を使用する。
遺物 (第62図、写真図版38)
柱穴6基中1基から土師器が出土し、1点掲載した。
219は土師器の坏でP712から出土した。胴部に段を持つ。推定口径17.0cm、器高4.4cmである。
時期 柱穴の軸線方向が第1号掘立柱建物跡や第1号堺路等とほぼ同じであることから、中世と思われる。

・第5号柱穴列

遺構 (第33図)

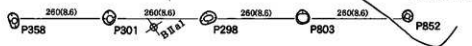
- 〈位置・検出状況〉 AⅡf9-g9、f0、AⅡe1-f1に位置する。V層で検出された。
〈重複・新旧関係〉 第3号、4号掘立柱建物跡、第15号土坑と重複し、本遺構が第15号土坑より古い。
〈規模〉 柱穴5基、4間(総長900cm)の検出である。
〈軸線方向〉 N-35°-Eである。
〈柱間寸法〉 北から順に210cm(6.9尺)、235cm(7.8尺)、245cm(8.1尺)、210cm(6.9尺)である。
遺物 出土していない。
時期 軸線方向から中世の可能性もある。

・第6号柱穴列

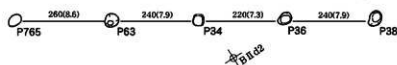
遺構 (第33図)

- 〈位置・検出状況〉 AⅡe0-f0、AⅡe1グリッドに位置する。V層で検出された。
〈重複・新旧関係〉 第3号掘立柱建物跡、第15号土坑と重複する。

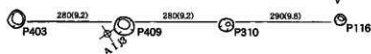
第1号柱穴列



第2号柱穴列



第3号柱穴列



第4号柱穴列



柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴例			
			長径	短径	深さ(cm)	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考		
298	B II a2	円	44	32	47.9											該当建物・柱穴例
301	A II j1	円	38	32	45.6											柱穴例1号
358	A II j1	楕円	41	26	62.5											柱穴例1号
803	B II a2	円	38	34	47.3											柱穴例1号
852	B II b2	円	54	52	37.0										第1号壘穴住居PP3	柱穴例1号
柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴例			
			長径	短径	深さ(cm)	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考		
34	B II c1	方形	30	26	42.2											柱穴例2号
36	B II d1-B II d2	不整形方	38	30	44.2		○									柱穴例2号
38	B II d2	楕円	43	35	49.4					○						柱穴例2号
63	B II c1	円	38	37	69.9											柱穴例2号
765	B II b1	円	36	28	28.0											柱穴例2号
柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴例			
			長径	短径	深さ(cm)	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考		
116	B II a3	円	32	30	48.8											柱穴例3号
310	A II B	円	38	34	46.2		○									柱穴例3号
403	A II J2	円	48	44	65.2											柱穴例3号
409	A II J2-A II J3	円	52	49	48.1		○	○								伊賀 須磨神社
柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴例			
			長径	短径	深さ(cm)	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考		
496	A II f1	楕円	27	20	12.3											柱穴例4号
532	A II g1	円	28	26	39.9											柱穴例4号
605	A I g0	楕円	30	24	19.5											柱穴例4号
687	A II f2	円	38	38	21.8											柱穴例4号
712	A I g0-A II g1	円	30	27	16.9		○									柱穴例4号
716	A I g0	円	30	28	14.5											柱穴例4号

第32図 柱穴列(1)

〈規模〉 柱穴4基、3間（総長580cm）の検出である。

〈軸線方向〉 N-36°-Eである。

〈柱間寸法〉 北から順に190cm（6.3尺）、200cm（6.6尺）、190cm（6.3尺）である。

遺物 出土していない。

時期 軸線方向から中世の可能性もあろう。

5. 土坑

・第1号土坑（SK1）

遺構（第34図、写真図版14）

〈位置・検出状況〉 AⅡf5グリッドに位置する。Ⅲ層で検出された。

〈重複・新旧関係〉 第8号土坑、P155と重複し、ともに本遺構が新しい。

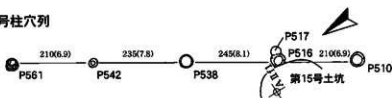
〈平面形・規模〉 遺構が遺構外にかかるため全体形は不明である。開口部径も不明であるが、断面A-A'で118cm、それに直交するラインの最大幅は53cmである。深さは最大25cmである。

〈埋土〉 3層からなる。1-2層は黒褐色土にぶい黄褐色土が混入する埋土で、2層により多くにぶい黄褐色土が入る。3層は黄褐色土にやや黒色土を含む。

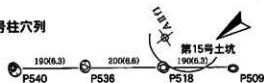
〈壁・底面〉 北西壁はやや緩やかに、南東壁はやや急に底面から外傾して立ち上がる。底面は凹凸があり、平坦ではない。

遺物 出土していない。

第5号柱穴列



第6号柱穴列



柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴列		
			長径	短径	深さ(cm)	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考	
510	AⅡe1	円	38	36	32.8										柱穴列5号
516	AⅡf1	円	36	36	23.1										柱穴列5号
538	AⅠf0	円	36	35	22.1										柱穴列5号
542	AⅠf0	円	24	22	23.5										柱穴列6号
561	AⅠg9	方形	32	29	45.4										柱穴列5号

柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当建物・柱穴列		
			長径	短径	深さ(cm)	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考	
509	AⅡe1	円	24	19	40.9										柱穴列6号
518	AⅠe0	円	30	28	26.4										柱穴列6号
536	AⅠf0	円	32	27	31.0										柱穴列6号
540	AⅠf0	楕円	38	30	24.8										柱穴列6号

第33図 柱穴列(2)

時期 これまでの土地利用から現代のリング植栽坑の可能性がある。

・第2号土坑（SK2）

遺構（第34図、写真図版14）

〈位置・検出状況〉 AⅡe4～e5、AⅡf4～f5グリッドに位置する。Ⅲ層が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈平面形・規模〉 全体形は遺構が調査区外にかかるため不明であるが、円形が予想される。規模は遺構全体が検出されていないため不明である。深さは検出できた中では最大27cmを測る。

〈埋土〉 黒褐色粘土質シルトと褐色粘土が混合する単層からなる。

〈壁・底面〉 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面は起伏があり、平坦ではない。

〈その他〉 底面から径10～15cm程の柱穴状小pitが数基検出された（木根か）。

遺物 出土していない。

時期 これまでの土地利用から近現代のリング植栽坑の可能性がある。

・第3号土坑（SK3）

遺構（第34図、写真図版14）

〈位置・検出状況〉 AⅡh3グリッドに位置する。Ⅲ層が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 P189と重複し、本遺構が新しい。

〈平面形・規模〉 ほぼ円形を呈する。開口部径は133×131cm、深さは29cmである。

〈埋土〉 4層に区分される。1～2層は黒褐色粘土質シルトに褐色粘土が混じる混合土、3～4層は暗褐～極暗褐粘土質シルトを主体とする。

〈壁・底面〉 壁は底面から直立気味に立ち上がる。底面は平坦である。

〈その他〉 底面から径10～30cm台の柱穴状小pitが数基検出された（木根か）。

遺物（第56図、写真図版33）

埋土中から磁器が出土し、1点掲載した。129は中国産の磁器鉢である。時期は明末である。他に近現代の磁器が出土した。

時期 明代の磁器が出土しているが他に近現代の磁器も出土しており、埋め戻しの際の流れ込みの可能性が高い。また、これまでの土地利用から近現代のリング植栽坑と思われる。

・第4号土坑（SK4）

遺構（第34図、写真図版14）

〈位置・検出状況〉 AⅡg3グリッドに位置する。Ⅲ層が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈平面形・規模〉 ほぼ円形を呈する。開口部径は144×138cm、深さは36cmである。

〈埋土〉 褐色～黒褐色～極暗褐色が混合する粘土質シルト主体の2層からなる。

〈壁・底面〉 北西壁は緩やかに外傾して立ち上がり、南東壁は直立気味に立ち上がる。底面は平坦である。

〈その他〉 底面から径10～40cm台の柱穴状小pitが数基検出された（木根か）。

遺物（第56図、写真図版33）

埋土中から縄文土器、土製品が微量出土し、各1点の計2点掲載した。

130は土製品である。器種は不明である。残存長2.9cm、幅2.8cm、厚さ1.6cmである。中は中空となっており、孔の直径は0.8cmである。131は縄文土器の深鉢の胴部破片である。R L縄文が施される。

時期 これまでの土地利用から近現代のリング植栽坑の可能性はある。

・第5号土坑（SK5）

遺構（第34図、写真図版15）

〈位置・検出状況〉 AⅡh3-h4グリッドに位置する。Ⅲ層が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈平面形・規模〉 不整形円形を呈する。開口部径は176×172cm、深さは36cmである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色～極暗褐色主体の粘土質シルトの3層からなる。

〈壁・底面〉 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

〈その他〉 底面から径10～30cm台の柱穴状小pitが数基検出された（木根か）。

遺物 現行の10円玉が出土した。

時期 これまでの土地利用から近現代のリング植栽坑の可能性はある。

・第6号土坑（SK6）

遺構（第35図、写真図版15）

〈位置・検出状況〉 AⅡf4グリッドに位置する。Ⅲ層が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 P12が重複し、本遺構が新しい。

〈平面形・規模〉 隅丸長方形を呈する。開口部径は120×59cm、深さは20cmである。

〈埋土〉 5層に区分される。黒色～黒褐色土に黄褐色土が混入する埋土である。下層ほど混入の割合が高い。

〈壁・底面〉 壁は底面からやや直立気味に立ち上がる。底面は平坦である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

・第7号土坑（SK7）

遺構（第35図、写真図版15）

〈位置・検出状況〉 AⅡf4-f5、AⅡg4-g5グリッドに位置する。Ⅲ層が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 第8号土坑と重複し、本遺構が古い。

〈平面形・規模〉 全体形は遺構が第8号土坑に切られるため不明であるが、検出分のプランから楕円形が予想される。規模は不明である。

〈埋土〉 黒褐色土に明黄褐色土が20%混入する単層からなる。人為堆積の様相を呈する。

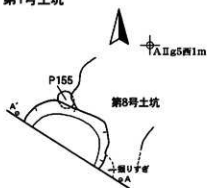
〈壁・底面〉 壁は概ね外傾して立ち上がっている。底面は第8号土坑に切られているため不明である。

〈その他〉 底面から径40cm台の柱穴状小pitが検出された（木根か）。

遺物 出土していない。

時期 これまでの土地利用から近現代のリング植栽坑の可能性はある。

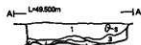
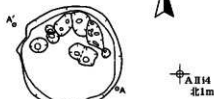
第1号土坑



第1号土坑(SK1) A-A'

1. 10YR2/3腐層 10YR5/4に多い腐層20% 締まりあり・粘性あり SK1層土
2. 10YR2/2腐層 10YR5/4に多い腐層60% 締まりあり・粘性あり SK1層土
3. 10YR5/6腐層 7.5YR2/1層
4. 2.5YR2/1層(掘りすぎ部分)

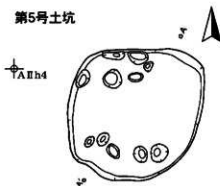
第3号土坑



第3号土坑(SK3) A-A'

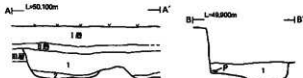
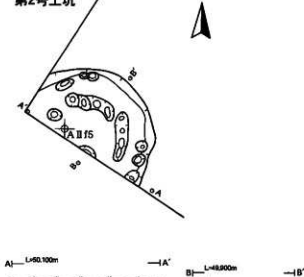
1. 10YR2/3腐層 粘土質シルト 10YR2/2腐褐色粘土質シルト9.5% 10YR4/6褐色粘土0.5%との混合土 乾燥時硬い
2. 7.5YR2/2腐層 粘土質シルト 7.5YR2/3暗褐色粘土質シルト・10YR4/6褐色粘土との混合土
3. 7.5YR2/3暗褐色 粘土質シルト 10YR4/4褐色粘土との混合
4. 7.5YR3/4暗褐色粘土質シルト

第5号土坑



第5号土坑(SK5) A-A'

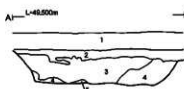
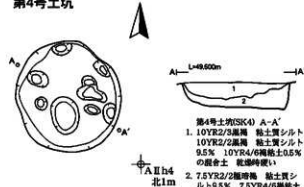
第2号土坑



第2号土坑(SK2) A-A'

1. 10YR2/3腐層 粘土質シルト40%と10YR4/6褐色粘土80%の混合土 土層片を含む 乾燥時硬い
2. 10YR5/6腐層 粘土質シルト10YR2/3腐層混入(掘りすぎ?)

第4号土坑



第4号土坑(SK4) A-A'

1. 10YR2/3腐層 粘土質シルト 10YR2/2腐層 粘土質シルト 9.5% 10YR4/6褐色粘土0.5%の混合土 乾燥時硬い
2. 7.5YR2/2腐層 粘土質シルト0.5% 7.5YR4/6褐色粘土0.5%の混合土 乾燥時硬い

第5号土坑(SK5) A-A'

1. 7.5YR2/3暗褐色 粘土質シルト 7.5YR4/6褐色粘土 混合 締まりあり
2. 7.5YR2/2腐層 粘土質シルト 締まりあり
3. 7.5YR3/2腐層 粘土質シルト 7.5YR3/4暗褐色パッチ状に含む 腐5% 炭化含有 腐5% SK5層土
4. 7.5YR2/3暗褐色 粘土質シルト 7.5YR4/3褐色粘土20% SK5層土
5. 7.5YR2/4暗褐色 粘土 締まりあり SK5層土

0 2m

第34図 土坑(1)

・第8号土坑（SK8）

遺構（第35図、写真図版15）

〈位置・検出状況〉 AⅡf4～f5グリッドに位置する。Ⅲ層が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 第1号、7号土坑、P155と重複しており、本遺構は第1号土坑より旧く、第7号土坑及びP155より新しい。

〈平面形・規模〉 第1号土坑等に切られているため全体形は不明であるが、検出分のプランから不定形が予想される。規模は不明である。

〈埋土〉 黒褐色土に明黄褐色土が10%混入する単層からなる。自然堆積の様相を呈する。

〈壁・底面〉 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面は丸底状である。

〈その他〉 底面から径20～50cm台の柱穴状小pitが数基検出された（木椀か）。

遺物 出土していない。

時期 これまでの土地利用から近現代のリング植栽坑の可能性はある。

・第9号土坑（SK9）

遺構（第35図、写真図版15）

〈位置・検出状況〉 AⅡf4グリッドに位置する。Ⅲ層が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 第1号溝跡と重複し、本遺構が古い。

〈平面形・規模〉 第1号溝跡に切られているため全体形は不明であるが、検出分のプランから円形が予想される。開口部径は断面A-A'で55cmを測る。深さは6cmである。

〈埋土〉 におい黄褐色土からなる単層である。粘性はなく、締まっている。

〈壁・底面〉 壁は概ね底面から外傾して立ち上がるが、南東壁では直立気味に立ち上がる箇所もある。底面は緩やかな起伏がやや見られる。

遺物 出土していない。

時期 検出面がⅢ層であることから近現代と思われる。

・第10号土坑（SK10）

遺構（第35図、写真図版16）

〈位置・検出状況〉 BⅡb1～c1グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 P64と重複し、本遺構が古い。

〈平面形・規模〉 楕円形を呈する。開口部径は101×60cm、深さは最大19cmである。

〈埋土〉 極暗褐色のシルト質粘土に赤褐色の焼土を15%含む単層からなる。

〈壁・底面〉 東壁は緩やかなスロープ状を呈しながら立ち上がり、西壁は直立気味に立ち上がる。底面は浅皿状を呈する。

〈その他〉 底面から柱穴状小pitが2基検出された。

遺物（第56図、写真図版33）

土師器、須恵器、炉壁が小コンテナ1箱分出土し、土師器の坏1点、甕5点、須恵器の坏2点、炉壁1点掲載した。

132はロクロ成形の土師器の坏である。133～134は須恵器の坏である。135～139はロクロ成形の土師器甕

である。140は炉壁である。本遺構より新しいP64と重複しており、取り上げの際に誤認識をした可能性もあるため本遺構に伴うか不明である。

時期 炉壁を除いた出土遺物は、第Ⅱ期に相当する。

・第11号土坑（SK11）

遺構（第35図、写真図版16）

〈位置・検出状況〉 BⅠc0～d1グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 P61、P62が重複し、本遺構がともに古い。

〈平面形・規模〉 円形を呈する。開口部径は133×127cm、深さは34cmである。

〈埋土〉 黒褐色の粘土質シルト主体の2層からなる。1層中に明褐色粘土30%の他、礫が混入する。

〈壁・底面〉 底面から外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

遺物（第57図、写真図版33）

埋土中から土師器、縄文土器が少量出土し、土師器3点、縄文土器1点の計4点掲載した。

141～143は土師器の甕である。143は底部外面に網代痕が残る。144は縄文土器の深鉢の胴部小破片である。地文はLR縄文である。

時期 第Ⅰ期

・第12号土坑（SK12）

遺構（第36図、写真図版16）

〈位置・検出状況〉 AⅡg4グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 P2と重複し、本遺構が古い。

〈平面形・規模〉 長楕円形を呈する。開口部径は150×51cm、深さは20cmである。

〈埋土〉 黒～黒褐色の3層からなり、1、3層にはにぶい黄褐色土が50～60%含まれる。

〈壁・底面〉 壁は底面から直立気味立ち上がる。底面は平坦である。

遺物（第57図、写真図版34）

埋土中から土師器が少量出土し、甕3点掲載した。145～147は非ロクロ成形の甕である。口縁部内外面ともヨコナデ、胴部外面にヘラケズリ調整が施される。

時期 第Ⅰ期

・第13号土坑（SK13）

遺構（第36図、写真図版17）

〈位置・検出状況〉 AⅡj2～BⅡa2グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈平面形・規模〉 不整円形を呈する。開口部径は190×80cm、深さは21cmである。

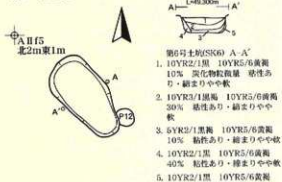
〈埋土〉 黒褐色土に僅かに明黄褐色土（5%）が含まれる単層からなる。

〈壁・底面〉 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

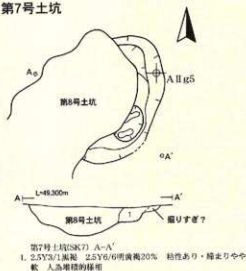
遺物（第57図、写真図版34）

埋土中から須恵器が微量出土し、坏1点掲載した。148は坏の胴部破片である。口径、底径とも不明である。

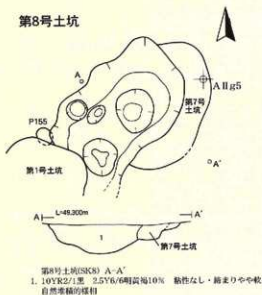
第6号土坑



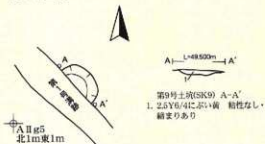
第7号土坑



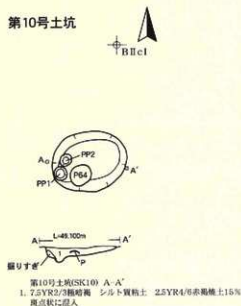
第8号土坑



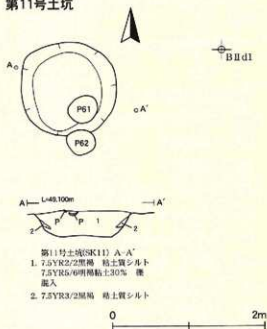
第9号土坑



第10号土坑



第11号土坑



第35図 土坑(2)

時期 不明である。

・第14号土坑（SK14）

遺構（第36図、写真図版17）

〈位置・検出状況〉 BⅡa3 グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 P417と重複し、本遺構が古い。

〈平面形・規模〉 不整形円形を呈する。開口部径は94×70cm、深さは14cmである。

〈埋土〉 黒褐色土と赤褐焼土の2層からなる。2層の焼土の層厚は最大4cmを測る。

〈壁・底面〉 壁は外傾して立ち上がる。底面には数カ所の窪みが見受けられる。

遺物（第57図、写真図版34）

埋土中から土師器、須恵器が出土し、土師器1点、須恵器2点の計3点掲載した。

149は土師器の坏でロクロ成形によるものである。内面は黒色処理が、底部は再調整がされる。底部の切り離し技法は不明である。150～151は須恵器で、150は坏、151は甕である。151は胴部外面に平行のタタキ、内面に平行のアテグによる調整が施される。

時期 第二期

・第15号土坑（SK15）

遺構（第36図）

〈位置・検出状況〉 AⅠe9～e0、AⅠf9～f0グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 P516、P518と重複し、本遺構はP516より新しい。P518との新旧関係は不明である。

〈平面形・規模〉 円形を呈する。開口部径は190×188cm、深さは10cmである。

〈埋土〉 黒色土と明黄褐色土が混合する単層からなる。人為堆積の様相を呈する。

〈壁・底面〉 底面から緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

・第16号土坑（SK16）

遺構（第36図、写真図版17）

〈位置・検出状況〉 AⅠe0グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 P454と重複し、本遺構が古い。

〈平面形・規模〉 不整形円形を呈する。開口部径は121×118cm、深さは33cmである。

〈埋土〉 注記なし。

〈壁・底面〉 壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

遺物（第57図、写真図版34）

埋土中から土師器、須恵器が少量出土し、土師器の甕2点、須恵器の甕1点掲載した。

152～153は非ロクロ成形の土師器甕である。152は胴部外面にヘラナデ、胴部内面にハケメ調整が施される。154はロクロ成形による須恵器甕である。還元焙焼成であることから須恵器として扱ったが、あかやき土器甕とも解される土器である。頸部にタタキが施された後、ロクロ成形されている。江刺市瀬谷子窯跡の流れ

を汲むものである。色調は白橙色を呈する。

時期 第Ⅱ期

・第17号土坑（SK17）

遺構（第36図）

〈位置・検出状況〉 BⅡd1～d2、BⅡe1～e2グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈平面形・規模〉 不整形円形を呈する。開口部径は88×64cm、深さは12cmである。

〈埋土〉 2層からなり、1層は黒褐色土に黄褐色土が30%含まれ、2層は黒色土主体の埋土である。2層には炭化物が多量に混入する。

〈壁・底面〉 底面は緩やかに外傾して立ち上がる。底面はやや丸底気味である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

・第18号土坑（SK18）

遺構（第36図）

〈位置・検出状況〉 BⅡd1グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 P45と重複し、本遺構が新しい。

〈平面形・規模〉 不整形を呈する。開口部径は140×61cm、深さは38cmである。

〈埋土〉 2層からなり、1層が黒色土主体、2層は明黄褐色土に黒色土が30%含まれる埋土である。

〈壁・底面〉 壁は底面から緩やかに外傾して立ち上がる。底面は小pit状の窪みが見られ平坦ではない。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

・第19号土坑（SK19）

遺構（第37図）

〈位置・検出状況〉 AⅡd0グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 第6号竪穴住居跡、第2号溝跡と重複し、本遺構は第2号溝跡より旧く、第6号竪穴住居より新しい。

〈平面形・規模〉 第2号溝跡に切られるため全体形は不明であるが、検出分のプランから不整形円形が予想される。開口部径は北西-南西軸で125cmを測る。深さは22cmである。

〈埋土〉 黒褐色土に明黄褐色土が20%混入する単層からなる。

〈壁・底面〉 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は凹凸が見られ平坦ではない。

遺物 出土していない。

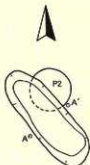
時期 切り合い関係から平安時代に属する可能性がある。

・第20号土坑（SK20）

遺構（第37図、写真図版17）

第12号土坑

↑ A II g1



- 第12号土坑SK12) A-A'
1. 10YR2/1黒 10YR5/4にぶい 鉄30% 炭化物和炭質 土 鉄屑少量 粘性なし・締まりやや軟
 2. 10YR2/2黒 粘性なし・締まりやや軟
 3. 10YR2/1黒 10YR5/4にぶい 鉄60% 粘性なし・締まりやや軟

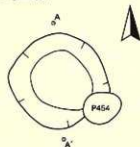
第14号土坑

↑ B II a3



- 第14号土坑SK14) A-A'
1. 10YR2/2黒 10YR4/6褐色 土 鉄1%を含む 炭化成分少量 炭屑あり・締まりあり
 2. 5YR4/8赤褐色土 ブロック状 粘性なし・締まり軟

第16号土坑

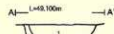


↑ A II e1

- 第16号土坑SK16) A-A'
1. 7.5YR2/1黒 鉄屑 粘土質シルト 粘性あり・締まり普通
 2. 7.5YR2/1黒 粘土質シルト 2.5YR7/6明黄褐色ブロック 5% 粘性あり・締まり普通

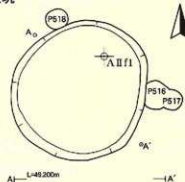
第13号土坑

↑ B II a1
南1m



- 第13号土坑SK13) A-A'
1. 7.5YR2/1黒 10YR7/6明黄褐色 3% 粘性なし・締まりやや軟

第15号土坑



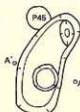
- 第15号土坑SK15) A-A'
1. 7.5YR2/1黒と10YR6/6明黄褐色の硬白土 人為堆積の標本

第17号土坑



- 第17号土坑SK17) A-A'
1. 5YR3/1黒 10YR5/6黄褐色 30% 粘性あり・締まりやや軟
 2. 2.5Y2/1黒 炭化物多量を含む

第18号土坑



- 第18号土坑SK18) A-A'
1. 10YR2/1黒 粘性なし・締まりあり
 2. 10YR6/6明黄褐色 10YR2/1黒 30% 粘性なし・締まりあり

↑ B II e2



第36図 土坑(3)

〈位置・検出状況〉 AⅠh0～h1グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 P676と重複し、本遺構が古い。

〈平面形・規模〉 円形を呈する。開口部径は88×82cm、深さは23cmである。

〈埋土〉 2層からなり、ともに黒～黒褐色土主体とする埋土に明黄褐色土が混入する。

〈壁・底面〉 壁は外傾して立ち上がる。底面はやや起伏が見られるが概ね平坦である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

・第21号土坑（SK21）

遺構（第37図、写真図版18）

〈位置・検出状況〉 AⅡg1グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 P531と重複し、本遺構が新しい。

〈平面形・規模〉 円形状を呈する。開口部径は80×73cm、深さは12cmである。

〈埋土〉 2層に区分したが、2層は掘りすぎの可能性もある。1層は黒褐色土からなり、2層は黒褐色土に明黄褐色土が25%含まれる。

〈壁・底面〉 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面は凹凸が見られ平坦ではない。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

・第22号土坑（SK22）

遺構（第37図、写真図版18）

〈位置・検出状況〉 AⅡg2グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉

〈平面形・規模〉 円形状を呈する。開口部径は94×79cm、深さは8cmである。

〈埋土〉 黒～黒褐色土主体の3層からなる。1、2層には焼土粒が微量ないし少量混入する。3層には明黄褐色土が多く含まれる。

〈壁・底面〉 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面は平坦であるが、南側に緩く傾斜する。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

・第23号土坑（SK23）

遺構（第37図、写真図版18）

〈位置・検出状況〉 AⅡg3グリッドに位置する。V層（地山面）が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈平面形・規模〉 楕円形を呈する。開口部径は90×76cm、深さは27cmである。

〈埋土〉 4層に区分される。1～3層は黒～黒褐色土主体の埋土である。4層は赤褐焼土からなる。

〈壁・底面〉 壁は底面から外傾して立ち上がる。底面は中央部付近に窪みが見られ平坦ではない。

遺物（第57図、写真図版34）

埋土中から土師器が微量出土し、壺1点掲載した。155は胴部外面にケズリ、内面にヘラナデ調整が施される。

時期 不明である。

・第24号土坑 (SK24)

遺構 (第37図、写真図版18)

〈位置・検出状況〉 AⅡf1グリッドに位置する。V層(地山面)が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈平面形・規模〉 精円形を呈する。開口部径は102×80cm、深さは18cmである。

〈埋土〉 注記なし。

〈壁・底面〉 底面から外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

・第25号土坑 (TP1)

遺構 (第37図、写真図版18)

〈位置・検出状況〉 AⅡh2～i2グリッドに位置する。V層(地山面)が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈平面形・規模〉 隅丸長方形を呈する。開口部径は212×67cm、深さは17cmである。

〈埋土〉 黒褐色土に黄橙色土が2～3%含まれる単層からなる。

〈壁・底面〉 底面から外傾して立ち上がる。特に北壁は急勾配となる。底面は平坦である。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

6. 溝跡

・第1号溝跡 (SD1)

遺構 (第38図、写真図版19)

〈位置・検出状況〉 AⅡf3～f4、AⅡg4～g5グリッドに位置する。Ⅲ層が検出面である。

〈重複・新旧関係〉 第9号土坑、P18、P163、P174と重複し、全て本遺構が新しい。

〈平面形〉 ほは真つ直ぐの線状を呈する。軸線方向はN-45°-Wである。

〈規模〉 検出長は約6m20cm、開口部幅は28～40cm、深さは14cmである。

〈埋土〉 黒～黒褐色粘土質シルト主体の2層からなる。2層は1層に比べ締まりが軟らかい。

〈断面形・底面〉 断面形は浅皿状を呈する。底面は概ね平坦である。

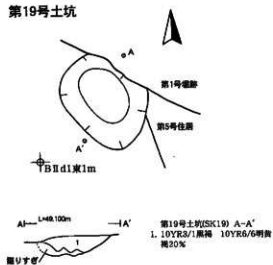
〈その他〉 水の流れる方向は不明である。

遺物 埋土中から土師器の壺底部が出土したが、細片のため掲載していない。

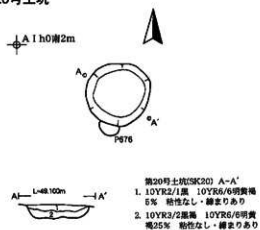
時期 遺構検出面から近現代に属すると思われる。

・第2号溝跡 (SD3)

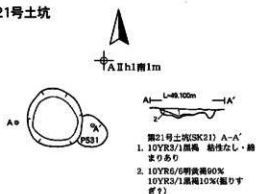
第19号土坑



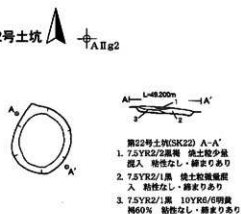
第20号土坑



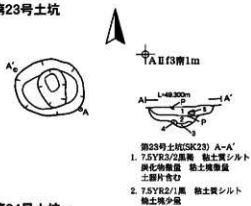
第21号土坑



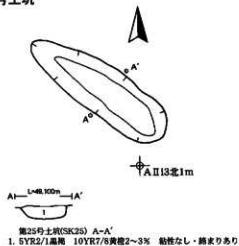
第22号土坑



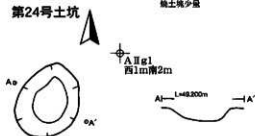
第23号土坑



第25号土坑



第24号土坑



第37図 土坑(4)

遺構 (第38図、写真図版19)

〈位置・検出状況〉 BⅡf1～f3グリッドに位置する。V層(地山面)で検出された。

〈重複・新旧関係〉 第5号溝跡、P726と重複し、ともに本遺構が新しい。

〈平面形〉 概ね真っ直ぐな線状を呈する。軸線方向はN-1°-Eである。

〈規模〉 検出長は4m76cm、開口部幅は42-60cm、深さ12cmである。

〈埋土〉 黒褐色の粘土質シルトに褐色土粒が微量混入する単層からなる。

〈断面形・底面〉 断面形は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦である。

遺物 (第57図、写真図版34)

埋土中から土師器が微量出土し、坏1点掲載した。156はロクロ成形で、内面は内黒処理がされる。

時期 共伴遺物が1点のみと少なく、時期は不明である。

・第3号溝跡 (SD7)

遺構 (第38図、写真図版20)

〈位置・検出状況〉 調査区西側AⅡf8～f9、AⅡg9に位置する。V層(地山面)で検出された。

〈重複・新旧関係〉 P573、P590、P719、P742、P743と重複し、全て本遺構が新しい。

〈平面形〉 ほぼ真っ直ぐの線状を呈する。軸線方向はN-68°-Wである。

〈規模〉 検出長は3m82cm、開口部幅は断面A-A'で54cm、深さは断面A-A'で7cmである。

〈埋土〉 黒褐色の粘土質シルトの単層からなる。

〈断面形・底面〉 断面形は浅皿状を呈する。底面はやや丸底気味である。

遺物 埋土中から土師器の臺底部が出土したが、細片のため掲載していない。

時期 不明である。

・第4号溝跡 (SD9)

遺構 (第38図、写真図版20)

〈位置・検出状況〉 調査区北西端部AⅡf5～f6に位置する。V層(地山面)で検出された。

〈重複・新旧関係〉 第2号堀跡と重複し、本遺構が新しい。

〈平面形〉 ほぼ真っ直ぐの線状を呈する。軸線方向はN-40°-Wである。

〈規模〉 検出長は1m80cm、開口部径26-44cm、深さは断面A-A'で19cmである。

〈埋土〉 黒褐色の粘土質シルトの単層からなる。

〈断面形・底面〉 断面形は逆台形状を呈する。底面は平坦である。

遺物 (第57図、写真図版34)

埋土中から須恵器が出土し、壺1点掲載した。157はロクロ成形によるもので、部位は肩部である。

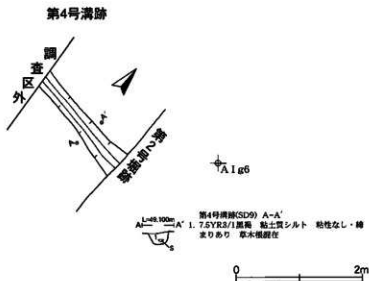
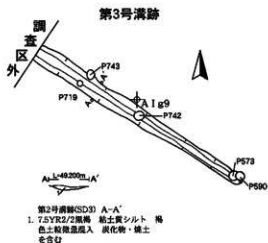
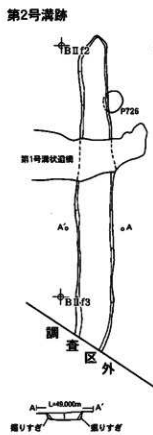
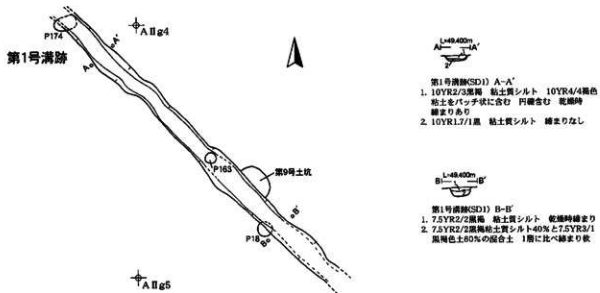
時期 共伴遺物が1点と少なく、時期は不明である。

7. 堀跡

・第1号堀跡 (SD2)

遺構 (第39図、写真図版21)

〈位置・検出状況〉 調査区北端部に位置する。V層(地山面)で検出された。



第38図 溝跡

〈重複・新旧関係〉 第5号、6号、7号、9号、10号、11号竪穴住居、第2号掘跡、第19号土坑、P645、P647、P672、P842と重複し、本遺構は竪穴住居よりは新しく、その他の遺構とは同時期に存在していた可能性もある。

〈平面形〉 遺構が調査区外に延びるため全体形は不明であるが、概ね線状を呈する。軸線方向はN-58°-Wである。また、北東部付近では池状の広がりを持つ。

〈規模〉 検出長は約47.2mである。開口部幅は遺構全体が検出されていないため不明である。深さは断面A-A'で46cm、B-B'で80cm、C-C'で67cmである。

〈埋土〉 池状部分は5層からなり、黒褐色粘土質シルトを主体とする。池状部分以外は3層からなり、1～2層は黒～黒褐色粘土質シルト主体、3層は緑灰色の砂利層となる。

〈断面形・底面〉 全体形は不明であるが、池状部分を除きV字状が予想される。池状部分は底面から緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

〈その他〉 水堀であったと思われる、やや南東方向への傾斜する。

遺物 (第57～59図、写真図版34～36)

主に中央～東寄り付近での出土が多く、西側池状部分からの出土は見られなかった。また、埋土の中位～下位にかけての出土が多い。土師器、須恵器、弥生土器、陶磁器、鋤物関連遺物(炉壁、鋤型、埴埴、鉄塊)が出土し、土師器の高台付坏1点、甕3点、須恵器の甕の破片1点、弥生土器の鉢2点、陶器皿2点、磁器2点、鋤物関連遺物は鋤型5点、炉壁12点、埴埴1点掲載した。

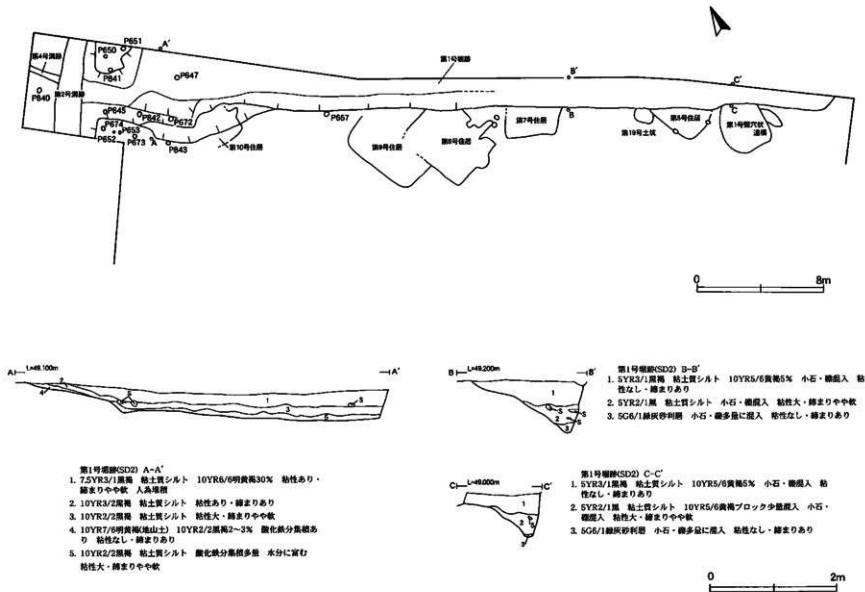
158は土師器の高坏である。内面は内黒処理される。159～161は非クロコ成形の土師器の甕、162は須恵器の甕である。163～164は弥生土器の鉢で、163は波状口縁に粘土溜が、164は変形工字文が見られる。ともに弥生時代前期に属する。165～169はともに瀬戸・美濃産の陶器で、165は丸皿、166は罎反皿ないし丸皿である。時期はともに16世紀前半である。167～169は磁器で、167は18世紀の有田産の徳利胴部、168～169は中国産の皿で、時期は明末になる。170～184は溶解炉の炉壁である。溶解炉はコシキ炉とも呼ばれ、上コシキ・胴コシキ・炉鉢(ル)の3層構造が主に知られている。実際に使われた溶解炉が3層であったかどうかは不明である。炉体は円筒形で輪積み成形によるものと思われる、出土した資料も輪積みの段毎の破片である。170は最も大きい炉壁破片で推定外径41cm、内径37cmである。内面の状態はガラス化した鉄滓の塊の付着も見られず、錆がやや見られる程度であることから炉の上部であると思われる。178は炉体の口唇部の可能性もある。熱はあまり受けていない。182は羽口もしくは羽口装着孔である。推定直径は約8cmである。183～184は同一個体で炉鉢部分と思われる。黒褐色のガラス化した鉄滓が付着し、木炭の噛み込みも見られる。185～188は鋤型である。細粒の川砂や山砂に粘土を2:1で混ぜ、水を加えてよく昆練し、これを赤褐色になるまで焼成してから粉砕したもので、粒径により粗真土・中真土・仕上げ真土(上真土)に分けられる。鋤造した製品名は不明である。185は粗真土、仕上げ真土が認められる。186は粗真土、中真土、仕上げ真土が認められる。187には鋤物の型塵れや肌合いをよくするために、木炭粉や黒鉛を水や粘土汁(はじろ)で溶いた黒味が塗られている。188は粗真土の段階で製作を放棄したものであろうか。円形状を呈し、推定径は13.2cmである。189は埴埴である。推定口径17.4cm、厚さ2.1cmである。鉄(湯)が入れられた痕跡はない。

時期 構築年代は出土遺物等から中世と思われる。廃絶は旧地権者の話から昭和30年代と思われる。

・第2号掘跡(SD4)

遺構(第40図、写真図版22)

第39図 第1号掘跡



〈位置・検出状況〉 A I f 5 - f 7, A I g 5 - g 6 に位置する。V層(地山面)で検出された。

〈重複・新旧関係〉 第1号堀跡、第4号溝跡と重複し、本遺構は第1号堀跡とほぼ同時期もしくは古い可能性があり、第4号溝跡より古い可能性がある。

〈平面形〉 ほぼ真直ぐの線状を呈する。軸線方向はN-33°-Eである。

〈規模〉 検出長は6m28cm、開口部幅は168cm~280cm、深さは断面A-A'で88cmである。

〈埋土〉 3層からなる。1層は明黄褐色粘土質シルトに黒色土が混じり、人為堆積の様相を呈する。2層は黒色粘土質シルトを主体とし炭化物が微量含まれる。1、2層とも小石・礫が混入する。3層は水分に富む黒褐色粘土質シルトからなる。礫は含まれない。

〈断面形・底面〉 断面形はV字状を呈する。壁は底面から埋土中頃までやや急に外傾し立ち上がるが、検出面までは緩やかな立ち上がりとなる。

〈その他〉 水堀であったと思われる、周辺の地形的特徴から北流するものと思われる。

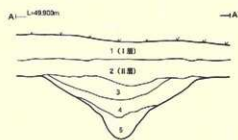
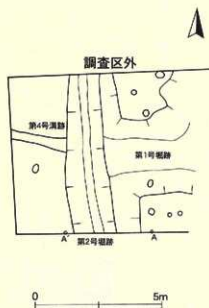
遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物は出土していないが、第1号堀跡が本遺構にぶつかり終わっていることから、本遺構は第1号堀跡とほぼ同時期もしくは古い可能性がある。したがって、遺構の時期は中世が考えられる。廃絶時期は不明である。

8. 橋脚跡

・第1号橋脚跡(SB3)

遺構(第41図、写真図版23)



第2号堀跡(SD3) A-A'

- 10YR3/1黒褐色主体の礫土 小石・礫・草木屑等を多く含む 基本土層1期
- 7.5YR3/1泥層 粘土質シルト 小石・礫混入 粘性大・締まりあり 基本土層2期
- 10YR7/5明黄褐色 粘土質シルト 7.5YR2/1混40% 小石・礫混入 粘性あり・締まりあり 人為堆積の様相 SD4埋土
- 7.5YR2/1黒 粘土質シルト 炭化物微量混入 小石・礫混入 粘性あり・締まりやや軟 SD4埋土
- 10YR3/2泥層 粘土質シルト 水分に富む 粘性あり・締まりなし SD4埋土

第40図 第2号堀跡

〈位置・検出状況〉 A I f 6～f 7、A I g 5～g 7、h 5～h 7に位置する。V層で検出した。

〈重複・新旧関係〉 第1号堀跡(SD 2)と重複する。一定期間同時期に存在していた可能性がある。

〈規模〉 遺構が調査区外に延びるため全体形は不明である。検出分で桁行2間以上(総長380cm以上)、梁行2間(総長416cm)である。

〈軸線方向〉 N-38°-Eである。

〈柱間寸法〉 桁行は270cm(8.9尺)、110cm(3.6尺)、梁行は208cm(6.9尺)を使用する。

遺物 出土していない。

時期 中世に属すると思われる。

9. 堀跡

・第1号堀跡(SD 8)

遺構(第42図、写真図版24)

〈位置・検出状況〉 調査区西側A I g 8、A I f 9～f 0、A I e 0～e 1に位置する。V層(地山面)で検出された。

〈重複・新旧関係〉 P540、P578、P704、P718、P741と重複する。新旧関係は不明である。

〈平面形〉 はほぼ真っ直ぐな線状である。軸線方向はN-35°-Eである。

〈規模〉 検出長は推定部分も含め約18m50cm、布掘りの開口部幅は24～44cm、深さは2～7cmである。柱痕跡は11基を数えたが、北側部分がP586・P587に続くのか、P717・P720に続くのか判断しかねた。柱穴の規模は開口部径20～44cm、深さは10～53cmである。柱間寸法は215cm(7.1尺)～235cm(7.4尺)が主となる。柱間の板材及び板痕跡は検出されておらず、詳細な構造は不明である。

〈埋土〉 掘り方は黒褐色粘土質シルトに明黄褐色土が3～5%程度含まれる単層からなる。柱穴は概ね黒色粘土質シルトに明黄褐色土が20～30%斑状に混入する埋土である。

〈壁・底面〉 布掘り部分の壁は、底面から外傾して立ち上がるが、削平により不明瞭な部分がある。底部は概ね平坦ないし丸底状を呈する。

遺物(第59図、写真図版36)

布掘り部分から須恵器が微量出土し、壺1点掲載した。190の部位は胴部である。

時期 中世に属するものと思われる。

10. 円形周溝

・第1号円形周溝

遺構(第43図、写真図版25)

〈位置・検出状況〉 A II j 2～j 3グリッドに位置する。V層(地山面)で検出された。

〈重複・新旧関係〉 第4号竪穴住居の他、柱穴17基(P306、P307、P308、P310、P311、P312、P313、P408、P409、P416、P428、P807、P823、P824、P825、P826、P839)と重複する。本遺構はP825より新しく、第4号竪穴住居及びその他の柱穴より古い。

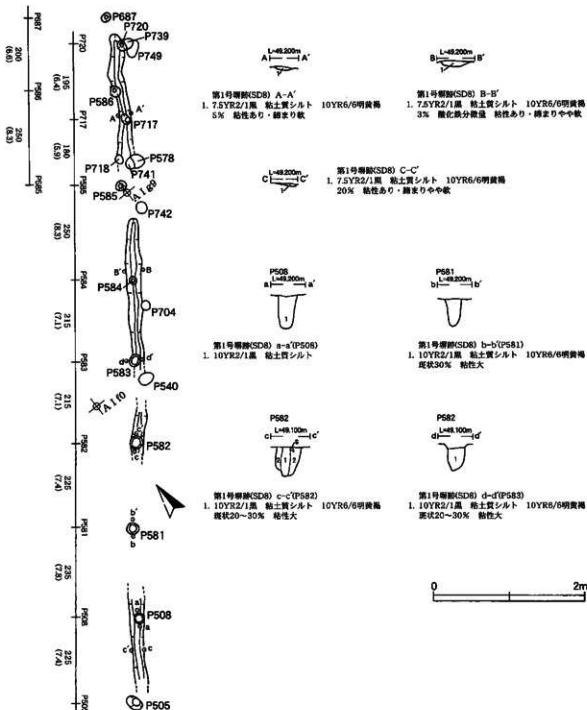
〈平面形〉 馬蹄形を呈する。

〈規模〉 北西-南東方向で外径3m78cm、内径2m82cm、北東-南西方向で外径3m63cm、内径で2m63cmを測る。開口部幅は36～54cm、底部幅15～30cm、深さは約20cmである。



柱No.	グリッド	平面形	開口部径(cm)		深さ (cm)	出土遺物						調査建物・柱穴判	
			長さ	幅径		土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品		土製品
645	A1f6~A1g6	方形	25	20	44.8								1号橋脚(SB3)
647	A1h6	円	30	30	26.2								1号橋脚(SB3)
672	A1g7	方形	35	30	47.3								1号橋脚(SB3)
673	A1g7	円	30	25	15.5								1号橋脚(SB3)
674	A1f6~A1f7	円	25	23	14.6								1号橋脚(SB3)
841	A1g5	円	26	26	7.9								1号橋脚(SB3)
842	A1g7	円	30	30	43.0								1号橋脚(SB3)
843	A1g7	円	26	26	7.9								1号橋脚(SB3)

第41図 第1号橋脚跡



柱穴No	グリッド	平面形	開口部径(cm)			出土遺物							該当遺物・柱穴例	
			長径	短径	深さ(cm)	土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考
505	A II d1~A II e1	楕円	46	31	43.4									1号堀跡
508	A II e1	円	28	26	47.2									1号堀跡
581	A I e0	円	32	30	52.7	○								1号堀跡
582	A I f0	円	34	33	37.8									1号堀跡
583	A I f9	円	32	28	39.3									1号堀跡
584	A I f9	円	25	20	10.4									1号堀跡
585	A I g8~A I g8	円	29	24	14.5									1号堀跡
586	A I g8	不整形	30	30	20.7									1号堀跡
588	A I g8	円	22	22	7.3									1号堀跡
717	A I g8	楕円	30	24	13.9									1号堀跡
720	A I g8	円	28		60.0									1号堀跡

第42図 第1号堀跡

〈埋土〉 黒色粘土質シルトに褐色ないし明黄褐色土が数%含まれる埋土である。

〈断面形・底面〉 断面形は逆台形状を呈する。底面は平坦である。

遺物 (第60図、写真図版36)

埋土及び直上層から、土師器、須恵器が少量出土し、土師器の坏1点、甕3点、須恵器の坏2点、甕3点掲載した。

191はロクロ成形の土師器の坏である。192～193は須恵器の坏である。194～196は土師器の甕である。195、196には煤が付着する。197～199は須恵器の甕でいずれも胴部外面に平行タタキ、外面に平行アテグによる調整が施される。なお、198、200～204の6点は埋土直上からの出土で第4号壑穴住居跡とも重複する地点から出土しているため、時期決定資料とはせず、参考資料として捉えている。

時期 出土遺物が少ないため特定は難しいが、切り合いから第4号壑穴住居跡より古いことが調査の結果判明している。ロクロ成形の土師器坏が出土している点を重視すると9世紀前半の時期が与えられ、第Ⅱ期の可能性がある。

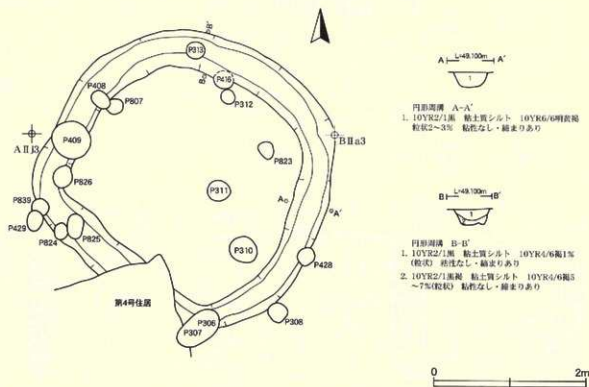
11. 溝状遺構

・第1号溝状遺構 (SD5)

遺構 (第44図、写真図版19)

〈位置・検出状況〉 調査区北側東寄りBⅡd2～e2、BⅡf1～f2グリッドに位置する。V層(地山面)で検出された。

〈重複・新旧関係〉 第2号溝跡、第2号溝状遺構と重複し、本遺構は第2号溝跡より旧く、第2号溝状遺構より新しい。



第43図 第1号円形周溝

〈平面形〉 平面形状は蛇行により一定していない。したがって、軸線方向は不明である。

〈規模〉 推定部分も含めた検出長は約8m80cm、開口部幅は断面A-A'が68cm、B-B'が52cm、C-C'が65cmである。深さは14~35cmである。

〈埋土〉 3層に区分される。黒褐~暗褐色土に褐色土粒・ブロックを混入する。1~2層では炭化物・焼土が含まれる。

〈壁・底面〉 底面から外傾して立ち上がるが、場所により一定ではない。底面も平坦であったり起伏があったりと様ではない。

遺物 出土していない。

時期 不明である。

・第2号溝状遺構(SD6)

遺構(第44図、写真図版19)

〈位置・検出状況〉 調査区北側東寄りBⅡf1-f2グリッドに位置する。V層(地山面)で検出された。

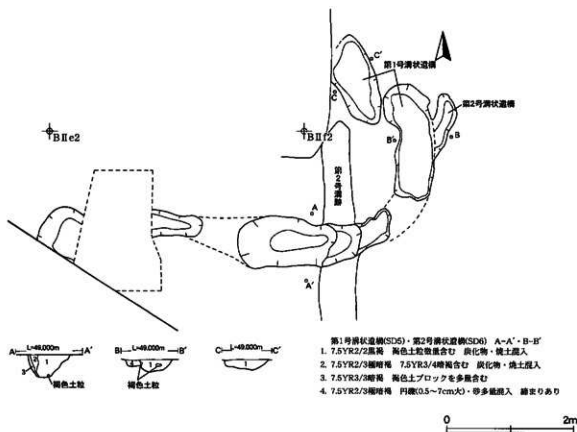
〈重複・新旧関係〉 第1号溝状遺構と重複し、本遺構が古い。

〈平面形〉 全体形が把握できなかつたため、不明である。軸線方向も不明である。

〈規模〉 検出長は約80cm、開口部幅32cm、深さは10cmである。

〈埋土〉 単層である。極暗褐色土に円礫(0.5~7cm大)及び砂が多量に混入する埋土である。

〈壁・底面〉 底面から外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。



第44図 溝状遺構

遺物 出土していない。

時期 不明である。

12. その他の遺構

(1) 集石遺構

・第1号集石遺構 (SQ1)

遺構 (第45図、写真図版26)

〈位置・検出状況〉 AⅡh3-h4に位置する。Ⅲ層で検出された。

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈平面形・規模〉 概ね東西105cm、南北75cmの範囲内に2、3-15cm台の小石・礫が集積する。石の下には、60×39cmの不整形の焼土が広がる。焼土の層厚は最大8cmである。

〈埋土〉 焼土は4層に分けられる。1-3層は橙-赤褐色の焼土である。4層は暗褐色粘土質シルトに僅かに焼けが及ぶ。

遺物 検出面において土師器が微量出土しているが、細片のため掲載していない。

時期 検出層から近現代と思われる。

・第2号集石遺構 (SQ2)

遺構 (第45図、写真図版26)

〈位置・検出状況〉 AⅡg4-h4グリッド、第1号集石遺構の南東約4mに位置する。Ⅲ層で検出された。

〈重複・新旧関係〉 なし。

〈平面形・規模〉 概ね東西90cm、南北80cmの範囲内に、2、3cm-15cm台の小石・礫が集積する。石の下には焼土や柱穴等は見られず、浅い掘り込み状のものが見受けられたが、壁の境界は極めて不明瞭であった。

〈埋土〉 浅い掘り込み状部分は黒褐色粘土質シルト主体の単層からなる。

遺物 検出面付近より非ロクロ成形の土師器壺の底部が出土したが、細片のため掲載していない。

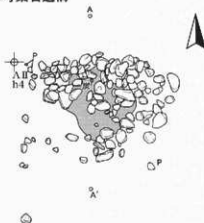
時期 検出層から近現代と思われる。

(2) 柱穴

調査区全体で764基の柱穴を検出した。柱穴の位置、平面形、開口部径、深さ、出土遺物については第3表の柱穴一覧表に掲載した。

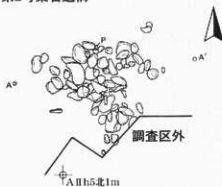
遺物については、119基から遺物が出土しており、その内18基から出土した24点を掲載している(第60-62図、写真図版37-38)。

第1号集石遺構



- 第1号集石遺構(SQ1)
1. 5YR7/8粒 壤土 粘まりあり
 2. 2.5YR4/8赤黒 壤土 粘まりあり
 3. 2.5YR6/8明赤褐 壤土 粘まりややあり
 4. 7.5YR7/8暗褐 粘土質シルト 粘土混入 粘まりややあり

第2号集石遺構



- 第1号集石遺構(SQ1)
1. 7.5YR7/8黒褐 粘土質シルト 粘性あり・粘まりやや軟



第45図 集石遺構

第3表 柱穴一覧表

柱穴No.	グリッド	平面形	開口断径(m)		高さ(m)	出土遺物							該当建物・柱穴別		
			外径	内径		土師器	須恵器	埴文・漆土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考	
1	AII5	円	20	20	27.5										
2	AII4	円	56	54	20.0	○				○					英造庵陶器館西香炉
3	AII3-AII4	円	46	43	7.5										
4	AII5	円	22		23.6										
5	AII5-AII5	楕円	22	16	18.9	○									燧石
6	AII5	円	20	20	25.4										
7	AII5	円	12	12	16.4										
8	AII5	円	20	18	7.5										
9	AII5	円	18		7.5										
10	AII5	円	28	26	20.2										
11	AII5	円	24	22	21.9										
12	AII4	円	24		20.9				○						埴土量 灰
13	AII4	円	17	17	29.0				○						
14	AII5	円	28	28	14.1										
15	AII5	楕円	32	14	11.5										
16	AII5	円	24	21	22.5										
17	AII4-AII5	楕円	44	34	31.0										
18	AII4	楕円	24	22	25.9										
19	AII5	楕円状	22		14.6				○						埴土量
20	欠番														
21	AII4	円	33	31	26.1	○									
22	BII2-BII3	円	20	20	18.8	○									燧石
23	BII3	楕円	22	18	13.6										
24	BII2-BII3	円	16	16	19.6										
25	BII3	円	16	14	14.5										
26	BII3	円	30	28	51.4										
27	BII3	円	12	12	7.3										
28	BII3	円	21	20	11.1										
29	BII3	円	26	24	52.8										
30	BII3	円	18	17	6.8										
31	BII3	円	22	21	17.6										
32	BII3	円	19	18	20.3										
33	BII3	円	36	34	52.7										
34	BII1	方形	30	26	42.2										柱穴列2号
35	BII1	円	31	30	28.3										
36	BII1-BII2	不整形	36	30	44.2	○									葉
37	BII2	円	16	14	18.3										
38	BII2	楕円	43	33	49.4										磁石
39	BII1	楕円	45	38	85.5										
40	BII1-BII1	円	28	26	47.6										6号建物(SB7)
41	BII1	円	31	28	53.1										6号建物(SB7)
42	BII1	円	18	15	11.5										
43	BII1	円	20	18	15.7										
44	BII1-BII1	円	30	28	46.4										6号建物(SB7)
45	BII1	円	31	30	57.3										
46	BII1	楕円状	30		25.5										
47	BII1	楕円状	36		46.2										
48	BII1	円	28	25	23.0										
49	BII1	円	28	26	15.8										
50	BII1	円	24	24	12.2										
51	BII5	円	28	28	49.1										
52	BII5	円	25	24	44.4	○		○							須恵器は葉・埴土量
53	AII5	円	22	22	23.4										
54	AII5	楕円	26	17	23.4										9号建物(SB10)
55	AII5	円	22	22	17.3										
56	AII5	円	18	15	13.0										
57	AII5	楕円	26	18	9.7										
58	AII5	楕円	28	22	25.3										
59	BII2	円	38	32	47.6										
60	BII1	円	32	26	35.7										6号建物(SB7)
61	BII1	円	40	36	45.1										
62	BII1	楕円	42	34	36.6										
63	BII1	円	38	37	69.9										
64	BII1	楕円	30	23	32.8	○									柱穴列2号
65	BII1	円	30	25	47.1										埴土量
66	BII1	円	28	24	33.9										5号建物(SB6)
67	BII2	楕円	33	26	37.3										
68	BII1	円	23		12.7										
69	欠番														
70	BII2	円	35	27	45.0										中国産磁器燭台皿
71	BII2	円	22	22	28.9										
72	BII2	楕円	32	22	38.6	○		○							燧石
73	BII1	楕円	36	32	48.5										
74	BII0-BII1	楕円	32	30	47.8										7号建物(SB8)
75	BII1	円	45	44	26.2										7号建物(SB8)
76	BII1	円	36	32	53.2										
77	BII0	円	32	36	46.6										

柱穴№.	グリッド	平面形	開口幅寸(m)		長さ(m)	土 産 物						該当建物・柱穴別	
			長さ	幅径		土師部	須恵部	層文・ 厚土層	陶磁部	石器・ 石製品	鉄製品		土製品
78	BIIb0-BIIb1	円	30	30	51.3								
79	BIIa0	円											
80	BIIa0	円	32	31	37.7								
81	欠番												
82	欠番												
83	欠番												
84	欠番												
85	欠番												
86	欠番												
87	欠番												
88	欠番												
89	欠番												
90	欠番												
91	欠番												
92	欠番												
93	欠番												
94	欠番												
95	欠番												
96	欠番												
97	欠番												
98	欠番												
99	欠番												
100	欠番												
101	BII d1	円	22	22	11.6								
102	BII d1	方形	32	27	30.3								5号建物(SB6)
103	BII d0	円	24	22	17.0								
104	BII d0-BII d1	円	28	22	26.4								5号建物(SB6)
105	欠番												
106	BII d1	円	19	18	13.1								
107	BII c0	楕円	34	26	27.3								5号建物(SB6)
108	BII c0	円	24	24	18.5								
109	BII c0	円	36	34	40.6	○					微量		6号建物(SB7)
109	BII c0	円	38	38	41.5								
110	BII d2	円	24	22	12.6								
111	BII d2	円	14	12	49.4								
112	BII d2	楕円	48	38	28.9								
113	BII d2	円	30	20	11.7								
114	BII d2	円	30	20	15.5								
115	欠番												
116	BII a3	円	32	30	48.8								柱穴別3号
117	BII a3	円	23	22	4.6								
118	BII a3	円	14	13	19.9								
119	BII a3	円	14	13	15.4								
120	BII a3	円	14	13	15.7								
121	欠番												
122	BII a3	楕円	30	18	10.5								
123	BII a3	円	19	18	21.4								
124	BII a3	円	19	16	19.2								
125	BII a3	円	19	17	14.4								
126	BII a3	円	18	16	19.5								
127	欠番												
128	BII a2	円	43	38	51.6								
129	BII b2	円	36	33	47.9								
130	BII b4	円	26	26	15.5								
131	BII b2	円	16	14	12.4								
132	BII b3	円	16	14	10.8								
133	BII b3	楕円	42	34	41.4								
134	BII b3	円	23	20	19.5								
135	BII b3	円	32	24	32.7								
136	BII b3	円	24	22	19.4								
137	BII b3	円	32	32	45.8								
138	BII b3	円	22	22	19.7								
139	BII b3	円	22	20	33.3								
140	BII a4	円	14	14	13.4								
141	BII b4	円	24	20	28.7								
142	BII a4	円	22	20	19.1								
143	BII a4	円	20	18	10.6								
144	BII a4	円	23	22	16.6								
145	BII a4	円	38	36	19.7								
146	BII a4	円	18	15	11.7								
147	BII a4	円	21	19	13.1								
148	AII j4	円	24	24	39.4								
149	AII j4	円	18	18	6.6								
150	AII j4-BII a4	円	22	21	8.4	○							
151	AII j4	円	12	9	7.5	○							栗
152	AII j4	円	13	10	5.7								
153	AII j4	円	28	28	16.9								9号建物(SB10)
154	BII a4	楕円	44	28	22.1								
155	AII f5	円	24	20	18.3								

柱穴No.	グリッド	平面形	開口断径(cm)		深さ (m)	出土遺物								該当建物・柱穴内			
			径径	縦径		土師器	須恵器	埴土器	陶器	石器 石製品	鉄製品	土製品	その他・備考				
156	AII f5	楕円	28	18	16.5												
157	AII g4	楕円	26	20	14.4												
158	欠番																
159	AII g4	円	20	19	17.4												
160	AII f4	円	16	16	12.9												
161	AII g4	円	27	26	16.8												
162	AII g4	円	20	19	26.9												
163	AII g4	円	18	17	7.5												
164	AII f4	楕円	30	21	10.2												
165	AII g4	円	18	16	18.3												
166	AII f4-AII g4	円	30	28	24.3												
167	欠番																
168	AII g4	円	22	22	9.5												
169	AII f4-AII g4	楕円	24	20	25.6												
170	AII g3	円	27	27	39.8												
171	AII f3	円	25	22	12.5												
172	AII f3	円	24	22	19.6												
173	AII f3	円	20	18	14.1												
174	AII f3-AII f4	楕円	36	21	14.6												
175	AII g4	楕円	32	20	29.5												
176	AII g4	円	14	14	31.9	○	○										漆塗 漆塗 漆塗
177	AII g4	円	31	30	38.3	○											
178	AII g4	楕円	27		28.7												
179	AII g4	円	22	19	15.3												
180	AII f3-AII g3	円?	26		46.0												
181	AII h4	方形	20	17	22.8												
182	AII h4	円	27	27	15.3												
183	AII g3	方形	22	21	0.0												
184	欠番																
185	AII g3	円	20	18	17.0												
186	AII g3	楕円	24	18	0.0												
187	AII h3	円	30	26	17.0												
188	AII h3	円	26	26	19.1												
189	AII h3	方形	52	46	67.4				○								中国産発行磁器類反具 1号遺物(SB1)
190	AII h3	水筒内	50	43	33.7												
191	AII g4	方形	70	50	54.0	○											漆塗 1号遺物(SB1)?
192	AII g3	円	16	14	0.0												
193	AII h3-AII i3	円	48	46	16.1	○											環
194	AII g3-AII h3	楕円	30	22	8.8												1号遺物(SB1)
195	AII h3	円	30	27	27.2												
196	AII h3	円	24	22	11.3												
197	AII h2	円	22	18	12.9												
198	AII h4	円	26	23	19.7												
199	AII h4	円?	32		42.9												
200	AII g2	円	20	18	10.8												
201	AII h3	円	30	26	20.1												
202	AII g3	楕円	26	20	11.1												
203	AII h3	円	20	20	9.3												
204	AII h2	円	52	46	32.0	○											裏, 尻
205	AII h2	円	24	24	15.1												
206	AII h2-AII h3	楕円	32	28	13.0												
207	AII i5	円	30	24	11.6												
208	AII i5	円	21	18	7.4												
209	AII i5	円	21	18	8.3												漆塗
210	AII h2	楕円	24	22	33.4												
211	AII h3	楕円	62	46	52.0												1号遺物(SB1)
212	AII g3	円	19	17	20.1												
213	AII h3	円	24	18	14.0												
214	欠番																
215	AII h4	円	24	23	30.1												
216	AII i4	円	20		17.2												
217	AII i4-AII i5	円	19	18	19.0												
218	AII i5	円	32		53.2												
219	AII i5	円	21	15.8													
220	AII i5	円	30	26	32.9	○											漆塗
221	AII i4	楕円	36	33	32.8												
222	AII h4	円	19	17	14.3												
223	AII i4	円	36	30	40.4												
224	AII i4	円	16	15	15.3												
225	AII i4	円	25	22	8.6												
226	AII h4	円	18	18	27.6												
227	AII h4	円	22	22	11.9												
228	AII h4-AII i4	楕円	32	26	39.7												
229	AII i5	円	16	15	17.1												
230	AII i5	円	20	18	42.8												
231	AII i4	円	15	12	21.5												
232	AII i3	方形	38	34	21.9	○											漆塗
233	AII i4	円	14	13													
234	AII i4	円	37	36	22.9												

柱穴No.	グリッド	平面形	開口幅(㎜)		深さ(㎜)	出 土 遺 物						該当遺物・柱穴別
			長径	短径		土師器・須恵器・厚文瓦・土師土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品	その他・備考	
235	AII 4	楕円	31	28	23.7							
236	AII 4-AII 4	方形		36	38.9							
237	AII 4	円		52								
238	AII 4	円	13	12	12.4							
239	AII 4	円	18	16	12.4							
240	AII 5	円	20	17	15.1							
241	AII 5	円	16	16	10.3							
242	AII 4	楕円	30	28	12.7							
243	AII 5-AII 5	円	38	36	38.8							
244	AII 5	円	18	14	12.5							
245	AII 5	楕円		14	21.2							
246	AII 5	円	26	24	31.8							
247	AII 5	円	20	18	38.9							
248	AII 5	円	18	16	20.6							
249	AII 5	円	22	20	12.7							9号遺物(SR10)
250	AII 5	楕円	18	14	10.6							
251	AII 5	円	12	12	37.8							
252	AII 5	円	25	22	11.6							
253	AII 4-AII 5	円	18	16	11.6							
254	AII 5	楕円	20	16	16.5							
255	AII 5	楕円	24	18	26.4							
256	AII 2	円	28	25	23.7							
257	AII 2	円	22	19	21.8							
258	AII 2	円	22	20	17.9							
259	AII 1	円	30	26	24.6							
260	AII 1	円	32	26	23.1							
261	AII 1	円	16	14	15.0							
262	AII 1	楕円	26	22	59.4							灰
263	AII 1	楕円	26	20	29.1							
264	AII 1	方形	38	36	52.6							土師器片、須恵器片
265	AII 1	円	32	31	49.2							1号遺物・2号遺物
266	AII 2	円	64	62	55.7							環
267	AII 2	円	21	20	31.0							1号遺物(SB1)
268	AII 2	円	24	22	22.0							2号遺物(SB2)
269	AII 2	楕円状	64	50	72.1							種子、土師器片
270	AII 2	方形	30	28	24.3							1号遺物(SB1)
271	AII 3	円	38	30	29.3							
272	欠番											
273	AII 2	円	32		36.5							
274	BII 5	楕円	28	22	24.6							
275	BII 5	楕円	26	22	12.4							9号遺物(SB10)
276	BII 5	楕円	26	22	25.8							
277	BII 5	円	22	19	14.3							
278	BII 5	円	16	14	25.0							9号遺物(SB10)
279	AII 5-BII 5	方形	17	14	28.1							
280	BII 5	円	15	15	15.7							9号遺物(SB10)
281	BII 5	楕円	20	17	22.5							
282	BII 5	楕円	18	10	17.1							
283	AII 6	円	20	19	19.3							
284	BII 5	楕円	25	20	14.2							
285	BII 5	円状	28		13.7							
286	欠番											
287	欠番											
288	欠番											
289	AII 1	円	22	21	38.4							葉
290	BII 1	円	28	28	38.7							
291	BII 1	円	29	20	11.1							7号遺物(SB8)
292	BII 1	円	34	30	26.8							
293	BII 1	楕円	28	21	36.8							
294	BII 1-BII 2	円	28	25	19.0							
295	BII 1-BII 2	円	19	17	19.8							
296	BII 2	方形	22	18	17.6							
297	BII 2	楕円	22	16	26.3							
298	BII 2	円	44	32	47.8							柱穴別1号
299	BII 2	円	26	25	11.9							
300	BII 2	円	30	19	17.4							柱穴別1号
301	AII 1	円	38	32	45.6							
302	AII 1	円	29	22	21.9							
303	AII 2-BII 2	円	20	20	16.6							
304	AII 2	円	26	24	21.1							
305	AII 2	円	22	20	22.0							
306	AII 3	楕円		25	32.1							
307	AII 3	楕円	64	35	37.3							飯蓋
308	AII 3	円	26	26	12.0							
309	AII 3	円	20	20	15.8							
310	AII 3	円	38	34	46.2							飯蓋
311	AII 3	円	31	28	19.6							柱穴別3号
312	AII 2	円	20	19	22.5							
313	AII 2	円	25	22	20.4							飯蓋

柱穴No.	グリッド	平面形	開口断径 (cm)		深さ (m)	出土遺物							該当建物・柱穴列			
			紙径	板径		土師器	須恵器	瓦文・漆土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考		
314	AⅡ	2	円	29	26	23.8										
315	AⅡ	2	円	24	22	23.5										
316	AⅡ	2	円	34	30	36.4										
317	AⅡ	2	円	20	15	17.2										
318	AⅡ	2	円	19	18	24.1										
319	AⅡ	2-2BⅡa2	楕円	32	23	15.8										
320	BⅡa2	2	円	32	20	18.9										
321	BⅡa2	2	楕円	29	22	12.0										
322	BⅡa2	2	円	19	18	10.2										
323	AⅡ	2	円	18	17	20.5										
324	BⅡa2	2	円	14	13	9.8										
325	AⅡ	2-2BⅡa2	楕円	27	24	10.1										
326	BⅡa2	2	円	27	25	39.4										
327	穴番															
328	穴番															
329	穴番															
330	穴番															
331	BⅡa2	2	円	24	24	26.2	○									環、鏡蓋
332	BⅡa2	2	楕円	28	21	18.0										
333	BⅡa2	2	円	22	18	10.6										
334	BⅡa2	2	円	36	31	22.4	○									鏡蓋
335	BⅡa2	2	円	21	19	14.2										
336	BⅡa2	2	円	17	14	9.3										
337	BⅡa2	2	円	21	16	23.7										
338	BⅡa2	2	方形	19	15	36.0										
339	BⅡa2	2	円	23	22	34.2										
340	BⅡa2	2	円	19	18	18.5										
341	BⅡa2	2	円	20	18	12.1										
342	AⅠ	0	円	24	24	34.3										
343	AⅠ	0	円	19	16	43.0										
344	AⅠ	0	楕円	32	22	14.8										
345	AⅠ	0-AⅠ	0	円	32	28	44.1									
346	AⅠ	0	楕円	27	21	28.1	○	○	○							土師器は環、瓦文土器 7号建物(SB8)
347	AⅡ	1	円	18	17	10.2										
348	AⅡ	1	円	22	19	13.4										
349	AⅡ	1	楕円	28	20	17.3										
350	AⅡ	1	楕円	23	19	28.7										
351	AⅡ	1	円	20	18	16.9										
352	AⅡ	1	円	24	22	15.5	○									環
353	AⅡ	1	円	19	18	11.6										
354	AⅡ	1	円	17	16	11.6										
355	AⅡ	1	円	22	22	13.6										
356	AⅡ	1	円	22	21	13.8										
357	AⅡ	1	楕円	29	23	37.5										7号建物(SB8)
358	AⅡ	1	楕円	41	26	62.5										柱穴列1号
359	穴番															
360	AⅡ	1	楕円	30	25	13.6										
361	AⅡ	1	円	27	26	26.5										
362	AⅡ	1-AⅡ	1	方形	52	46	49.6	○	○							環 2号建物(SB2)
363	AⅡ	1	円	36	28	48.2										
364	AⅡ	1	円	21	17	13.8										
365	AⅡ	1	楕円	20	14	19.3										
366	AⅡ	1	円	21	16	42.8										7号建物(SB8)
367	AⅡ	1	円	18	14	9.0										
368	AⅠ	0	方形	30	22	34.6										
369	AⅠ	0	円	19	18	36.5	○									鏡蓋
370	AⅠ	0	円	19	18	0.0										
371	AⅠ	0	円	20	14	27.3										
372	AⅠ	0	円	22	20	20.5										
373	AⅠ	0-AⅡ	1	楕円	36	28	38.7	○								産瓦 鏡蓋
374	AⅡ	1	楕円	35	28	42.1	○									
375	AⅡ	1	円?	24	24	14.3										
376	AⅠ	0	楕円?	24	23	47.8										7号建物(SB8)
377	AⅠ	0-AⅡ	1	楕円	28	22	30.5									
378	AⅡ	1	円	19	16	13.2										
379	AⅡ	1	方形	17	15	34.5										
380	AⅡ	1	円	26	24	30.4										
381	AⅡ	1	円	19	16	8.5										
382	AⅡ	1	楕円	30	30	55.9										
383	AⅡ	1	円	15	15	13.3										
384	AⅡ	1	円	12	12	13.5										
385	AⅡ	1	方形	43	40	31.3	○		○							土師器は環、瓦文土器 2号建物(SB2)
386	AⅡ	1	円	18	17	17.7										
387	AⅡ	1	方形	20	18	16.4	○									産瓦
388	AⅡ	1	円	16	15	16.1										
389	AⅡ	1-AⅡ	1	円	44	34	22.5	○	○							土師・須恵器と土塞
390	AⅡ	1	方形	40	36	25.7	○	○								
391	AⅡ	1	楕円	35	30	48.4										○ 筋型 2号建物(SB2)
392	AⅡ	1	円	17	16	7.6										

住穴No.	グリッド	平面形	開口幅径(m)		深さ(m)	出土遺物								該当建物・住穴例		
			長径	短径		土師器	須恵器	縄文・弥生土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品	その他・備考			
393	AⅡ-1	円	14	12	9.5											
394	AⅡ-1	円	15	14	9.9											
395	AⅡ-1	円	28	24	49.2											
396	AⅡ-1	円	18	15	8.5											
397	AⅡ-1	楕円	20	16	14.0											
398	AⅡ-1	円	21	20	44.2											
399	AⅡ-2	楕円	65	51	53.3											1号建物(SB1)
400	AⅡ-2	円	52	42	43.2	○			○							2号建物(SB2)
401	AⅡ-2	楕円	48	35	37.0		○									1号建物(SB1)
402	AⅡ-2	円	52	41	23.6	○										2号建物(SB2)
403	AⅡ-2	円	48	44	65.2											住穴例3号
404	AⅡ-2	円	30	24	30.9											
405	AⅡ-2	円	21	18	32.5											
406	AⅡ-2	楕円	23	19	5.2											1号建物(SB1)
407	AⅡ-2	円	30	28	26.3						○					伊勢
408	AⅡ-2	楕円	26	18	44.4											
409	AⅡ-2-AⅡ-3	円	52	49	48.1	○	○					○				伊勢 須恵器は裏
410	AⅡ-3	円	36	36	25.6											
411	AⅡ-3	円	24	22	40.4											
412	AⅡ-2	楕円	30	22	32.2											
413	AⅡ-2-AⅡ-3	方形	18	18	0.0											
414	AⅡ-3	不規則円		42	27.1											
415	AⅡ-3	方形	29	22	23.3											
416	AⅡ-2	円形	26	26	8.7											
417	AⅡ-3	円形	26	26	156.1											
418	AⅡ-3-1号	円	26	22	22.8											
419	AⅡ-3	円	14	12	20.5											
420	AⅡ-3	円	16	14	13.9											
421	AⅡ-4	方形	34	28	43.7	○										飯袋
422	AⅡ-4	円	12	12	11.3											
423	AⅡ-4	楕円	34	28	36.5	○										飯袋
424	AⅡ-4	円	22	22	19.5	○										裏の口縁部・底部
425	AⅡ-4	円	26	20	24.5		○									7号建物(SB8)
426	AⅡ-4	楕円	30	19	21.7											
427	穴壺															
428	AⅡ-3	円	25	22	16.8	○										飯袋
429	AⅡ-3-AⅡ-3	楕円	26	20	33.6											
430	AⅡ-0	円	26	24	45.3				○							縄文土器
431	穴壺															
432	穴壺															
433	AⅡ-0	円	24	23	22.1											
434	AⅡ-0	円	35	34	34.3											
435	AⅡ-5	円	21		11.5											1号建物(SB1)
436	穴壺															1号建物(SB1)
437	穴壺															1号建物(SB1)
438	AⅡ-3	円	54	54	18.3	○										土師
439	穴壺															1号建物(SB1)
440	穴壺															1号建物(SB1)
441	AⅡ-2	円	74	66	55.9		○									種子(モモ)
442	AⅡ-b1	方形	66	66	54.0	○					○					伊勢
443	AⅡ-b1	円	72	64	49.3	○										飯袋
444	AⅡ-b0-AⅡ-b1	楕円	50	43	10.8											1号建物(SB1)?
445	AⅡ-b1-AⅡ-b2	楕円	52	44	40.2											1号建物(SB1)
446	AⅡ-2	方形	62	58	56.4	○										灰・漆
447	AⅡ-2-AⅡ-3	円	44	38	31.9	○										1号建物(SB1)? 3号建物(SB4)
448	AⅡ-b3	円			0.0											
449	AⅡ-0	円	24	23	21.1	○	○									土師・須恵器とも製
450	AⅡ-3	円	40	36	18.0											
451	AⅡ-2	円	42	36	18.9											
452	AⅡ-2	楕円	25	20	7.2											
453	AⅡ-3	楕円		60	61.0	○			○			○				桑付磁器類、伊賀 鉄漢
454	AⅡ-0	方形	46		52.0											
455	AⅡ-3	楕円	38	24	7.3											
456	AⅡ-3	楕円	38	24	24.5											
457	AⅡ-3	円	24	22	22.7											
458	AⅡ-3	楕円	38	26	26.7	○										
459	AⅡ-3	円		24	43.2	○										
460	AⅡ-3	円	32		22.3											
461	AⅡ-3	円	29		43.2											
462	AⅡ-3	円	23	22	20.2	○										飯袋
463	AⅡ-3	円	32		23.3											
464	AⅡ-3	円	20		29.3											
465	AⅡ-3	円	30	28	24.9											
465b		円	22		12.2											
466	AⅡ-3	円	28	22	16.0											
467	AⅡ-3	円	28	24	26.1	○										裏
468	AⅡ-3	円	20	18	14.9											
469	AⅡ-3	円	14	14	14.0											
470	AⅡ-3	円	16	15	20.0											

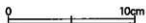
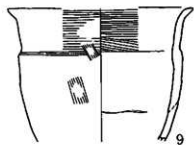
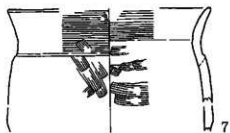
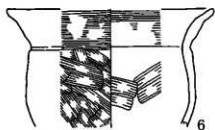
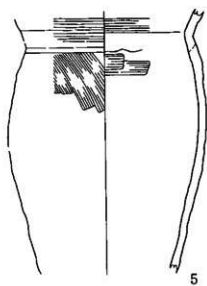
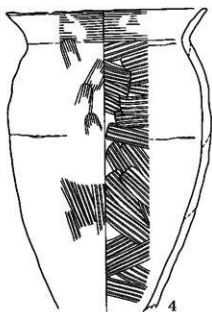
柱次No.	グリッド	平面形	開口幅(m)		深さ (m)	出 土 遺 物								該当建物・柱次列		
			長径	短径		土師器	須恵器	陶文・漆器土師		陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土師品		その他・備考	
								陶文	漆器							
471	AII f3	円	32	26	20.9											
472	AII e3	円	44	38	62.3											
473	AII e3	楕円	50	38	22.3											
474	AII e2-AII e3	円	50	42	40.9											
475	AII e2-AII e3	楕円	52	44	25.5	○			○							土師器・陶文・漆器
476	AII f2-AII f3	円	32	30	21.2											陶文 白磁碗
477	AII f3	楕円	40	29	22.6											
478	AII f2-AII f3	楕円	50	37	28.9											
479	AII f3	円	52	44	52.7											
480	AII f3	円	17	15	12.8											
481	AII f3	円	18	18	16.4											
482	AII f3	楕円状	23	23	18.2											
483	AII f3	円	32	30	40.3											
484	AII f3	円	30	28	26.6											
485	AII f2	円	30	24	17.2											
486	AII f2	円	27	21	16.4											
487	AII e2-AII f2	楕円	32	22	18.5											
488	AII f2	方形	39	30	44.9											
489	AII f2	楕円	30	20	12.6											
490	AII f2	円	32	29	41.1	○										灰
491	AII e2	円	22	20	24.9											
492	AII e2-AII f2	方形	34	34	18.4											
493	AII e2	円	26	24	45.7											
494	AII f1	円	24	23	10.2											
495	AII f1	楕円	27	20	12.3											柱次列4号
496	AII f1	円	30	30	40.4											8号建物(SB8)
497	AII e1	円	28	22	43.0											
498	AII e2-AII e3	円	20	20	15.7											
499	AII e1	円	34	34	42.0											
500	AII e2	円	26	22	33.5											
501	AII e2	円	34	32	27.2											
502	AII f2	楕円	42	32	36.7											
503	AII f2	方形	30	30	51.9											
504	AII f1-AII f2	円	32	28	23.0											
505	AII e1-AII e1	楕円	46	31	43.4											1号銅鏝
506	AII e1	円	28	26	15.5											
507	AII e0	円	20	20	9.5											
508	AII e1	円	28	26	47.2											1号銅鏝
509	AII e1	円	24	19	40.9											柱次列6号
510	AII e1	円	38	36	32.8											柱次列5号
511	AII e1	円	36	35	66.8	○										
512	AII f1	楕円	40	36	59.0											3号建物(SB4)
513	欠番															
514	AII f1	円	30	28	16.5					○						種類不明
515	AII e9-AII f9	円	37	36	52.7									○		丹波・瀬古・中内岸
516	AII f1	円	36	36	23.1											柱次列5号
517	AII f1	円	26	26	46.2											
518	AII e0	円	30	28	26.1											柱次列6号
519	AII f1	円	24	22	17.5											
520	AII f1	楕円	42	32	54.8											3号建物(SB4)
521	AII f2-AII e2	楕円	30	24	8.2											灰
522	AII f2	円	26	26	5.2											
523	AII f2-AII e2	円	31	26	6.6											
524	AII f2-AII e2	円	26	26	23.5											
525	AII e2	円	18	18	20.0											
526	AII e2	円	20	18	24.2											
527	AII e2	楕円		36	48.0											8号建物(SB8)
528	欠番															
529	AII e1-AII h1	円	20	20	23.8											
530	AII e1	円	19	17	35.0											
531	AII e1-AII h1	楕円	44	40	48.0									○		炉壁
532	AII e1	円	28	26	39.9											1号建物(SB1)
533	AII f1	円	26	22	16.6											柱次列4号
534	AII f0-AII f1	円	26	22	34.6	○										灰
535	AII f0	円	35	33	53.5											3号建物(SB4)
536	AII f0	楕円	32	27	31.0											柱次列6号
537	AII f0	楕円	27	20	29.8											4号建物(SB5)
538	AII f0	円	36	35	22.1											柱次列5号
539	AII f0	円	19	18	18.4											
540	AII f0	円	38	30	24.8											柱次列6号
541	AII f9	円	16	14	16.0											
542	AII f0	円	24	22	23.5											柱次列5号
543	AII f0	円	32	28	30.9											
544	AII e1	楕円	33	26	41.5											陶文土師
545	AII e1	円	52	46	42.0	○			○							数量
546	AII e1	円	22	22	39.8											
547	AII e1	円	19	18	15.8											
548	AII e1	円	22	19	34.3											
549	AII f0-AII f0	楕円	48	36	57.6											灰? 3号建物(SB4)

柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(mm)		深さ (mm)	出 土 遺 物							該当建物・柱穴別
			長径	短径		土師器	須恵器	埴文・ 陶器土師	石器	陶磁器	鉄製品	土製品	
550	A1E0	楕円	38	25	42.5	○							8号建物(SB0)
551	A1E0	円	19	18	22.0								
552	A1E0	円	28	27	14.0								
553	A1E0	円	32	31	32.5	○						微量	
554	A1E0	円	24	23	23.2								
555	A1E0	楕円	40	28	36.0								
556	A1E0-A1E9	円	38	35	21.6								
557	A1E0	円	42	35	52.0			○					
558	A1E9	円	23	21	24.0	○						窓? 微量	4号建物(SB5)
559	A1E9	円	42	36	20.8							微量	
560	A1E9	円	37	30	44.1								4号建物(SB5)
561	A1E9	方形	32	29	45.4								柱穴列5号
562	A1E9-A1E9	楕円	26		11.8								
563	A1E9	楕円	39	34	44.8	○						微量	4号建物(SB5)
564	A1E9	方形	28	26	12.5								
565	A1E0-A1E9	不整形	38	35	23.5	○						微量	
566	A1E9	円	43	34	56.4								3号建物(SB4)
567	A1E9	楕円	28	22	14.3	○						微量	
568	A1E9	円	30	28	45.4								10号建物(SB11)
569	A1E9	円	22	22	14.5								
570	A1E9	円	30	28	12.5								
571	A1E9	円	32	31	41.6								
572	A1E9	円	24	23	13.8	○						微量	
573	A1E9	円	32		35.5								
574	A1E9	楕円	38	31	47.2								4号建物(SB5)
575	A1E8-A1E9	円	28	28	13.7								
576	A1E8-A1E8	円	16	12	8.8								
577	A1E8-A1E8	楕円	28	22	12.0								
578	A1E8	円	37		27.2						○	伊壁	4号建物(SB5)
579	A1E8	円	36	30	28.2								
580	A1E8	円	24	23	19.8								
581	A1E0	円	32	30	52.7	○						微量	1号掘跡 1号掘跡
582	A1E0	円	34	33	37.8								1号掘跡
583	A1E9	円	32	28	39.3								1号掘跡
584	A1E9	円	29	20	10.4								1号掘跡
585	A1E8-A1E8	円	20	24	14.5								1号掘跡
586	A1E8	不整形	30	30	20.7								1号掘跡
587	A1E7-A1E8	円	26	22	12.3								
588	A1E8	円	22	22	7.3								1号掘跡
589	A1E9	円	26	24	35.1								
590	A1E9	円	28	28	14.5								
591	A1E8	円	28	26	30.0	○					○	銅器	4号建物(SB5)
592	A1E8	楕円	28	24	31.0								
593	A1E8	方形	28	22	9.9								
594	A1E8-A1E8	楕円	38	27	20.5								
595	A1E8	円	28	24	32.0								
596	A1E8	楕円	25	22	25.7	○							灰
597	A1E8-A1E8	円	22	20	27.0								
598	A1E9	楕円	29	25	18.5								
599	A1E9	円	30	28	23.4	○						微量	4号建物(SB5)
600	A1E9	円	28	28	31.1	○							
601	A1E9	円	34	30	50.4								
602	A1E9	円	25	24	54.3	○						微量	10号建物(SB11)
603	A1E9	円	38	34	43.2								
604	A1E0	円	32	28	33.0	○							
605	A1E0	楕円	30	24	19.5								柱穴列4号
606	A1E9	円	18	18	8.1								
607	A1E9	円	20	18	20.0								
608	A1E9	円	26	24	13.1								
609	A1E9	円	17	15	8.3								
610	A1E9	楕円	29	22	11.5								
611	A1E0	円	18	16	8.7								
612	A1E0	楕円	31	26	34.3								
613	A1E0-A1E0	円	28		32.7	○		○					灰
614	A1E0-A1E0	円	27		51.5	○		○				微量	7号建物(SB8)
615	A1E0	楕円	30	22	34.8	○		○				灰	微量
616	A1E0	円	28	26	17.7								
617	A1E0	円	24	22	47.4								
618	A1E0	楕円	22	17	16.4								
619	A1E0	円	30	30	40.2	○							葉?
620	A1E0	楕円	14	11	10.1								
621	A1E0	楕円	24	18	12.9								
622	A1E0	円	34	34	37.8								7号建物(SB8)
623	A1E0	円	21	19	25.6								10号建物(SB11)
624	A1E0	円	32	28	33.4								
625	A1E0	楕円	20		24.0								
626	A1E0	円	35	34	28.2								
627	A1E0	円	36		25.0								
628	A1E1	円	32	30	47.7								8号建物(SB9)

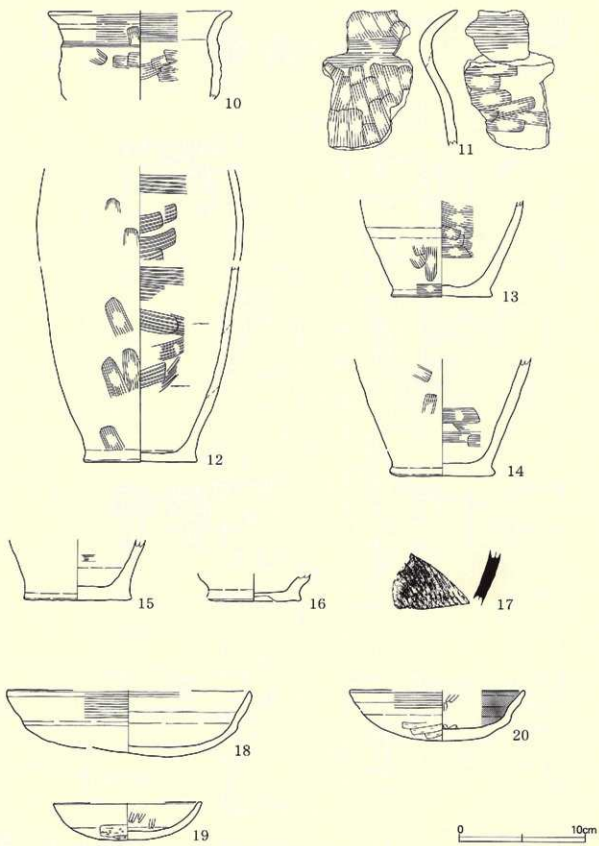
柱穴名	グリッド	平面形状	開口断径(m)		深さ(m)	土 遣 物							取当建物・柱穴列		
			長径	短径		土層部	須恵層	縄文・ 弥生土層	陶磁器	石器・ 石製品	鉄製品	土製品		その他・備考	
629	ABh1	円状	36		42.2										
630	ABh1	円状	42		29.1										
631	次書														
632	AIh0-ABh1	円	35	34	79.6										
633	ABh1	円	22		11.8										
634	ABh1	円	26		29.6										
635	ABh1	円	22		27.3										
636	ABh1	円	46	43	39.3										
637	AIh0	円	25	24	102.3						○	○			鉄滓？、空堀 鉄滓？、空堀 煎釜
638	AIh0	円	26	22	33.7	○									
639	AIh0	円	29	29	27.4										
640	AIh0	円	26	24	45.7										
641	AIi0	円	24	23	49.9										
642	ABe1	円状	34		25.0										
643	ABe1	円状	30		26.1										
644	Ale9	円	27	26	28.5										
645	AI(f6-AIR6)	方形	25	20	44.8										1号横溝 (SB3)
646	次書														
647	AIh6	円	30	30	26.2										1号横溝 (SB3)
648	次書														
649	次書														
650	AIR6	円	20	20	11.0										
651	AIR6	円	30	30	18.6	○									煎釜
652	AI(f7)	円	15	15	17.6										煎釜
653	AIR7	円	18	15	13.9										煎釜
654	AIi8	楕円	28	22	21.3										
655	AIi8	楕円	40	26	35.7										
656	AIi8	楕円	16	14	15.1										
657	AIi8	楕円	34	28	59.4										
658	AIi8	楕円	22	12	8.5										
659	AIi8	楕円	22	16	12.0										
660	AIi8	円	12	12	8.1										
661	AIi8-AIi9	円	32	32	18.0										
662	AIi8	楕円	32	20	19.8										
663	AIi9	楕円	36	22	49.0	○									煎釜
664	次書														
665	AIi9	楕円	32	24	35.6										
666	AIi9	円	28	24	42.1										
667	AIi9	円	36	34	54.3	○									煎釜
668	AIi9	円	20	17	16.0										
669	AIi0-AIi9	円	22	22	20.6										
670	AIi0-AIi9	楕円	38	30	29.0										
671	AIi0-AIi9	円	22	22	42.1	○									煎釜
672	AIR7	方形	35	30	47.3										1号横溝 (SB3)
673	AIR7	円	30	25	15.5										1号横溝 (SB3)
674	AI(f6-AI(f7)	円	25	23	14.6										1号横溝 (SB3)
675	AIh0	円形	26		33.7										10号建物 (SB1)
676	AIh0	楕円	26		13.9										
677	ABh1	楕円	25	20	7.4										
678	ABh1	円	16	16	10.6										
679	ABE1	円	34	30	36.5										
680	ABE2	楕円	39	34	25.6										
681	ABE2	円	20	20	19.4										
682	ABE2	円	22	22	16.0										
683	ABe2	円	22	22	12.3										
684	ABe2	円	22	21	12.4										
685	ABf2	円	24	22	46.0										
686	ABf2	楕円	38		16.3										
687	ABf2	円	38		21.8										
688	ABf2	円	38		18.2										柱穴列4号
689	ABf2	円	26	24	13.7										
690	ABf2	楕円	38	30	18.8										
691	ABe1	円	30	29	59.2										
692	ABe1	円	16	16	18.4										
693	ABe1	円	20	20	18.9										
694	AI(f1)	円	21	19	47.3										3号建物 (SB4)
695	ABE1	円状	22		12.5										
696	ABE1	円状	20		11.3										
697	ABE1	楕円	37	27	22.2										
698	ABf1	楕円	38	26	21.3										
699	AI(f0)	円	24	23	11.3										4号建物 (SB5)
700	Ale0	円	46	40	44.9						○				鉄滓？
701	AI(f9)	円	34	34	23.5										3号建物 (SB4)
702	AI(f9)	円	30	28	47.4										3号建物 (SB4)
703	AI(f9)	円	38	34	19.4										
704	AI(f9)	円	22	22	16.3										
705	AI(f0)	円	23	22	47.1										
706	AI(f0-AIR0)	円	29	28	22.2										4号建物 (SB5)
707	AIR0	円	30	28	16.7										

柱穴No.	グリッド	平面形	開口部径(m)		深さ(m)	出 土 産 物							該当建物・柱穴列			
			長さ	幅		土師器	須恵器	埴文・赤土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品	土製品		その他・備考		
708	A1#0	円	38	36	50.7											
709	A1#0-A1#1	方形	35	32	32.9											4号建物(SB5)
710	A1#1	円	34	23	15.7											4号建物(SB5)
711	A1#1	円	30	19	31.0											
712	A1#0-A1#1	円	30	27	16.9	○								環		柱穴列4号
713	A1#1	円	29	24	11.4											
714	A1#1	円	30	28	10.2											
715	A1#0	円	30	28	14.5											柱穴列4号
716	A1#0	円	22	20	11.6											
717	A1#8	楕円	30	24	13.9											1号建群
718	A1#8	楕円	26	22	12.3											
719	A1#8	円	16	16	17.6											
720	A1#8	円	28	26	50.0											1号建群
721	B1#2	円	28	26	17.0											
722	B1#2	円	26	25	15.1											
723	B1#2	円	34	34	20.0											
724	B1#2	円	31	28	32.2											
725	B1#2	円	34	30	24.8											
726	B1#2	円	36	32	17.7											
727	B1#2-B1#2	楕円	36	28	19.0											
728	B1#2	円	20	20	8.1											
729	B1#1	方形	30	30	55.5											
730	B1#3-B1#3	円	38	34	22.0											
731	次書															
732	B1#4	楕円	44	30	19.2											
733	A1#4	円	34	20	18.5											
734	A1#4	円	23	23	27.4											
735	A1#3	方形	24	24	24.7											
736	A1#2	円	54	52	41.5	○	○							環状土		
737	A1#2-A1#2	楕円	36		45.2											
738	A1#2	円	66		33.8											2号建物(SB2)
739	A1#8	円	28		189.5											
740	次書															
741	A1#8	円	32		16.5											
742	A1#9-A1#9	円	31	30	41.5											
743	A1#8	楕円	32	26	34.8											
744	A1#0	円	25	25	14.0											
745	A1#7-A1#8	円	34	22	0.0											
746	A1#8	円	18	18	0.0											
747	A1#7	円	16	15	0.0											
748	A1#8	円	20	18	0.0											
749	A1#8-A1#8	楕円	46		24.2											
750	A1#9	楕円	30	25	27.8									○	筒型、炉壁	
751	A1#9	楕円	27	22	0.0											
752	A1#8	円	20	18	0.0											
753	A1#8	楕円	26	22	0.0											
754	A1#8	円	24	22	0.0											
755	A1#8	円	22	22	0.0											
756	A1#8	円	16	14	0.0											
757	A1#8	円	28	26	0.0											
758	A1#8	円	18	18	0.0											
759	A1#9	円	28	24	20.2											
760	A1#0	円	40	36	57.7											
761	A1#0	円	35	33	31.3											
762	A1#0	円	38	36	56.5											7号建物(SB8)
763	A1#0	円	29	28	27.0											
764	B1#1	円	32	30	0.0	○										
765	B1#1	円	36	28	0.0											柱穴列2号
766	次書															
767	次書															
768	次書															
769	次書															
770	次書															
771	次書															
772	次書															
773	B1#1	円	32	28	76.5									○	加積 痕跡	
774	B1#1	円	30	19	11.6	○										
775	B1#1	円	32	31	32.9											
776	次書															
777	次書															
778	次書															
779	次書															
780	次書															
781	次書															
782	次書															
783	次書															
784	次書															
785	次書															
786	次書															

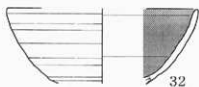
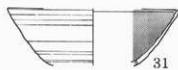
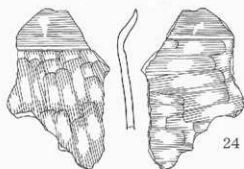
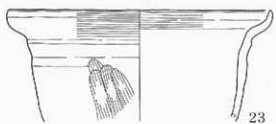
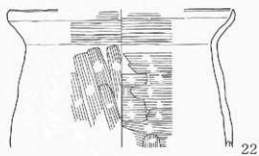
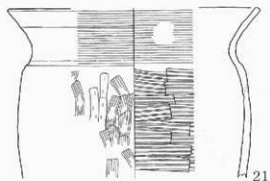
柱穴No.	グリッド	平面形	開口断径(m)		深さ(m)	出土遺物							該当建物・柱穴列		
			長径	短径		土師器	須恵器	埴土器	式土器	陶磁器	石器・石製品	鉄製品		土製品	その他・備考
787	欠番														
788	欠番														
789	欠番														
790	欠番														
791	欠番														
792	欠番														
793	欠番														
794	欠番														
795	欠番														
796	欠番														
797	欠番														
798	欠番														
799	欠番														
800	欠番														
801	AIIh4	楕円	18	14	0.0										
802	AII14	楕円	18	15	10.8										
803	BIIa2	円	38	34	47.3										柱穴列1号
804	BIIa2	円	18	18	8.9										
805	AIIh1	楕円	76	54	46.5										2号建物(SB2)
806	AII12				0.0										2号建物(SB2)
807	AII12	円	22		41.6										
808	BIIa3-BIIa4	円	17	17	15.3										
809	AIIh4	楕円		27	33.8										1号建物(SB1)?
810	AII14	円	16	16	9.4										
811	欠番														
812	欠番														
813	欠番														
814	BIIa4	円	26	24	11.9										
815	BIIa4	円	22	22	16.4										
816	BIIa3	円	26	26	15.4										
817	BIIa3	円	64	64	62.2										
818	BIIa3	円	34	32	44.8										
819	BIIa3	円	16	16	10.0										
820	BIIb5	円	14	14	14.1										
821	BIIa3	円	14	14	10.9										
822	BIIa3	楕円	17	14	13.1										
823	AII13	不規則	24	20	7.2										
824	AII13	楕円	32	20	10.8										
825	AII13	円	22	20	18.9										
826	AII13	楕円	32	24	23.3										
827	欠番														
828	AII13-AII13	楕円	50	44	35.5										
829	AII13	円	15	15	5.5										
830	AIIa2	円	28	26	43.7										
831	AIIa1-AIIh1	円	34	32	39.4										8号建物(SB8)
832	AIIh1	楕円		28	22.7										
833	AIIh1	円	32	32	16.9										
834	AII10	円	28	28	22.1										
835	BIIb0	楕円	30	24	0.0										
836	BIIb0	楕円	38	28	0.0										
837	BIIb0	楕円	43	32	0.0										
838	BIIb9	円		30	0.0										
839	AII13	円状	22		32.2										
840	AII15-AII16	楕円	22		32.2										
841	AII16	円	26	26	7.9										1号建物(SB3)
842	AII17	円	30	30	43.0										1号建物(SB3)
843	AII17	円	26	26	7.9										1号建物(SB3)
844	BIIe1	円	24	24	13.5										
845	BIIc0	楕円	38	24	24.1										5号建物(SB6)
846	BIIc0	円	26	21	16.9										
847	AIIh8	円	30	26	0.0										
848	AII14	円	32	30	23.7										4号建物(SB5)
849	AII19-AII19	楕円	37		19.4										
850	AIIb8	楕円	18	15	14.0										
851	AIIb7	楕円	18	15	10.8										
852	BIIb2	円	34	32	37.0										
853	BIIe1	楕円	16	14	0.0										第1号製柱居PP3 柱穴列1号
854	BII11	楕円	24	20	0.0										



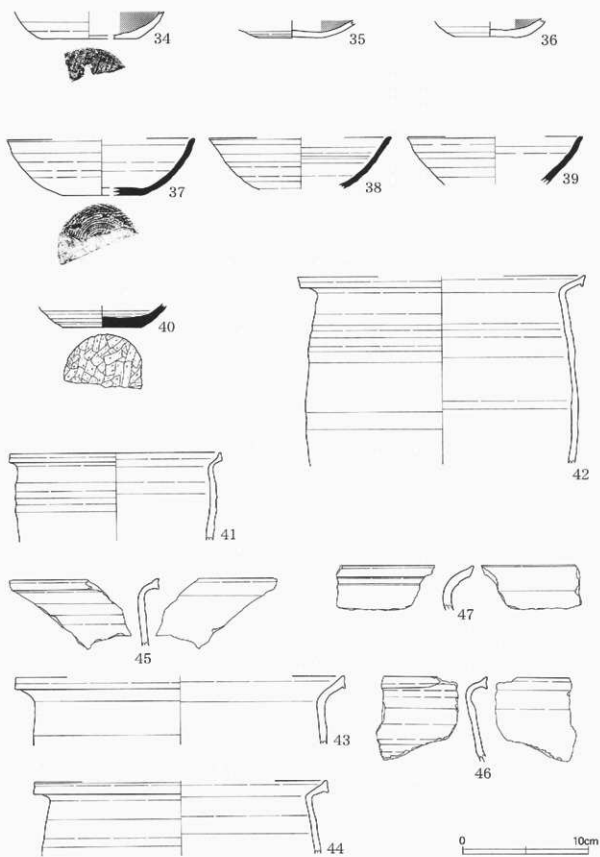
第46圖 遺構内出土遺物(1)



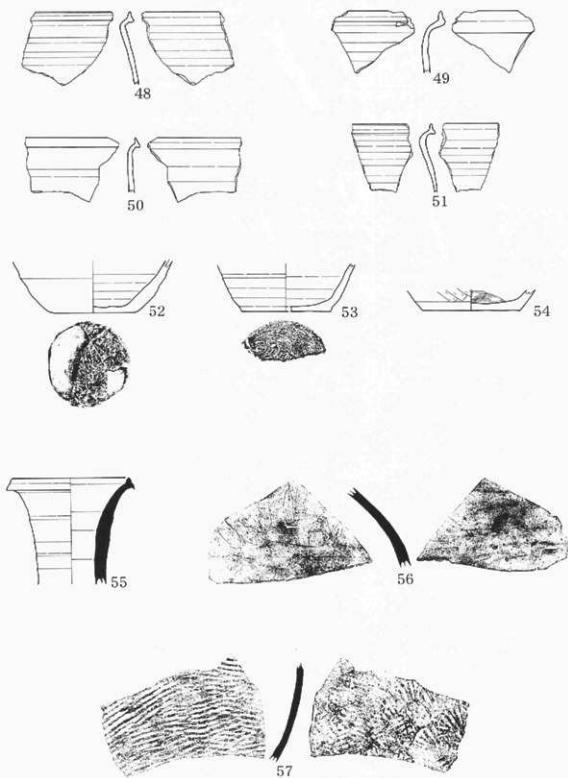
第47図 遺構内出土遺物(2)



第48図 遺構内出土遺物(3)

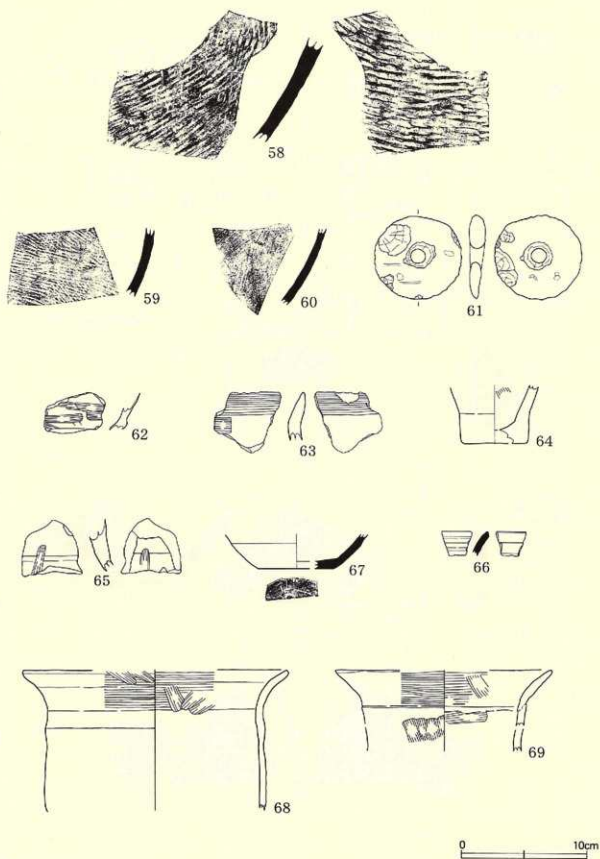


第49図 遺構内出土遺物(4)

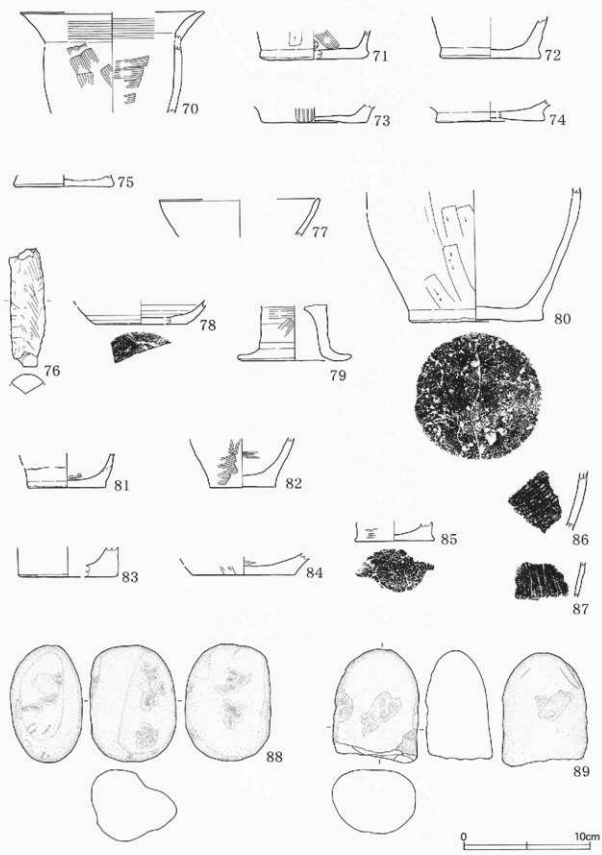


0 10cm

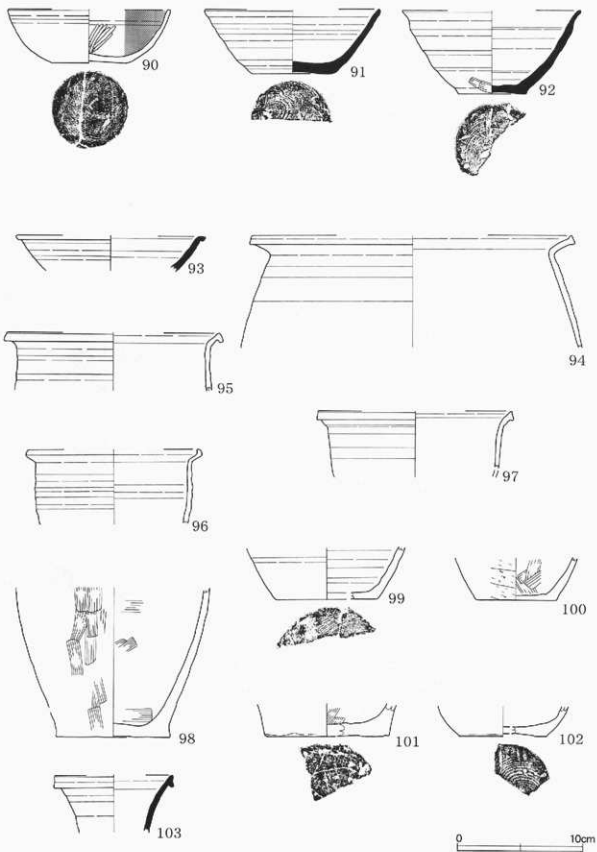
第50図 遺構内出土遺物(5)



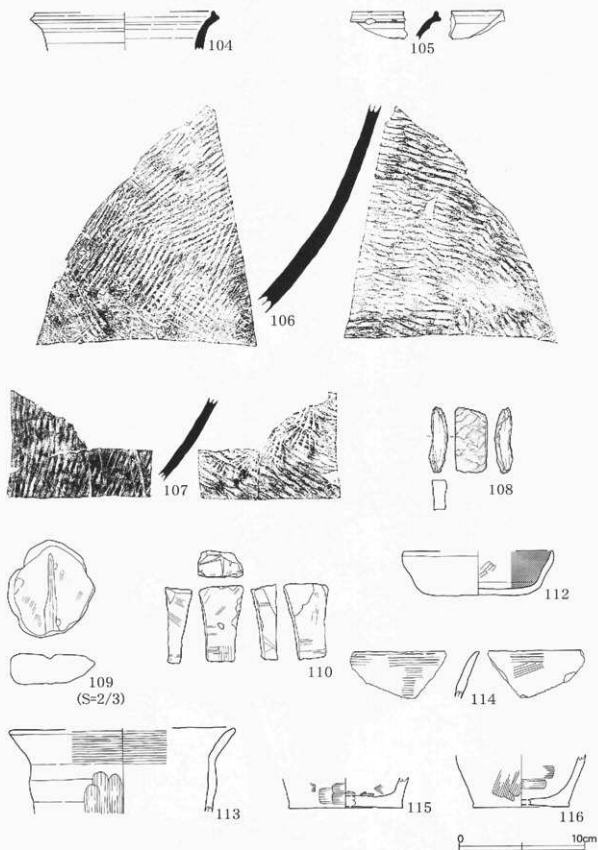
第51圖 遺構内出土遺物(6)



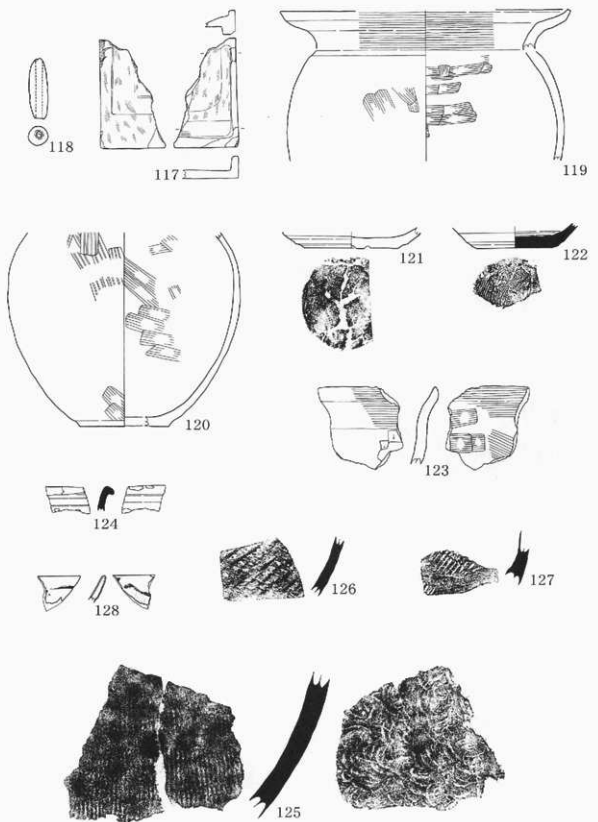
第52図 遺構内出土遺物(7)



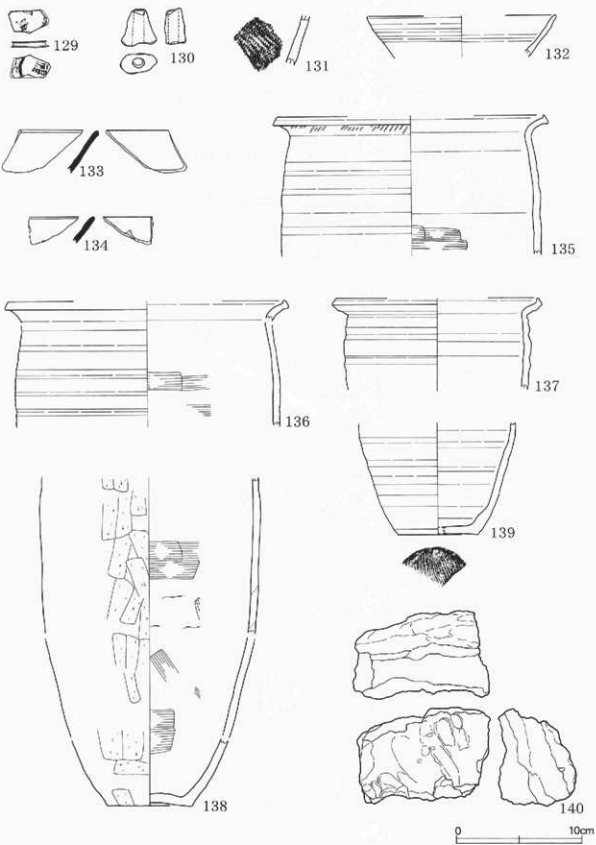
第53図 遺構内出土遺物(8)



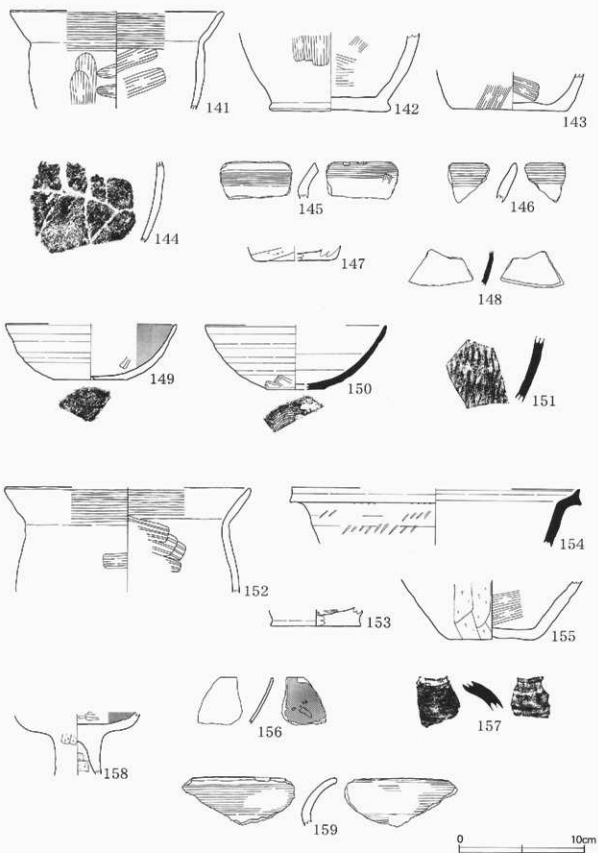
第54図 遺構内出土遺物(9)



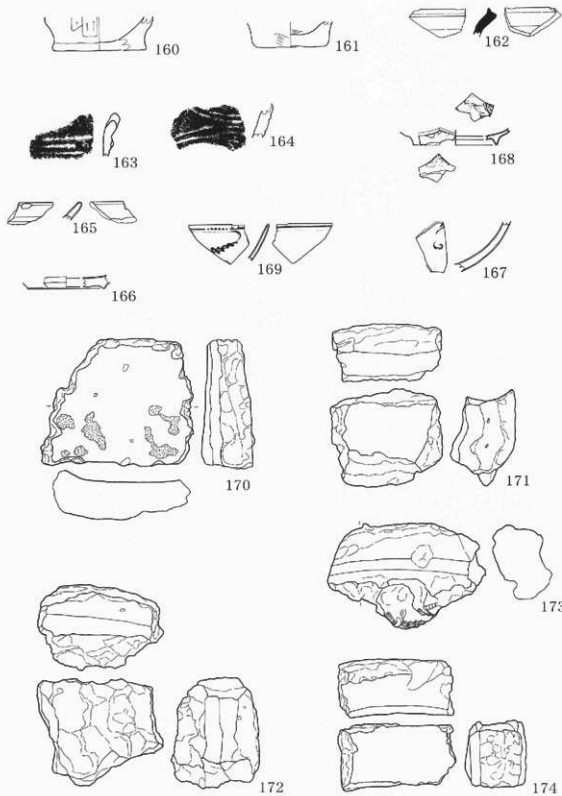
第55図 遺構内出土遺物(10)



第56図 遺構内出土遺物(11)

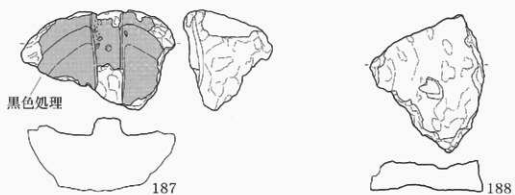
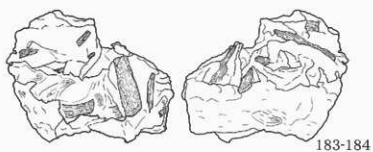
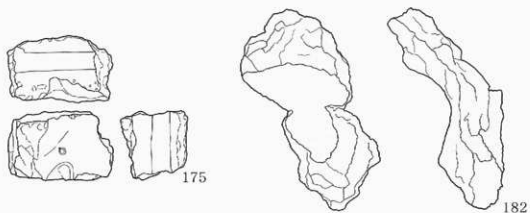


第57図 遺構内出土遺物(12)

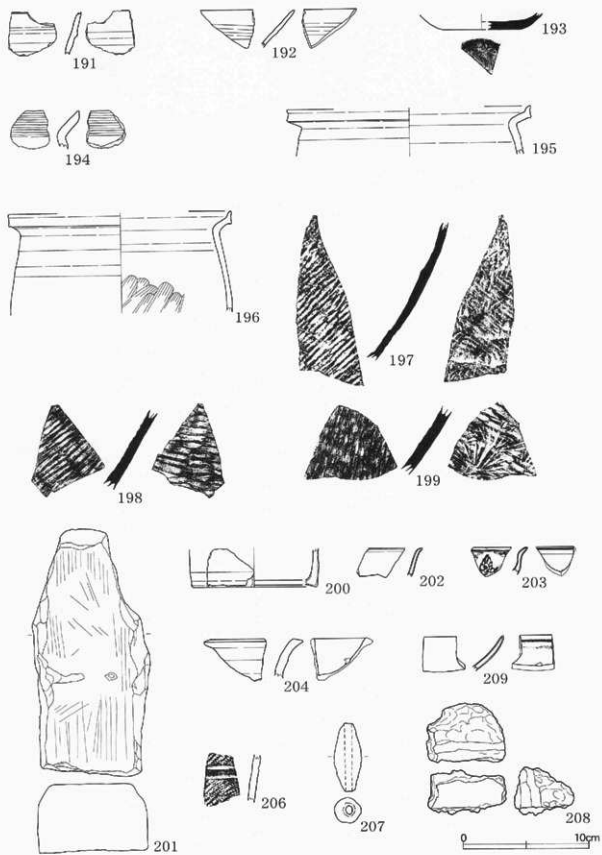


第58図 遺構内出土遺物(13)

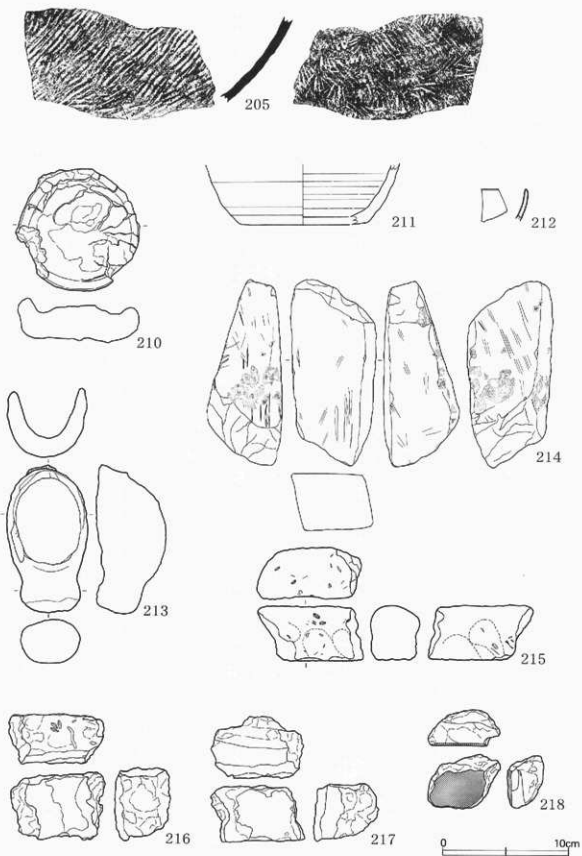
0 10cm



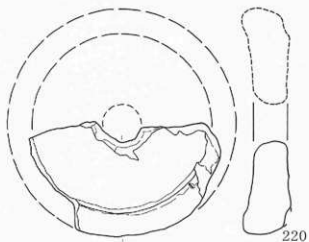
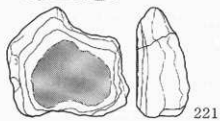
第59図 遺構内出土遺物(14)



第60図 遺構内出土遺物(15)



第61圖 遺構内出土遺物(16)



第62図 遺構内出土遺物(17)

V. 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物の内、土器30点（土師器8・須恵器10・縄文土器8・弥生土器8・かわらけ2）、陶磁器18点、石器・石製品5点、銅物関連遺物2点を掲載した。

1. 土器

(1) 土師器（第63図、写真図版39）

土師器は8点掲載した。甕が7点、坏が1点である。224-225はロクロ成形の坏で、224は内面黒色処理、底部回転糸切り後ヘラケズリによる再調整が施される。225は回転糸切り無調整である。230-235は甕である。231のみロクロ成形で、その他は非ロクロ成形である。胴部調整は内外面ともヘラナアによる。

(2) 須恵器（第63-64図、写真図版39）

須恵器は10点掲載した。坏が4点、甕が6点である。226-228は坏、229は高台付坏である。高台の高さは0.7cmである。236-241は甕である。236は胴部外面調整がヘラケズリ、内面調整がヘラナアである。237-241は外面調整が平行タタキ、内面調整が平行または放射状のアテグ、ヘラナアによる。

(3) 縄文土器（第64図、写真図版39）

縄文土器は242-249の8点掲載した。晩期の粗製土器が主体となる。口縁部が波状あるいは山形を呈し、頸部に数条の沈線を巡らしており、大河C2式に比定される。

(4) 弥生土器（第64図、写真図版39）

弥生土器は2点出土しており、250は弥生時代前期、251は後期と見られる。250は鉢で変形工字文が施されており、谷起島式に比定される。土俵251は交互刺突文が施されているものと思われる。器種は甕か。

(5) かわらけ（第64図、写真図版39）

かわらけは2点出土した。252はロクロ成形によるもので、推定口径8.4cm、推定底径6.8cm、器高1.5cmである。胎土は緻密で、時期は12世紀以降のものと思われる。245は手づくね成形によるもので推定口径13.0cm、器高2.0cmである。12世紀後半代と思われる。

2. 陶磁器

18点出土し、すべて掲載している。陶器が12点、磁器が6点である。

(1) 陶器（第65図、写真図版40）

259-263は12世紀後半の常滑産の甕である。259-262の4点は同一個体と思われる。264は美濃産の折縁皿で大窯瀬年第3段階後半（16世紀末）に該当する。265は瀬戸・美濃産の端反碗ないし丸皿で大窯瀬年第1段階期もしくは第2段階（ともに16世紀前半）に該当する。266は肥前産の碗で17世紀末-18世紀代、267は波佐見産の碗で18世紀代の製品である。268は産地・時期ともに不明である。器種は碗か。269は在地産の鉢であろうか。外面底部には回転糸切り痕が残る。詳細な時期は不明であるが、12世紀後半代の常滑産甕と近い時期のものではないかと思われる。270は産地不明の瓶？である。時期は細かく丁寧な作りをしていることから古代の可能性がある。

(2) 磁器（第65図、写真図版40）

271は中国産明代の端反碗である。272は18世紀代の有田産の碗である。大橋瀬年IV期ないしV期に該当す

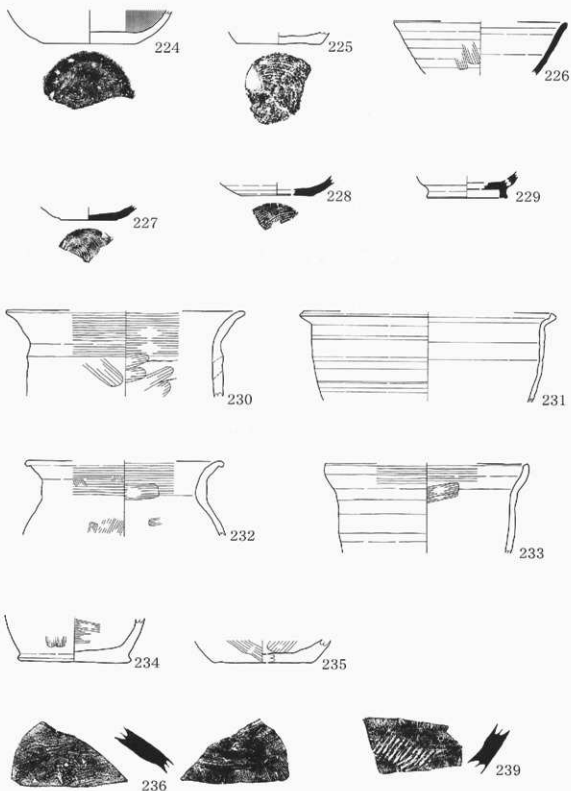
る。273-276は産地・時期ともに不明である。器種は273-275が碗で、274は蕎麦猪口であろうか。

3. 石器・石製品 (第64-65図、写真図版40)

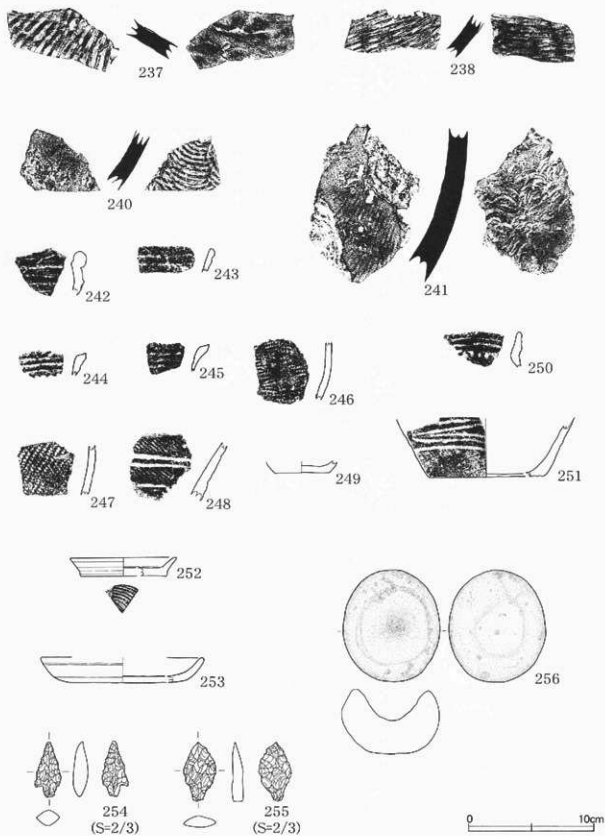
5点掲載した。内訳は石鏃が2点、凹み石が1点、石包丁の未製品状のものが1点、フレイクが1点である。254-255は石鏃である。254は平基有茎鏃で、石質は黒曜石である。255は凸基有茎鏃で、石質は頁岩である。256は凹石で長さ8.9、幅7.8cm、重さ425.84gである。257は石包丁の未製品?である。内湾部を刃部としている。紐部となる穿孔もしくは穿孔前段階の窪みの痕跡は見られない。残存長19.7cm、幅5.2cm、厚さ1.2cm、重さ194.73gである。石質は粘板岩である。しかしながら、これを石包丁の未製品とするには問題点が残る。第1に大きさがやや大ぶりであることが挙げられる。石包丁には特に大ぶりなものを大型石包丁と呼ぶものもあるが、これが該当するかどうかわからない。第2に製作工程の問題点である。一般的には穿孔後に、研磨し刃づけという工程が行われる。この14はまだ完成とは言えない状態であるが、すでに研磨と刃づけが行われている。第3に刃部とした内湾部の欠損箇所の問題である。人工的な敲打をしたとみると、その大ぶりな残存長を考え併せていくと石刀の形状とすることも可能であろう。以上から、取り敢えずは石包丁の未製品として掲載したが、問題点を持つ遺物であることを付記しておく。

4. 銅物関連遺物 (第65図、写真図版40)

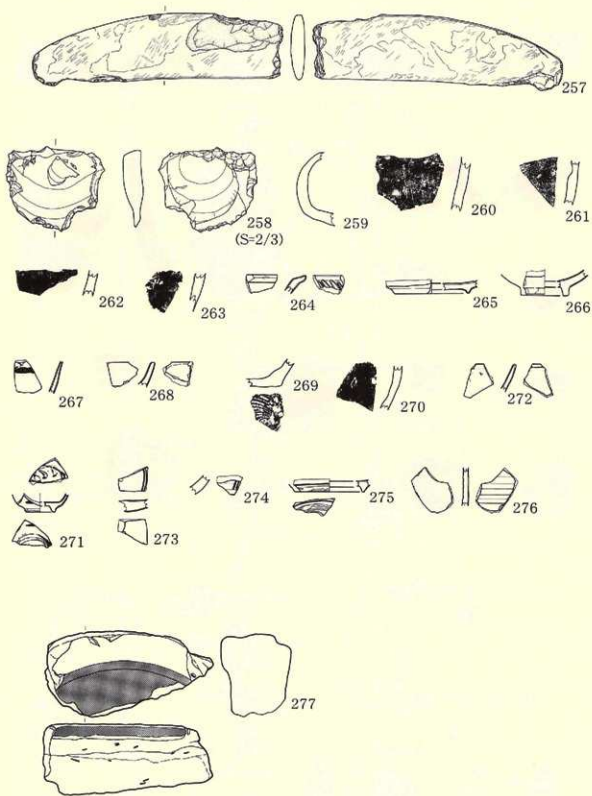
銅型が2点出土した。277は円形状を呈し、推定外径24.5cmある。粗真土、中真土、仕上げ真土(上真土)の銅物土が明確に確認できる。また、湯を流した還元面があり、実際に使用されたものであることが分かる。278も一部還元面が残る。277は平釜のつばの可能性もあるが、不明である。278は小破片であるため掲載していない。



第63圖 遺構外出土遺物(1)



第64圖 遺構外出土遺物(2)



第65圖 遺構外出土遺物(3)

第4表 出土遺物観察表

No.	遺物 番号	遺物名	出土地点・層位	種類	部類	部位	内面調査 (口縁部)	内面調査 (胴部)	外面調査 (口縁部)	外面調査 (胴部)	外面調査 (底部)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土器分類	備考	
1	46	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	1号土坑埋土1層	土師器	埴	口→胴部	-	M	-	-	(11.6)	-	(3.4)	A I # 1	内底	
2	46	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	Q 4 (出入口状施設)	土師器	埴	口→底部	-	-	-	-	-	-	(2.4)	A I b 1	内底	
3	46	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	PP19	須恵器	埴	口→胴部	R	R	R	R	-	-	(3.5)	B	後部に押う穴	
4	46	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	1号土坑埋土1層	土師器	埴	口→胴部	Y	H	Y	H	-	(15.9)	-	(23.0)	A I	
5	46	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	Q 3 3層	土師器	埴	口→胴部	Y	N	Y	N	-	-	(20.0)	A I		
6	46	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	PP16	土師器	埴	口→胴部	Y	N	Y	N	-	(16.4)	-	(9.4)	A I	後部に押う穴
7	46	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	1号土坑	土師器	埴	口→胴部	Y	N	Y→N	N	-	(16.0)	-	(9.0)	A I	
8	46	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	1号土坑	土師器	埴	口→胴部	Y	N	Y→N	N	-	(17.3)	-	(8.0)	A I	
9	46	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	Q 4 4層	土師器	埴	口→胴部	Y	-	Y	N	-	(14.6)	-	(10.6)	A I	
10	47	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	1号土坑	土師器	埴	口→胴部	Y	N	Y→N	N	-	(14.6)	-	(7.0)	A I	
11	47	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	1号土坑	土師器	埴	口→胴部	Y	N	Y→N	N	-	-	(11.0)	A I		
12	47	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	Q 3 3層他	土師器	埴	胴→底部	-	H	-	N	-	-	(8.3)	(23.3)	A I	
13	47	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	1号土坑他	土師器	埴	胴→底部	-	N	-	N	-	-	8.0	(7.8)	A I	
14	47	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	床面・PP17	土師器	埴	胴→底部	-	N	-	N	-	-	8.4	(9.3)	A I	後部に押う穴
15	47	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	Q 3 3層	土師器	埴	胴→底部	-	N	-	N	-	-	(8.6)	(4.6)	A I	
16	47	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	Q 4 (出入口状施設)	土師器	埴	胴→底部	-	-	-	-	-	-	7.4	(2.2)	A I	
17	47	27	第1号塚穴内 (S 1 1)	Q 2 4層	須恵器	埴	胴部	-	-	-	T	-	-	-	-	B	
18	47	28	第2号塚穴内 (S 1 2)	埋土 (1号土坑等)	土師器	埴	口→底部	Y	-	Y	-	-	(19.6)	-	(5.3)	A I # 1	
19	47	28	第2号塚穴内 (S 1 2)	埋土 (1号土坑直上等)	土師器	埴	口→底部	-	M	-	K	-	11.8	-	3.0	A I # 2	
20	47	28	第2号塚穴内 (S 1 2)	埋土	土師器	埴	口→底部	M	M	Y	K	K	(13.0)	-	4.0	A I # 1	内底
21	48	28	第2号塚穴内 (S 1 2)	埋土	土師器	埴	口→胴部	Y	H	Y	K・N	-	(20.0)	-	(13.5)	A I	
22	48	28	第2号塚穴内 (S 1 2)	埋土	土師器	埴	口→胴部	Y	N	Y	N	-	(17.0)	-	(11.0)	A I	
23	48	28	第2号塚穴内 (S 1 2)	埋土	土師器	埴	口→胴部	Y	-	Y	N	-	(21.0)	-	(8.9)	A I	
24	48	28	第2号塚穴内 (S 1 2)	キマツ物	土師器	埴	口→胴部	Y	N	Y	N	-	-	-	(12.9)	A I	
25	48	28	第3号塚穴内 (S 1 3)	埋土	須恵器	埴	胴部	-	R	-	R	-	-	-	-	B	
26	48	28	第3号塚穴内 (S 1 3)	埋土	須恵器	埴	胴部	-	R	-	R	-	-	-	-	B	
27	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	埋土	土師器	埴	口→底部	R	R	R	R	回転糸切	13.6	6.3	5.0	A I # 3	内底 後部下平にK
28	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	8号土坑	土師器	埴	口→底部	R	R	R	R	-	(12.5)	(5.6)	4.3	A I # 3	内底 切り離し不明 底部・胴部下平再調査 (NaK) 確認
29	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	4号土坑	土師器	埴	口→底部	R	R	R	R	-	(13.0)	(6.2)	3.7	A I # 3	内底 切り離し不明 底部・胴部下平再調査 (NaK) 確認
30	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	埋土	土師器	埴	口→胴部	R	R	R	R	-	14.4	-	(4.5)	A I b	
31	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	埋土	土師器	埴	口→胴部	R	R	R	R	-	(13.6)	-	(4.5)	A I a	内底
32	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	Q 1	土師器	埴	口→胴部	R	R	R	R	-	(15.2)	-	(6.0)	A I a	内底
33	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	1号土坑	土師器	埴	胴→底部	-	R	M	-	R	-	5.8	(2.5)	A I # 3	内底 切り離し不明 底部・胴部下平再調査 (NaK) 確認
34	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	Q 2 1層	土師器	埴	胴→底部	-	R	-	R	K	-	(8.0)	(2.1)	A I # 3	内底 底部切り離し不明
35	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	4号土坑	土師器	埴	胴→底部	-	R	-	R	-	-	5.2	(1.4)	A I # 3	内底 切り離し不明 底部・胴部下平再調査 (K?) 確認
36	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	8号土坑	土師器	埴	胴→底部	-	R	-	R	-	-	5.6	(1.2)	A I # 3	内底 切り離し不明 胴部下平にK 確認
37	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	キマツ下	須恵器	埴	口→底部	R	R	R	R	回転糸切	(15.0)	(6.4)	4.4	B # a	
38	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	キマツ下・8号土坑等	須恵器	埴	口→胴部	R	R	R	R	-	(14.6)	-	(4.1)	B	
39	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	8号土坑等	須恵器	埴	口→胴部	R	R	R	R	-	(14.0)	-	(4.8)	B	
40	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	キマツ上層埋土付近	須恵器	埴	胴→底部	-	R	-	R	回転糸切	-	(6.2)	(1.7)	B # b	
41	48	28	第4号塚穴内 (S 1 4)	キマツ下	土師器	埴	口→胴部	R	R	R	R	-	(16.8)	-	(7.0)	A # a	
42	48	29	第4号塚穴内 (S 1 4)	8号土坑等	土師器	埴	口→胴部	R	R	R	R	-	(22.8)	-	(15.0)	A # b	
43	48	29	第4号塚穴内 (S 1 4)	Q 1	土師器	埴	口→胴部	R	R	R	R	-	(26.2)	-	(5.4)	A # b	
44	48	29	第4号塚穴内 (S 1 4)	Q 1 1層他	土師器	埴	口→胴部	R	R	R	R	-	(23.3)	-	(5.9)	A # b	
45	48	29	第4号塚穴内 (S 1 4)	2号土坑	土師器	埴	口→胴部	R	R	R	R	-	-	-	(5.5)	A # b	

No.	図番	区画	遺構名	出土地点・層位	種類	部材	部位	内面調査 (口縁部)	内面調査 (胴部)	外面調査 (口縁部)	外面調査 (胴部)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土器分類	備考	
46	49	29	第4号壺穴状灰土(S14)	Q1 1層	土師器	甕	口一胴部	R	R	R	R	—	—	(6.7)	AⅡ		
47	49	29	第4号壺穴状灰土(S14)	2号土坑	土師器	甕	口一胴部	R	R	R	R	—	—	(3.5)	AⅡ		
48	50	29	第4号壺穴状灰土(S14)	2号土坑	土師器	甕	口一胴部	R	R	R	R	—	—	(5.9)	AⅡ		
49	50	29	第4号壺穴状灰土(S14)	8号土坑	土師器	甕	口一胴部	R	R	R	R	—	—	(5.0)	AⅡ		
50	50	29	第4号壺穴状灰土(S14)	8号土坑	土師器	甕	口一胴部	R	R	R	R	—	—	(5.1)	AⅡ		
51	50	29	第4号壺穴状灰土(S14)	Q2 1層	土師器	甕	口一胴部	R	R	R	R	—	—	(5.4)	AⅡ		
52	50	29	第4号壺穴状灰土(S14)	1号土坑	土師器	甕	胴一底部	—	R	—	R	副転鉢切	—	6.6	(4.1)	AⅡ	
53	50	29	第4号壺穴状灰土(S14)	4号土坑	土師器	甕	胴一底部	—	R	—	R	副転鉢切	—	(7.0)	(3.7)	AⅡ	
54	50	29	第4号壺穴状灰土(S14)	Q4	土師器	甕	胴一底部	—	R→N	—	R→K	—	—	(7.7)	(1.7)	AⅡ	
55	50	29	第4号壺穴状灰土(S14)	8号土坑埋土層	須恵器	長胴鉢	口一胴部	R	—	R	—	—	(9.4)	—	B		
56	50	29	第4号壺穴状灰土(S14)	1号土坑埋土1層	須恵器	甕	胴部	—	R	—	R	—	—	—	B		
57	50	29	第4号壺穴状灰土(S14)	Q1	須恵器	甕	胴部	—	A(埋込)	—	T(浮存)	—	—	—	B		
58	50	29	第4号壺穴状灰土(S14)	2号土坑	須恵器	甕	胴部	—	A(浮存)	—	T(浮存)	—	—	—	B		
59	51	30	第4号壺穴状灰土(S14)	埋土	須恵器	甕	胴部	—	—	—	T(浮存)	—	—	—	B		
60	51	30	第4号壺穴状灰土(S14)	カマド付込PPS	須恵器	甕	胴部	—	R	—	R→K	—	—	—	B	底部に穿う柱穴	
61	51	30	第4号壺穴状灰土(S14)	Q1 1層	石製品	輪軸巻						長さ6.4	幅7.0	厚さ1.2	重さ66.07g	石長谷山岡 奥羽山脈	
62	51	30	第5号壺穴状灰土(S14)	埋土	土師器	杯	胴	—	—	N	—	—	—	(2.3)	AⅠ	底部に穴あり	
63	51	30	第5号壺穴状灰土(S14)	PP3	土師器	甕	口縁部	Y	—	Y→N	—	—	—	(4.9)	AⅠ	底部に穿う柱穴	
64	51	30	第5号壺穴状灰土(S14)	埋土	土師器	甕	胴一底部	—	N	—	—	—	—	(5.2)	(4.4)	AⅠ	
65	51	30	第5号壺穴状灰土(S17)	埋土	土師器	高杯	底部	—	—	—	—	—	—	—	AⅠ	底縁外側にヘラナデ	
66	51	30	第5号壺穴状灰土(S17)	Q4	須恵器	杯	口縁部	R	R	R	R	—	—	—	B		
67	51	30	第5号壺穴状灰土(S17)	Q1	須恵器	杯	胴一底部	—	R	—	R	副転鉢切	—	(6.4)	(2.7)	BⅡ	境域不良
68	51	30	第5号壺穴状灰土(S17)	土師器中層(取り上げNo.8)	土師器	甕	口一胴部	Y→N	—	Y→N	—	(21.2)	—	(11.3)	AⅠ		
69	51	30	第5号壺穴状灰土(S17)	土師器中層(取り上げNo.9)	土師器	甕	口一胴部	Y→N	N	Y	N	(17.2)	—	(6.5)	AⅠ		
70	52	30	第6号壺穴状灰土(S17)	土師器中層	土師器	甕	口一胴部	Y	N	Y	N	(14.6)	—	(8.0)	AⅠ		
71	52	30	第6号壺穴状灰土(S17)	土師器中層(取り上げNo.8)	土師器	甕	胴一底部	—	N	—	K	—	(7.4)	(2.2)	AⅠ		
72	52	30	第6号壺穴状灰土(S17)	Q1	土師器	甕	胴一底部	—	—	—	—	—	—	(8.0)	(3.3)	AⅠ	
73	52	30	第6号壺穴状灰土(S17)	1号土坑	土師器	甕	底部	—	—	—	—	—	—	8.4	(1.3)	AⅠ	
74	52	30	第6号壺穴状灰土(S17)	NSペルト	土師器	甕	底部	—	—	—	—	—	—	(8.6)	(1.4)	AⅠ	
75	52	30	第6号壺穴状灰土(S17)	1号土坑	土師器	甕	底部	—	—	—	—	—	—	(8.0)	(0.9)	AⅠ	
76	52	30	第6号壺穴状灰土(S17)	Q1	石器	石棒?						長さ9.5	幅12.7	厚さ11.5	重さ42.43g	嵯峨野 東上山地	
77	52	30	第7号壺穴状灰土(S18)	底縁西側地	土師器	杯	口一胴部	R	R	R	R	(12.8)	—	(3.0)	AⅡ		
78	52	30	第7号壺穴状灰土(S18)	PP2	土師器	杯	底部	—	R	—	R	副転鉢切→K	—	(7.2)	(1.9)	AⅡ b 2	底部に穿う柱穴
79	52	30	第7号壺穴状灰土(S18)	底縁西側	土師器	高杯	底部	—	—	—	—	—	—	(9.0)	(4.5)	AⅠ	底縁外側にヘラナデ
80	52	30	第7号壺穴状灰土(S18)	底縁中央地	土師器	甕	胴一底部	—	—	K	木蓋付	—	—	10.7	(10.8)	AⅠ	
81	52	30	第7号壺穴状灰土(S18)	南縁側	土師器	甕	胴一底部	—	N	—	—	—	—	6.2	(2.7)	AⅠ	
82	52	30	第7号壺穴状灰土(S18)	南縁側	土師器	甕	胴一底部	—	N	—	N	—	—	5.2	(4.0)	AⅠ	
83	52	30	第7号壺穴状灰土(S18)	埋土	土師器	甕	胴一底部	—	—	—	—	—	—	(7.4)	(2.5)	AⅠ	
84	52	30	第7号壺穴状灰土(S18)	埋土	土師器	甕	底部	—	N	—	N	—	—	8.2	(1.8)	AⅠ	
85	52	30	第7号壺穴状灰土(S18)	埋土	土師器	甕	底部	—	—	N?	木蓋付	—	—	5.8	(1.6)	AⅠ	
86	52	30	第7号壺穴状灰土(S18)	埋土	縄文土器	鉢形	胴部									LⅠ縄文	
87	52	30	第7号壺穴状灰土(S18)	埋土	縄文土器	鉢形	胴部									縄文土	
88	52	31	第7号壺穴状灰土(S18)	埋土	石器	磨石						長さ9.2	幅6.8	厚さ5.7	重さ436.57g	安山岩 奥羽山脈	
89	52	31	第7号壺穴状灰土(S18)	埋土	石器	磨石						長さ8.3	幅5.7	厚さ5.1	重さ425.44g	安山岩 奥羽山脈	
90	53	31	第8号壺穴状灰土(S19)	1-埋付記	土師器	甕	口一胴部	R	R	R	R	副転鉢切	(13.0)	6.0	4.3	BⅡ b 1	製材時の1号キ
91	53	31	第8号壺穴状灰土(S19)	Q3 ベルト層	須恵器	杯	口一胴部	R	R	R	R	副転鉢切	14.0	(6.2)	5.2	BⅡ b 3	
92	53	31	第8号壺穴状灰土(S19)	PP6	須恵器	杯	口一胴部	R	R	R	R→N	副転鉢切	(14.2)	(5.4)	6.6	BⅡ b 3	底部に穿う柱穴
93	53	31	第8号壺穴状灰土(S19)	Q2	須恵器	杯	口一胴部	R	R	R	R	—	(15.1)	—	(2.8)	B	口唇部が鋭角状に張り出す

No.	図号	名称	遊樂名	出土地点・層位	種類	器種	部位	内面調整 (口縁部)	内面調整 (器底)	外面調整 (口縁部)	外面調整 (胴部)	外面調整 (底縁)	口径(cm)	口径(cm)	器高(cm)	土器分類	備考	
94	53	31	第1号壺穴状器(S19)	10号土坑	土師器	壺	口-胴部	R	R	R	R	-	(25.4)	-	(8.9)	A Ⅱ		
95	53	31	第1号壺穴状器(S19)	7号土坑埋土1層	土師器	壺	L1-胴部	R	R	R	R	-	(17.0)	-	(4.6)	A Ⅱ		
96	53	31	第1号壺穴状器(S19)	Q2	土師器	壺	L1-胴部	R	R	R	R	-	(14.0)	-	(5.0)	A Ⅱ		
97	53	31	第1号壺穴状器(S19)	PP14 (第4号土坑)	土師器	壺	胴-底縁	R	R	R	R	-	(15.4)	-	(5.2)	A Ⅱ	電器に併し柱穴	
98	53	31	第1号壺穴状器(S19)	ホマド灰層・6号土坑埋	土師器	壺	胴-底縁	-	N	-	N	-	-	-	9.1	(12.0)	A Ⅰ	
99	53	31	第1号壺穴状器(S19)	Q2	土師器	壺	胴-底縁	-	R	-	R	胴転赤帯	-	(8.2)	(4.1)	A Ⅱ		
100	53	31	第1号壺穴状器(S19)	ホマド埋土1層	土師器	壺	胴-底縁	-	N	-	K	-	-	-	(6.4)	(3.5)	A Ⅰ	
101	53	31	第1号壺穴状器(S19)	Q2	土師器	壺	底縁	-	N	-	-	木重痕	-	(10.0)	(2.6)	A Ⅰ		
102	53	31	第1号壺穴状器(S19)	Q3 ベルト編	土師器	壺	底縁	-	R	-	-	胴転赤帯	-	(7.0)	(2.4)	A Ⅱ		
103	53	32	第1号壺穴状器(S19)	Q4-B	灰産器	長頸瓶	L1-胴部	R	-	R	-	-	9.4	-	(4.6)	B		
104	54	32	第1号壺穴状器(S19)	PP2	灰産器	壺	口縁部	R	-	R	-	-	(14.2)	-	(3.0)	B	後期より新しい柱穴か	
105	54	32	第1号壺穴状器(S19)	7号土坑埋土1層	灰産器	壺	口縁部	R	-	R	-	-	-	-	(2.2)	B		
106	54	31	第1号壺穴状器(S19)	土師A	灰産器	壺	胴部	-	A (平行)	-	T (平行)	-	-	-	-	B		
107	54	32	第1号壺穴状器(S19)	Q4 輪	灰産器	壺	胴部	-	A (平行)	-	T (平行)	-	-	-	-	B		
108	54	32	第1号壺穴状器(S19)	3号土坑	石製品	磁石							長さ 5.1	幅 2.4	厚さ 1.1	重さ 21.46g		
109	54	32	第1号壺穴状器(S19)	埋土埋土3層	石製品	磁石							長さ 3.8	幅 3.5	厚さ 1.2	重さ 15.40g		
110	54	32	第1号壺穴状器(S19)	6号土坑	石製品	磁石							長さ 5.1	幅 3.5	厚さ 2.1	重さ 34.33g	磯灰岩 風物山蔵	
111	54	32	第1号壺穴状器(S19)	PP13 (第2号土坑) 部分	土製品	銅鏝							-	-	-	重さ 46.05g		
112	54	32	第1号壺穴状器(S19)	S19との重層部分	土師器	坏	口-底縁	-	M	-	-	-	(12.0)	-	3.5	A I Ⅱ Ⅰ		
113	54	32	第1号壺穴状器(S19)	1号土坑	土師器	壺	L1-胴部	Y	-	Y	N	-	(18.0)	-	(4.7)	A Ⅰ		
114	54	32	第1号壺穴状器(S19)	PP1	土師器	壺	L1-胴部	Y	-	Y	-	-	-	-	(3.8)	A Ⅰ	後期より新しい柱穴か	
115	54	32	第1号壺穴状器(S19)	3号土坑	土師器	壺	胴-底縁	-	N	-	N	-	-	-	(9.0)	(2.4)	A Ⅰ	
116	55	32	第1号壺穴状器(S19)	PP2	土師器	壺	胴-底縁	-	N	-	N	-	-	-	(7.7)	(4.2)	A Ⅰ	後期より新しい柱穴か
117	55	32	第1号壺穴状器(S19)	PP5	土製品	瓦							長さ(8.7)	幅(5.2)	厚さ(1.7)	重さ(63.78g)	物産部 北上山蔵	
118	55	32	第1号壺穴状器(S19)	S19との重層部分	土製品	土塊							長さ 4.8	幅 1.5	厚さ 1.5	重さ 9.44g	孔径 0.3mm	
119	55	32	第1号壺穴状器(S19)	一括土師	土師器	壺	口-胴部	Y	N	Y	N	-	23.0	-	(12.1)	A Ⅰ	地研室	
120	55	32	第1号壺穴状器(S19)	ホマド	土師器	壺	胴-底縁	-	N	-	H-N	-	(7.0)	-	(15.5)	A Ⅰ	地研室	
121	55	32	第1号壺穴状器(S19)	埋土	土師器	坏	底縁	-	R	-	R	胴転赤帯-N	-	7.4	(1.7)	A Ⅱ Ⅱ Ⅱ	管成	
122	55	32	第1号壺穴状器(S19)	埋土	灰産器	坏	胴-底縁	-	R	-	R	胴転赤帯	-	6.1	(1.8)	厚さ 2		
123	55	32	第1号壺穴状器(S19)	埋土	土師器	壺	口-胴部	Y	N	Y	N-K	-	-	-	66.3	A Ⅰ		
124	55	32	第1号壺穴状器(S19)	埋土	灰産器	壺	L1-胴部	R	-	R	-	-	-	-	(2.2)	B		
125	55	33	第1号壺穴状器(S19)	埋土	灰産器	壺	胴部	-	A (傾斜)	-	T (平行)	-	-	-	-	B		
126	55	32	第1号壺穴状器(S19)	埋土	灰産器	壺	胴部	-	-	-	T (平行)	-	-	-	-	B		
127	55	32	第1号壺穴状器(S19)	埋土	灰産器	壺	胴部	-	-	-	T (平行)	-	-	-	-	B		
128	55	33	第1号壺穴状器(S19)	埋土	磁器	深鉢	L1-胴部	-	-	-	-	-	-	-	(1.8)			瀬戸・島田蔵 19c 1号輪軸からの流石込み
129	56	33	第3号土坑(SK3)	埋土	磁器	深鉢							-	-	(1.8)			中園蔵 明家
130	56	33	第3号土坑(SK3)	埋土下部	土製品	磁石							長さ 2.9	幅 2.8	厚さ 1.6	重さ 8.23g	孔径 0.3mm	
131	56	33	第4号土坑(SK4)	1層	縄文土器	深鉢							-	-	-			R L編文
132	56	33	第10号土坑(SK10)	埋土 取り上げB層	土師器	坏	L1-胴部	R	R	R	R	-	(15.0)	-	(3.3)	A Ⅱ	造成不決	
133	56	33	第10号土坑(SK10)	埋土	灰産器	坏	口-胴部	R	R	R	R	-	(16.8)	-	(3.4)	B		
134	56	33	第10号土坑(SK10)	埋土	灰産器	坏	L1-胴部	R	R	R	R	-	(17.0)	-	(2.2)	B		
135	56	33	第10号土坑(SK10)	埋土 取り上げB層	土師器	壺	口-胴部	R	R	R-T (平行)	R	-	(21.8)	-	(11.2)	A Ⅱ		
136	56	33	第10号土坑(SK10)	埋土 取り上げB層	土師器	壺	口-胴部	R	R	R	R-N	-	(22.0)	-	(10.1)	A Ⅱ		
137	56	33	第10号土坑(SK10)	埋土	土師器	壺	口-胴部	R	R	R	R	-	(16.0)	-	(7.2)	A Ⅱ		
138	56	33	第10号土坑(SK10)	埋土	土師器	壺	胴-底縁	-	N	-	K	-	-	-	6.7	(26.1)	A Ⅰ	
139	56	33	第10号土坑(SK10)	埋土	土師器	壺	胴-底縁	-	R	-	R	K	-	-	(6.4)	(8.5)	A Ⅰ	
140	56	33	第10号土坑(SK10)	埋土	土製品	伊達							-	-	-	重さ 347.80g		
141	57	33	第11号土坑(SK11)	埋土 取り上げB層	土師器	壺	口-胴部	Y	N	Y	N	-	(17.0)	-	(7.8)	A Ⅰ	コシキ	

No.	区画番号	遺構名	出土地点・層位	種類	素材	部位	内面調整 (口縁部)	内面調整 (胴部)	外面調整 (口縁部)	外面調整 (胴部)	内径(cm)	外径(cm)	器高(cm)	土器分類	備考						
142	57	33	第11号土坑(S K 11)	埴土	取リ上りNo.1	土師器	素	刷一高部	—	—	—	—	9.6 (6.2)	A 1							
143	57	33	第11号土坑(S K 11)	1層		土師器	素	刷一高部	—	—	—	—	9.0 (3.0)	A 1							
144	57	33	第11号土坑(S K 11)	1層		縄文土器	素	刷	—	—	—	—	—		L.瓦縄文						
145	57	34	第12号土坑(S K 12)	埴土		土師器	素	口縁部	Y→K?	—	Y	—	—	(2.9)	A 1						
146	57	34	第12号土坑(S K 12)	埴土		土師器	素	口縁部	Y	—	Y	—	—	(3.1)	A 1						
147	57	34	第12号土坑(S K 12)	埴土		土師器	素	底面	—	—	—	—	—	(6.2)	(1.2)						
148	57	34	第12号土坑(S K 12)	埴土		埴器跡	坏	胴部	—	R	—	—	—	—	A 1						
149	57	34	第12号土坑(S K 12)	1層		土師器	坏	口一胴部	R	R	R	R→M	—	(11.5)	(5.8)	1.5	B	内底 切り懸し不明・内面調整あり(ナナクウケアリ)			
150	57	34	第14号土坑(S K 14)	埴土		埴器跡	坏	口一胴部	R	R	R	R→N	—	回転跡あり(12.4)	(4.6)	5.2	A B Ⅱ 1				
151	57	34	第14号土坑(S K 14)	埴土		埴器跡	坏	胴部	—	A (平打)	—	T (平打)	—	—	—	—	B Ⅱ a				
152	57	34	第16号土坑(S K 16)	2層破断		土師器	素	口一胴部	Y	H	Y	N	—	—	—	—	(8.4)	B			
153	57	34	第16号土坑(S K 16)	埴土		土師器	素	底面	—	N	—	—	—	—	(7.2)	(1.5)	A 1				
154	57	34	第16号土坑(S K 16)	埴土		埴器跡	素	口一胴部	R	—	T (平打)→R	—	R?	—	(22.8)	—	(4.5)	A 1	色調白褐色		
155	57	34	第23号土坑(S K 23)	1, 2層		土師器	素	刷一高部	—	N	—	R	—	—	(7.6)	—	B				
156	57	34	第2号溝跡(S D 3)	埴土		土師器	坏	口一胴部	R	R	R	R	—	—	—	—	(3.8)	A 1	内底		
157	57	34	第4号溝跡(S D 9)	埴土		埴器跡	坏	胴部	—	R	—	R	—	—	—	—	—	A B Ⅱ			
158	57	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土師器	高坏	刷一高部	—	M	—	R	—	—	—	—	(5.0)	B			
159	57	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土師器	素	口縁部	Y	—	Y	—	—	—	—	—	(3.8)	A 1			
160	58	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土師器	素	刷一高部	—	—	—	K	—	—	—	—	(7.4)	(2.7)	A 1		
161	58	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土師器	素	底面	—	N	—	K	—	—	—	—	—	(5.8)	(2.0)	A 1	
162	58	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		埴器跡	素	口縁部	R	—	R	—	—	—	—	—	—	(1.4)	A 1		
163	58	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		養生土器	鉢	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—		B	粘土土器 高約13cm 養生前期	
164	58	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		養生土器	鉢	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—		安粒文字土 養生前期		
165	58	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		陶器	丸皿	口縁部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(1.8)		湖沼・美濃産 灰緑 16c 質 大塚南年第2段階	
166	58	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		陶器	縁取皿・丸皿	底面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(6.2)	(1.0)	湖沼・美濃産 灰緑 16c 質 大塚南年第1or 2段階	
167	58	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		磁器	巻筒	胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(4.0)		有田産 18c
168	58	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		磁器	小型皿	底面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(6.4)	(1.4)	中国産 明末
169	58	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		磁器	皿	口一胴部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(3.2)		中国産 明末
170	58	34	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	コシキ 外径11cm、内径7cm	
171	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重238.49g	
172	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重227.27g	
173	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重204.11g	
174	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重273.17g	
175	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重214.91g	
176	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重3186.71g	
177	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重2 75.50g	
178	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重3107.93g	
179	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重3 76.30g	
180	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重2 72.46g	
181	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重2 86.67g	
182	58	35	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重2187.38g	
183	58	36	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重2586.16g	
184	58	36	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	伊勢 22と同一個体	
185	58	36	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重2692.80g	
186	58	36	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	伊勢 22と同一個体	
187	59	36	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重2 42.66g	
188	59	36	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重2 38.21g	
189	59	36	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重2102.91g	
190	59	36	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重2116.49g	
191	59	36	第1号溝跡(S D 2)	埴土		土製品	伊勢		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	重2112.61g	

No.	区番	道幅名	出土地点・方位	種類	形状	部位	内面調査 (口縁部)	内面調査 (胴部)	外面調査 (口縁部)	外面調査 (胴部)	外面調査 (底縁)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	土層分類	備考
200	58 36	第1号塚跡(SDB)	埋土	須恵器	壺	胴部	-	-	-	-	-	-	-	B		
201	60 36	第1号内形塚跡	Q3	土師器	杯	口-胴部	R	R	R	R	-	-	(3.4)	AⅡ		
202	60 36	第1号内形塚跡	Q3	須恵器	杯	口縁部	R	R	R	R	(16.0)	-	(3.0)	B		
203	60 36	第1号内形塚跡	Q4直上	須恵器	杯	底縁	-	R	-	R	回転糸切	(6.4)	(1.2)	BⅡa		
204	60 36	第1号内形塚跡	Q1	土師器	壺	口縁部	Y	-	Y	-	-	-	(3.0)	AⅠ		
205	60 36	第1号内形塚跡	Q4直上	土師器	壺	口-胴部	R	R	R	R	-	(19.4)	(3.8)	AⅡ	深付壺	
206	60 36	第1号内形塚跡	Q4直上	土師器	壺	口-胴部	R	R	R	R-N	(17.6)	-	(8.0)	AⅡ	深付壺	
207	60 36	第1号内形塚跡	Q4直上	須恵器	壺	胴部	-	A(平行)	-	T(平行)	-	-	-	B		
208	60 36	第1号内形塚跡	Q4直上	須恵器	壺	胴部	-	A(平行)	-	T(平行)	-	-	-	B		
209	60 36	第1号内形塚跡	Q4直上	須恵器	壺	胴部	-	A(平行)	-	T(平行)	-	-	-	B		
200	60 37	P12	埋土	海部	煎-底縁	胴部	-	-	-	-	-	(10.0)	(3.0)		濃緑色 灰濁 10c前後	
201	60 37	P38	埋土	石製品	砥石						長さ39.5	幅 9.1	厚さ 5.5	重さ1301.10g	石莫安山岩 奥羽山脈 柱穴列2号	
202	60 37	P70	埋土	須恵器	透反皿	口-胴部	-	-	-	-	-	-	(2.3)		中国産 明代	
203	60 37	P189	埋土	須恵器	透反皿	口-胴部	-	-	-	-	-	-	(2.4)		明産 明末 第1号竪立柱礎物跡	
204	60 37	P400	埋土	海部	大甕形	口縁部	-	-	-	-	-	-	(3.4)		濃緑色 口縁直立 12c後半 第2号竪立柱礎物跡	
205	60 37	P409	埋土	須恵器	壺	胴部	-	A(平行)	-	T(平行)	-	-	-		柱穴列3号	
206	61 37	P430	埋土	縄文土器	漆鉢	胴部	-	-	-	-	-	2.2	-		R.L縄文 器跡 第7号竪立柱礎物跡	
207	60 37	P438	埋土	土製品	土師						長さ 5.4	-	厚さ 2.6	重さ 15.89g	孔径0.3-0.6cm	
208	60 37	P442	埋土	土製品	砂盤						-	-	-	重さ 58.98g	コシキ 第1号竪立柱礎物跡	
209	60 37	P453	埋土	須恵器	蓋	口-胴部	-	-	-	-	-	8.1	(2.9)		産地・時期不明 第1号竪立柱礎物跡	
210	61 37	P454	埋土	須恵器	蓋	口-胴部	-	-	-	-	9.8	(10.4)	2.9		重さ275.82g 第2号竪立柱礎物跡	
211	61 37	P467	埋土	土師器	壺	胴-底縁	-	R	-	R	-	-	(4.8)	AⅡ	内面調査	
212	61 37	P475	埋土	須恵器	蓋	口-胴部	-	-	-	-	-	-	幅 6.4	(3.6)		産地・時期不明
213	61 37	P515	埋土	土製品	埴輪						長さ 11.2	幅 6.7	厚さ 5.4		重さ201.35g 第3号竪立柱礎物跡	
214	61 38	P515	埋土	石製品	砥石						長さ 13.4	-	厚さ 4.5		重さ265.42g 石莫安山岩 奥羽山脈 第3号竪立柱礎物跡	
215	61 38	P576	埋土	土製品	伊勢						-	-	-	重さ111.08g	コシキ	
216	61 38	P576	埋土	土製品	伊勢						-	-	-	重さ140.04g	コシキ	
217	61 38	P576	埋土	土製品	伊勢						-	-	-	重さ124.47g	コシキ	
218	61 38	P591	埋土	土製品	伊勢						-	-	-	重さ 41.77g	第4号竪立柱礎物跡	
219	62 38	P712	埋土	土製品	埴輪	口-底縁	-	-	-	-	(17.0)	-	4.4	AⅠbⅠ	濃緑 柱穴列4号	
220	62 38	P750	埋土	土製品	鉢形						-	-	-	重さ207.37g	外径17.8cm 内径14.0cm、口径3.0cm、厚さ2.7-3.2cm	
221	62 38	P750	埋土	土製品	鉢形						-	-	-	重さ263.19g		
222	62 38	P750	埋土	土製品	鉢形						-	-	-	重さ131.38g		
223	38	P773	埋土	土製品	伊勢						-	(7.4)	-	重さ154.14g	コシキ	
224	63 39	遺構外	BⅡa6 煎壺	土師器	杯	胴-底縁	-	R	-	R	回転糸切-R	(6.6)	2.6	AⅡa2	内照	
225	63 39	遺構外	BⅡc1 Q4 甕	土師器	底縁						-	-	(9.9)	AⅡ		
226	63 39	遺構外	AⅡa0 IV形下	須恵器	杯	口-胴部	R	R	R	R-N	(13.2)	(4.4)	(4.6)	BⅡ		
227	63 39	遺構外	AⅡa3 煎壺	須恵器	杯	胴-底縁	-	R	-	R	回転糸切	(6.0)	(1.2)	BⅡa		
228	63 39	遺構外	BⅡe1 Q1 甕	須恵器	杯	胴-底縁	-	R	-	R	回転糸切	(6.4)	(1.5)	BⅡa		
229	63 39	遺構外	BⅡa4 煎壺	須恵器	高台付杯	胴-底縁	-	R	-	R	回転糸切	-	(1.7)	BⅡc	高台の高0.7cm	
230	63 39	遺構外	BⅡb1 Q3 甕 or 1号	土師器	壺	口-胴部	Y	N	Y	N	(19.0)	-	(6.8)	AⅠ		
231	63 39	遺構外	AⅡa0 IV形下	土師器	壺	口-胴部	R	R	R	R	(19.8)	-	(7.1)	AⅡ		
232	63 39	遺構外	南西隅 礎石	土師器	壺	口-胴部	Y	N	Y	N	(15.7)	-	(4.8)	AⅠ		
233	63 39	遺構外	BⅡa5 灰土中	土師器	壺	口-胴部	Y	N	Y	N	(16.0)	(9.8)	(7.1)	AⅠ		
234	63 39	遺構外	BⅡb1 Q3 甕 or 1号	土師器	壺	胴-底縁	-	N	-	N	-	-	(8.0)	(3.6)	AⅠ	
235	63 39	遺構外	BⅡb3 IV層上層	土師器	壺	胴-底縁	-	N	-	N	-	-	-	(1.8)	AⅠ	
236	63 39	遺構外	AⅡ14 甕	須恵器	壺	胴部	-	R-N	-	K	-	-	-	-	B	
237	64 30	遺構外	AⅡ12 IV層下	須恵器	壺	胴部	-	N	-	T(平行)	-	-	-	-	B	

No.	遺 番	発 番	遺構名	出土地点・相位	構成	設備	方位	内周調整 (口縁部)	内周調整 (胴部)	外周調整 (口縁部)	外周調整 (胴部)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土層分類	備考
238	64	29	遺構外	A B f 4 Ⅱ層	須恵器	甕	胴部	-	A (平行)	-	T (平行)	-	-	-	B	
239	63	29	遺構外	B B # 4 Ⅱ層	須恵器	甕	胴部	-	N	-	T (平行)	-	-	-	B	
240	64	29	遺構外	B B f 2 Ⅱ層	須恵器	甕	胴部	-	A (放射状)	-	?	-	-	-	B	
241	66	29	遺構外	B B b 1 Q 2 Ⅱ層	須恵器	甕	胴部	-	A (放射状)	-	T (平行)	-	-	-	B	
242	64	29	遺構外	B B b 1 Q 2 Ⅱ層	縄文土器	漆鉢	口縁部									
243	64	29	遺構外	1号土坑直上層	縄文土器	漆鉢	口縁部									口縁部山形
244	64	29	遺構外	A I J 0 Ⅱ層下	縄文土器	漆鉢	口縁部									沈積
245	64	29	遺構外	A I J 0 Ⅱ層下	縄文土器	漆鉢	口縁部									沈積 流状口縁
246	64	29	遺構外	A B # 4 Q 1 Ⅱ層	縄文土器	漆鉢	胴部									沈積 流状口縁
247	64	29	遺構外	A B f 8 Q 4 Ⅱ層	縄文土器	漆鉢	胴部									L R 縄文
248	64	29	遺構外	A B # 4 入口 B Ⅱ層	縄文土器	漆鉢	胴部									L R 縄文
249	64	29	遺構外	B B # 4 Ⅱ層	縄文土器	漆鉢	胴部									L R 縄文
250	64	29	遺構外	B C d 1 Ⅱ層	弥生土器	甕	口縁部									R L 縄文 沈積
251	64	29	遺構外	風刺木遺跡	弥生土器	甕	胴部									交互斜交文か 弥生後期
252	64	29	遺構外	A B # 4 Ⅱ層	かからけ	ワカロ	胴一底部	R	R	R	R	傾転未切	(8.4)	(6.8)	1.5	交野工字文 弥生前期
253	64	29	遺構外	B B # 4 Ⅱ層	かからけ	手づくね	胴一底部	N	N	N	N	-	(13.0)	-	2.0	新土跡層 12c 後半以降
254	64	40	遺構外	B I b 0 Ⅱ層	石部	石盤										12c後半 手づくね
255	64	40	遺構外	B B d 1 Q 4 Ⅱ層	石部	石盤							長さ 2.2	幅 1.0	厚さ 0.6	重さ 0.50g
256	64	40	遺構外	土坑で確認	石部	石部							長さ 2.3	幅 7.8	厚さ 0.4	重さ 1.16g
257	65	40	遺構外	B B # 1 Ⅱ層	石製品	石工具							長さ 8.9	幅 7.8	厚さ 2.7	重さ 845.45g
258	65	40	遺構外	A B # 1 Q 1 Ⅱ層下	石部	フレイク							長さ 10.7	幅 5.2	厚さ 1.2	重さ 194.73g
259	65	40	遺構外	B B # 4 Ⅱ層	陶器	甕	胴部	-	-	-	T	-	長さ 3.3	幅 2.9	厚さ 0.7	重さ 11.47g
260	65	40	遺構外	B B # 2 Ⅱ層	陶器	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	-	-	真砂 奥山山脈
261	65	40	遺構外	B B # 3 Ⅱ層	陶器	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	-	-	骨片層 12c 後 15-18は同一個体か
262	65	40	遺構外	A B J 3付近 灰土	陶器	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	-	-	骨片層 12c 後 15-18は同一個体か
263	65	40	遺構外	A B # 4 Q 1 Ⅱ層	陶器	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	-	-	骨片層 12c 後 15-18は同一個体か
264	65	40	遺構外	不明	陶器	皿	口縁部	-	-	-	-	-	-	-	-	骨片層 12c 後
265	65	40	遺構外	B B # 4	陶器	高反JarA甕	底面	-	-	-	-	-	(6.0)	(1.0)	-	高反Jar 骨片層 15c 末 大塚層年層 3 階層後
266	65	40	遺構外	文トレ1 磁器 c	陶器	甕	底面	-	-	-	-	-	(4.8)	(2.1)	-	陶器・陶磁器 灰胎 16c 末 大塚層年層 1or 2 段階
267	65	40	遺構外	B B b 3 Ⅱ層下	陶器	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	-	-	磁器層 17c 末-18c
268	65	40	遺構外	A B J 9 Ⅱ層下	陶器	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	-	-	流石見産 18c
269	65	40	遺構外	A B J 3形直上 or Ⅱ層下	陶器	鉢	胴一底部	-	-	-	-	-	-	-	-	磁器・時期不明
270	65	40	遺構外	A B f 4 Ⅱ層	陶器	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	-	-	在処未小 時期不明
271	65	40	遺構外	B B b 4 Ⅱ層	磁器	高反Jar	胴一底部	-	-	-	-	-	(2.4)	(2.0)	-	在処未小 時期は古代? 顔かく丁寧な造り
272	65	40	遺構外	不明	磁器	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	-	-	中国産 明代か
273	65	40	遺構外	A B i 2 Ⅱ層	磁器	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	-	-	有田産 青花文 18c 大塚層年層 Ⅱ L V 層
274	65	40	遺構外	A B i 5付近 Ⅱ-Ⅲ層	磁器	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
275	65	40	遺構外	B B b 3 Ⅱ層	磁器	甕	底面	-	-	-	-	-	(5.5)	(1.0)	-	原胎・時期不明
276	65	40	遺構外	B B b 3 Ⅱ層直上層	磁器	甕	底面	-	-	-	-	-	-	-	-	原胎・時期不明
277	65	40	遺構外	A I f 0 Ⅱ層下	土製品	鏡蓋									長さ 5.6	重さ 229.97g
278	65		遺構外	A I f 1 Ⅱ層下	土製品	鏡蓋										長さ 41.35cm

※表中のアルファベットについては、Y→ヨコナデ、R→ロクロナデ、N→ヘラナデ、H→ハケメ、K→ヘラケズリ、M→ヘラミダキ、T→タタキ、A→アテダによる調整を示す。

VI. まとめ

1. 奈良・平安時代の遺構と遺物

(1) 遺構

① 竪穴住居跡

〈平面形・規模〉

削平の他、他の遺構に切られていたり、調査区にかかるため全体形が分かるものは少ない。かろうじて第1号、4号竪穴住居跡でおおよそ全体形及び規模が確認できる。第1号竪穴住居跡は5.6×5.2mの隅丸方形、第4号竪穴住居跡は約5.1×4.8mのやや不整な隅丸方形である。その他、全体形は不明であるものの一辺ないし二辺の長さが分かっている竪穴住居跡も幾つかある。第2号竪穴住居跡は北東壁で3.2m、第7号竪穴住居跡は南壁で3.1m、第8号竪穴住居跡は南東壁で3.7m、北西壁で推定3.7m、第9号竪穴住居跡は南西壁で5.3mである。

〈カマド〉

カマドは第1号、2号、4号、8号、10号竪穴住居跡の計5棟で構築されているのが確認された。それぞれのカマドの位置は、第1号竪穴住居跡が北西壁中央部、主軸N-20°-Wで、第2号竪穴住居跡北西壁中央部、主軸N-46°-W、第4号竪穴住居跡北東壁やや北寄り、主軸N-77°-E、第8号竪穴住居跡は北東壁中央部、主軸N-80°-E、第10号竪穴住居跡は北東壁、主軸N-69°-Eである。構築方法は、袖部に芯材を用いずに壁の削り出しによるものと思われる。円礫等芯材と思われるものは検出されていない。煙道部は第8号竪穴住居跡で削り貫き式（トンネル式）が見られる。煙道の長さは約110cmあり、約36°の勾配で煙出に下る。その他3棟は、残存状態が悪く、燃焼部と煙道の一部が残っている程度である。

燃焼部は、上記5棟で確認されている他、第9号竪穴住居跡の西壁中央付近で焼土が検出されている。第1号掘跡に切られているため定かではないが、燃焼部の可能性がある。

以上のことから、カマドの構築位置に関して2つのグループ分けが可能である。

- A：北西壁にカマドを構築する（西へ20～46°傾く）…第1号、2号竪穴住居跡
- B：北東壁にカマドを構築する（東へ69～80°傾く）…第4号、7号、10号竪穴住居跡、

これら竪穴住居跡については、後述の土器分類形式から実年代を推定しているが、第1号、2号、10号竪穴住居跡は第Ⅰ期（8世紀代）第4号竪穴住居跡は第Ⅲ期（9世紀後半）、第7号竪穴住居跡は第Ⅱ期（9世紀初頭～前半）となる。したがって本遺跡においては、第10号竪穴住居跡は例外となるが、8世紀代の竪穴住居跡はA群に属し北西壁にカマドを構築し、9世紀代の竪穴住居跡はB群に属し北東壁にカマドを構築する傾向が概ね窺える。

〈壁・床〉

壁は概ね外傾しながら立ち上がる。壁高の残存高は最大で第3号竪穴住居跡の32cmである。概ね数cm～10cmである。第7号、10号竪穴住居跡は削平のため、壁の立ち上がりは一部分のみ確認されるにとどまった。床面はほぼ平坦で固くしまっているものが多い。第1号、4号竪穴住居跡では壁溝を検出した。第1号竪穴住居跡は全周に回り、上端幅15～45cm、深さ2～14cmを測る。一部で壁柱穴と思われる小柱穴を10基検出した。第4号竪穴住居跡は南壁沿いに回り、上端幅42cm、深さ14cmを測る。第9号竪穴住居跡では東辺～南辺にかけて最大7cmの掘り込みが見られたが、これは建て替え前の住居の輪郭の可能性はある。

〈主柱穴〉

第1号、8号、9号竪穴住居跡で検出された。第1号竪穴住居は4基（PP5、PP6、PP9、PP10）からなり、開口部径38～46cm、深さ42～61cmである。また、支えと思われる柱穴（PP11）も検出されている。第8号竪穴住居も4基（PP2、PP6、PP13、PP14）からなり、開口部径45～69cm、深さ11～22cmである。第9号竪穴住居は遺構が第1号堀跡に切られているため3基（PP3、PP9、PP8…第8号住居で登録）の検出で、開口部径34～52cm、深さ29～70cmである。また、第4号竪穴住居においてはPP10、PP11、PP16、PP18の4基がその可能性もある。開口部径28～42cm、深さ11～24cmである。

②円形周溝

調査区中央やや南寄りですべて1条検出された。第4号竪穴住居跡と重複しており、切り合い関係から本遺構が古いことが確認されている。削平により中央部の盛り上がりや墳墓の痕跡は確認されなかった。平面形は馬蹄形を呈し、規模は北西-南東方向で外径3m78cm、内径2m82cm、北東-南西方向で外径3m63cm、内径2m63cmを測る。溝の開口部幅36～54cm、底部幅15～30cm、深さ約20cmである。断面形は逆台形状を呈する。岩手県内では古墳時代末から平安時代の遺跡で同種の遺構が検出された例が比較的多く、末期古墳（8世紀頃）の周溝から円形周溝、そして方形周溝へと至る系譜が把握されている。本遺跡の東0.6kmの地点にある仙人東遺跡では、平安時代の周溝が13条検出されている。

(2) 遺物

竪穴住居跡及び竪穴状遺構、土坑等から奈良・平安時代の土師器及び須恵器等の土器類、石鏃や叢石、砥石等の石器・石製品、土鍾等の土製品等が出土している。ここでは、最も出土量の多い土器について若干の分析を行うこととする。

①分類

今回の調査で本遺跡から出土した土器は、成形にロクロを使用したものとロクロを使用しないものがある。器種では坏、高坏、高台付坏、甕、壺等が出土している。土器の分類にあたっては、器種及び焼成方法（酸化炭焼成と還元炭焼成）、ロクロ成形か否かを主要な識別形式とし、これに調整技法を付加する形で分類した。分類基準は下記のとおりである。

・分類基準

(坏)

A群：酸化炭焼成されているもの

I類：ロクロによって成形されていないもの（所謂、土師器）。

a種：ロクロ不使用で底部が丸底のもの。

1：体部に段を有するもの。

2：体部に段が無いもの。

b種：ロクロ不使用で底部が平底のもの。

1：体部に段を有するもの。

2：体部に段が無いもの。

II類：ロクロによって成形されるもの。

a種：内面にミガキ、黒色処理が施されるもの（所謂、土師器）。

- 1: 底部の切り離し技法が回転糸切りで、再調整が施されないもの。
- 2: 切り離し後に再調整されるもの。
- 3: 再調整のため切り離し技法が不明なもの。

b種: 内外面ともロクロ痕以外の調整を持たないもの。

- 1: 底部の切り離し技法が回転糸切りのもの (所謂、赤焼き土器)。
- 2: 切り離し後に再調整されるもの。
- 3: 切り離し技法が不明なもの。

B群: 還元炎焼成されているもの。(所謂、須恵器)

I類: 底部の切り離し技法が回転ヘラ切りによるもの。

- a種: 再調整が施されないもの。
- b種: 切り離し後再調整されるもの。

II類: 底部の切り離し技法が回転糸切りによるもの。

- a種: 再調整が施されないもの。
- b種: 切り離し後再調整されるもの。
- c種: 回転糸切り後、高台が付けられるもの。

(高坏・高台付坏)

A群: 酸化炎焼成されているもの。

- I類: ロクロによって成形されていないもの。
- II類: ロクロによって成形されているもの。

B群: 還元炎焼成されているもの。

(壺)

A群: 酸化炎焼成されているもの。

- I類: ロクロによって成形されないもの。
- II類: ロクロによって成形されているもの。

B群: 還元炎焼成されているもの。

(壺)

A群: 酸化炎焼成されているもの。

B群: 還元炎焼成されているもの。

②出土量の割合

器種は坏、高坏、高台付坏、壺、壺、鉢が出土した。坏は48点、高坏3点、高台付坏1点、壺は118点、壺2点、鉢1点を実測し、掲載した。

坏についてはA群(酸化焰焼成)は28点、B群(還元焰焼成)は20点である。各群における出土数は、A群I類でA Ia1が3点、A Ia1が2点、A Ib1が4点、A群II類でA IIa1が2点、A IIa2が2点、A IIa3が6点、A IIb2が2点である。B群II類でB IIaが9点、B IIbが1点、B IIcが1点である。B群I類は出土していない。

壺についてはA群は89点、B群は29点である。A群I類(非ロクロ成形)は61点、A群II類(ロクロ成形)は28点である。

その他、A群ではI類の高坏が3点、鉢が1点出土しており、B群では長頸壺が2点出土している。

③遺構別の組成

遺構毎の出土土器分類は第5表に示したとおりである。それをもとにさらに細分し、奈良時代、平安時代に該当すると思われる遺構について組成を見ることとする。

第1号竪穴住居跡…A Ia1・A Ib1・B群の坏、A I類の甕が出土した。

第2号竪穴住居跡…A Ia1・A Ia2・A I類の甕が出土した。

第3号竪穴住居跡…B群の壺が出土した。

第4号竪穴住居跡…A II a種・A II a2・A II a3、B群・B II a・B II bの坏、A II類・B群の甕、B群の長頸壺が出土した。

第5号竪穴住居跡…A I類の坏・A I類の甕が出土した。

第6号竪穴住居跡…A I類の高坏・B群・B II a種の坏、A I類の甕が出土した。

第7号竪穴住居跡…A I類の高坏・A II類・A II b2の坏、A I類の甕が出土した。

第8号竪穴住居跡…A II a1・B群・B II a種の坏、A I・A II・B群の甕、B群の長頸壺が出土した。

第9号竪穴住居跡…A Ib種の坏、A I類の甕が出土した。

第10号竪穴住居跡…A I類の甕が出土した。

第1号竪穴状遺構…A II b2・B II aの坏、A I類・B群の甕が出土した。

第10号土坑…A II類・B群の坏、A I類・A II類の甕が出土した。

第11号土坑…A I類の甕が出土した。

第12号土坑…A I類の甕が出土した。

第13号土坑…B群の坏が出土した。

第14号土坑…A II a1・B II a種の坏、B群の甕が出土した。

第16号土坑…A I類の甕、B群の甕が出土した。

第23号土坑…A I類の甕が出土した。

第1号円形周溝…A II類・B群・B II a種の坏、A I・A II・B群の甕が出土した。

(3) 小結

(2)において得られた資料をもとに、次の第I～III期に大きく分類した。出土点数が少ない遺構についても極力分類に努めた。但し、第3号竪穴住居跡及び第16号土坑、第1号円形周溝については出土資料が僅少であるため分類から除外した。

〈第I期〉

A I類の坏・甕が出土する時期である。第1号・2号・5号・6号・9号・10号竪穴住居跡、第11号・12号土坑がこの時期に相当する。

〈第II期〉

A I類・A II類・B II類の坏、A I類・A II類・B群の甕が出土する時期である。第7号・8号竪穴住居跡、第1号竪穴状遺構、第10号・14号・16号土坑がこの時期に相当する。

〈第III期〉

A II類・B II類の坏、A II類・B群の甕が出土する時期である。第4号竪穴住居跡がこの時期に該当する。

第5表 遺構別出土土器分類表

	A群 (殷火器構成)								B群 (殷元器構成)						合計	
	I類		II類		III類		IV類		I類			II類	III類	小計		
	1類	2類	1類	2類	1類	2類	1類	2類	1類	2類	その他					
第1号住居 (S I 1)					13				15			1			1	16
第2号住居 (S I 2)	3				4				7						0	7
第3号住居 (S I 3)									0						0	0
第4号住居 (S I 4)		10				14			24	2	2	5	1	10	34	
第5号住居 (S I 6)	1				1		1		3					0	3	
第6号住居 (S I 7)			1		8				9	1	1			2	11	
第7号住居 (S I 8)		2	1		6				9					0	9	
第8号住居 (S I 9)		1			3	6			10	2	1	4	1	8	18	
第9号住居 (S I 10)	1				4				5					0	5	
第10号住居 (S I 11)					2				2					0	2	
第1号塚穴状遺構 (S I 5)		1			1				2	1		4		5	7	
第10号土城 (S K 10)		1			1	4			6		2			2	8	
第11号土城 (S K 11)					3				3					0	3	
第12号土城 (S K 12)					3				3					0	3	
第13号土城 (S K 13)									0		1			1	1	
第14号土城 (S K 14)		1							1	1		1		2	3	
第16号土城 (S K 16)					2				2			1		1	3	
第23号土城 (S K 17)					1				1					0	1	
第2号溝 (S D 3)		1							1			1		1	2	
第4号溝 (S D 9)									0			1		1	1	
第1号遺跡 (S D 2)			1		3				4			1		1	5	
第1号埋跡 (S D 8)									0			1		1	1	
第1号門形遺構		1			1	2			4	1	1	3		5	8	
P 409									0			1		1	1	
P 467					1				1					0	1	
P 712	1								1					0	1	
遺構外		2			5	1			8	3	1	6		10	18	
合計	8	20	3	0	61	28	1	0	121	0	11	10	29	2	52	173

※底部が残存しておらずI類・II類に分類できない者は、その他として登録した。

以上の結果から、実年代を想定する。該期の土器編年研究は相原康二氏（1981）、高橋信雄氏（1982）、八木光剛氏（1992）、伊藤博幸氏（1998）等のものであるので、これらを参考としたい。

〈第Ⅰ期〉は、相原編年Ⅴ群、高橋編年Ⅱ-2群、八木編年D・E群、伊藤編年f・g・h群に相当するものと思われる。時期は8世紀代とするが、中葉-後半が中心であろう。

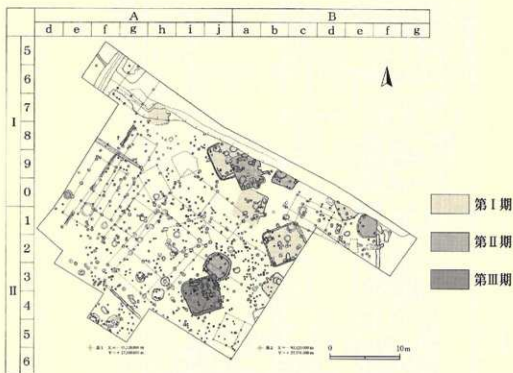
〈第Ⅱ期〉は、相原編年Ⅴ群、高橋編年Ⅲ-1群、八木編年F群、伊藤編年i・j群に相当するものと思われる。時期は9世紀初頭-前半とする。

〈第Ⅲ期〉は、相原編年Ⅸ群、高橋編年Ⅲ-2群、八木編年G群、伊藤編年k群に相当するものと思われる。時期は9世紀後半とする。

さらに、細分をすれば、第Ⅰ期については、第9号竪穴住居が最も古く8世紀第2四半期-中葉、第1号、6号竪穴式住居、第11号土坑が8世紀中葉-第3四半期、第2号、5号竪穴住居跡、第12号土坑が8世紀第4四半期、第10号竪穴住居跡は広く8世紀中頃-後半代と捉えている。第Ⅱ期については、第7号竪穴住居跡、第1号竪穴状遺構、第10号、16号土坑が9世紀第1四半期、第8号竪穴住居跡が9世紀第2四半期、第14号土坑は広く9世紀前半代と捉えている。

なお、出土資料が少ないため分類から除外した第1号円形周溝であるが、堯がロクロ成形のみであることを重視し、また切り合い関係から第Ⅲ期に属する第4号竪穴住居跡より古いことを考え併せる第Ⅱ期、9世紀前半代に該当することが予想される。

以上、実年代の想定を行ったが、資料数が少ない中で敢えて時期決定を行ったものも少なくないため、時期にはある程度の幅があるものと思われる。



第66図 奈良・平安時代の遺構変遷図

2. 中世の遺構と遺物

(1) 遺構

①掘立柱建物跡

10棟検出されており、そのうち間尺、埴土、出土遺物等から第1号、2号、3号、4号、5号、6号掘立柱建物跡6棟が中世に属するものと思われる。

〈平面形式・規模〉

第1号掘立柱建物跡は桁行3間×梁行3間に桁行両側に廂が付く建物で、面積は65.8㎡(19.9坪)である。第2号掘立柱建物跡は桁行3間×梁行2間の建物で、面積は22.1㎡(6.7坪)、第3号掘立柱建物跡は桁行4間×梁行2間の建物で、面積は45.0㎡(13.6坪)、第4号掘立柱建物跡は桁行6間×梁行1間建物で、面積は39.5㎡(12.0坪)、第5号掘立柱建物跡は桁行3間×梁行1間の建物で、面積は22.3㎡(6.7坪)、第6号掘立柱建物跡は桁行3間×梁行1間の建物で、面積は20.1㎡(6.1坪)である。また、第1号掘立柱建物跡については南側に柱筋の一致する柱穴が検出されており、桁行は4間となる可能性がある。

〈重複・新旧関係〉

掘立柱建物跡同士の遺構の重複は、第1号掘立柱建物跡と第2号掘立柱建物跡、第3号掘立柱建物跡と第4号掘立柱建物跡、第5号掘立柱建物跡と第6号掘立柱建物跡に見られる。新旧関係が分かるものは第1号掘立柱建物跡と第2号掘立柱建物跡で、第1号掘立柱建物跡が古い。その他については柱穴の切り合いがなく、不明である。

〈建物の性格〉

第1号掘立柱建物跡は、可能性として御堂的な性格があるものと思われる。その模倣として、まず第1に方3間の平面形式であることが挙げられる。一般に御堂は方3間であることが多く、金ヶ崎町本宮遺跡調査報告書では、現存する本宮十一面観音堂が紹介されている。この建物は1600年代中頃まで遡ると見られるが、やはり方3間である。第2に建て替えの痕跡がなく、柱の掘り方も大きいことが挙げられる。御堂であれば、一般の建物と違って最初から建て替えを想定しないであろうから、一般に柱の掘り方の規模が大きくなるようである。実際、他の建物と違い柱の掘方桁行の内柱で48～72cmと大きく、深さも49～72cmある。

しかしながら一方で、柱筋の一致する柱穴4基(P191、P450、P453、P809)が南側で検出されている。これを同一建物と見ると、方3間ではなくなる。これら柱穴は掘り方及び埴土とも非常に似ている。また、仮に方3間の建物と無関係とすると逆にこれらの柱穴に関連する建物が存在しないことになる。因みに金ヶ崎町柏山館跡では、桁行3間×梁行1間の建物に東側、西側、北側に廂を持つ建物(第3グループC1号掘立柱建物跡)が検出されている。柏山館においては建て替えが行われた建物群が主流を占めるが、この建物は痕跡がない。報告書においては、建物の性格に関する記述はないが、平面形式及び建て替えの痕跡がない点は共通する。いずれ更に検討を要する建物と言えよう。

第4号掘立柱建物跡は桁行6間×梁行1間の検出である。主軸はN-30°-Eである。同時期に存在していたかどうかは不明であるが、礎跡と考えている遺構にほぼ平行すること、また細長い平面形式から、この建物跡は馬屋の可能性のあるものと思われる。馬を1頭ずつ分ける間仕切りの柱痕跡は検出されていないが、間仕切り程度であれば浅い柱穴でも構わないため、その後の削平によりなくなったものと考えている。

第5号、6号掘立柱建物跡は大きさからともに付属小屋と思われる。新旧関係は不明であるが、建物規模及び柱の位置が似通っていることから、建て替えが行われたものと思われる。

②堀跡

調査区北端部沿い及び北西端で2条検出した。第1号堀跡は、調査区外に延びるため全体形は不明であるが、概ね線状を呈する。検出長は約47.2mで、軸線方向はN-58°-Wである。開口部幅は遺構全体が検出されていないため不明である。また、北東部付近では池状の広がりを持つ。深さは池状部分で45cm前後で、東に向かって徐々に傾斜し、深さは70-80cm程度になる。

第2号堀跡は第1号堀跡にほぼ直交するように検出された。ほぼ真っ直ぐの線状を呈し、軸線方向はN-33°-Eである。検出長は6m28cmで、開口部幅は168cm-280cm、深さは約100cmある。断面形はV字状を呈し、壁は底面から埋土中頃までやや急に外傾し立ち上がるが、検出面までは緩やかな立ち上がりとなる。また、第2号堀跡の西側すぐ傍により大きな堀が平行して現存しており、第2号堀跡は内堀としての機能も想定される。

遺構の新旧関係については、第1号堀跡が第2号堀跡にぶつかるとして終わっていることから、第2号堀跡構築後に第1号堀跡が構築され、同時存在していたものと思われる。

なお、第1号、2号堀跡とも埋土の様相から水堀であったと考えられ、防御機能の他、灌漑施設(堰)としての機能を果たしていたものと思われる。

③橋跡

第1号堀跡の西端で検出された。遺構が調査区外に延びるため全体形は不明である。検出された柱穴は8基で、陸が4基、堀の法面3基、堀の底面1基である。規模は陸4基が深さ8-15cm、法面が43-47cm、底面が26cmとなり、法面が深くなっている。深さの違いは橋の構造に関連するものと思われる。また、橋の幅は柱の間隔から約412cm前後あったものと推定される。

④堀跡

調査区西側で1条検出された。ほぼ真っ直ぐな溝状の布掘りに一定間隔で柱穴が並ぶ。軸線方向はN-35°-Eである。検出長は推定部分も含め約18m50cmで、布掘りの開口部幅は24-44cm、深さは2-7cmである。柱痕跡は11基を数えたが、北側部分がP586・P587に続くのか、P717・P720に続くのか判断し兼ねた。柱穴の規模は開口部径20-44cm、深さは10-53cmである。柱間寸法は215cm(7.1尺)-235cm(7.4尺)が主となる。柱間の板材及び板痕跡は検出されておらず、詳細な構造は不明である。

(2) 遺物

①陶磁器

東館が城館として機能していたと思われる16世紀代に該当する陶磁器は、全部で10点が出土している。内訳は中国産、すなわち明代の柴付磁器が6点、瀬戸・美濃産の陶器が4点である。

遺構内と遺構外に分けて見ていくと、遺構内から7点出している。内訳は中国産が5点、瀬戸・美濃産が2点である。中国産は129、168、169、202、203で、器種は129は鉢、168は小型皿、169は皿、202、203は端反皿である。時期は明末と思われる。出土地点は、129は第3号土坑からの出土であるが、近現代の碗も出土していることから流れ込みによるものと思われる。168、169は第1号堀跡からの出土である。202はP70から、203はP189から出土した。P189は第1号掘立柱建物跡を構成する柱穴である。瀬戸・美濃産は165、166で、器種は165が丸皿、166が端反皿もしくは丸皿である。165は大窩編年第2段階、166は大窩編年代1ない

し第2段階に該当する。ともに第1号掘跡からの出土である。

遺構外からは3点の出土である。中国産の磁器が1点、瀬戸・美濃産の陶器が2点である。271は中国産明代の端反碗である。264は美濃産の折縁皿で大塚編年第3段階後半（16世紀末）に該当する。265は瀬戸・美濃産の端反碗ないし丸皿で大塚編年第1段階もしくは第2段階（ともに16世紀前半）に該当する。

② 跡物関連遺物

調査区全体で鑄造炉の炉壁、鑄型が大コンテナ1箱強の他、増埴（取瓶）、鉄塊が出土した。掲載点数は炉壁21点、鑄型11点、増埴2点、鉄塊1点である。

遺構別で見ると、第1号掘跡からが最も多く、炉壁15点、鑄型4点、増埴1点、第8号竪穴住居跡から鑄型1点、第10号土坑から炉壁1点、P442から炉壁1点、P454から鉄塊1点、P515から増埴1点、P578から炉壁3点、P591から鑄型1点、P750から鑄型3点、P773から炉壁1点、遺構外から鑄型2点である。この内、第8号竪穴住居及び第10号土坑から出土したのものに関しては、概述のとおり直接遺構に伴わないものと思われる。

〈炉体・羽口〉

溶解炉を構成する炉壁は21点掲載した。166は最も大きい破片である。推定胴径41cm、内径37cmである。内面はガラス化した鉄も付着しておらず、コシキの上部と思われる。これは水沢市鹿野遺跡で出土した18世紀後半代の炉体と同じ内径である。

178、215は炉体の口唇部と考えられる。熱はほとんど受けていない。215は輪積み成形する際の指圧痕が残る。

182は羽口もしくは羽口装着孔である。推定径約8cmである。羽口本体と想定すると、推定径から足踏みによる送風装置が用いられたものと思われる。また、羽口装着孔と想定すると、さらに羽口が装着されることになるため、羽口の内径は細くなるであろう。残念ながら、羽口と思われる遺物は出土していない。炉体への挿入角度は30～40°前後と思われるが、不明である。

37は炉鉢である。内面に黒褐色のガラス化した鉄滓が付着する。木炭の噛み込みも見られる。

〈鑄型〉

全部で11点の出土であるが、鑄造された製品が何であるかは不明である。

277は円形状を呈し、推定外径24.5cmある。粗真土、中真土、仕上げ真土（上真土）の鑄物土が明瞭に確認できる。また、湯を流した還元面があり、実際に使用されたものであることが分かる。平釜のつばの可能性もあるが、不明である。187は鑄物の型離れや肌合いをよくするために、木炭粉や黒鉛を水や粘土汁（はじろ）で溶いた黒味が塗られている。188は粗真土の段階で製作を放棄したものであろうか。円形状を呈し、推定径は13.2cmである。

〈増埴〉

2点の出土である。189は推定口径17.4cm、厚さは2.1cmである。213は増埴（取瓶）である。長さ11.7cm、幅6.4cm、凹部分は径6.8×5.2cm、深さ3.6cmである。重さは231.35gある。内面は鉄（湯）が流し込まれたため還元しており、先端部には鉄錆が付着する。

〈鉄塊〉

210は碗型状を呈する。上面は直径9.8cmの円形で、底面は直径8.1cmでほぼ平らである。最大厚は2.9cmである。表面は赤錆に覆われ、いたるところに大きな亀裂が見られる。重さは275.82gである。分析鑑定の結果、

操作の素材として使われた可能性が指摘されている。

なお、工房跡と考えられる遺構については検出されていない。第14号土坑は底面に焼土が検出され、第17号土坑ではボウル状を呈した底面に炭化物が多量に混入していたが、鋤物関連遺物の出土が埋土及び周辺からないたため、確証を得るに至っていない。

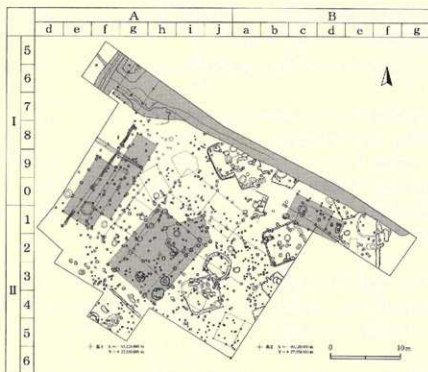
(3) 小結

①東館の内部構造について（軸線方向から）

東館は、概述のとおり安永風土記に記述されている城館ではあるが、詳細についてはこれまで不明であった。『岩手県中世城館分布調査報告書』によると、付近一帯を東館と呼び、西部は主郭で「内館」といい、東郭を「東館」という。西部・東郭を含めた全体の規模は東西200m、南北180mとされている。

今回の調査は館内東郭部分の調査であり、検出された遺構の中で中世と考えられる遺構は次のとおりである。また、軸線方向も併記した。

- 第1号掘立柱建物跡 N-40°-E
- 第2号掘立柱建物跡 N-75°-E
- 第3号掘立柱建物跡 N-31°-E
- 第4号掘立柱建物跡 N-30°-E
- 第5号掘立柱建物跡 N-16°-E
- 第6号掘立柱建物跡 N-15°-E
- 第1号堀跡 N-58°-W
- 第2号堀跡 N-33°-E



第67図 中世遺構分布図

第1号塀跡 N+385+E

第1号橋脚跡 N+38+E

これらから軸線は概ね東へ30°前後傾いているものが多いことが分かる。とりわけ第3号、4号掘立柱建物跡第2号堀跡、第1号橋脚跡、第1号塀跡（以上網掛け部分）は30～38°内の極僅かな範囲に収まる。

さらに、第2堀跡、第1号橋脚跡、第1号塀跡に限ってみてみることにする。仮に第2堀跡を真っ直ぐ延長した場合、塀跡との間隔は約6mとなるが、これは遺跡跡の可能性もあると思われる。その間の検出された柱穴数が僅かであることもその可能性を示唆していると言えよう。しかしながら、同一時期存在していたことを裏付けることは非常に困難であり、あくまで可能性の一つとして捉えておきたい。

② 存続年代及び性格

今回発掘調査を行った東館跡の存続年代を、出土した遺物の中で年代観の推測できるものとして国産の瀬戸・美濃窯陶器と中国産の時期がある。国産の瀬戸・美濃窯陶器は大窩編年では第1段階～3段階に相当し、概ね16世紀前半～末頃の製品として差し支えあるまい。中国産は白磁と染め付け磁器が出土しているが、流通品として市場から入手した品と推測すると、生産年代から遺跡年代の上限を推測する資料とはなりうるが遺跡の実年代の決定資料とはなり得ない。したがって、総合的に判断すると、東館跡が中世城館として機能したのは国産陶器の年代観から16世紀前半～末期に位置づけられる。これは、西郭である内館西側に曹洞宗の光明山安養寺の開創年永禄元（1558）年とも合致する。

また、今回調査された東館の東郭の特徴として、中世代の陶磁器の出土点数が10点と少なく、また総じて掘立柱建物跡の建て替えの形跡があまり見受けられなかったことが挙げられる。このことは、もともと主郭は西郭の内館であり、今回の調査範囲は主郭に対する東郭であることを物語り、また、その性格及び役割を示すものとは言えまいか。

3. おわりに

今回の発掘調査の結果、東館Ⅱ遺跡は奈良時代中頃～平安時代前半の集落跡及び中世城館跡を主体とする遺跡であることが明らかになった。竪穴式住居は8世紀中頃～9世紀代で、主に8世紀後半が多い。その占地から集落はさらに広く分布していたものと思われる。中世では、掘立柱建物跡や堀跡の他、塀跡や橋脚跡と想定される遺構が検出され、これまで詳細不明であった東館の構造の一端を窺い知ることができた。また、鋳物関連の遺物が出土したことにより、16世紀代に溶銕を作り、鋳型に注ぎ込んで鋳造鉄器を造る操作が行われていたことが事実になった。

今後、周辺地域及び近隣の中世城館跡が調査されることにより、本遺跡の特徴及び性格がより明確化するものと思われる。

〈参考文献〉

- 相原康二（1981）：『岩手県南部における古代の土器編年試案』『岩手県文化財発掘調査報告書第60集』岩手県教育委員会
- 高橋信雄・小田野哲憲・熊谷常正（1982）：『岩手の土器』岩手県立博物館
- 八木光則（1992）：『古代新波群と爾麻体の土器様相』第18回古代城柵官衙遺跡検討会資料集
- 伊藤博幸（1998）：『東北地方の古代集落 北上盆地南部の様相』第24回古代城柵官衙遺跡検討会資料集
- 瀬戸市（1993）：『瀬戸市史 陶磁史篇四』瀬戸市史編纂委員会
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1999）：『芋田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第304集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1999）：『台太郎遺跡第15次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第309集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1996）：『小幡遺跡第4次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第265集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1996）：『小幡遺跡第2次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第244集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1999）：『熊堂B遺跡第5次・台太郎遺跡第16次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第293集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1999）：『本宮熊堂B遺跡第4次・鬼柳A遺跡第4次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第308集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1999）：『上尾田の館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第300集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1996）：『松本館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第256集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1996）：『龍ヶ馬場遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第243集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1996）：『沢田・仙人東遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第230集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1997）：『白井坂Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第248集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（1988）：『石田Ⅱ・寺領・西光田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第130集
- 財団法人岩手県埋蔵文化財センター（1982）：『金ヶ崎バイパス関連遺跡発掘調査報告書（Ⅲ）』岩手県埋蔵文化財調査報告書第44集
- 財団法人水沢市埋蔵文化財調査センター（1996）：『杉の堂遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第7集
- 財団法人水沢市埋蔵文化財調査センター（1997）：『杉の堂遺跡群』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第9集
- 財団法人水沢市埋蔵文化財調査センター（1998）：『杉の堂遺跡群』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集
- 財団法人水沢市埋蔵文化財調査センター（1998）：『鹿野遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第11集
- 水沢市教育委員会（1979）：『林前遺跡』岩手県水沢市文化財報告書第3集

- 水沢市教育委員会 (1982) : 『杉の堂遺跡』岩手県水沢市文化財報告書第5集
- 水沢市教育委員会 (1983) : 『杉の堂遺跡』岩手県水沢市文化財報告書第10集
- 水沢市教育委員会 (1987) : 『水沢遺跡群範囲確認調査』岩手県水沢市文化財報告書第16集
- 水沢市教育委員会 (1987) : 『柳沢館遺跡』岩手県水沢市文化財報告書第28集
- 水沢市教育委員会 (1995) : 『水沢遺跡群範囲確認調査』岩手県水沢市文化財報告書第29集
- 水沢市教育委員会 (1997) : 『水沢遺跡群範囲確認調査』岩手県水沢市文化財報告書第31集
- 水沢市教育委員会 (1998) : 『水沢遺跡群範囲確認調査』岩手県水沢市文化財報告書第32集
- 江刺市教育委員会 (1997) : 『宮地Ⅱ遺跡発掘調査報告書 (A-D区)』岩手県江刺市埋蔵文化財調査報告書第15集
- 江刺市教育委員会 (1996) : 『平成7年度市内遺跡発掘調査報告書』岩手県江刺市埋蔵文化財調査報告書第14集
- 江刺市教育委員会 (1997) : 『平成8年度市内遺跡発掘調査報告書』岩手県江刺市埋蔵文化財調査報告書第16集
- 金ヶ崎町教育委員会 (1990) : 『柏山館跡遺跡』岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第18集
- 金ヶ崎町教育委員会 (1991) : 『揚場古墳・五葉館跡遺跡』岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第21集
- 金ヶ崎町教育委員会 (1993) : 『妻根遺跡』岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第27集
- 金ヶ崎町教育委員会 (1996) : 『本宮遺跡』岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第34集
- 金ヶ崎町教育委員会 (1997) : 『八幡館跡遺跡』岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第37集
- 金ヶ崎町教育委員会 (1999) : 『揚場94遺跡』岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第42集
- 金ヶ崎町中央生涯教育センター (1994) : 『金ヶ崎の城・館・櫓』平成5年度企画展図録
- 岩手県教育委員会 (1993) : 『岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成4年度)』岩手県文化財調査報告書第93集
- ※ 寺田遺跡
- 朝福島県文化センター (1989) : 『相馬開発関連遺跡調査報告Ⅰ』福島県文化財調査報告書第215集
- 朝福島県文化センター (1997) : 『相馬開発関連遺跡調査報告Ⅴ』福島県文化財調査報告書第333集
- 仙台市教育委員会 (1983) : 『富沢水田遺跡1』仙台市文化財調査報告書第67集
- 仙台市教育委員会 (1987) : 『南小泉遺跡 第14次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第109集
- 仙台市教育委員会 (1990) : 『南小泉遺跡 第16～18次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第140集
- 仙台市教育委員会 (1998) : 『南小泉遺跡 第26次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第225集
- 宮城県教育委員会 (1993) : 『上野館跡』宮城県文化財調査報告書第156集
- 福島県立博物館 (1993) : 『企画展 発掘くしよ』
- 北九州市立考古博物館 (1988) : 『北九州の中国陶磁—出土品にみる古代の日中交流—』
- 窪田蔵郎 (1983) : 『考古学ライブラリー-15 製鉄遺跡』ニュー・サイエンス社
- 平井勝 (1991) : 『考古学ライブラリー-64 弥生時代の石器』ニュー・サイエンス社
- 大橋康二 (1989) : 『考古学ライブラリー-55 肥前陶磁』ニュー・サイエンス社
- 五十川伸矢 (1996) : 『古代から中世前半における鑄鉄鑄物生産』『季刊考古学』第57号。雄山閣出版
- 赤沼英男 (1996) : 『城館跡出土物の組成からみた鉄器製作とその流通』『季刊考古学』第57号。雄山閣出版
- 高橋與右衛門 (1990) : 『掘立柱建物跡の間尺と時代性』『紀要Ⅸ (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター』
- 秋田県埋蔵文化財センター (1999) : 『堂の下遺跡 現地説明会資料』
- 大阪府教育委員会 (1993) : 『河内平野遺跡群の動態Ⅵ』

付篇

分析・鑑定

東館Ⅱ遺跡出土鉄関連遺物の金属考古学的調査結果

岩手県立博物館 赤沼 英男

1 はじめに

岩手県水沢市に立地する東館遺跡は、中世城館跡といわれている。1999年に行われた発掘調査によって、奈良および平安時代の竪穴住居跡、平安時代の竪穴状遺構、円形周溝が検出された。さらに、遺跡内の溝跡(堀と推定されている)からは、16世紀代と推定される美濃産陶器とともに鉄滓や炉壁が確認され、溝跡に近接するピットからは鋳型や埴壇、および取瓶が出土した。考古学の発掘調査結果をとおして、16世紀代に鋳造が実施されていた可能性の高いことが明らかとなったわけである¹⁾。

出土した鉄関連遺物を金属考古学的に調査した結果、粘土状物質に植物繊維を混ぜ合わせて築炉した平面が円形の溶解炉を用いて溶鉄を造り、それを取瓶に受け鋳型に流し込む鋳造操作が行われていたものと解釈された。以下では金属考古学的調査によって得られた知見について述べる。

2 調査資料

金属考古学的調査を行った資料は、SD2溝跡出土鉄滓・炉壁(分析番号No.1、No.3)、454ピット内出土碗形滓(分析番号No.2)、750ピット内出土鋳型(分析番号No.4)、515ピット内出土取瓶(分析番号No.5)の合計5点の遺物である。資料の内眼観察結果は表1に示すとおりであるが、特に注目すべき点として以下の3点を挙げることができる。

1) No.1鉄滓はゆるやかな曲率を有する。凸部分には灰褐色を呈する粘土状物質が付着しており、その内部に黒褐色のガラス化した鉄滓が付着している。鉄滓のところどころに赤錆が固着しており、木炭の噛み込みもみられた。残存する粘土状物質は被熱によって発泡し部分溶融していたが、植物繊維が混在しているという点で資料No.3とよく似ており、炉の一部と推定された。

2) No.2碗形滓は全体としてつば状を呈する。底面はほぼ平滑な直径8.1cm、上面は直径が9.8cmの円形で底面よりも広く、中心に向かって窪んでいる。厚さは2.9cm、資料表面はほぼ一様に赤錆で覆われ、いたるところに大きな亀裂がみられた。後述するとおり、金属考古学的調査の結果この資料は鉄塊であることが判明したが、以下ではその判定が確定するまでの間、考古学的内眼観察結果に基づき鉄滓と呼ぶことにする。

3) No.3炉壁は灰褐色を呈し、ゆるやかに湾曲している。凹面にはところどころに薄い赤錆層があり、炉材には植物繊維の混在が確認された。植物繊維を混ぜ合わせて築炉された炉壁の一部と推定される。顕著な発砲や部分溶融がみられなかったため、炉内反応部分から遠いところにあったとみることができる。

上述の内眼観察によって、粘土状物質に植物繊維を混ぜ合わせたものを素材として、平面が円形もしくはそれに近い構造となるような炉を造り、木炭の燃焼熱を熱源とした鉄の溶解と鋳造操作が行われていたものと推測された。以下では、No.1鉄滓に残存する粘土状物質とNo.3炉壁、およびNo.2碗形滓の組成に着目しつつ、金属考古学的調査とその考察を進めることとする。

3 調査方法

No. 1 鉄滓については凸部表面に残存する粘土状物質とその凹部に付着する黒褐色の鉄滓部分から、No. 3 炉壁、No. 4 鋤型、およびNo. 5 取瓶についてはダイヤモンドカッターを使って図1、図2、および図4に示す位置より0.5～1 gの試料片を抽出した。一方、No. 2 梘形滓についてはまずX線透過観察によって内部構造を確認し、均一な資料かどうかを確かめた後、同様にして図3に示した部分から試料片を切り出した。

No. 1 およびNo. 2 梘形滓から抽出した試料片については2分し、一方を組織観察に、もう一方をX線回折、化学成分分析に、No. 3 炉壁、No. 4 鋤型、No. 5 取瓶については化学成分分析及と吸熱・熱重量同時分析に供した。組織観察用試料は樹脂に埋め込みダイヤモンドペーストを使って研磨した後、金属顕微鏡で観察し、さらに残存する鉱物をエレクトロン・プローブ・マイクロアナライザー (EPMA) で分析した。

X線回折、化学成分分析、および吸熱・熱重量分析については表面に付着する土砂等を除去し、メノー乳鉢を使って粉砕した後分別し、それぞれの調査に付した。なお、化学成分分析は表2～表4に示す13成分を誘導結合プラズマ発光分光分析法 (ICP-AES法)、M.Feを鉄鉱石-金属鉄定量法、FeOを鉄鉱石-鉄 (Ⅱ) 酸可溶性滴定法により求めた。

4 調査結果

4-1 No. 1 鉄滓およびNo. 2 梘形滓の組織観察結果ならびにX線回折結果

No. 1 鉄滓 (図1 a) 凹部に固着する黒褐色の鉄滓から抽出した試料片 (図1 a S_{m1}) は、その全域がガラス化し、ところどころに鉄粒が観察された (図1 b₁)。マクロ組織の領域R1内部のEPMAによる組成像 (COMP) と定性分析結果によって、基質は酸化鉄を微量に含むK₂O-CaO-Al₂O₃-MgO-SiO₂系のガラス質けい酸塩 (S) であることがわかった (図1 b₁) に示す。X線回折パターンには石英 (Q) のピークが検出されたため (図3 a)、石英が残存していたことは確実である。領域R2にも鉄粒がみられ、EPMAによる組成像によってレーデブライト組織と推定された2) (図1 b₂)。

No. 1 鉄滓凸部表面に残存する粘土状物質から抽出した試料片 (図1 c₁) には、ガラス化した基質の中に鉄粒とともに暗灰色鉱物 (Q) が観察され、EPMAによる分析によって石英と判定された (図1 c₂)。図3 bのX線回折パターンにも明確な石英のピークが確認され、他にアルバイト (A) と思われるピークが認められた。組織観察結果とよく整合する結果である。図2 aのX線透過写真像 (図2 b) によると、No. 2 梘形滓には幾筋かの大きな亀裂がみられるが、球形の空隙はみられず、ほぼ均一な資料とみることができる。抽出した試料片は緻密な錯で構成されていた (図2 c)。図3 cのX線回折パターンには、ゲーサイト (FeOOH) のピークが確認され、通常鉄滓に起因するウスタイト (化学理論組成FeO)、鉄かんらん石 [2FeO·SiO₂]、ウルボスピネル (Fe₂TiO₄)、ヤイルメナイト (FeTiO₂) 等の鉄チタン酸化物は未検出にあった。肉眼観察結果によって、No. 2 は梘形滓とされたが、金属考古学的調査の結果、錆化が進んだ鉄塊であることが明らかとなったわけである。以下ではNo. 2 を鉄塊と呼ぶことにする。

4-2 抽出した試料片の化学組成

No. 1 鉄滓をはじめとする5点の資料から抽出した10試料片の化学組成を表2から表4に示す。No. 1 鉄滓黒褐色部のT.Feは4.93%、Si、Alはそれぞれ31.0%、10.2%含有されている。T.Feの多くは、鉄滓中に混在する鉄粒または錆に起因すると推定される (表2)。黒褐色部分に残存する錆を分別し分析した結果、35.41%のT.Fe、0.477%のPが検出された。操作に使用された鉄には相当量のPが含有されていた可能性が

高い。一方、No. 2 鉄塊から抽出した2つの試料片のT.Feはそれぞれ44.28、51.26%、Pは0.149、0.249%、Si、Alはそれぞれ3.80~6.94%、0.919~2.36%にあった。鉄塊が錆化したものであるとした組織観察結果とよく整合する(表3)。

No. 1 鉄滓凸部表面に残存する粘土状物質ならびにNo. 3 炉壁のT.Feはいずれも3~5%、Si、Alはそれぞれ26~32%、10%程度にあり、化学組成が近似している。No. 4 鋳型ならびにNo. 5 取瓶はSi、Alを主成分とし、数%のT.Feが含まれていた(表4)。

4-3 示差熱・熱重量変化曲線の測定

No. 3 炉壁から抽出した試料片の示差熱・熱重量変化曲線には800℃から始まり1500℃におわるブロードな吸熱のピークが、No. 4 取瓶ならびにNo. 5 鋳型から抽出した試料片では、それぞれ1200~1600℃に、1000~1300℃にやはりブロードな吸熱のピークがみられた(図4)。図4に従うと、No. 3 炉壁は1200℃近辺、No. 4 取瓶は1350℃近辺、No. 5 鋳型にあっては1100℃近辺で溶融もしくは部分溶融状態となったものと推定される。

5 考察

No. 1 鉄滓凸部に残存する粘土状物質は灰褐色を呈し、ところどころに植物繊維の混在が確認された。熱の影響によって発泡し、部分溶融している。抽出した試料片はほとんどがガラス化しており、わずかに石英の残存が確認された。この試料とNo. 3 炉壁とは、外観形状がよく似ている。No. 3 炉壁にも薄い錆層が付着していること、およびそれぞれの資料から抽出した試料片の化学組成も非常に近似していることを考え合わせると、粘土に砂と植物繊維を混ぜて造った素材で築炉した炉壁材の一部であったとみることができると。なお、岩手大学教育学部土屋信高博士により別途行われた岩石・鉱物学的研究によって、No. 1 鉄滓付着粘土状物質、No. 3 炉壁はともに粘土に安山岩質火山灰起源の砂を混ぜたものを素材とした可能性のあることが指摘されている。また、それぞれの資料の外観形状から炉の平面は円形を呈しているものと推定された。

資料No. 1 凹部に固着する鉄滓はほぼガラス化し黒褐色を呈していた。抽出した試料片にはところどころに石英がみられ、錆とともにレーデブライトからなる鉄粒も観察された。鉄滓はSi、Alを主成分としており、微量成分についても凸部に残存する粘土状物質、あるいはNo. 3 炉壁とほぼ同レベルにある。以上の点をふまえると、ガラス化した鉄滓は炉材の一部が溶融することによって生成したものである可能性が高い。No. 1 鉄滓の炉壁材は2.5cm厚、No. 3 炉壁は3cm厚で後者に比べ5mm程度薄い。このことも炉壁内壁の一部が溶融したとする見方を支持している。

以上の調査結果を総合すると、粘土に少量の安山岩質火山灰起源の砂と植物繊維を混ぜ、平面が円形もしくはそれに近い形状の炉を造り、炉内に銑鉄を挿入して溶銑の生成を計った可能性が高いと判断される。No. 3 炉壁の示差熱・熱重量変化曲線には、1200℃近辺にブロードな吸熱反応のピークが認められた。炉壁材の溶融もしくは部分溶融状態となる温度がこの付近、もしくはそれ以上であったとみることができると³⁾。4.26% Cの融点は1153℃であり²⁾、炉内温度をそれ以上に維持できれば溶銑を蓄えることが可能である。示差熱・熱重量変化曲線は、炉材が複数回にわたる溶解操作に十分耐え得ることを示している。

ところで、出土遺物の中には、曲率を有し凸部が黒褐色に溶融した資料が見いだされている(図5)。羽口を装着した孔の可能性が高い。凸部が熱の影響を受けているため、装着孔自体が炉内にあったとみなければならない。炉壁を貫通して、羽口装着孔が設備され、そこに外径約8cmの羽口が設置されたものと思わ

れる。これに該当する羽口が発見されれば、その可能性が高まるであろう。

No. 4 鋳型から抽出した試料片は、No. 3 炉壁同様Si、Alを主成分としており、数%のFeを含有していた。化学組成はNo. 3 炉壁ならびにNo. 1 鉄滓粘土状物質と近似する。No. 5 取瓶から抽出した試料片もNo. 4 とほぼ同じである。No. 4、No. 5 の示差熱・熱量変化曲線には、それぞれ1200～1600℃、1000～1300℃にブロードな吸熱のピークが認められた。溶銑を入れるのに十分耐えうる素材であったとみることができる。

以上の考察によって、東館Ⅱ遺跡では16世紀代に、溶銑を造り鋳型に注ぎ込んで鑄造鉄器を造る操作が行われていたことが確定となった。最後に問題となるのが、製作された製品と素材となった鉄銑の入手方法である。

出土した鋳型に完形品はなく、鑄込み面が円形を呈し平滑な鋳型 (No. 4) の他に、鑄込み面が凹凸を有する鋳型 (図6) も検出されている。No. 5 に示すように、小型の取瓶も確認されていることをふまえると、形状の異なる数種の鑄造鉄器が製作されていた可能性がある。この点についてはほぼ同時代に比定される館跡から出土した鑄造鉄器の形状と鋳型の比較を行い、製作された鉄器の器形を推測する必要がある。

一方、素材となった鉄銑の入手方法については以下の二つが想定される。一つは遺跡内もしくはその近傍で生産された、もう一つは他地域からの供給である。金属考古学的調査によって鉄塊であることが確認された資料No. 2はその形状を考慮すると、鉄銑であった可能性がある。鑄化が進んでいて健全な地金の状態を推定できる組織を見いだすことができなかったため、鋼塊か鉄塊かの識別は困難であった。No. 1 鉄滓中に残存する鉄鏽、No. 2 鉄塊にはともに相当量のPが含有されており、Ni、Coといった微量成分もほぼ同レベルにあることをふまえると、No. 2 鉄塊が操作の素材として使用された可能性がある。最近発見されている他の鑄造遺跡から検出された鉄塊の形状や組成と比較し、まずその点について明確にする必要がある。そのうえで遺跡内およびその周辺に賦存する製鉄原料の有無とその組成を比べ、遺跡内、もしくはその周辺での生産の可能性を検討することが不可欠である。ただし、西日本において確認された中世の鑄造遺跡において、鉄銑の供給を他地域に依存していた可能性が高いという調査結果が得られていること⁴⁾、鉄銑の流通が中世初頭にまで遡る可能性があるという最近の文献史学の調査結果⁵⁾を考慮すると、鉄銑の広域的流通という要素を視野に入れてその問題の解明を計る必要があると筆者は考える。今後の研究の進展に期待したい。

註

- 1) 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 朝倉雄大氏からのご教授による。
- 2) 『鉄鋼便覧Ⅰ基礎』丸善株式会社、1983、p.79。
- 3) 調査した試料片は実際に使用され部分溶融していた。未使用の試料片を使って分析すれば調査結果よりも溶融開始温度は上がるものと思われる。
- 4) 五十川伸矢「古代から中世前半における鑄鉄鑄物生産」季刊考古学、57、1996年、P.57-60。
- 5) 福田豊彦「近世前期、和鉄の生産と流通の基本形態」たたら研究、39、1999年、P.15-24。

表1 東館Ⅱ遺跡出土資料の概要

No.	資料名	検出遺跡構	外観上の特徴
1	鉄滓	SD2 溝跡中段	ゆるやかな曲率を有する厚さ約2.5cmの粘土状物質（植物繊維を含む）の凹面に、黒褐色の鉄滓が付着している。鉄滓にはところどころに木炭と錆が混在している。木炭を熱源とする操作に伴って生成した資料と推定される。
2	椀形滓	P454 埋土	外径約9.5cm、深さ約2.8cmの容器の中にあった金属が錆化したものと思われる。
3	炉壁	SD2 溝跡中段	植物繊維を含む粘土状物質で製作されており、厚さは約3cm、緩やかに湾曲する。凸面は灰褐色、凹面は灰褐色～黒褐色を呈している。部分溶解しところどころ気孔がみられ、一方の面には薄い鉄錆層も付着している。
4	鋳型	P750 埋土	円形の板状製品を製作する際に使用されたものと思われる。厚さは約3cmで鋳込み面に細かい砂と粘土を混ぜて作ったと思われる物質が薄く塗布されている。外面にはところどころに椀殻跡が見られる。鋳型を製作する際に椀殻を混ぜた可能性がある。
5	取瓶	P515 埋土	外面に鉄錆が付着している。少量の溶銲をわけとる際に使用したものと思われる。

表2 No.1鉄滓の分析結果

資料名	化学成分 (mass%)														鉱物組織
	T.Fe	FeO	M.Fe Cu	Mn	P	Ni	Co	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V	K	
鉄滓黒褐色部	4.93	0.28	0.44(0.001)	0.069	0.044	0.002	0.004	0.631	31.0	1.68	10.2	1.13	0.018	2.25	Q
鉄滓混在部	35.41	-	-0.001	0.023	0.477	0.002	0.002	0.154	11.2	0.404	3.38	0.316	0.015	-	-

注1) FeOは鉄鉱石-酸可溶性鉄(Ⅱ)法、M.Feは鉄鉱石-金属鉄定量法、他はICP-AES法による。

注2 Qは石英

表3 化学組成

化学成分 (mass%)													
資料名	T.Fe	Cu	Mn	P	Ni	Co	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V	K
碗形滓内側	44.28	0.001	0.021	0.149	0.003	0.005	0.077	6.94	0.105	2.36	0.166	0.007	-
碗形滓外側	51.26	0.001	0.008	0.249	0.008	0.010	0.036	3.80	0.121	0.919	0.074	0.010	0.027

注) 分析はICP-AES法による。

表4 粘土状物質の化学組成

化学成分 (mass%)														
No. 資料名	T.Fe	Cu	Mn	P	Ni	Co	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V	K	Igloss
1 鉄滓粘土	3.12	0.001	0.083	0.065	0.006	0.004	0.908	31.8	3.07	10.4	1.56	0.018	-	-
3 炉壁内側	3.45	0.001	0.024	0.278	0.002	0.003	0.399	27.9	0.632	10.2	0.590	0.016	-	-
3 炉壁外側	4.47	0.001	0.020	0.242	0.004	0.003	0.314	26.7	0.668	9.97	0.642	0.014	1.17	10.2
4 鋳型内側	4.47	0.001	0.058	0.074	0.004	0.003	0.347	28.8	1.55	9.41	1.30	0.015	-	-
4 鋳型外側	3.33	0.001	0.028	0.047	0.004	0.003	0.276	29.3	0.878	10.7	0.897	0.014	1.53	2.49
5 取瓶	6.25	0.001	0.062	0.044	0.005	0.003	0.364	28.4	1.59	9.59	1.35	0.014	-	1.46

注) 分析はICP-AES法による。

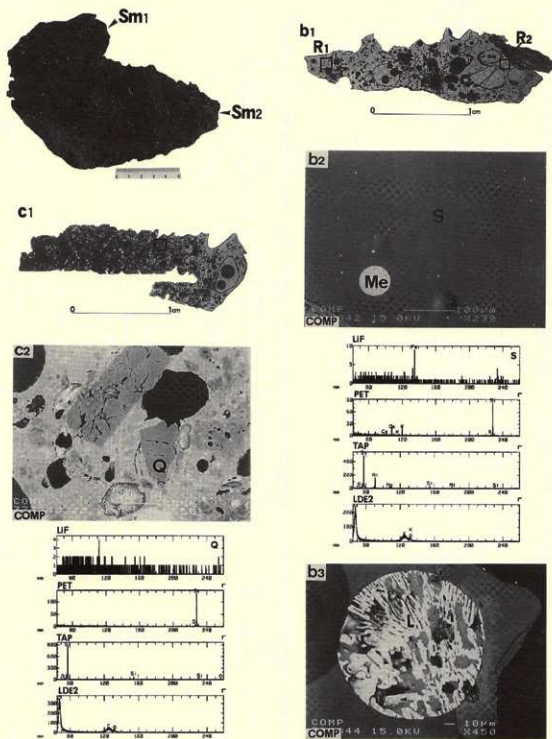


図1 No.1鉄滓の外観と抽出した試料片の組織観察結果
 a : 外観、矢印は試料片抽出位置。b₁・c₁ : aのSm₁、Sm₂のマクロ組織。b₂・b₃ : b₁領域R₁、R₂内部のEPMAによる組成像(COMP)。Sはガラス質けい酸塩。Meは鉄粒。Lはレーデブライト組織。c₂ : c₁領域R₁内部のEPMAによる組成像(COMP)、Qは石英。

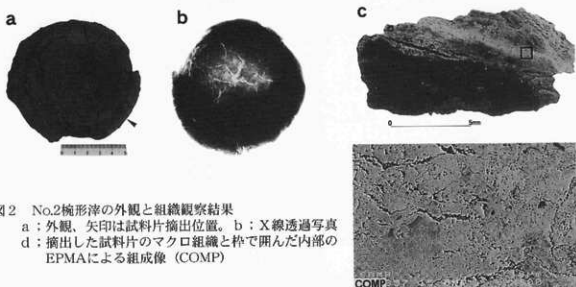


図2 No.2楕形滓の外観と組織観察結果
 a : 外観、矢印は試料片抽出位置。b : X線透過写真
 d : 抽出した試料片のマクロ組織と枠で囲んだ内部の
 EPMAによる組成像 (COMP)

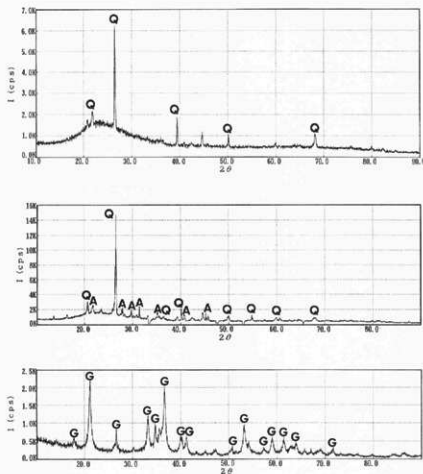


図3 No.1鉄滓ならびにNo.2楕形滓から抽出した試料片のX線回折像
 a : No.1黒褐色部分、b : No.1凸部残存粘土状物質、c : No.2楕形滓
 Q ; 石英、A ; アルバイト、G ; ゲーサイト (FeOOH)

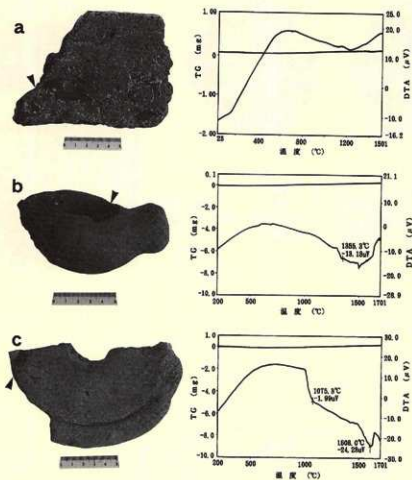


図4 抽出した試料片の示差熱・熱重量変化曲線
 a : No.3炉壁, b : No.4取瓶,
 c : No.5鋳型。測定はアルゴンガス気流下で実施。
 矢印は試料片抽出位置。



図5 羽口装着孔と思われる遺物の外観

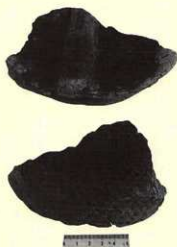
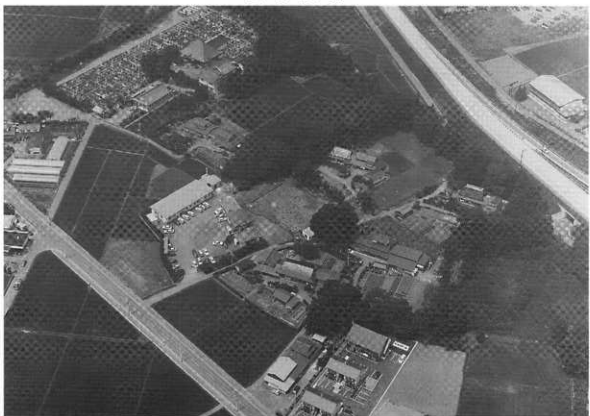


図6 鋳型の外観

写 真 图 版



遺跡遠景



遺跡全景①

写真図版1 遺跡遠景・遺跡全景①



遺跡全景②

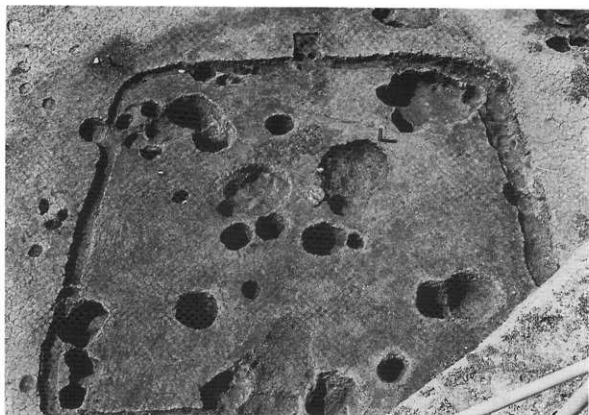


基本土層①(A-A')



基本土層②(B-B')

写真図版2 遺跡全景②・基本土層



平面



土层断面



煙道部断面



周溝断面



1号土坑平面

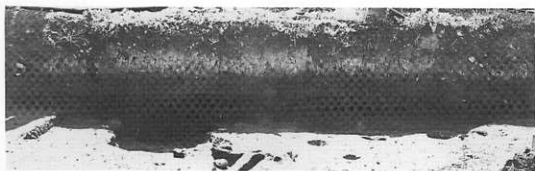


PP10平面

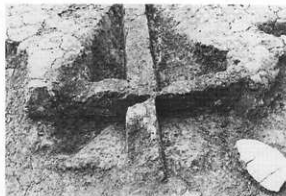
写真図版3 第1号竪穴住居跡



平 面



土層断面

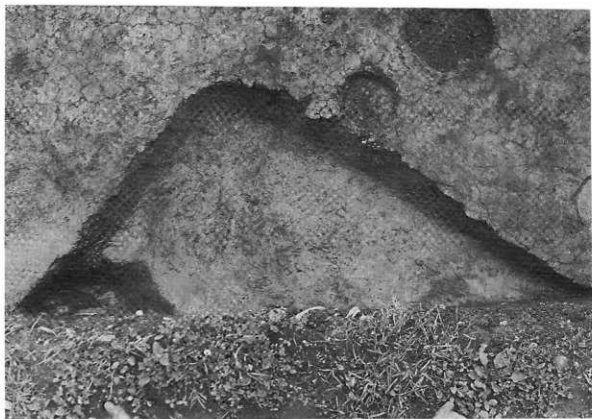


燃烧部断面



1号土坑平面

写真図版4 第2号竖穴住居跡



平 面

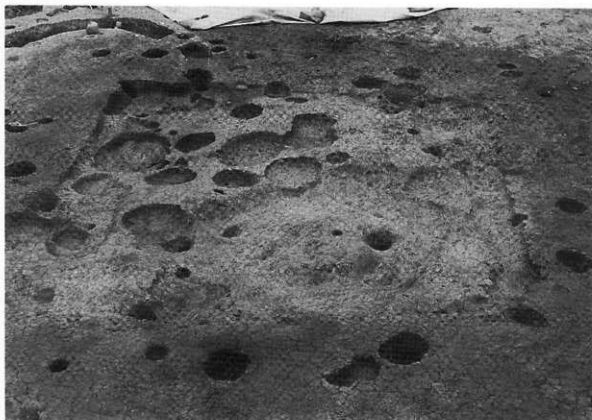


土層断面



1号土坑断面

写真図版5 第3号竖穴住居跡



平 面



土層断面



燃烧部断面



遺物出土状況

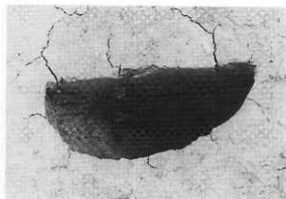
写真図版6 第4号竪穴住居跡



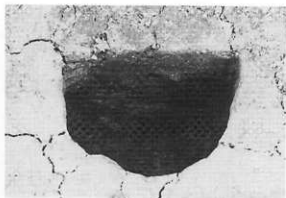
平 面



土層断面

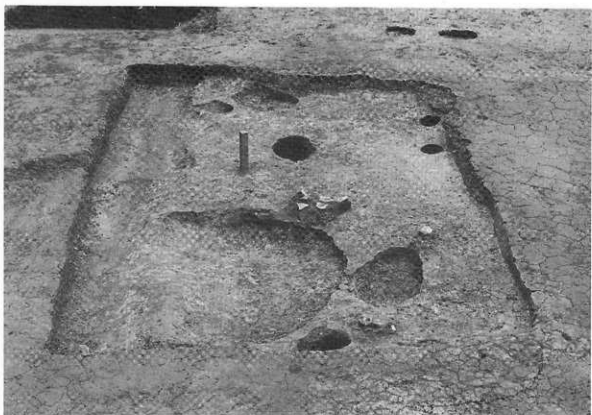


PP1断面

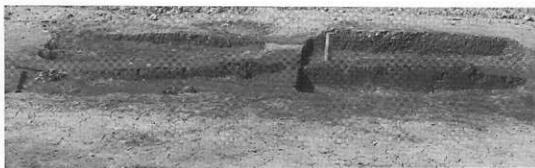


PP2断面

写真図版7 第5号竪穴住居跡



平 面



土層断面



1号土坑断面



遺物出土狀況

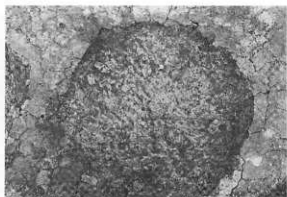
写真図版8 第6号竪穴住居跡



平 面



1号土坑平面



6号土坑平面

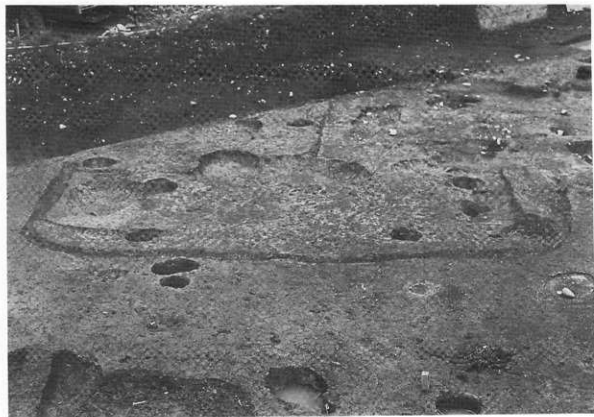


燃烧部断面

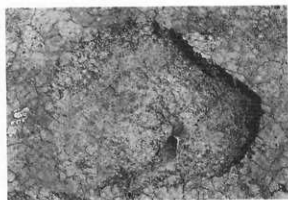


カマド平面

写真図版9 第8号竪穴住居跡



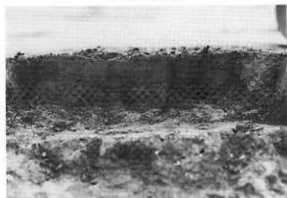
平 面



1号土坑平面



烧土平面

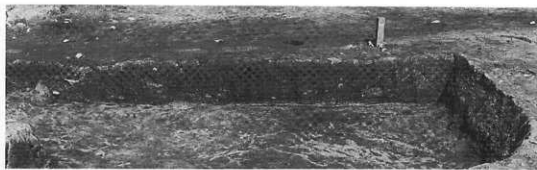


烧土断面

写真图版10 第9号竖穴住居跡



平 面



土层断面

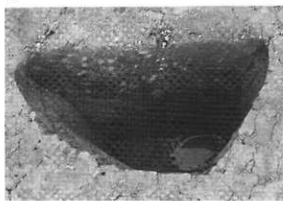
写真图版11 第1号竖穴状遺構



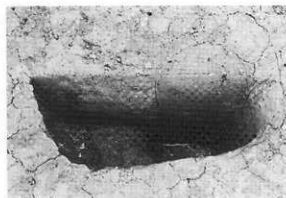
平 面



P632断面



P442断面



P443断面

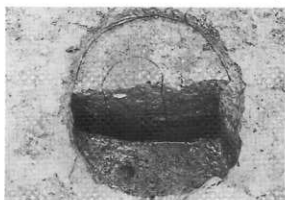


P447断面

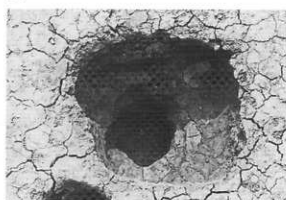
写真図版12 第1号掘立柱建物跡



平 面



P264断面



P385断面



P400断面



P449断面

写真図版 13 第2号掘立柱建物跡



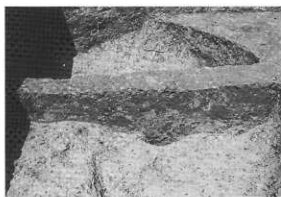
第1号土坑平面



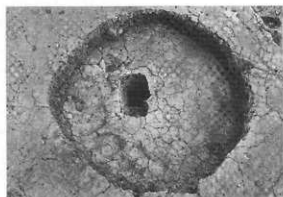
第1号土坑断面



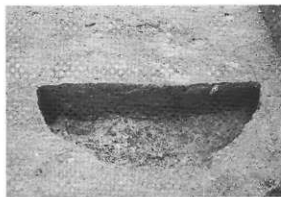
第2号土坑平面



第2号土坑断面



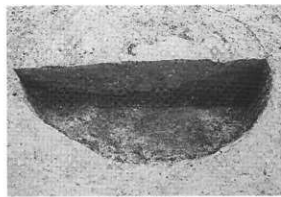
第3号土坑平面



第3号土坑断面



第4号土坑平面



第4号土坑断面

写真图版14 土坑(1)



第5号土坑平面



第5号土坑断面



第6号土坑平面



第6号土坑断面



第7号土坑平面



第8号土坑断面



第9号土坑平面



第9号土坑断面

写真图版 15 土坑(2)



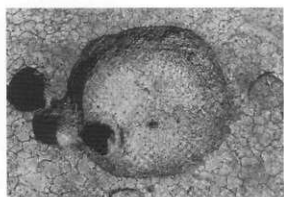
第10号土坑平面



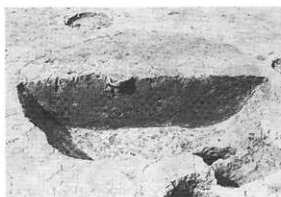
第10号土坑断面



第10号土坑遺物出土狀況



第11号土坑平面



第11号土坑断面



第12号土坑平面



第12号土坑断面

写真図版 16 土坑(3)



第13号土坑平面



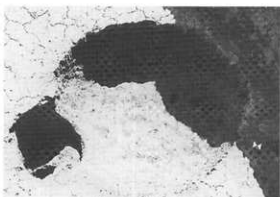
第13号土坑断面



第14号土坑平面



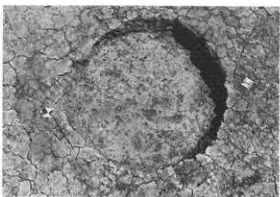
第14号土坑断面



第16号土坑平面



第16号土坑断面



第20号土坑平面



第20号土坑断面

写真图版 17 土坑(4)



第21号土坑平面



第21号土坑断面



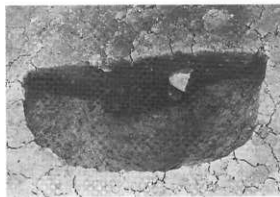
第22号土坑平面



第22号土坑断面



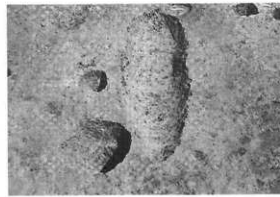
第23号土坑平面



第23号土坑断面

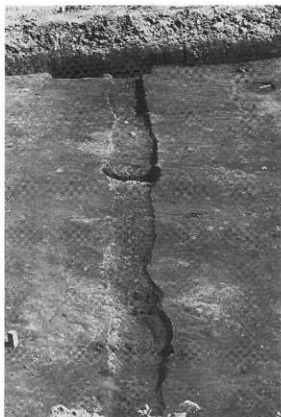


第24号土坑平面



第25号土坑平面

写真図版 18 土坑(5)



第1号溝跡平面



第1号溝跡断面 (A-A')



第1号溝跡断面 (B-B')



第2号溝跡平面



第2号溝跡断面

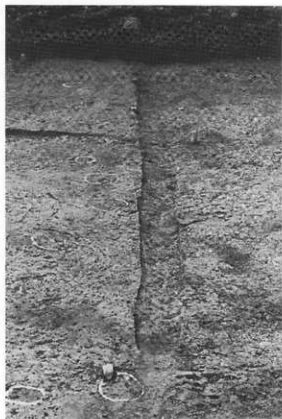


第1号・第2号溝状遺構平面

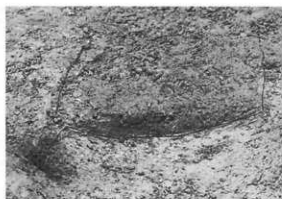


第1号溝状遺構断面 (A-A')

写真図版19 溝跡(1)・溝状遺構



第3号溝跡平面



第3号溝跡断面



第4号溝跡平面



第4号溝跡断面



作業風景

写真図版20 溝跡(2)



平 面



断面 (A-A')



断面 (B-B')



断面 (C-C')

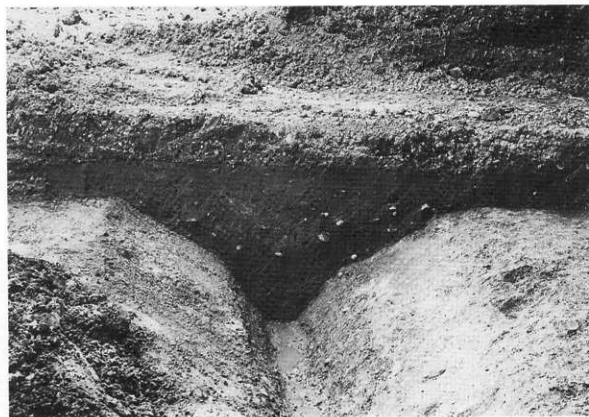


池状部分平面

写真图版21 第1号堀跡

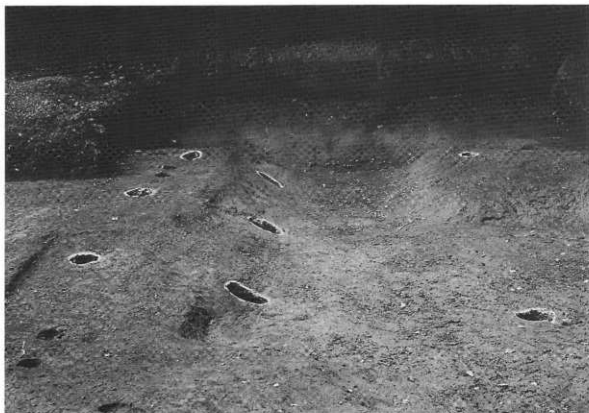


平 面

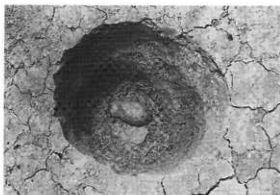


断 面

写真图版22 第2号掘跡



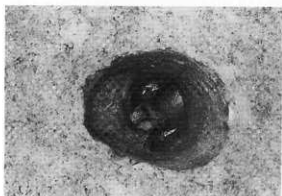
第1号橋脚跡平面



P515遺物出土状況

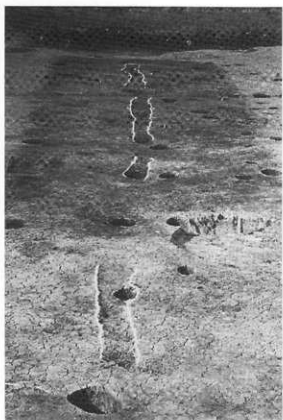


P515遺物出土状況

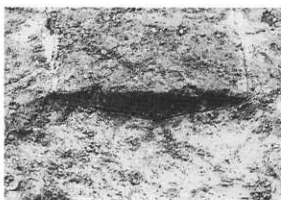


P38遺物出土状況

写真図版23 第1号橋脚跡・柱穴遺物出土状況



平 面



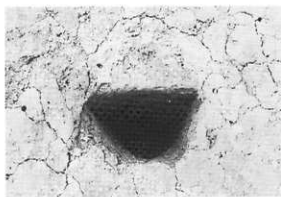
断面 (A-A')



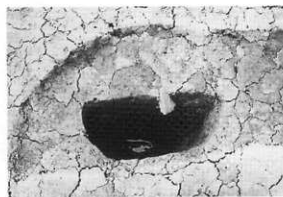
断面 (B-B')



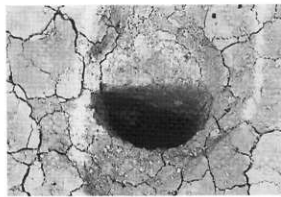
断面 (C-C')



P581断面

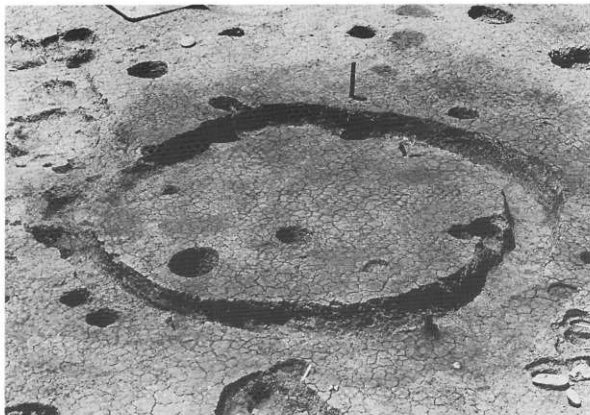


P582断面



P583断面

写真图版24 第1号堀跡



平 面



断面 (A-A')

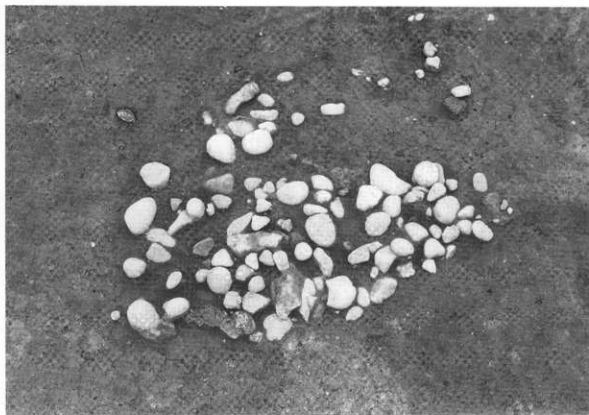


断面 (B-B')



作業風景

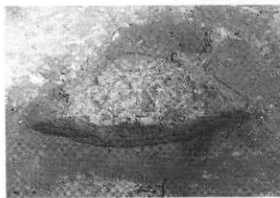
写真図版25 第1号円形周溝



第1号集石遺構平面



第1号集石遺構焼土平面



断面

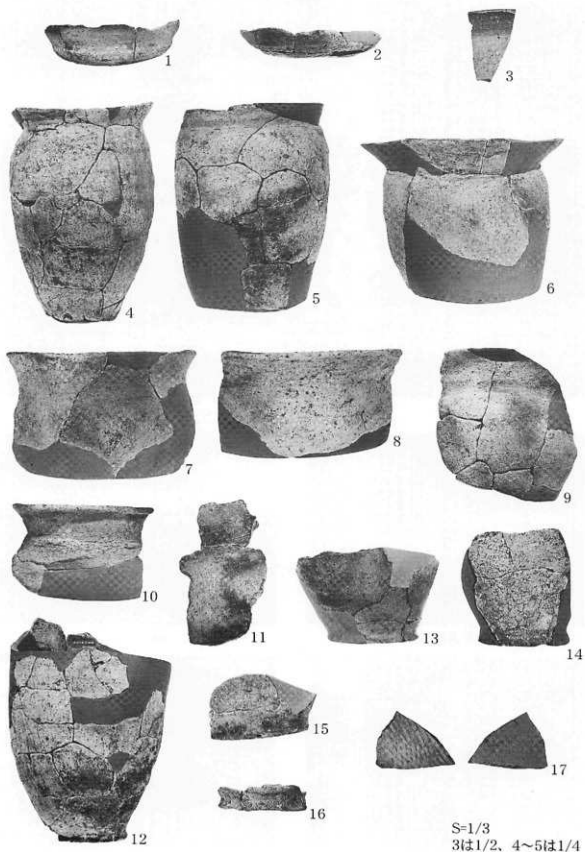


第2号集石遺構平面

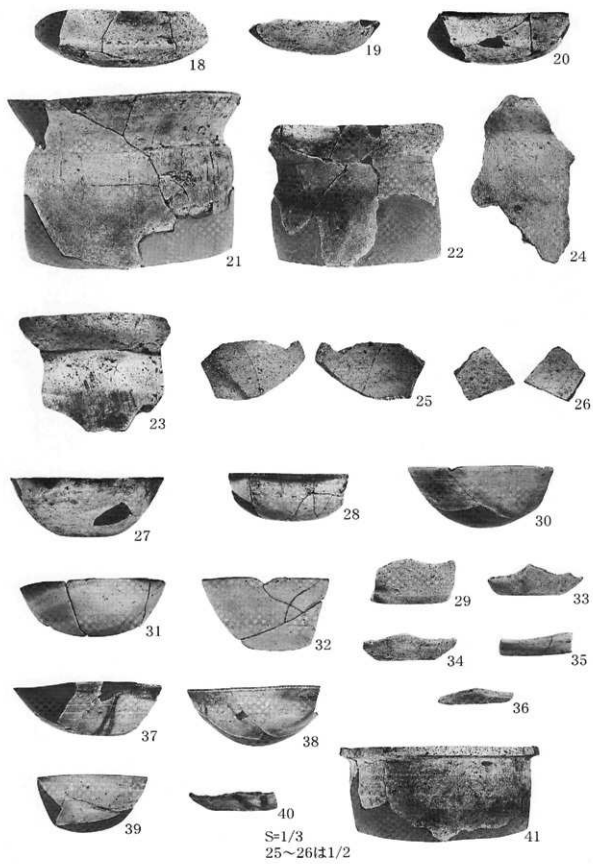


断面

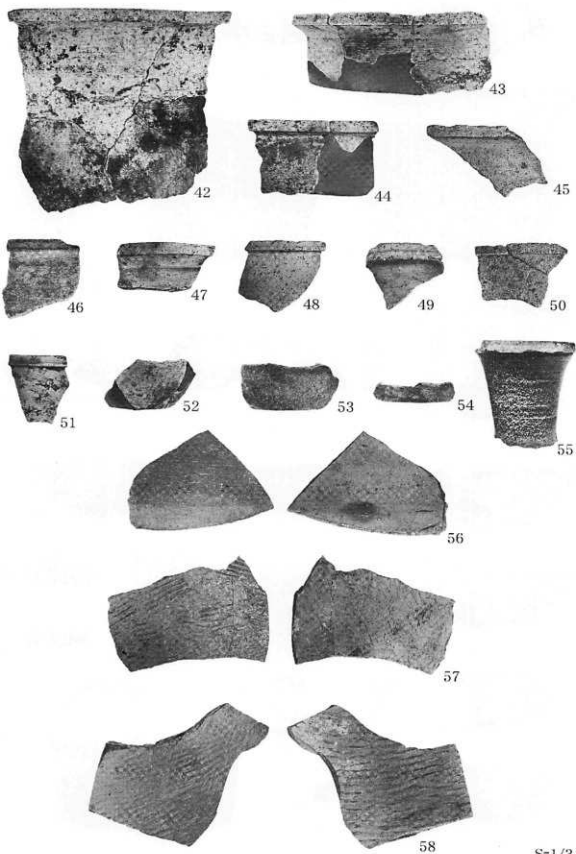
写真図版26 集石遺構



写真図版27 遺構内出土遺物(1)

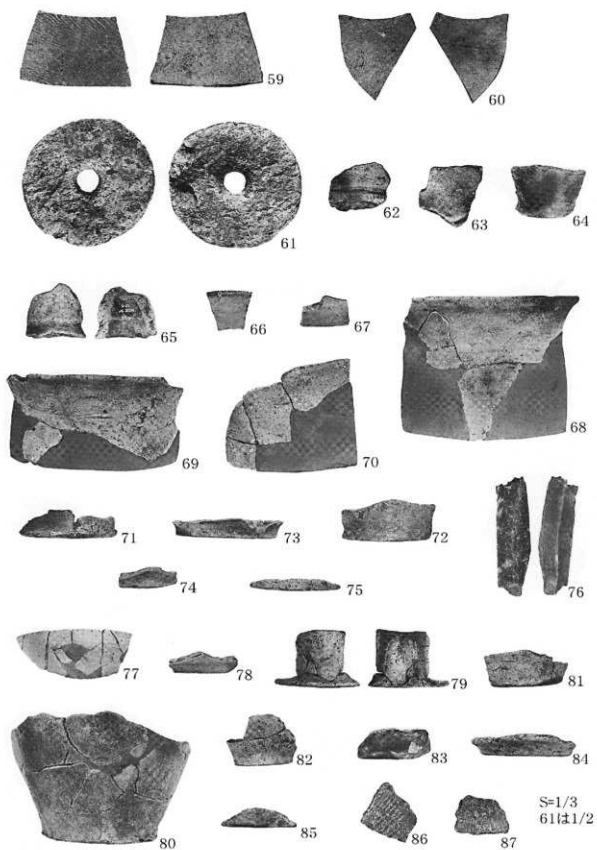


写真図版28 遺構内出土遺物(2)

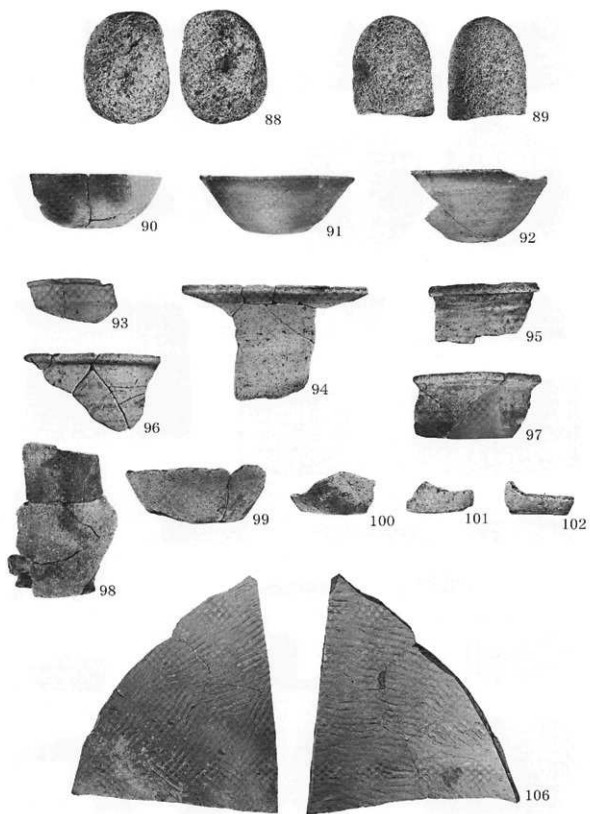


写真図版29 遺構内出土遺物(3)

S=1/3

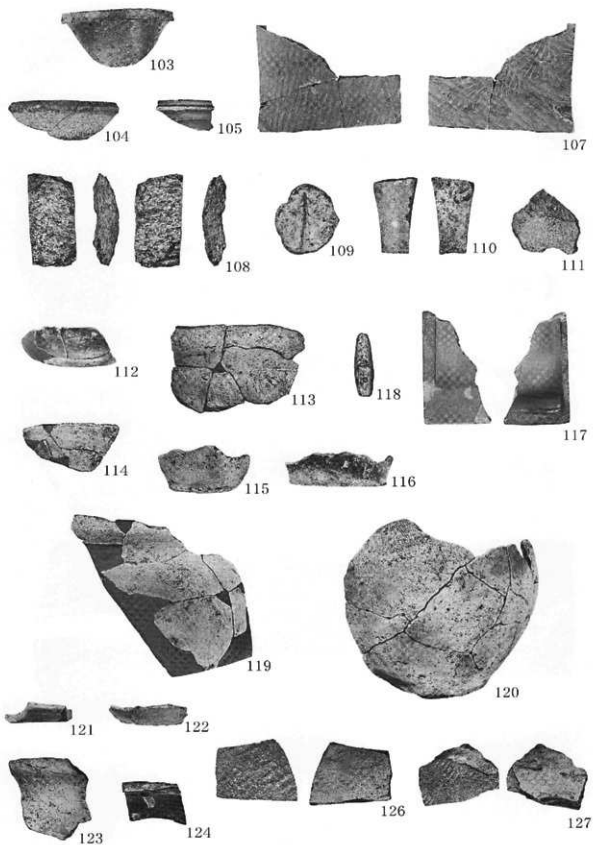


写真図版30 遺構内出土遺物(4)



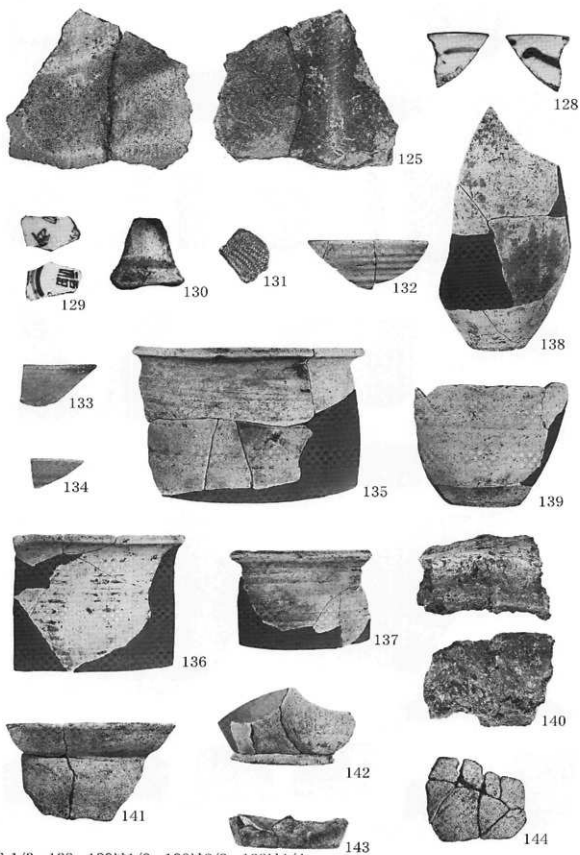
S=1/3

写真図版31 遺構内出土遺物(5)



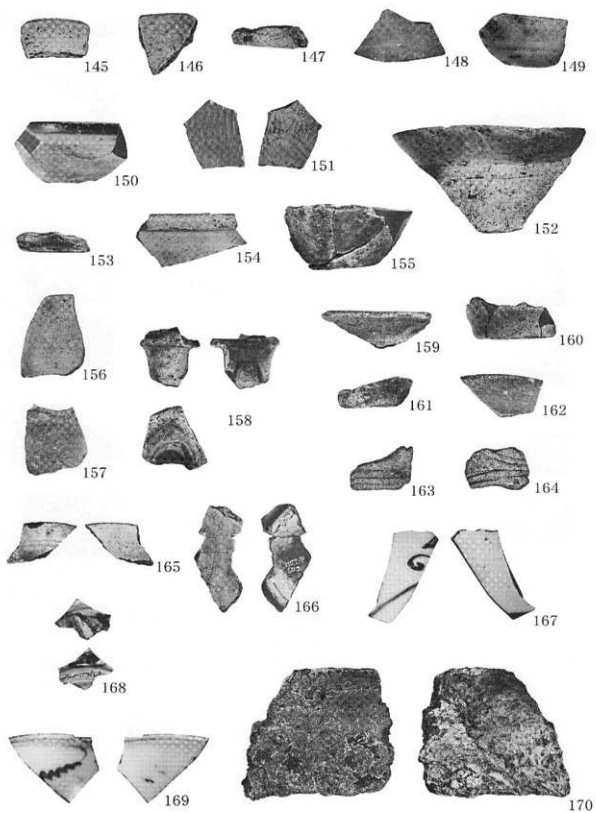
S=1/3 108~109、124は1/2

写真図版32 遺構内出土遺物(6)



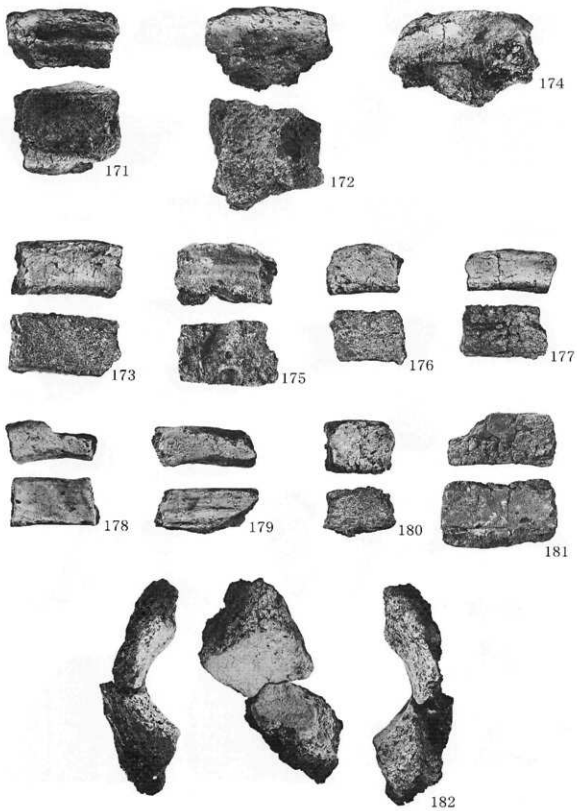
S=1/3 128~129は1/2 130は2/3 138は1/4

写真図版33 遺構内出土遺物(7)



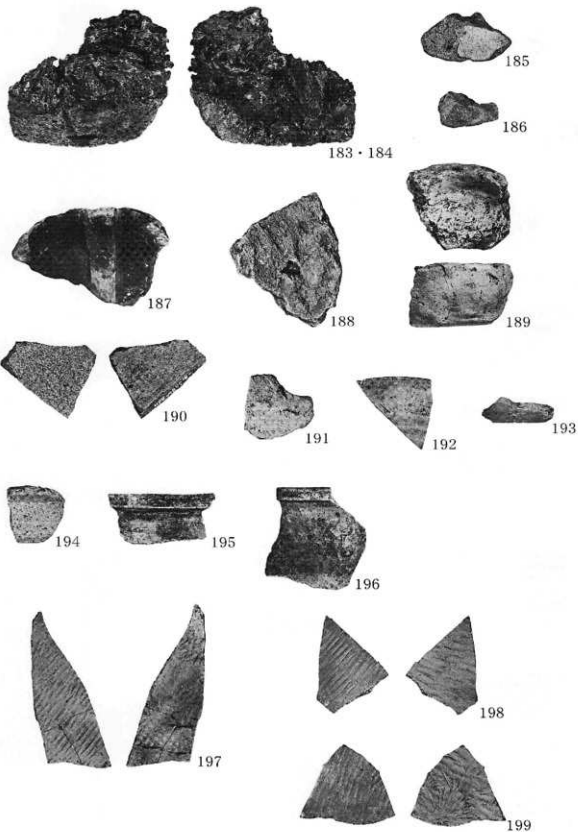
S-1/3 146~148,162,165~169:1/2

写真図版34 遺構内出土遺物(8)



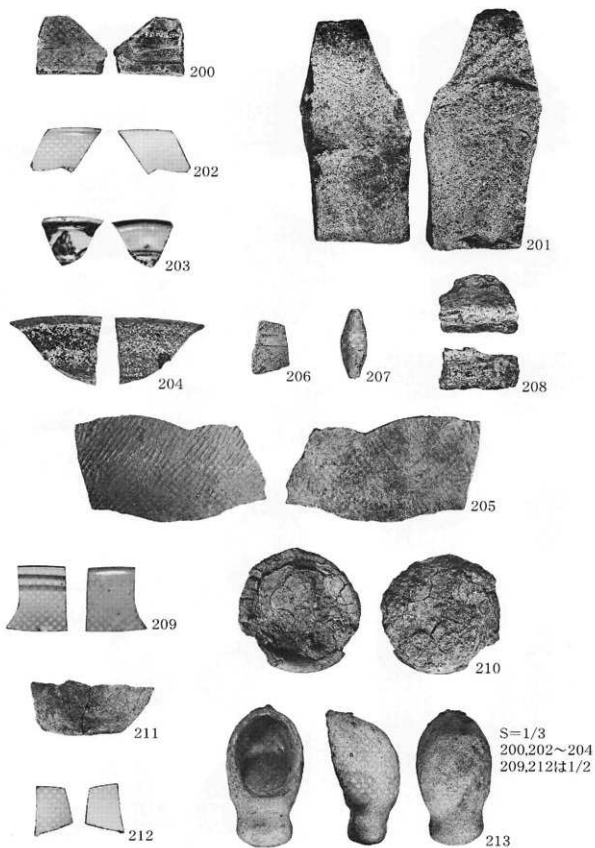
S-1/3

写真図版35 遺構内出土遺物(9)

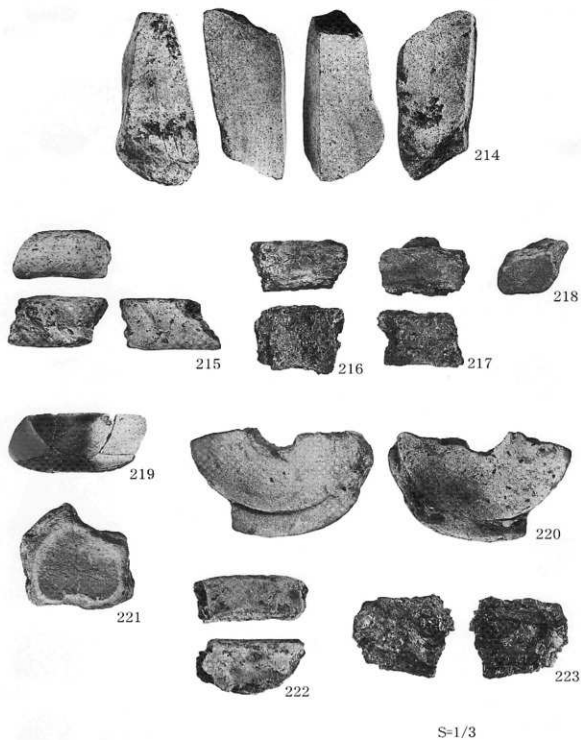


S=1/3 190~192,194は1/2

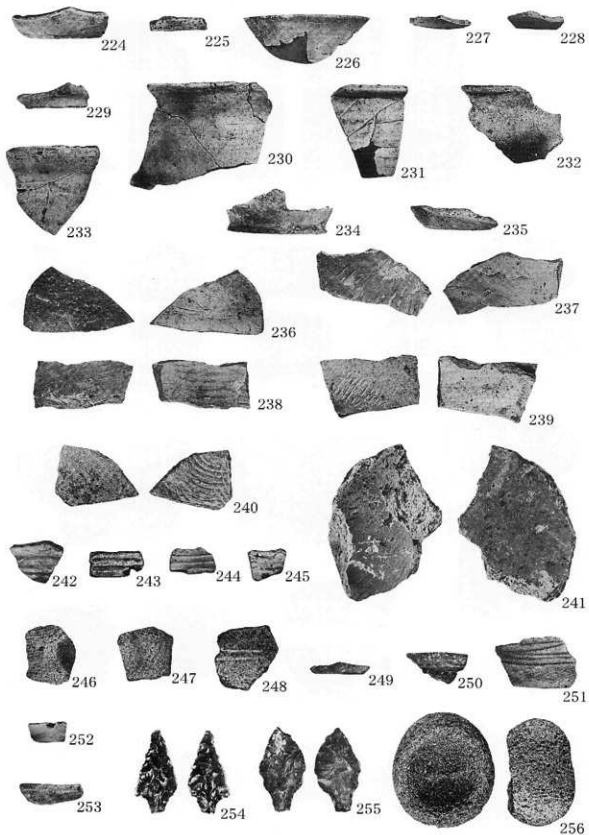
写真図版36 遺構内出土遺物(10)



写真図版37 遺構内出土遺物(11)

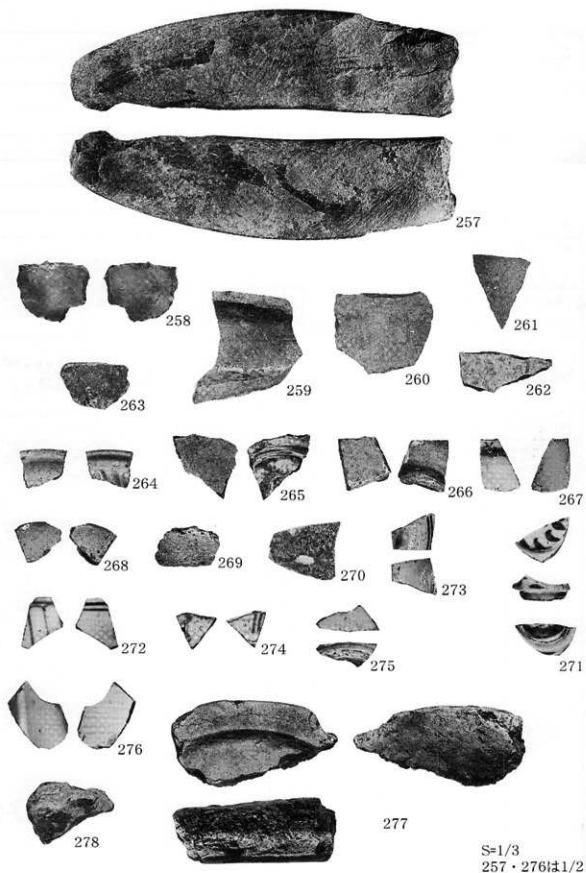


写真図版38 遺構内出土遺物(12)



S=1/3 254,255は1/1

写真図版39 遺構外出土遺物(1)



写真図版40 遺構外出土遺物(2)

報告書抄録

ふりがな		ひがしだていせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名		東館Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名		水沢家畜保健衛生所建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次									
シリーズ名		岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号		第366集							
編集者名		朝倉雄大							
編集機関		財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地		〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL (019) 638-9001							
発行年月日		西暦 2000年10月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
東館Ⅱ遺跡	岩手県水沢市 住倉河字東館 39番地他	03207	NE16-0315	39° 09' 38"	141° 09' 07"	1999. 4.9-6.28	1,340	水沢家畜保健衛生所建設事業	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
東館Ⅱ遺跡	集落跡	奈良時代	竪穴住居跡 10棟	土師器・須恵器	・ 銅物関連遺物が出土（炉壁、 鋳型、埴埴、鉄塊ほか）				
	中世城館跡	平安時代	竪穴状遺構 1棟	(8世紀中頃～9世紀)					陶磁器（16世紀代の中国産出及び瀬戸・美濃産他）
		中世	獨立柱建物跡10棟	土器					石器・石製品（石鏃、紡錘車、砥石他）
			柱穴列 6基	土製品（土鏃他）					
			土坑 25基	土製品（土鏃他）					
			溝跡 4条	土製品（土鏃他）					
			堀跡 2条	土製品（土鏃他）					
			橋脚跡 1基	土製品（土鏃他）					
			堺跡 1条	土製品（土鏃他）					
			円形周溝 1条	土製品（土鏃他）					
溝状遺構 2条	土製品（土鏃他）								
集石遺構 2基	土製品（土鏃他）								
柱穴 約800基	土製品（土鏃他）	銅物関連遺物（炉壁、鋳型、埴埴、鉄塊ほか）	縄文土器	弥生土器	かわらけ				

平成12年度(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

【職員】

所 長	伊 藤 民 也	副 所 長	櫻 田 次 男
【管理課】			
管 理 課 長	川 浪 清 徳	嘱 託	千 葉 芳 夫
管 理 課 長 補 佐	山 崎 善 光	◇	藤 島 恵 子
主 査	立 花 多 加 志	◇	新 田 卜 ヨ
主 事	日 影 睦 夫	◇	佐々木 光 重
【調査第一課】		【調査第二課】	
調 査 第 一 課 長	佐々木 勝	調 査 第 二 課 長	高橋 與右衛門
調 査 第 一 課 長 補 佐	佐々木 清 文	調 査 第 二 課 長 補 佐	中 山 重 紀
主 任 文 化 財 專 門 調 査 員	小山内 透	主 任 文 化 財 專 門 調 査 員	高 橋 義 介
文 化 財 專 門 調 査 員	赤 石 登 充	◇	金 子 佐 知 子
◇	吉 田 眞 一	文 化 財 專 門 調 査 員	中 田 迪 孝
◇	小 原 眞 一 郎	◇	工 藤 道 孝
◇	小 笠 原 健 一 郎	◇	古 館 眞 澄
◇	金 野 進 人	◇	阿 松 尾 芳 幸
◇	鳥 居 達 人	◇	工 藤 徹 稔
◇	金 子 昭 彦	◇	前 田 計 悟
◇	東 海 林 淳 美	◇	岩 澤 宏
◇	阿 部 勝 則	◇	早 濱 由 紀 夫
◇	羽 部 直 人	◇	安 藤 晃 彦
◇	小 野 寺 正 之 男	◇	高 千 葉 正 彦
◇	菅 原 靖 稔	◇	千 佐 藤 武 彦
◇	長 村 克 広 拓	◇	半 藤 澤 昭 太 郎
◇	溜 池 貴 広 拓	◇	杉 中 直 美
◇	菊 池 上 多 村	◇	星
◇	村 本 北 村	◇	
◇	北 村 山 木	◇	
◇	九 村 林 弘	◇	
◇	村 小 江 藤 賢	◇	
◇	江 藤 賢 (6月退職)	◇	
◇	藤 原 池 上 信 賢	◇	
◇	菊 井 上 又 吉	◇	
◇	川 又 田 真 由 美	◇	
◇	吉 田 博 義	◇	
◇	北 田	◇	
期 限 付 専 門 職 員		期 限 付 専 門 職 員	鈴 木 聡
◇		◇	吉 川 徹
◇		◇	北 田 和
◇		◇	吉 田 里
◇		◇	原 美 津 子
◇		◇	齋 藤 麻 紀 子
◇		◇	島 原 弘 征

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第366集
東館Ⅱ遺跡発掘調査報告書

水沢家畜保健衛生所建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成12年10月25日

発行 平成12年10月31日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

TEL (019) 638-9001

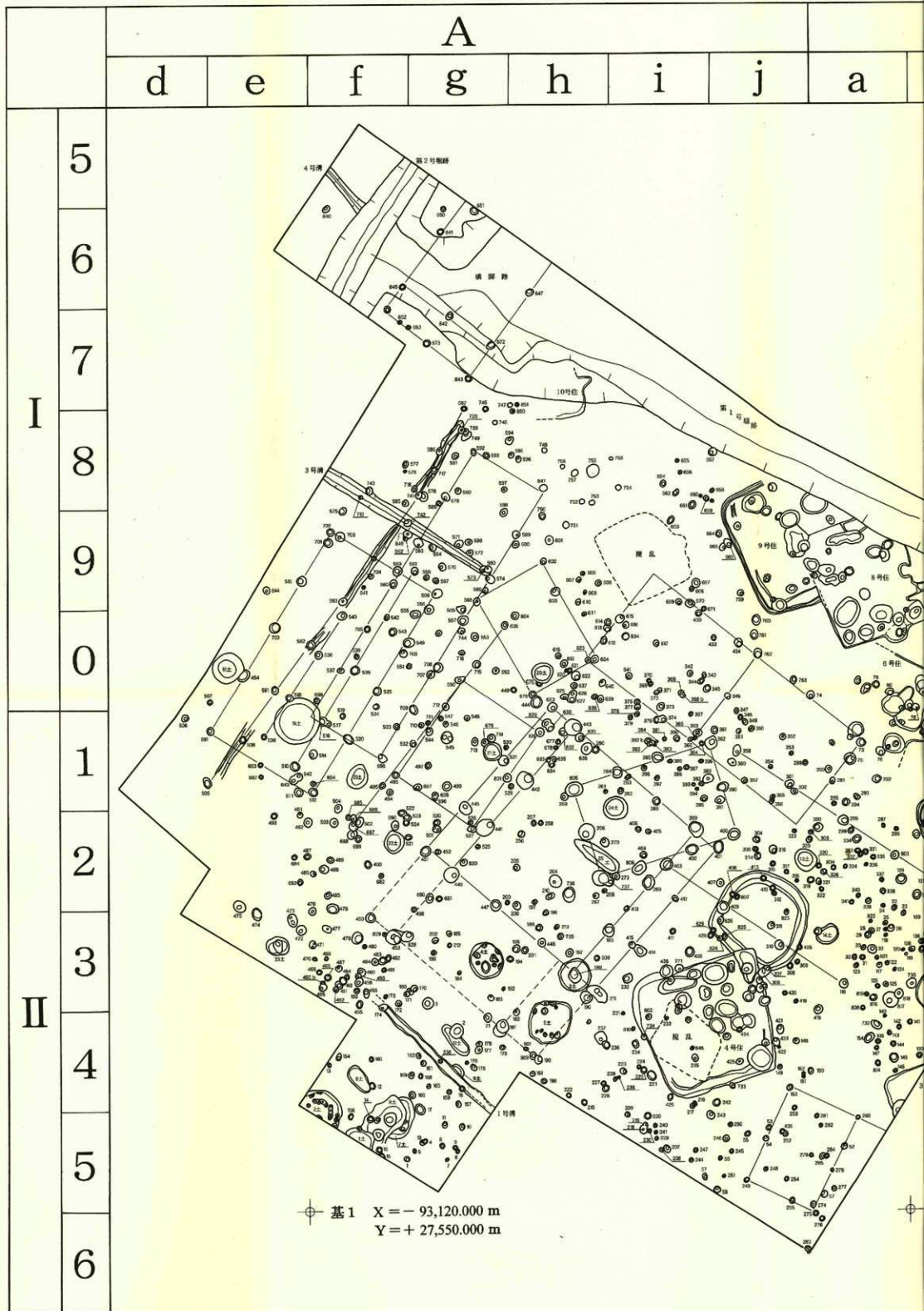
FAX (019) 638-8563

印刷 小松総合印刷株式会社

〒020-0827 岩手県盛岡市鈍屋町15-4

TEL (019) 624-1374

FAX (019) 623-6719



付図 東館Ⅱ遺跡遺構配

